

平成 24 年度

沖縄県商工労働部雇用政策課委託事業

沖縄型産学官・地域連携グッジョブ事業
沖縄型ジョブシャドウィング事業

実 施 報 告 書

— 平成 24 年度 —



グッジョブおきなわ推進事業局

CONTENTS



Contents

SECTION 1 事業概要

- 1 本事業の経緯と背景 3
- 2 沖縄型ジョブシャドウイング事業の特徴 8
- 3 24年度の取組 11

SECTION 2 事業総括

- 1 拠点地区・次期拠点地区の取組から 19
- 2 アンケート総括 24

SECTION 3 24年度 拠点地区 活動報告

- 1 名護地区 38
- 2 うるま地区 64
- 3 那覇地区 80
- 4 豊見城地区 92
- 5 宮古島地区 106

SECTION 4 24年度 次期拠点地区 活動報告

- 1 沖縄地区 119
- 2 北中城地区 129
- 3 与那原地区 136
- 4 石垣地区 145
- 5 久米島地区 157

SECTION 5 24年度 直接実施区（モデル実施）活動報告

- 1 竹富町 169
- 2 沖縄女子短期大学 179
- 3 琉球大学教育学部附属小学校 189

SECTION 6 資料（アンケート集計）

- 1 児童生徒アンケート集計 201
- 2 企業アンケート集計 208

SECTION

1

事業概要



1 本事業の経緯と背景

グッジョブおきなわ推進事務局（以下「事務局」という。）は、株式会社求人おきなわと株式会社琉球ファクトリーのコンソーシアムで、平成23年度に沖縄県の委託を受け、「沖縄型産学官・地域連携グッジョブ事業」の一部である「産学官・地域連携就業意識向上支援事業」の事業を開始した。

この事業は事業期間を4年とし、本年が2年目となる。本年は事業名称を「沖縄型ジョブシャドウイング事業（以下、「本事業」という）」に変更し、「産学官・地域・家庭の連携体制のもと、沖縄型ジョブシャドウイングをツールとして就業意識の向上を目指す。」ことを目的に活動を展開してきた。

本事業概要を説明するにあたり、まず沖縄県の雇用の現状について触れるものとする。

1 沖縄県の雇用状況と課題

沖縄県における平成25年1月現在の完全失業率は、全国平均4.2%に対し本県は6.6%となっており、昨年よりやや好転してきているものの依然として全国平均と比較して2.4ポイントと高い数値を示している。また完全失業率を年齢別にみると、平成25年1月現在における年齢35歳未満（15～34歳）の若年者完全失業率は、全国平均12.7%に対して、本県は17.1%と依然として高水準で推移している。

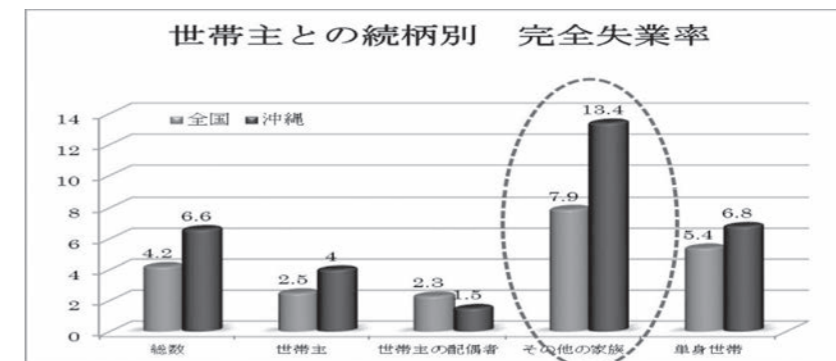
沖縄県の労働市場の特色として、求人数の絶対的不足や恒常的な失業率の高さだけでなく、景気の如何に関わらない若年者の自発的な離職率の高さが指摘されている。そのため、「雇用の場の拡大」「求人と求職のミスマッチの減少」「若年者の就業意識の向上」に向けた取組みとして「みんなでグッジョブ運動」が平成19年度から展開されている。

○若年者の雇用問題

グローバル化の進展や長引く不況、自然災害等による社会情勢の変化に伴い雇用の抑制が常態化し、学校から雇用への移行は円滑さを失っている。その結果、経済的自立や精神的自立が難しくなっており扶養家族として親元に長くとどまる傾向が見られ、若者から大人への移行期間が長期化している。この傾向は日本に限らず多くの先進国で共通の課題となっており、こうした若者のなかにはニート（Not in Education, Employment or Training = NEET、学生と専業主婦を除く就職活動をしていない無業者に属するもの）と呼ばれる社会とのつながりを失った若者も多く含まれている。

沖縄県においては世帯主との続柄別完全失業率（下図参照）では、「その他家族」とされる扶養家族にあたる者の完全失業率は全国平均7.9%に対して13.4%と高い。

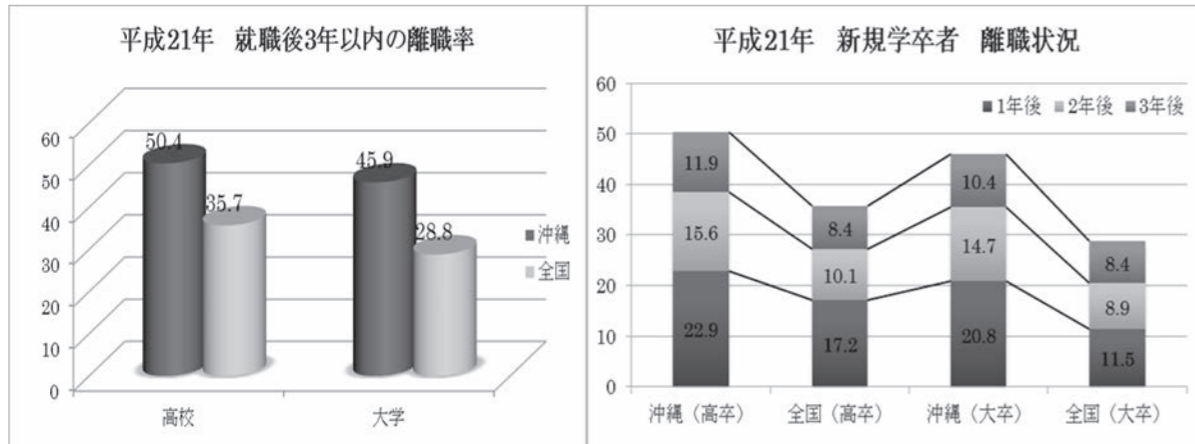
< 図 世帯主との続柄別 完全失業率 >



出展：総務省「労働力調査」及び沖縄県企画部統計課「沖縄県労働力調査」

また平成21年度卒業者における新規学卒者の離職状況では、就職3年以内の離職率が高卒で全国35.7%、大卒28.8%となっている。しかし本県においては高卒が50.4%、大卒が45.9%と全国平均を大きく上回る数字となっている。内訳で見ると、特に大卒で全国を大きく上回る傾向にあることが分かる。

< 図 新規学卒者の離職状況 >



資料出所：厚生労働省「新規高等学校卒業就職者の都道府県別離職状況」

このことを踏まえて、「その他家族」に占める15歳～24歳までの完全失業者数の割合を見てみると、全国では19.2%となっているが、本県においては24.8%となっており、若者を取り巻く就業状況の厳しいことが推察される。

本県の若年者の早期離職率が高く就業率が低い要因のひとつとして、若年者自身が仕事に対するネガティブなイメージを持っており、「働くこと」への希薄化が生じていることがある。就業の機会を失い職場定着が進まない、そのため必要な職務能力が身に付きにくいことため次の就業が難しくなるという悪循環が繰り返されていると推察される。近年の調査では経済格差と職業選択は密接な関わりがあり、長期に無業状態となり貧困層に陥った若年層が子どもを持った際、その子どもにも十分な教育を施す時間的・金銭的な余裕が失われ、結果としてその子どもの学業水準が低くなり、労働市場においても不利な状況となり、そうなると、その子どもも貧困層に陥るといった階層の固定化傾向が指摘されるようになった。こうした現状を踏まえると全国的にも低い所得である本県の場合、若年者層の失業率、無業者数が高いという事は沖縄の未来にも深い影を落とす要因となりその対策が急がれる。そのため県は県民の意見を集約した沖縄21世紀ビジョンを策定し「希望と活力にあふれる豊かな島」をはじめ5つの将来像実現にむけて取組みを進めている。

2 沖縄県におけるキャリア形成支援充実の必要性

急激に変容する社会構造の中、子ども達は将来への不安を感じ学校での学習がどのように社会で役に立つのかを見出せず、学習意欲の低下や学習習慣が確立できないといった状況があることは否めない。

バブル崩壊以降、労働市場では個人による自発的なキャリア開発を求める声が強くなり、教育現場においてもそれに対応する形でキャリア教育の必要性が求められてきた。

発達段階に応じた学校間の接続によるキャリア教育と、その先の職業生活との接続が求められるようになり、国も様々な対策を行っている。本県においても、それらに対応しキャリア教育の視点を踏まえた取組みが展開されている。一人ひとり何ができるのかを考え、行動を選択できるよう「生きる力」を身に付け、しっかりとした就労観、職業観を形成し、様々な課題に柔軟かつたくましく対応する力を高めることが、雇用問題の改善に向けた長期的な視点であり取組みとなっている。

3 沖縄型ジョブシャドウイングの説明

雇用情勢を全国並みに改善することを目標に掲げている「みんなでグッジョブ運動」の一環として、平成19年度から22年度の4年間で行われた「沖縄型ジョブシャドウイングモデル事業」（以下、「モデル事業」という）は、沖縄県の若年者を取り巻く雇用情勢、島嶼県ならではの経済社会構造と地域における「絆の強さ」等といった特色を鑑み、教育現場、地域社会および家庭が連携した沖縄型の職業教育モデルを確立した。

モデル事業においては平成20年度から検討委員会を設置し、その課題や事業効果などを整理・検討し、県内各地での実施方法や普及促進方法、「沖縄型ジョブシャドウイングの定義」等について提案してきた。



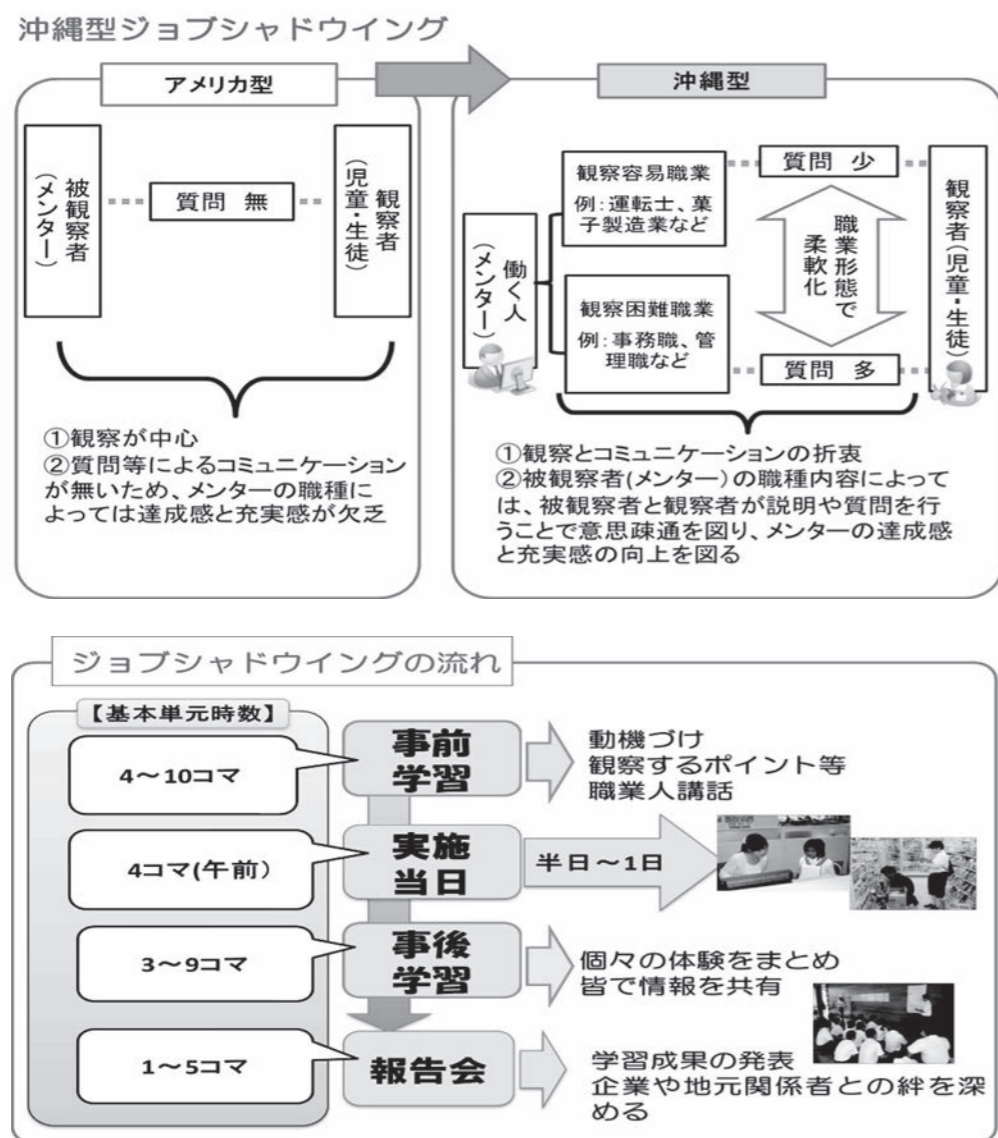
< 図 ジョブシャドウイングとは ～職場体験・インターンシップとの相違と特徴～ >

キャリア教育における体験学習の手法の一つである職場体験やインターンシップでは、「児童生徒が主体的に業務を遂行すること」を目的とし、より具体的な職業選択に活かせるような就業体験を目的にしているのに対して、「仕事をする人を観察する」に重きをおいたジョブシャドウイングは、メンターとのコミュニケーションを通じて、児童生徒が様々な「気づき」を得ることを目的としている。

児童生徒にとっては、「気づき」を得ることで、社会と学校での学習がつながり、日々の学習への意欲が高まる効果が期待できる。またメンターや受入企業にとっては、「仕事を見られる」「仕事に取り組む姿勢を伝える」ということは、自分の仕事を顧みて児童生徒らの「憧れの職業人」になろうとするプロ意識の醸成と自己啓発につながり、人材育成の効果が期待できる。

○沖縄型ジョブシャドウイングの流れ

ジョブシャドウイング当日は、短時間（半日～1日）の体験プログラムであるが、児童生徒への学習効果を高める目的として、実施前後に、事前学習、事後学習、そして発表会を行う。この流れを系統立てることが沖縄型ジョブシャドウイングの目的と効果を果たすための不可欠な要素となる。また、児童生徒がメンターへ質問を行う事を積極的に推奨しているのも沖縄型の特徴のである。



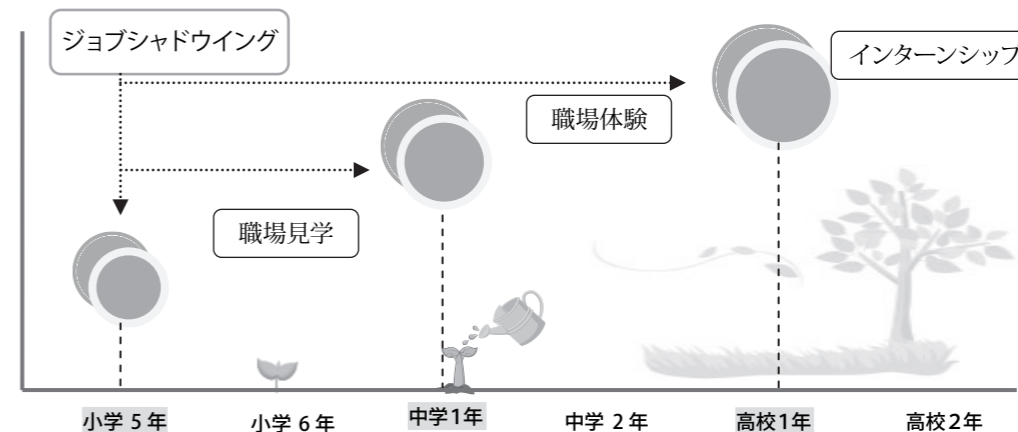
< 図 沖縄型ジョブシャドウイング >

沖縄型ジョブシャドウイングのもう一つの特徴に、メンターや保護者、学校といった関係者への説明会の実施がある。これは、児童生徒に対して「働く大人」の姿勢を見せることの意識づけを明確に伝え共有することにある。丁寧に事業説明を行うことで関係者の不安や負担の軽減を図るとともに、ジョブシャドウイングが目指す到達イメージを共有することにより地域で育むキャリア形成支援の輪の定着を促し、沖縄型ジョブシャドウイングの目的と効果を最大限に生かせるよう地域の実情に合わせて取組みを行っている。

○発達段階に応じたジョブシャドウイングの目的

各発達段階に応じたジョブシャドウイングの目的を設定し、沖縄県キャリア教育推進プランとの連携を考慮・加味することで、本事業の核となるジョブシャドウイングを体系的なキャリア教育を推進するツールとして活用できるよう事業推進を図っている。

	小学校	中学校	高校
教育推進プラン	6年生	2年生	2年生
	職場見学	職場体験	インターンシップ
	夢と希望を育む	生き方の自覚を深める	進路選択・決定
沖縄型ジョブシャドウイングモデル事業	身近な人の働く姿を見学する	地域の職場で職場体験する	地域の職場で就業体験する
	5年生	1年生	1年生
	ジョブシャドウイング	ジョブシャドウイング	ジョブシャドウイング
	他者理解。夢と希望を育むための仕事についての観察軸をつくる。 ・仕事のしくみを知る ・仕事って楽しそうと感ぜられる	生き方の自覚を深めるために、仕事と自分を結びつける。 (自分の生き方と仕事について考える) ・一生懸命働く大人をみる ・働いている自分をイメージできる ・今の自分がわかる(自己理解) ・自分の魅力(良いところ)に気づく ・自己を客観的にみつめる ・自分に足りないモノに気づく ・前向きな思考で、理想に向ってける	具体的な進路選択に活かす。閉じた社会にいる生徒にチャンス設ける。 ・世の中には、努力すれば、「自分の居場所がある」、「自分が活躍できる場所がある」ということに気づく ・身近な「師」を知る ・急にはなれない、変われないが、日々の努力と目標を見失わなければ近づくことができる



< 表 各発達段階におけるジョブシャドウイングの目的と特徴 >

○平成19年度～22年度の活動から示された今後の活動の方向性

この4年間で行われたみんなでグッジョブ運動の検証結果と、モデル事業の総括からジョブシャドウイングの有用性が確認された。それと共に「幼少期からの人材育成」と「連携による人材育成の基盤構築」の必要性が指摘され、今後の活動の方向性として①産学官が連携した人材の育成、②キャリア教育に関する意見交換の場の設置、③多くの県民が参加できる県民運動とする、の3点が示された。

2 沖縄型ジョブシャドウイング事業の特徴

平成23年度から平成26年度までの4年間の事業スキームで行われる本事業の特徴や基本的な考え方について概観する。

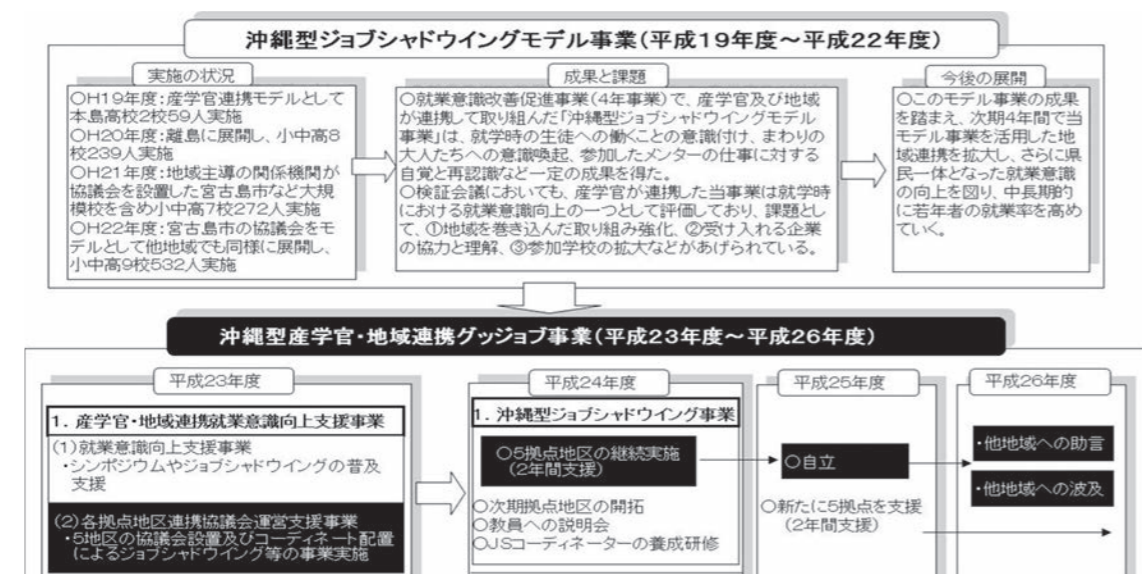
1 本事業の基本的な考え方

本事業は平成19年～22年度までに実施されたモデル事業で培われた手法や、検討委員会で示された考え方を基本とし、①「沖縄型ジョブシャドウイングモデル事業」を活用する、②産学官・地域・家庭が連携する仕組みづくり、③市町村、地域での取組みを強化・支援する、の3つの方向性を踏まえて産学官ならびに地域と家庭が連携した人材育成の基盤や仕組みを、地域が主体性を持って構築するための支援事業とする。

2 本事業のスキームと協議会の目的

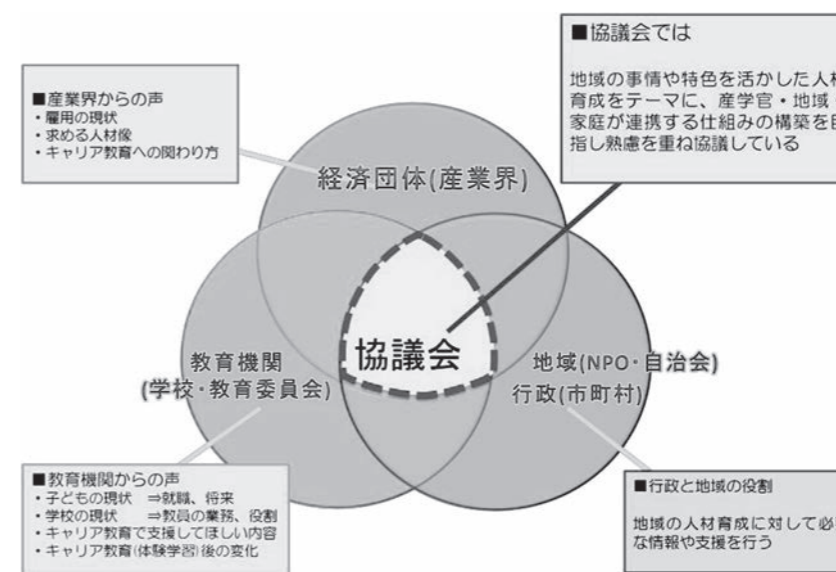
本事業は平成23年度からの4年間に事業年度とし、前半2年で5地区、後半2年に5地区を拠点地区に設定し、4年間で10地区の支援を行う。

拠点地区は産学官で構成される協議会を設置しており、コーディネーターを配置して主体的なジョブシャドウイングの実施を通して産学官・地域の連携の仕組みを構築することを目的としている。



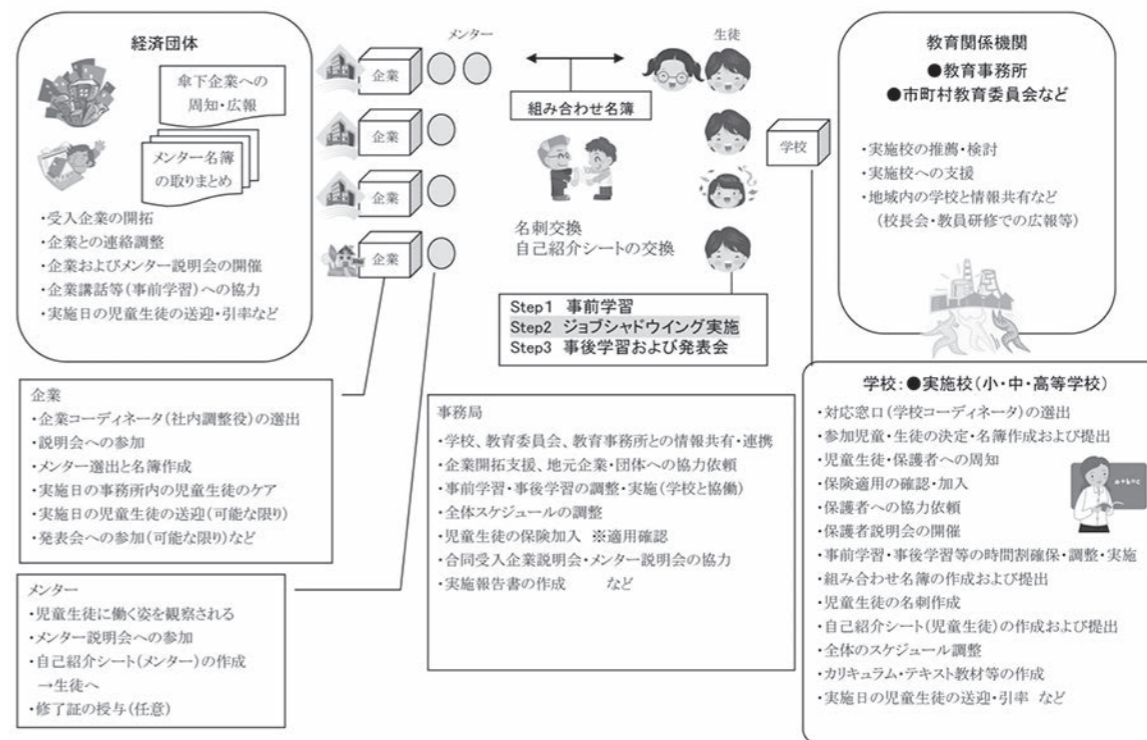
< 図 モデル事業と本事業の年度別スキーム >

また協議会は、地域の雇用やキャリア教育等に関する情報の共有と、課題解決に向けた熟議を重ねる場を提供する目的もある。



< 図 協議会の役割分担 >

沖縄型ジョブシャドウイング事業 各機関における具体的な役割(例)



< 図 協議会における構成団体の具体的な役割 >

○地域連携による人材育成の意義

本事業が目指す地域連携による人材育成は、地理的・文化的特色や産業環境などの地域特性を活かし、地域全体で「地域課題」を共有し、地域発展のためにも将来的に地域に貢献する人材を育てることを目的とする。

地域に育てられた子ども達は地域に対して愛着と誇りを持ち、将来、地域の一員として産業を支える、あるいは産業を創出する人材、伝統文化を受け継ぐ人材、県外・海外で挑戦した後に地元の産業をリードする人材へと自立する。

支えられた側が支える側へと移行する人材の還流が起こることで、若年者にとって身近な存在となるロールモデルが示される。それらを見聞することで働く自分、働いている自分といった具体的なイメージを描くことへ繋がっていくものと考えられる。こうした取り組みが県内の様々な地域で成され、県内全域に広がることで本県が抱える雇用問題の長期的な戦略と解決につながると思われる。



< 図 人材の還流～地域の人材育成～ >

○地域連携によるキャリア教育・職業教育等の教育方針

キャリア教育・職業教育を展開するに当たり、「連携」の重要性が様々な角度から示されている。文部科学省の審議会「中央教育審議会答申（平成23年1月）」（以下、「中教審答申」という）の中で、今後目指すべきキャリア教育の新たな方向性が示された。

1) キャリア教育における多様な連携

中教審答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」の中で、学校がキャリア教育を進める上で、より幅広いリソースを「地域・社会、産業界など、学校種間、家庭・保護者、行政機関との連携」に求めるように示している。教育委員会や産業界等と協議会を設置し、連携の要となる調整を図るコーディネーターの配置をするなど、キャリア教育を支えるために多様な連携が必要となる。

2) キャリア教育の視点を踏まえた学力向上のための連携

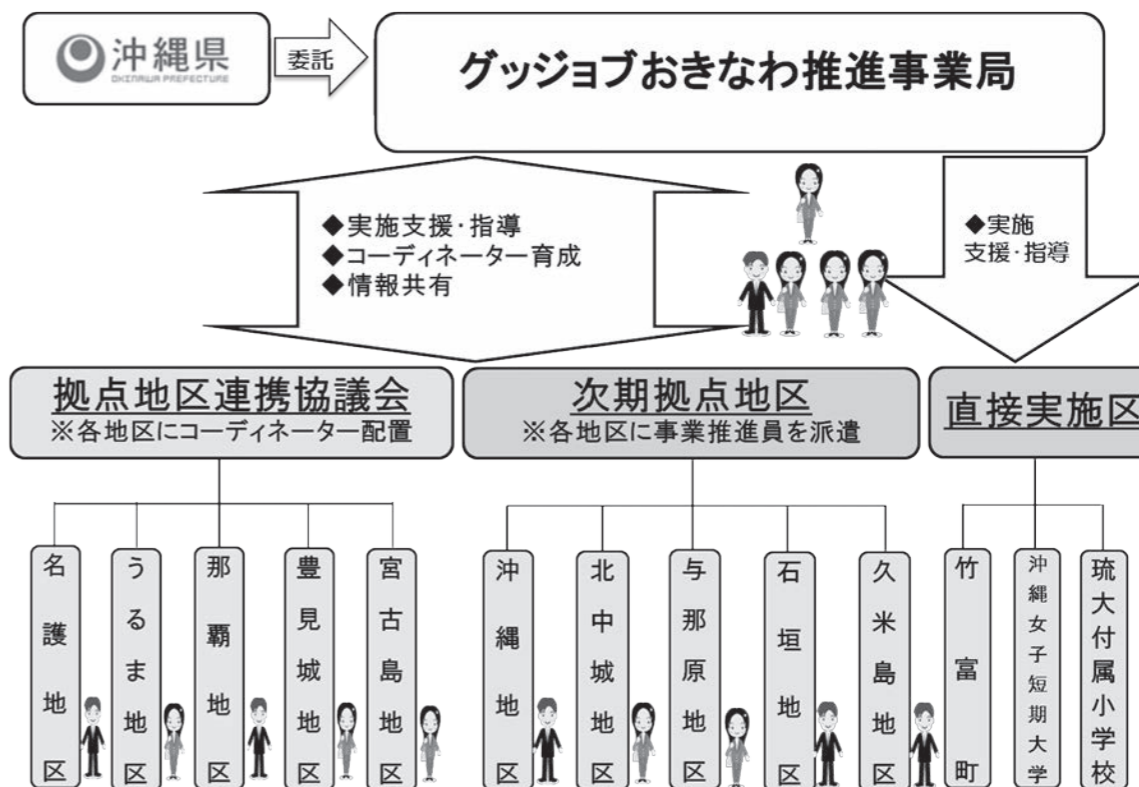
沖縄県教育委員会では、平成24年度からキャリア教育の視点を踏まえた「確かな学力」の向上を積極的に取り組むため「沖縄県学力向上主要施策『夢・にぬふぁ星プランⅢ』」スタートさせている。これは、児童生徒一人ひとりに、「なりたい自分」と「なれる自分」を広げることのできる学習を行い、進路選択の幅を広げる力を身に付けることを目的としている。つまり児童生徒一人ひとりに「学ぶ意義」や「働く意義」を

3 24年度の取組

本事業の開始2年目となる平成24年度の取組みと組織体制の紹介をする。

1 組織体制と拠点地区設置

グッジョブおきなわ推進事業局（以下、「事業局」という）には教育指導担当者1名と、4人のコーディネーターを配置し、各拠点地区に対する実施支援並びに指導、拠点地区コーディネーターの育成を行う。平成23年度から継続している拠点地区5つ（名護地区、うるま地区、那覇地区、豊見城地区、宮古島地区）には各拠点地区別に1人、計5人のコーディネーターを配置している。加えて本年度は次期拠点地区である沖縄地区、北中城地区、与那原地区、石垣地区、久米島地区の5地区に対して各地区別に1人の地区連携推進員を派遣して協議会設立に向けた支援とコーディネーター養成事業を行っている。



< 図 平成24年度組織体制 >

2 本年度実績

本年度は拠点地区における実施に加え、次期拠点地区および事業局による直接実施の1地域と2学校モデル事例で、54校3,377名の児童生徒学生に対してジョブシャドウイングの実施を行うことができ、実施校数は前年の2倍、参加人数は約2.5倍の実施規模となった。また今年度の受入事業所数は延べ1,311ヶ所となり、過去4年間の実績を大きく上回った。

	地 区	ジョブシャドウイング		受入事業所数 (延数)
		実施校	参加人数	
拠点地区	名 護 地 区	15校	921	439
	う る ま 地 区	10校	840	250
	那 覇 地 区	4校	539	186
	豊 見 城 地 区	3校	404	133
	宮 古 島 地 区	5校	90	60
次期 拠点地区	沖 縄 地 区	2校	80	36
	与 那 原 地 区	1校	194	37
	北 中 城 地 区	1校	57	22
	石 垣 地 区	7校	122	59
	久 米 島 地 区	2校	54	47
直接実施区	直接実施（竹富町） （大原中学校・小浜小中学校）	2校	17	12
	学 校 モ デ ル ① （沖縄女子短期大学）	1校	22	13
	学 校 モ デ ル ② （琉球大学教育学部付属小学校）	1校	37	17
	合 計	54校（3,377人）	1,311事業所	

< 表 平成24年度の実績 >

3 その他の実績

本事業の目指す地域連携を構築するには、調整役を担うコーディネーターの存在は必要不可欠となる。コーディネーター育成を目的とした研修会と、地域間の情報共有を目的とした全体会議を開催した。

また、ジョブシャドウイングの周知を目的にジョブシャドウイング成果物の展示会も行った。

1) コーディネーター研修会

コーディネーターが活動するにあたり必要な知識やスキルの修得を目的に、年度初めに3日間の研修会を行った。今回は対象を初任者向けと2年目向けとし、それぞれに実施した。

- ◆平成24年度 コーディネーター研修会
日 時：2012年4月25日（水）～28日（金） 9時30分～17時
場 所：沖縄県立博物館・美術館
- コーディネーターに求められる知識と能力の理解と修得を目指す
- 1) キャリア教育の知識
 - 2) ファシリテーション能力
 - 3) 地域・関係者を巻き込むための調整力
 - 4) 情報収集力ならびに発信力

4月25日 (水) カリキュラム		4月26日 (木) カリキュラム		4月27日 (金)	
				初任者研修カリキュラム	2年目研修カリキュラム
9:30	県庁に集合	9:30	沖縄県立博物館集合	9:30	沖縄県立博物館集合
10:00	・セレモニー ・スタッフの紹介	10:00	沖縄県におけるキャリア教育 ・沖縄県キャリア教育推進プランの概要 ・キャリア教育の更なる向上の為に	10:00	コミュニケーションワーク ・NLPコーチング ・フォロー学習に使えるワーク例
10:30	沖縄県の取り組み ・事業説明	11:00	指針の解説		
12:00	お昼休憩	12:00	お昼休憩	12:00	お昼休憩
13:00	アイスブレイク（自己紹介）	13:00	ジョブシャドウイング実践編① ・ジョブシャドウイングの流れ：DVD ・事前学習、事後学習の目的 ・成果発表会の効果	13:00	キャリア教育・キャリア形成について ・キャリア教育とは ・キャリア教育の目指す基礎的汎用的能力
13:30	事業概要① ・平成24年度事業概要と組織体制について ・予算について	14:00	ジョブシャドウイング実践編② ・学校アプローチ ・事前学習のコマ数を確保するには ・既存の教科との連携の仕方	14:00	地域連携に必要なスキルアップ研修 ・ビジネスマナー ・名刺交換
14:00	休憩	14:30	休憩	15:00	休憩
14:10	事業概要② ・ジョブシャドウイングとは ・地域主体型キャリア教育について ・産学官連携の仕組みを作る為には	14:40	ジョブシャドウイング実践編③ ・企業開拓の仕方 ・商工会、JC、協議会メンバーを絡めるには	15:10	全体会議
15:40	事業概要③ ・コーディネーターの役割	16:00	振り返りレポート	16:45	閉式の辞
16:30	振り返り	16:00	まとめ	16:50	終了
17:00	終了	16:30	終了		

< 表 研修会日程とカリキュラム >

2) 全体会議

コーディネーターおよび地区連携推進員を対象とした全体会議は、合計8回開催された。それぞれの拠点地区の成果や課題を共有することによって、コーディネーターは担当地区の実施への反映、自立化に向けた地域展開のヒントを得られるなどの効果を狙う。同様に、次期拠点地区の地区連携推進員はどのように担当地区へ展開を図っていけばいいのか、他地区の動向から効果的な地域連携の視座が得られるとの効果を期待している。また本事業のスキームによる事業展開を見据え、情報蓄積も目的としている。

＜全体会議 日程表＞

	日時	場所	オブザーバー参加
第1回	4月28日	沖縄県立博物館・美術館	県 担当者
第2回	6月7日	沖縄県立博物館・美術館	県 担当者
第3回	7月13日	沖縄県立博物館・美術館	県 担当者
第4回	8月10日	沖縄県立博物館・美術館	名護地区 事務局長
第5回	12月26日	沖縄県立博物館・美術館	県 担当者
第6回	1月25日	沖縄県西町研修センター	県 担当者
第7回	2月22日	沖縄県西町研修センター	県 担当者
第8回	3月15日	沖縄県立博物館・美術館	県 担当者、久米島町 主任

3) 地区連携推進員合同研修会

地区連携推進員を対象に6月～12月にかけて合同での研修会を開催した。その中で、コーディネーターとなるための基礎的な知識や、本事業推進のための基本的な考え方について指導を行った。また、実際に他地区での実施に参加するなどを通して知識・経験が身につけられるようにした。

＜地区連携推進員合同研修会 日程表＞

	日時	内容
第1回	6月4日	顔合わせ、業務内容・作業について概要説明
第2回	6月18日	業務の進め方・ログアップについて、報告事項確認
第3回	7月5日	学校調整、配車割り当てについて、報告事項確認
第4回	7月26日	各地区活動報告、企業開拓報告、アンケート、広報活動について
第5回	9月7日	各地区活動報告、事前学習について、企業人講話について、パネル展開催方法について、
第6回	10月29日	各地区活動報告、企業・児童生徒アンケートについて、学校ヒアリングについて、報告書作成について
第7回	12月26日	各地区活動報告、報告書作成について、協議会運営・会議開催について、実施校以外での企業人講話について

4) 教職員研修会・保護者向け等講演会

ジョブシャドウイング実施校の教職員、保護者向けに講話を実施している。本年度は更に教育現場へのジョブシャドウイングの周知、理解を図ることで、よりよい連携を図ることを目指し、実施校以外でも様々な機会をとらえて講話を行った。（例：教職員向け初任者研修・10年研修、校長会、保護者向け勉強会など）講話では、キャリア教育の観点からジョブシャドウイングをツールとして地域連携の取組みをどのように進めているのについて紹介を行っている。

【H24年度 研修会・講話等実施一覧】

	研修名	主催者	対象
1	24年度第1回キャリア教育担当者研修会	八重山教育事務所	八重山地区各学校キャリア教育担当者
2	与那原町立与那原中学校 校内研修会	与那原中学校	校内全教員
3	24年度小・中学校特別活動担当者研修会	宮古教育事務所	宮古地区特別活動またはキャリア教育担当者
4	24年度第1回キャリア教育担当者研修会	与那原町教育委員会	各学校キャリア教育担当者+教頭
5	第5回10年経験者研修会「キャリア教育」	那覇教育事務所	那覇管内教職10年経験者
6	久米島町キャリア教育研修会	久米島町教育委員会	小中学校全教諭向け+教育委員会
7	沖縄市立鳥袋小学校 校内研修会	鳥袋小学校	校内全教員
8	北中城村立鳥袋小学校 校内研修会	鳥袋小学校	校内全教員
9	那覇市立石田中学校 校内研修会	石田中学校	校内全教員
10	八重瀬町教育研修会	八重瀬町教育委員会	幼小中学校全教員
11	竹富町立小浜小中学校 校内研修会	小浜小中学校	校内全教員
12	石垣市立石垣小・大本小学校 合同校内研修会	石垣小学校 大本小学校	2校教員向け
13	八重山地区初任者研修会	八重山教育事務所	初任者
14	与那原町教育講演会	与那原町教育委員会	保護者
15	伊是名村教育講演会	伊是名村教育委員会	保護者
16	那覇市立天久小学校 校内研修会	天久小学校	校内全教員
17	宮古島市立宮原小・鏡原小 合同校内研修会	宮原小学校 鏡原小学校	校内全教員
18	宮古島市立狩俣小学校 校内研修会	狩俣小学校	校内全教員
19	宮古島市立狩俣小学校 保護者向け講話会	狩俣小学校	保護者
20	浦添市立港川小学校 校内研修会	港川小学校	6学年担当者/PTA役員
21	那覇市キャリア教育研修会	那覇市教育委員会	学力向上推進主任及びキャリア教育担当者
22	沖縄市立鳥袋小学校保護者講演会	鳥袋小学校	保護者
23	石垣市校長研修会	石垣市教育委員会	市内小中学校長
24	北中城村校長会	北中城村教育委員会	村内小中学校長
25	久米島町校長会研修会	久米島町教育委員会	町内小中学校長
26	石垣市立白保中学校 校内研修会	白保中学校	校内全教員
27	那覇市立開南小学校 校内研修会	開南小学校	校内全教職員

5) 取材・調査、メディア掲載など

本年度は日本各地の学校関係者、行政機関や県外メディアからジョブシャドウイング実施手法やキャリア教育の視点、地域連携構築の仕組みについて講話の依頼や、ヒアリング調査に協力した。

平成 24年 10月	第 18回全国進学指導研究大会～九州大会～ において「地域連携型キャリア教育」の事例報告で紹介され、現状について紹介した。その際、三重県 津高等学校よりジョブシャドウイングについての問い合わせを受け、その後情報提供等実施。 読売新聞社 教育ルネサンス<キャリア教育>特集の記事掲載のため、沖縄県での取組み事例について取材のため来沖。 (2012/12/5掲載)
平成 24年 11月	茨城大学 ジョブシャドウイング実施のための事前学習を行った。また茨城県に対して沖縄の取組みを紹介した。
平成 24年 12月	兵庫県立加古川北高等学校 ジョブシャドウイングの先進事例としてヒアリングのため来沖。
平成 25年 2月	経済産業省経済産業政策局産業人材政策室より地域キャリア教育支援協議会（仮称）設立に向け、キャリア教育の内容の充実と普及に関する調査のためのヒアリング。 大阪府立堺工科高等学校 ジョブシャドウイングの先進事例としてヒアリング、協議会視察のため来沖。
平成 25年 4月 (予定)	日本進路指導協会発刊誌「進路指導（2013年春号）」において連載テーマ「小学校におけるキャリア教育 実践と助言」で宮古の取組みが紹介される。

6) その他（周知広報）

◆IT津梁まつり2013 ブース出展

日 時：2013年 2月 1日（金）～ 2日（土）

場 所：沖縄コンベンションセンター

内 容：ジョブシャドウイングについてパネルにて説明するとともに、来場者向けに「将来の夢」と「将来作ってみたいものは何ですか」について A5サイズの用紙に記載頂いた。



< ジョブシャドウイングパネル展 様子 >

SECTION

2

事業総括



1 拠点地区、次期拠点地区の取組から

本事業は平成23年度からの4年間を事業年度とし、前半2年で5地区、後半2年に5地区を拠点地区に設定し、4年間で10地区の支援を行う。平成24年度は前半2年の拠点5地区の支援終了時期に当たる。また、後半2年の5地区については地域連携の準備期間として支援を行い、平成25年度からは新たな拠点地区として活動を支援することとなっている。次期拠点地区の本格的活動に活かすためと、本事業の中間成果指標の要素も踏まえて、2年にわたる拠点地区の活動の成果について検証する。

1 地区活動結果（総括）

本事業は、①「沖縄型ジョブシャドウイングモデル事業」を活用する、②産学官・地域・家庭が連携する仕組みづくり、③市町村、地域での取組みを強化・支援する、の3つの方向性を踏まえて産学官ならびに地域と家庭が連携した人材育成の基盤や仕組みを、地域が主体性を持って構築するための支援事業として実施されてきた。本年度は平成23年度から支援してきた5地区（名護、うるま、那覇、豊見城、宮古島）の支援が一区切りを迎える。各拠点地区においては、地域の特性を活かした地域連携の在り方が模索され、実践されてきた。

例えば名護地区では、協議会が地域の課題を共有し、議論する場として機能している代表的な地区である。協議会構成団体の役割分担がしっかり認識され、メンバーの参加意識が高く、地域子ども達を地域でどう育てていくのかについて議論がなされている。それが、本年度名護市内の小・中学校ほぼ全校での実施を実現できたからこそ、地域における人材育成、キャリア教育の体系化や指標を示すという成果を上げた。

うるま地区においては、県が国内外の情報通信関連産業の一大拠点形成を目指して整備を進めているIT津梁パークや、県内の製造業誘致の柱として位置づけられる「特別自由貿易地域」（経済特区）である環金武湾地域を含むという地理的特性を活かした企業開拓を行っている。それらの企業をジョブシャドウイングを通して子ども達が垣間見ることで、職業選択の視野を広めることへ繋げているだけでなく、産業が地域とのつながりを持つきっかけとなっている。

都市部である那覇地区においては地元大学が事務局を担う事で、多様な構成団体からの柔軟な発想が引き出せる協議会の在り方が模索された。また、実施に当たっては学校区単位の取組みに注力し、公民館や自治会を巻き込んだ地域連携の在り方が提起された。

豊見城地区においては、学校の要望をきめ細かくヒアリングした結果、職場体験の中にジョブシャドウイングを組み込んでカリキュラムを作成、提示するといった成果が見られた。また、協議の場にPTA会長や保護者を加えたことで家庭への波及効果を目指した。

宮古島地区においては、行政がイニシアチブを発揮して事業を進め、地域イニシアチブ型ジョブシャドウイングという、本事業の地域連携の基本モデルとなったスタイルがすでに確立している。成果発表会に協議会会長（副市長）が参加したことで、本事業の成果、地域連携型キャリア教育を進める中で行政の役割、支援の在り方がダイレクトに市政に反映された。

2 コーディネーターの役割について

ジョブシャドウイングをツールとして地域連携を図るため、本事業では次期拠点地区を含む各地区に1名ずつコーディネーターの配置を行っている。コーディネーターは、地元精通し、地域の要望に迅速に対応できる人材、地域で活躍できる人材として位置付けられおり、学校と産業、地域を結びつける結節点としての役割を果たすために欠かせないものとなっている。コーディネーターは以下の役割を担っており、活動内容は多岐に渡っている。

① ジョブシャドウイング実施に関する活動	
学校・保護者向け	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョブシャドウイング実施のため関係機関（学校、行政等）との各種調整 ・事前、事後学習の調整（時期、内容、手法など）、実施およびサポート ・ジョブシャドウイング実施のための準備 （教員・保護者向け事業説明会の実施、ルート表作成、必要資料作成・提供、実施にかかる人・モノ等の手配、注意事項等確認、出発式調整など） ・ジョブシャドウイング当日の運営、サポート （出発式サポート、保護者・サポーター向け説明、マスコミ等対応の実施など） ・学校向け実施報告、アンケート・ヒアリングの実施
企業・地域	<ul style="list-style-type: none"> ・経済団体等への周知、協力要請 ・受入企業開拓、取りまとめ ・ジョブシャドウイング実施終了後のフォロー （企業へのお礼、アンケートの配布・回収・集計、関係機関へのヒアリング実施など） ・地元自治会等への周知、協力要請
広報活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョブシャドウイング周知・広報に関すること （イベント等への出展、広報・マスコミ対応、関係者向け事業説明会の開催など）
② 協議会運営に関する事項	
協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会の開催日程調整、招集連絡 ・会場設営、機材等手配、設置 ・資料の作成、印刷 ・その他庶務活動
記録	<ul style="list-style-type: none"> ・議事録の作成 ・活動報告書の作成 ・日報の作成

こうした取組みは、地域が一丸となった就業意識の向上を実現するためのものであるため、単にジョブシャドウイングの実施・運用だけでなく、地域の特性に合わせた地域連携の仕組み構築と、そのノウハウを地域に確実に根付かせていくための仕組みづくりの構築をコーディネーターは担っている。

コーディネーター業務を円滑に進めるためには、地域実情に即し、関係団体との調整役として機能するための関係構築が欠かせない作業となる。本年度ジョブシャドウイングの実施が問題なくすべて終了したことからも、全地区において関係者との良好な関係構築が出来たとと言える。

3 グッジョブおきなわ推進事業局の役割について

グッジョブおきなわ推進事業局（以下、「事業局」という）は、こうしたコーディネーターの活動を支援するため、コーディネーターとしての基礎的な知識や技能の育成、活動全般に関するサポートを行っている。研修会の他、OJTやOFF-JTを通してコーディネーターの育成を図り、各地区の事例を集約し蓄積することで地域連携の在り方についての事例提供を行っている。本年度は、新たな拠点となる次期5拠点地区の支援において、全地域で協議会発足が出来たことと、モデル事例の実施支援が実現できたことが成果と言える。

事業局はジョブシャドウイング実施のための基本的な方針をコーディネーターに繰り返し伝え、各拠点の活動が円滑に進むようサポートする役割に徹している。そうすることで、コーディネーターの自立を支援すると共に、地域の特性を活かした地域連携活動が行えるための仕組みづくりのノウハウを提供、サポートしている。

また、拠点地区の事例で次期拠点地区に活用できるものは、随時積極的に事例として提供している。各地区個別の支援の他、各地区の事例を提供、共有する場として、全地区のコーディネーターが参加する全体会議を毎月1回程度開催している。全体会議の内容は、各地区の事例報告を聞く事と、それを踏まえて地域にあった取組みとして活かすための視座を得ることである。拠点5地区が2年の活動を終了する本年度において、各コーディネーターに対して、その役割を果たせるようになってきている。

こうした仕組みがあるからこそ、拠点5地域における地域連携の取組みを踏まえて、次期拠点地区においてもそれらの事例を活かしながら各地域の特性を活かした地域連携の在り方が模索でき、地域連携のアウトラインが構築できた1年となった。

4 様々な関係者による地域連携の可能性について

全地域共通の課題としては、3点あげられる。1点目はキャリア教育の手法であるジョブシャドウイングの理解を関係者にどのように周知を深めていくかがある。2点目は、学校の中で取組まれているジョブシャドウイング以外のキャリア教育手法との関連付けと、体系だったキャリア教育カリキュラムの構築がある。3点目は、地域の特色ある産業を就業の受け皿として育成していくため、学校教育の中にどのようにして地域の産業人材育成の視点を盛り込むかがある。

1点目に関しては、メディアや市町村広報誌、学校からの配布物を利用した周知、協議会構成団体の事業説明会実施など、様々な機会や媒体を利用して丁寧な活動を行っていく必要がある。

2点目のキャリア教育カリキュラムと体系づけについては、職場体験とジョブシャドウイングを組合わせた豊見城地区における事例や、沖縄女子短期大学や琉球大学教育学部附属小学校における取組み事例が大学等の高等学校教育機関との連携についての示唆を与えてくれる。

また、3点目の地域産業人材育成の視点については、うるま市が平成25年度以降に行う取組みなどが先駆的な事例となり得るだろう。

そのほか、特筆すべき平成24年度の取組みとしては、沖縄地区をはじめとする一部の地区において、文部科学省が設置を進めている学校支援地域本部コーディネーターや、市町村独自で配置しているキャリアコーディネーターといった人たちとの連携を模索する動きがある。

こうした様々な関係者が一堂に会して熟議する場としての協議会の役割が、今後ますます重要になってくるものと考えられる。

【本事業における各機関との連携に関する基本的な考え方】

沖縄型ジョブシャドウイング事業は、沖縄県が推進する「みんなでグッジョブ運動」で提唱する「雇用情勢の全国並み改善」という目標を達成するための事業である。それを踏まえて、産学官・地域・家庭が連携する仕組みづくりのための基本的な考え方をまとめると以下の通りとなる。また、連携事例については、今後の実施を通してさらなる蓄積が期待される。

① 保護者/家庭	
位置づけ (役割)	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校と家庭とで連続したキャリア教育を実施する事で、子ども達の学びを深める。 ● 子どもと将来の夢や働く事の意義について話し合う場をつくる。 ● 子どものキャリア形成における学校や地域社会との関わりを知る。 ● 雇用情勢や職業、職種について考える。
連携事例	<ol style="list-style-type: none"> 1. 送迎サポーターとして参加 2. 出発式の運営サポート 3. 保護者連絡用メール（例：じんじんメール）を活用した周知・実施連絡
② 実施校/教育関係機関	
位置づけ (役割)	<ul style="list-style-type: none"> ● キャリア教育を充実させるための一例としてジョブシャドウイングを活用する。 ● 児童生徒の中長期的、「多角的視野」を育成し、就業観や職業観を高めるよう働きかける。 ● 学年間、学校間、異校間の連続性を視野に入れたキャリア教育を体系化する。
連携事例	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域内の実施校担当者向け研修会、もしくは校内委員会を対象とした校内研修会の実施 2. PTA や保護者説明会の開催 3. キャリア教育に関する講演会の開催 4. 校長会・教頭会での事業説明会 5. 次年度実施校の公募の取りまとめ 6. 実施校以外への周知（実施中や発表会見学等の呼びかけ） 7. 学校支援地域本部コーディネーターを活用した保護者サポーターのフォローや実施に関わる支援 8. 社会教育主事を活用した企業開拓 9. 出発式への教育委員会の出席
③ 地域コミュニティー	
位置づけ (役割)	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域人材の活用などでキャリア教育に積極的に関わることで、子ども達が地域に根差した生き方、働き方といった視野を広げられるよう働きかける。
連携事例	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自治会役員会等への事業説明会 2. 公民会等でのジョブシャドウイング新聞展 3. 自治会イベント（祭り）でのジョブシャドウイング広報展 4. 送迎サポーターとして参加 5. 事前学習の講師における動機づけ学習や職業人講話等の講師 6. 企業人講話の講師 7. 地域サポーター（地域内に住む学生や社会人、地域内の事業所に勤務する社会人等）による送迎 8. コミュニティー FM やコミュニティー新聞での周知広報
④ 行政	
位置づけ (役割)	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の人材育成に関して必要な情報提供または発信や支援を行う。 ● 雇用に関する諸問題を解決するための課題や問題を政策に反映させる。 ● 市町村部局と教育委員会が協力して経済団体、地場産業団体に対する働きかけの共有化。
連携事例	<ol style="list-style-type: none"> 1. 広報誌等でのジョブシャドウイング記事の掲載 2. 市役所（役場）ロビー等でのジョブシャドウイングの取組み広報展 3. 部長会議等を活用した事業説明 4. 出発式での首長等のあいさつ 5. 記者クラブ等を活用しての取材依頼

⑤ 経済団体	
位置づけ (役割)	<ul style="list-style-type: none"> ● 中長期的な人材育成に協力する事で、業界・業種・企業求人のおそ野を広げる。 ● 「働く大人」としてのロールモデルを示す。 ● 産業界が求める人材像を学校教育現場に活かせるように協議会の場で情報発信する。
連携事例	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定期総会や定例会での事業説明 2. 各団体の傘下企業を対象とした合同企業説明会や合同メンター説明会の開催 3. 団体に運営している HP での事業周知 4. 経済団体主催の講話
⑥ 協議会	
位置づけ (役割)	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の特性に合わせ、特色ある人材育成のため、構成団体の熟議の場としての役割を果たす。
連携事例	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業部会・事務連絡会議の開催 2. 実施校合同会議の開催 3. 周知・広報を目的としたジョブシャドウイング通信等の発行 4. 企業合同説明会の開催 5. 合同メンター説明会の実施

【平成24年度 地域連携成果事例一覧】

	事 例
産業界との連携	<p>【うるま地区】</p> <p>県や市が誘致した製造業、情報通信業を軸に企業開拓を行うことで、産業界と地域の連携が強化された。</p>
学校・保護者・教育機関との連携	<p>【豊見城地区】</p> <p>中学校における職場体験学習プログラムとジョブシャドウイングを合わせたカリキュラムを作成し、融合モデルを提示。</p> <p>【沖縄女子短期大学】</p> <p>高等教育機関（大学）での社会人基礎力を養う目的の講義と連動したカリキュラムのモデル実施とジョブシャドウイングの効果検証。</p> <p>【琉球大学教育学部附属小学校】</p> <p>単位取得可能な講座として琉球大学教育学部と連携し、学生に対して実践的なキャリア教育指導のモデルを提示。</p> <p>【宮古島地区・石垣地区・竹富モデル】</p> <p>異なる学校や学年での合同学習、合同実施を行う事で、学校内、地域内でのキャリア教育を体系化するきっかけ作りの場となった。</p>
地域との連携	<p>【那覇地区】</p> <p>大学に事務局を設置することで、多様な構成団体から柔軟な発想が引き出せた。</p> <p>【竹富モデル】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 離島校の生徒の受入れを本島の経済団体が引受けることで、地域間の交流が示された。 ② 地域内企業の実施と地域外企業の実施を組み合わせることで、生徒の視野を多面的に広げる取組みが示唆された。
行政との連携	<p>【名護地区】</p> <p>地域の課題を共有し、議論する場として機能するよう役割分担の在り方を示したモデル。</p> <p>【宮古地区】</p> <p>行政がイニシアチブを発揮する事で、行政の役割、支援の在り方を示したモデルとなった。</p>

2 アンケート 総括

沖縄型ジョブシャドウイング事業を推進するに当たり、ジョブシャドウイングに参加する児童生徒をはじめ実施校の担当者、受入企業のコーディネーターや実際にメンターとなった方へのアンケート調査を実施している。参加している地域別の特徴を踏まえて本事業の課題、成果を分析することとした。また、記述式のアンケート内容に関してはテキストマイニング手法を用いて分析を行っている。

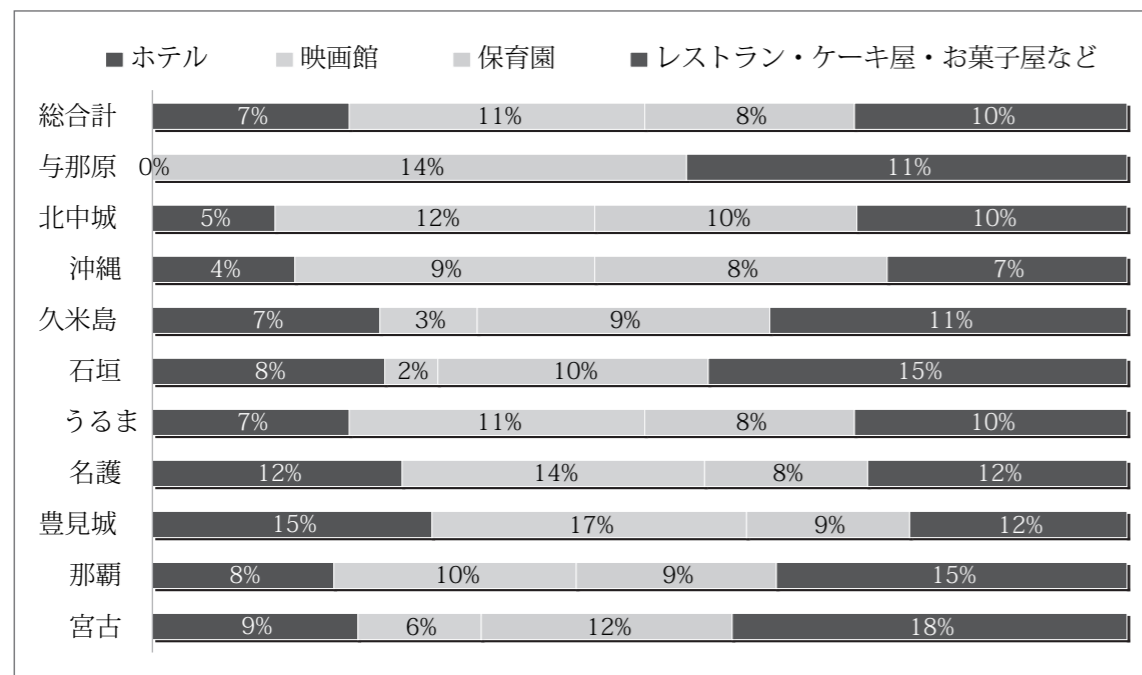
1 事前・事後アンケート 集計結果

児童生徒向けには事前・事後にアンケートを行った。これは、実施前と後とで仕事に対するイメージの変化を把握することで、就業観育成にどの程度貢献できているのかを計量的に測定することを目的としている。

●事前アンケート

事前アンケートでは、①どのような仕事に興味・関心を持っているのか、②仕事に対するイメージはどのようなものか、③就労意欲をどの程度持っているのか、を把握する目的でアンケートを実施している。

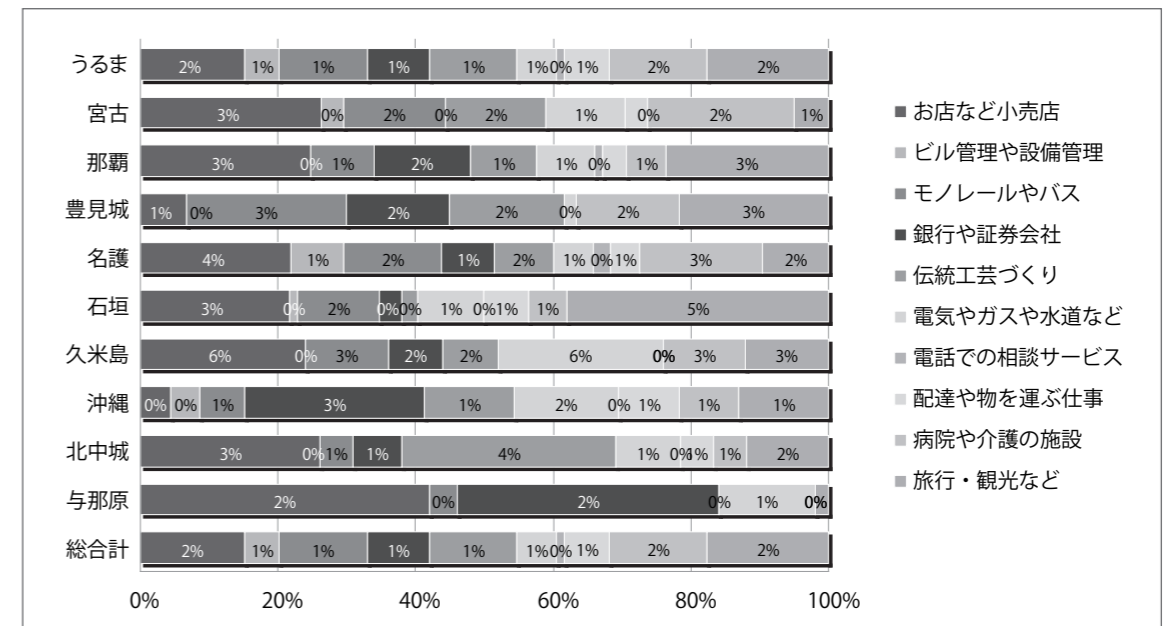
観察したい仕事の分野について尋ねた所、全地区を通して最も希望が多かった職業の上位3つは1位「レストラン・ケーキ屋・お菓子屋など」の飲食系（ファーストフード含む）、2位「保育園」、3位「映画館」となっている。第3希望職種までアンケートを取っているが、第2希望に「ホテル」が上位3位に食い込んではいないものの、大きな変動は見られなかった。なお、「ホテル」は全体では4位となっている。



[グラフ 地区別観察したい仕事の分野（上位4）]

地域別に見てみると、第1位の「レストラン・ケーキ屋・お菓子屋など」はいずれの地区においても高い割合を示している。第4位「ホテル」については、離島地区や那覇、豊見城、名護において高い割合を示しているが、沖縄市や北中城、与那原においては低い割合となっている。

また、地域別の回答の特色としては石垣、久米島、北中城地区において「農家や漁師」について第一希望に挙げた割合が他地域に比べて多かった。同様に豊見城地域においては「スーパーやデパート」が挙げられている。



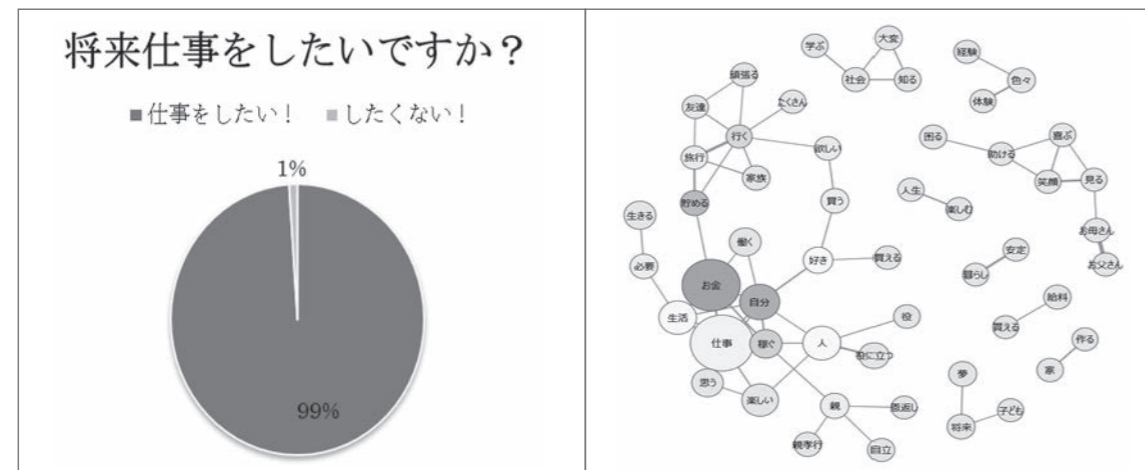
[グラフ 地区別観察したい仕事の分野（下位10）]

関心が低い順ということで観察したい仕事の分野の下位Top10を見てみると、児童生徒らが普段あまり目にしない職業が多いことが分かる。右図は2013年のQナビ（沖縄の新卒就活応援サイト）における県内企業就職希望調査ランキングの表である。上位には金融系、エネルギー、情報等の企業がランクインしているが、小・中学校の間ではこうした企業は上図のように下位にランクされている。これらのことから、児童生徒の職に対する理解や関心の高さの要因には「普段よく利用する身近な場所」であることが推察される。

■「就職志望」企業 上位20社（全体編）		
順位	企業名	昨年順位
1	サンエー	(3)
2	琉球銀行	(1)
3	沖縄銀行	(2)
4	沖縄電力	(5)
5	琉球光和	(4)
6	クオリサイトテクノロジーズ	(7)
7	沖縄セルラー電話	(20)
8	イオン琉球	(13)
9	オリオンビール	(6)
10	JTB沖縄	(13)
11	光貴	(11)
12	プロトデータセンター	(9)
13	沖縄海邦銀行	(15)
14	前田産業ホテルズ	(21)
15	ザ・テラスホテルズ	(8)
16	沖縄県農業協同組合（JAおきなわ）	(28)
17	りゅうせき商事	(52)
17	大同火災海上保険	(12)
19	パラダイスプラン	(25)
20	トランスコスモスシー・アール・エム沖縄	(248)
20	沖縄日立ネットワークシステムズ	(16)

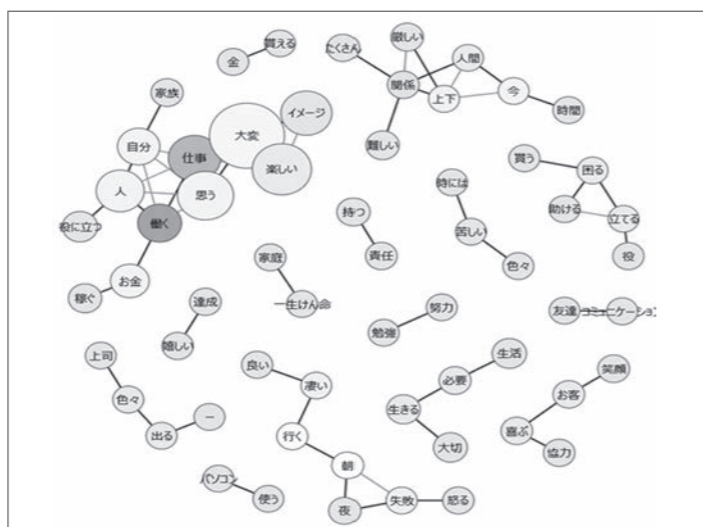
出展：Qナビ 就職人気企業調査 2013

「大人になったら仕事をしたいですか？」に対する問いに関しては下記のグラフの通り、全地区を通して99%が仕事をしたいと回答している。その理由を尋ねたところ、仕事は①生活のためにお金を稼ぐ手段、②自分の好きなことをするための手段、③人のために役に立つ手段、④親からの自立や親孝行のための手段と捉えている児童生徒が多いことが分かった。一方で、「仕事をしたくない」と回答した児童では50%「仕事は大変そう」と捉えており、それ以外では「スポーツ選手になるため」が30%を占めた。スポーツ選手は職業と認識されていないことが見て取れる。



[グラフ 将来の仕事について] [図 仕事をしたい理由の相関関係 (実施前)]

ジョブシャドウイング実施前の仕事をすることや、働くことに対するイメージを尋ねた所、働くことは「人や自分、お金のために働くことである」とらえている児童生徒が多く、「大変そう」というイメージが「楽しそう」というイメージより強いことが分かる。また職場での人間関係や時間等に対して大変そうだと感じていることが分かる。

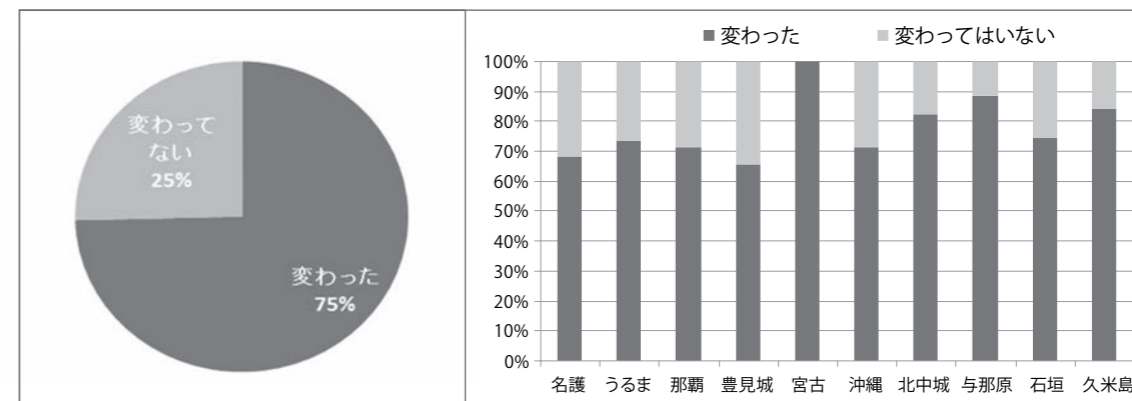


[図 仕事をしたい理由の相関関係 (実施後)]

●事後アンケート

事後アンケートでは、①メンターを観察して感じたこと、②仕事へのイメージの変化、③将来に向けて取り組みたいこと、を尋ねることで、ジョブシャドウイング学習実施前との気持ちの変化を比較することを目的としている。

ジョブシャドウイング後に、仕事に対する意識の変化を尋ねた所、全体的には75%の児童生徒が変わった、25%が変わっていないと回答している。



[グラフ 仕事に対するイメージの変化] [グラフ 地域別 仕事に対するイメージの変化]

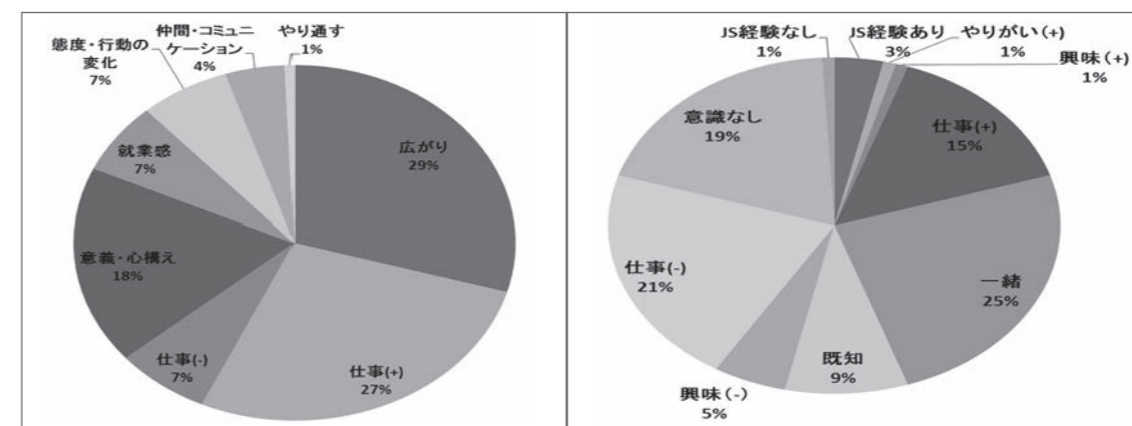
○「変わった」と答えた児童生徒について

仕事について「楽しい」イメージが「大変・難しい」に変わった児童生徒もいれば、「大変・難しい・辛い」というイメージが「笑いがあった・話をしていた・楽しそうだった」というイメージに変化したケースも見られた。これらの回答は「広がり」に分類している。また、観察を通して、自身の仕事に対する意欲（就業観）が高まったり、日々の態度・行動の変化がみられると答えた児童生徒が14%となっている。また、ジョブシャドウイング学習を通して、仕事に対する意義や心構えの大切さ、仕事をやり通すことの大切さを感じた児童生徒の割合は19%となっている。また、仲間やコミュニケーションの大切さに気付いた生徒も4%いた。

○「変わらなかった」と答えた児童生徒について

以前にジョブシャドウイングや職場見学等の経験があるため、「仕事」に対して何らかのイメージを持っていたり、仕事に興味やプラスのイメージを持っていたため「変わらなかった」と答えた児童生徒が約半分近くいた。その反面、仕事に対してネガティブなイメージ（仕事(-)）を持っていることに変化が無かった児童生徒が21%、興味が無い（興味(-)）、就職や仕事について考えたことが無い（意識なし）ことから、ジョブシャドウイング前のイメージと比較することが出来ずに意識なしと回答している児童生徒も25%程度いることが分かった。

これらのことから、事前学習において「何を観察するのか」といった点をしっかり伝えていく必要があること、またどのようにすればそれが出来るのかについて検討を重ねる必要がある。



[グラフ 変わった理由(変わったと回答した人)] [グラフ 変わらない理由(変わらないと回答した人)]

この質問を通して、気になるのは児童生徒の仕事に対するイメージである。「変わった」と回答している中で、仕事へのマイナスイメージがプラスに転じた割合が27%と3割近くいる。また、「変わらなかった」と回答した中では仕事へのマイナスイメージがそのままの割合が21%と約2割ある。児童生徒の身近にいる親や先生、メディアで報道される「働く大人」のイメージの悪さについて考えてみる必要があるのではないだろうか。仕事に対するポジティブな面だけではなく、ネガティブな面を伝えていくことはもちろん大切である。しかし、大人が考えている以上に子ども達はネガティブな面を受け止めていることを踏まえて、情報発信の在り方を考え、情報収集と選択の方法を伝えていく必要があるだろう。

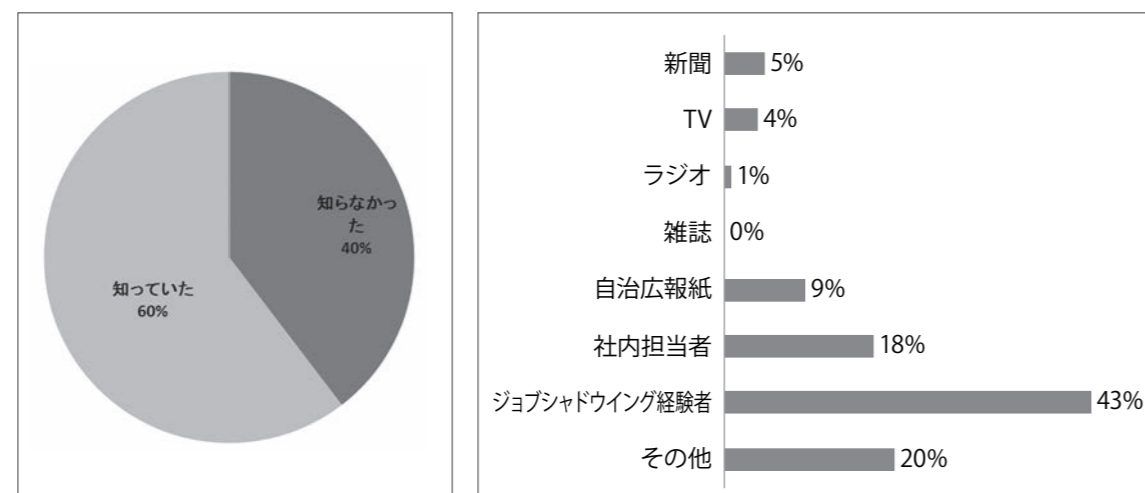
2 企業向けアンケート 集計結果

企業向けアンケートについては受入企業の窓口となる担当者向けと、実際にメンターとなった方に対してそれぞれアンケートを実施した。なお、受入企業によっては、メンターと窓口担当者を兼務しているケースもあるため、その場合はメンターとしてアンケートの提出をお願いしている。

●企業窓口担当者向けアンケート

今回、窓口担当者には①ジョブシャドウイングの認知度について、②ジョブシャドウイング受入実施の際の感想について、③ジョブシャドウイングの効果についてどう思ったかの3点について尋ねた。

ジョブシャドウイングの認知については、知らないと答えた企業が40%であったのに対して、60%は知っていると回答している。「知っている」と答えた企業に「どのような方法で知りましたか」という問いに対して、ジョブシャドウイング経験者 43%、社内担当者 18%、自治体広報 10%となっており、継続的に関わっている企業が受入企業として定着してきていることがうかがえる。

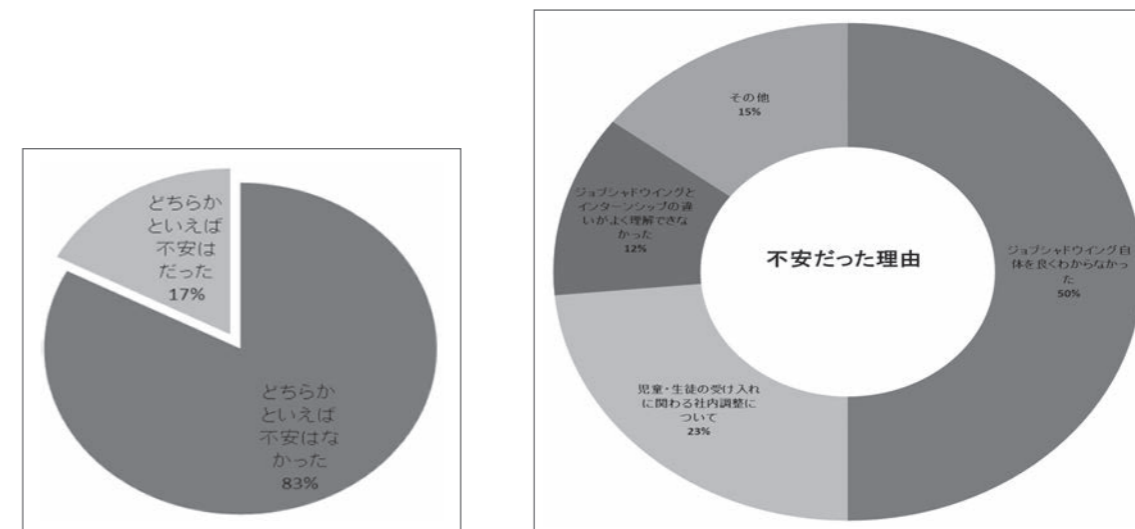


[グラフ ジョブシャドウイングの認知度 (左)、何から情報を得たのか (右) について]

また、企業受入の際の受入れ先決定基準として、複数の部署や業務全体の流れが把握できるように配慮したり、モチベーションが高い社員がいる部署、安全である部署や業務であることを基準としていると回答した企業も多かった。

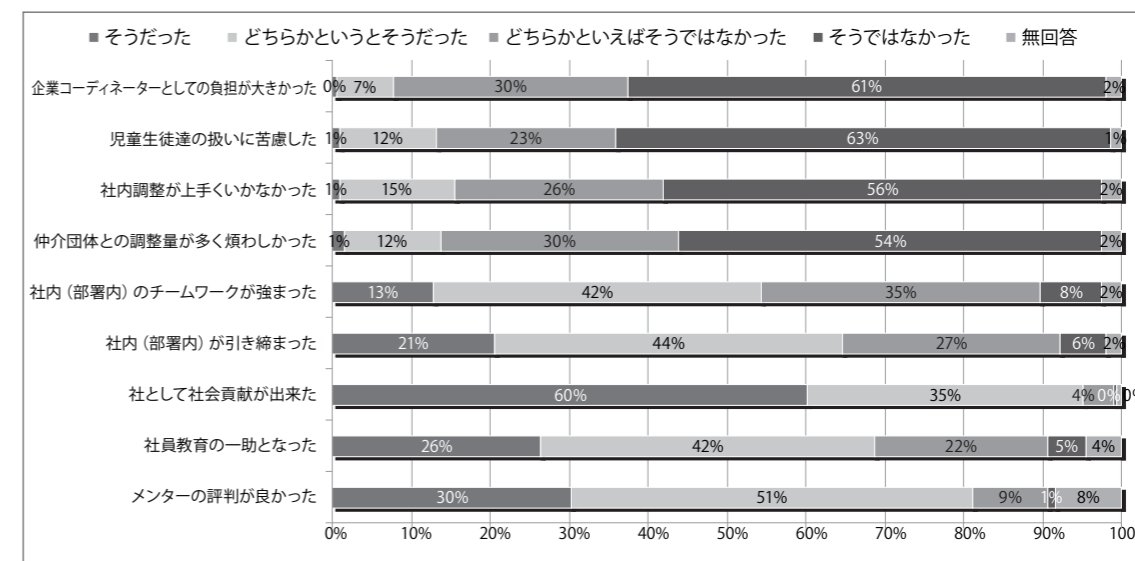
ジョブシャドウイング前に不安だったことについて尋ねた際、「どちらかという不安はなかった」と回答した企業は83%となっていた。事業推進の際は、コーディネーターが受入企業に対して合同または個別に事業の説明を行うようにしており、この活動の成果と言える。

「どちらかという不安」と回答した企業に対し、その理由を尋ねた所、「ジョブシャドウイング自体をよくわからない」「インターンシップとの違いがよく理解できない」を合わせると62%となっている。口頭や資料で説明を行うだけでは、ジョブシャドウイングとは何をやるものなのかというイメージを掴みづらいことが分かる。ジョブシャドウイングの手法や目的については、今後も丁寧な説明活動が必要であるといえる。



[グラフ ジョブシャドウイング実施前の不安の有無(左)と不安の理由(右)]

実際にジョブシャドウイングを受入れてみて、どのような感想があったかについて質問した。(複数回答)



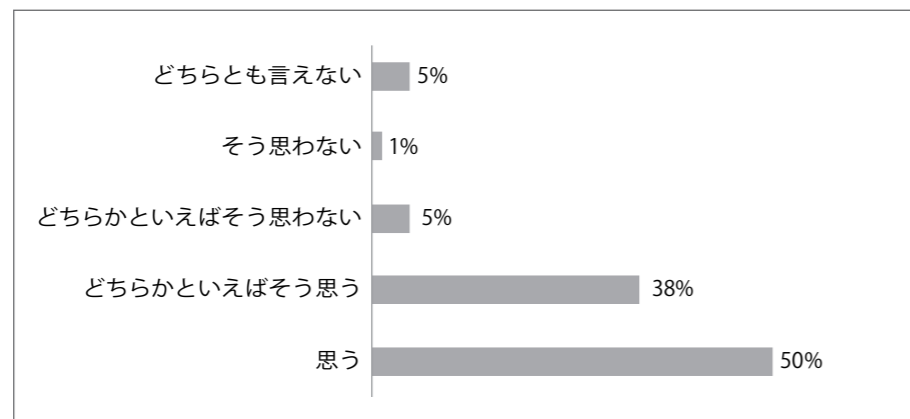
[グラフ ジョブシャドウイングを受入れての感想]

「社会貢献できた」が「そうだった、どちらかというそうだった」を含め85%と最も高い数値を示している。それ以外にも、「社内(部署内)が引き締まった」65%、「社内(部署内)のチームワークが強まった」55%、「社員教育の一助となった」68%、「メンターの評判が良かった」81%と、企業側がメリットを感じていることが分かる。

また、「企業窓口担当者としての負担が大きかったか」においても「そうではなかった、どちらかと言えばそうではなかった」を含めると91%が負担ではなかったと感じていることがわかる。社内調整や、仲介団体（本事業のコーディネーター）との調整の煩わしさ、児童生徒への関わりに関しても、約90%が負担ではなかったと回答している。

具体的な企業からの声としては、児童生徒の態度への好意的な評価や負担感の少なさについて歓迎する声があった一方、時間の短さや、児童生徒の希望する職種とのマッチング、引率者の事業への関わり、事務的作業の依頼が多いなど、見直しを求める声も上がっている。

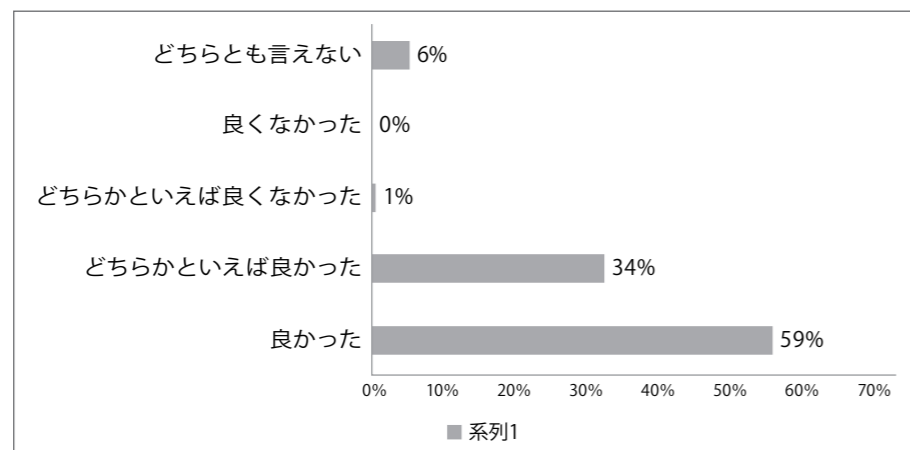
ジョブシャドウイングの効果について「勤労観・就業観を育てる一助になっていると思うか」について尋ねた。その結果「どちらかと言えばそう思う」「思う」を合わせると9割近くの企業がジョブシャドウイング実施の意義を感じていることが分かる。



[グラフ 勤労観・就業観を育てる一助になっているかについて]

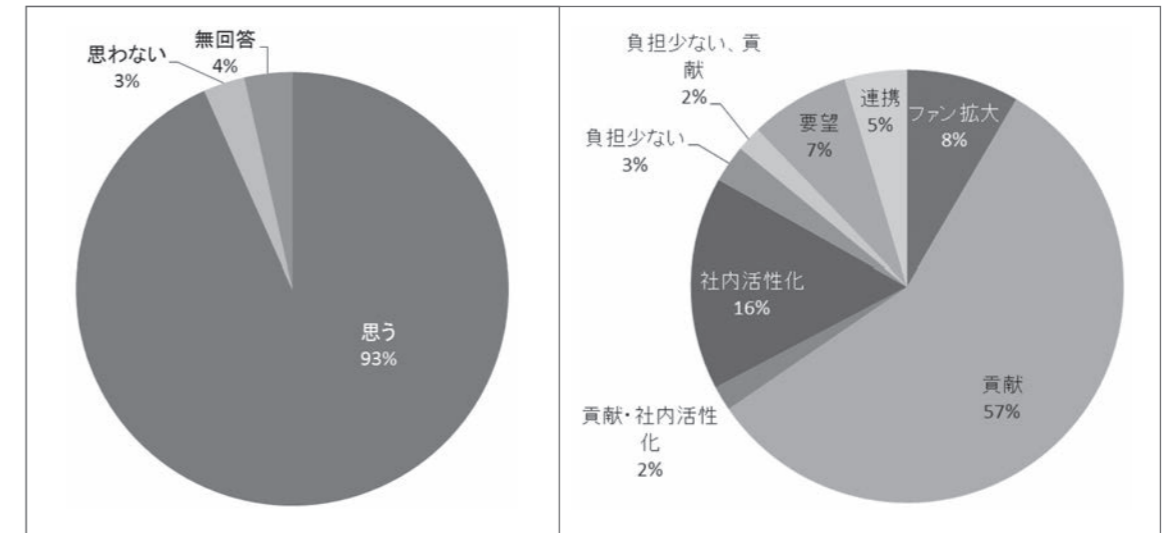
一方で、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答した企業に理由を尋ねたところ、「時間が短すぎる」50%、「年齢が若すぎる」33%、「ジョブシャドウイングでは不足」11%の順となっている。

ジョブシャドウイングを引受けたことの企業メリットについては「良かった」が59%、「どちらかと言えば良かった」が34%、計93%がメリットを感じていることが分かる。



[グラフ ジョブシャドウイングを引受けた事の企業メリット]

今後ジョブシャドウイングを引受けて頂けるかを尋ねたところ、93%の企業が「思う」と回答している。



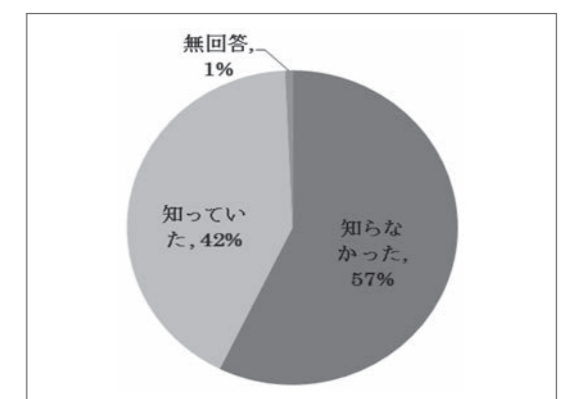
[グラフ 今後ジョブシャドウイングを受入れるかの有無(左)、受入すると回答した理由(右)]

その理由を尋ねたところ、「思う」と回答した企業の67%が「(社会・地域)貢献」と捉えていることが分かる。また、受入企業・業種・業界に対する未来の人材育成のためについては「ファン拡大」として集計したところ、約1割近くの企業はそう考えていることが分かる。また、社員教育や自身の業務を振り返るためという意見は「社内活性化」として集計したところ、16%がそのようにとらえていることが分かった。一方、「思わない」と回答した企業の意見を「要望」として取りまとめたところ、「安全面に対する不安」「人手が足りない、実施時期によっては受入れが難しい」「年齢が低すぎる」などの声が上がった。

●企業メンター向けアンケート

企業メンター向けには①ジョブシャドウイングの認知度について、②ジョブシャドウイング受入実施の児童生徒の様子について、③ジョブシャドウイングされてみてどう思ったのか、④ジョブシャドウイングの効果についてどう思ったのか、の4点について尋ねた。

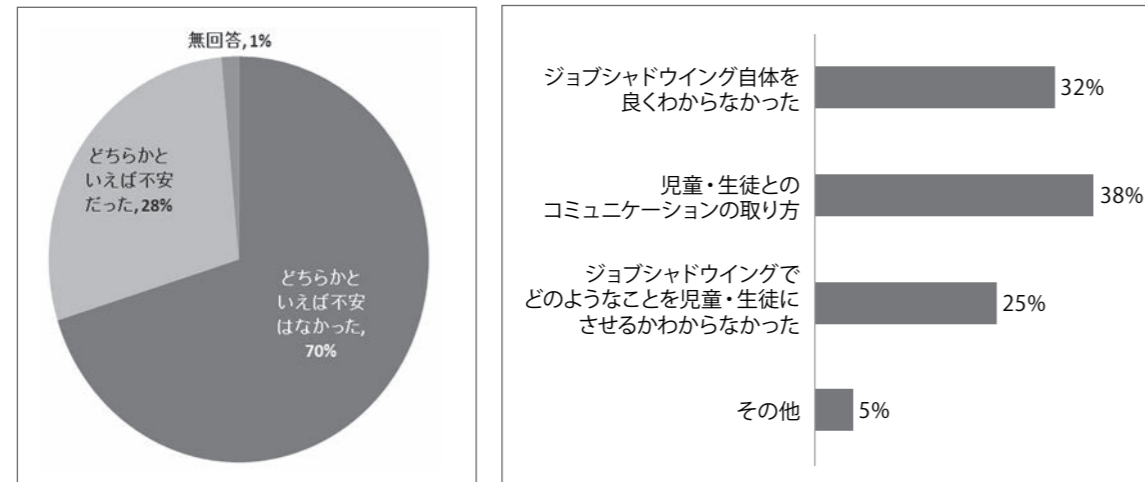
ジョブシャドウイングの認知に関しては、メンターを引受けた57%が「知らなかった」と回答している。これは、受入時に様々な部署や職種を見てもらうことを企業側が意識した結果、前回と異なるメンターを選出していることが背景にあると考えられる。また、企業窓口担当者とメンターとの情報共有がスムーズでないケースも考えられる。



[グラフ ジョブシャドウイングの認知度について]

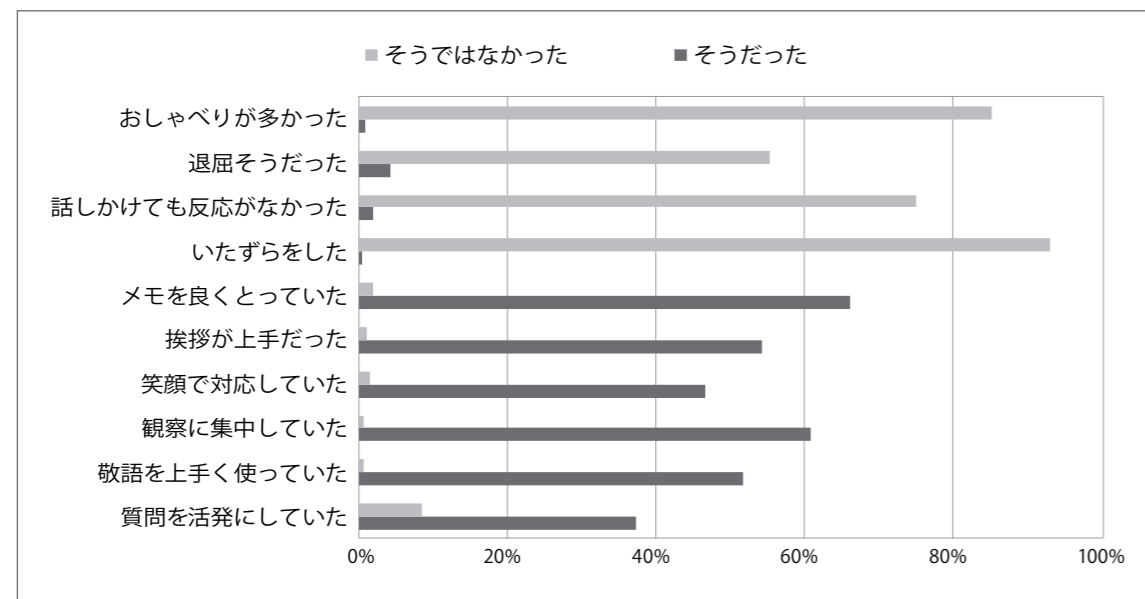
さらに、ジョブシャドウイング実施前に不安があったかを尋ねたところ、7割は「不安はなかった」と回答しているが、残り3割近くが「不安」と回答している。

「不安」の理由については「児童生徒とのコミュニケーションの取り方」が38%と最も高く、次いで「ジョブシャドウイング自体よくわからない」が32%、「どのようなことを児童生徒にさせるのかわからなかった」が25%を占めており、メンターに対するジョブシャドウイングの説明が不足していることが分かる。



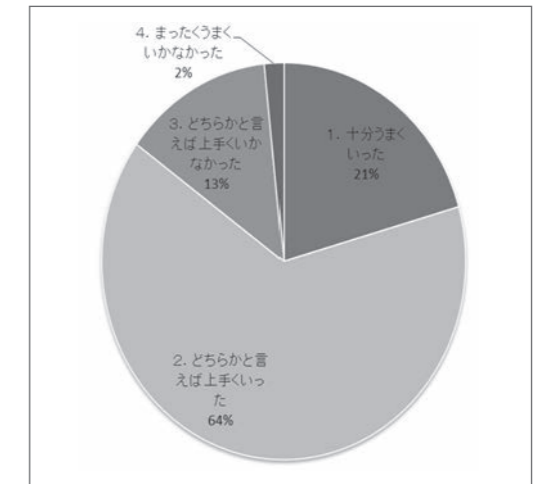
[グラフ ジョブシャドウイング実施前の不安の有無 (左)、不安の理由 (右)]

ジョブシャドウイング中の児童生徒の様子について尋ねたところ、「お喋りが多かった、退屈そうだった、いたずらをしていた」という質問に対しては90%程度のメンターが「そうではなかった」と回答しており、児童生徒が熱心に取組んだことが分かる。



[グラフ 実施中の児童生徒についての評価]

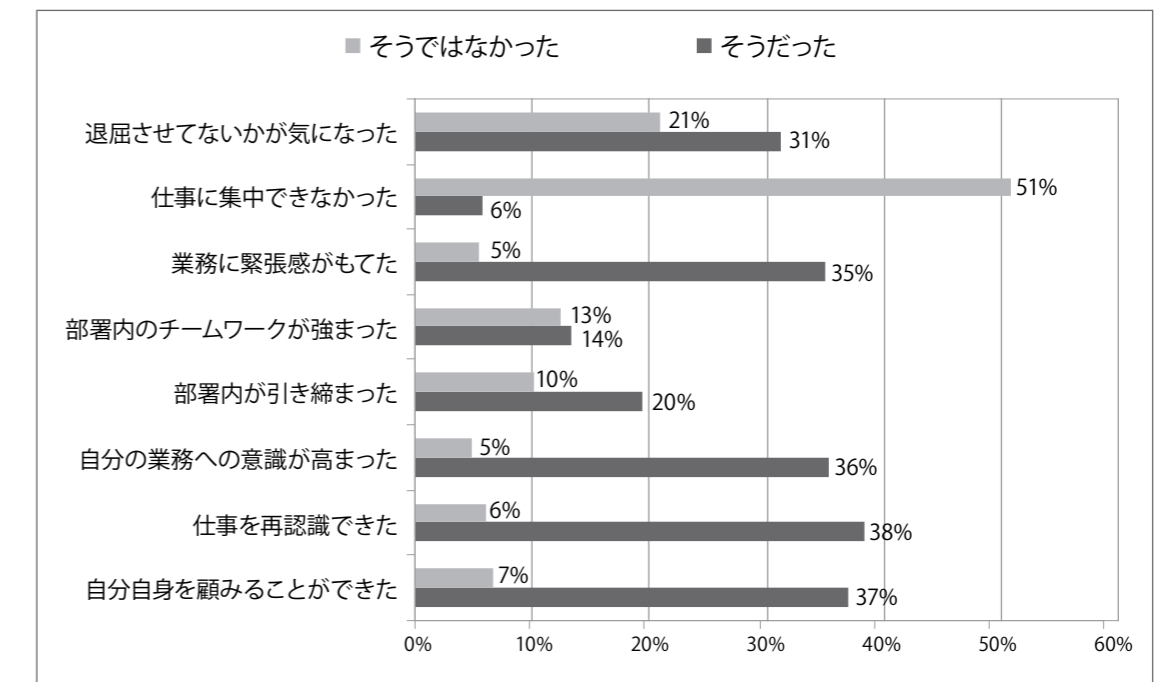
児童生徒たちとコミュニケーションがうまくいったかを尋ねたところ、「十分うまく行った」「どちらかと言えば上手くいった」を合わせると85%と、大多数のメンターは十分にコミュニケーションが図れたと感じているが、「うまくいかなかった」「どちらかと言えば上手くいかなかった」と答えたメンターも15%程度いた。コミュニケーションがうまくいかなかったと回答したメンターに、その理由を尋ねたところ、「児童生徒からの質問・会話が少なかった」と回答したメンターが7割近くいた。このことから、受入れる側と受入れられる側双方に緊張感があったことや、児童生徒と普段接する機会の少ないメンターもいたことが推察される。



[グラフ 児童生徒とのコミュニケーションについて]

ジョブシャドウイングされての感想としては、懸念された「仕事に集中できなかった」という質問に対する回答は51%が「そうではなかった」と答えている。「どちらかというそうではなかった」も合わせると76%近くが、「そうではなかった」と捉えていたことが分かった。

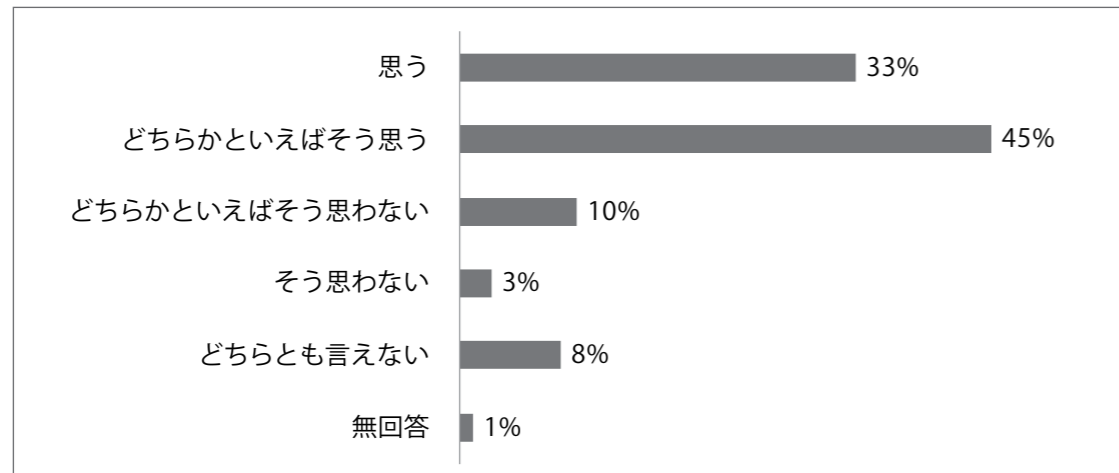
仕事に対するプラスの評価としては「業務に緊張感が持てた」「自分の業務への意識が高まった」「仕事を再確認できた」「自分を顧みることができた」などで4割近くが「そうだった」と回答している。子ども達に業務を見せることが、メンターにとってもいい影響を与えているといえる。



[グラフ ジョブシャドウイングされての感想]

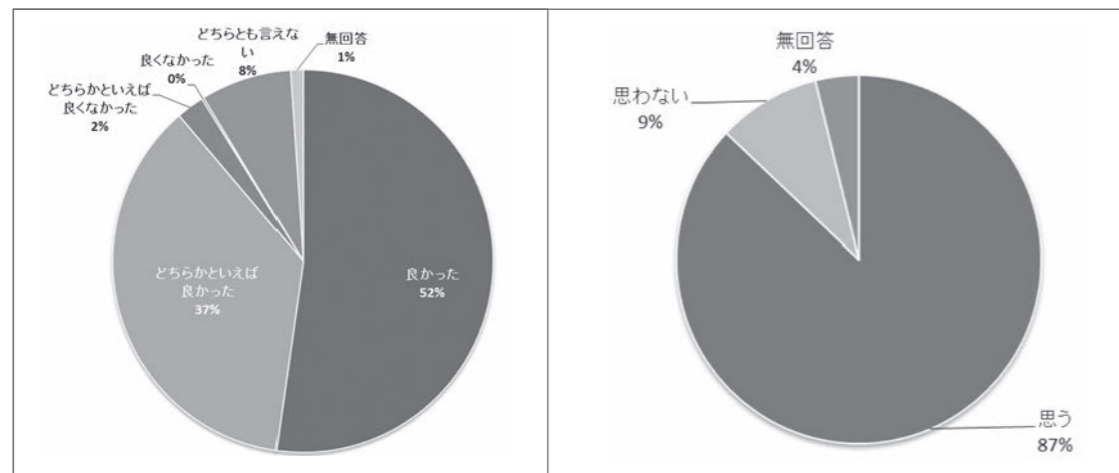
「児童生徒の勤労観、職業観を育てる一助になったか」という問いに対しては、「思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせると8割近くになり、メンターとしてもジョブシャドウイングが役立っているのを感じたことが分かる。

「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」理由について尋ねたところ、「年齢が若すぎる」「時間が短すぎる」といった声や「説明してもわからないのではないか」「見ただけでわかるのか」「興味がないなら意味が無いのでは」といった声があった。



[グラフ 児童生徒の勤労観・就業観を育てる一助になっているかについて]

メンターを引受けたことについて良かったかと尋ねたところ、「良かった」「どちらか」というと良かった」と回答した人が全体の9割近くに達しており、「機会があればまたメンターを引き受けたいですか?」の問いに対しては同じく9割近くが「思う」と肯定的に回答している。



[グラフ メンターを引受けた事について (左)、今後も引受けたいか (右) について]

企業窓口担当者、メンターへ改善点やご意見について自由意見を述べてもらったところ、子ども達が仕事に対して意義を感じ、意欲を持って欲しいとの熱い思いがあり、どんな仕事をしているのか、その内容についても、更に質問をして欲しいとの思いがあふれていた。こうした人たちの声を踏まえながら、ジョブシャドウイングについてより理解を深めてもらう活動が必要である。

SECTION

3

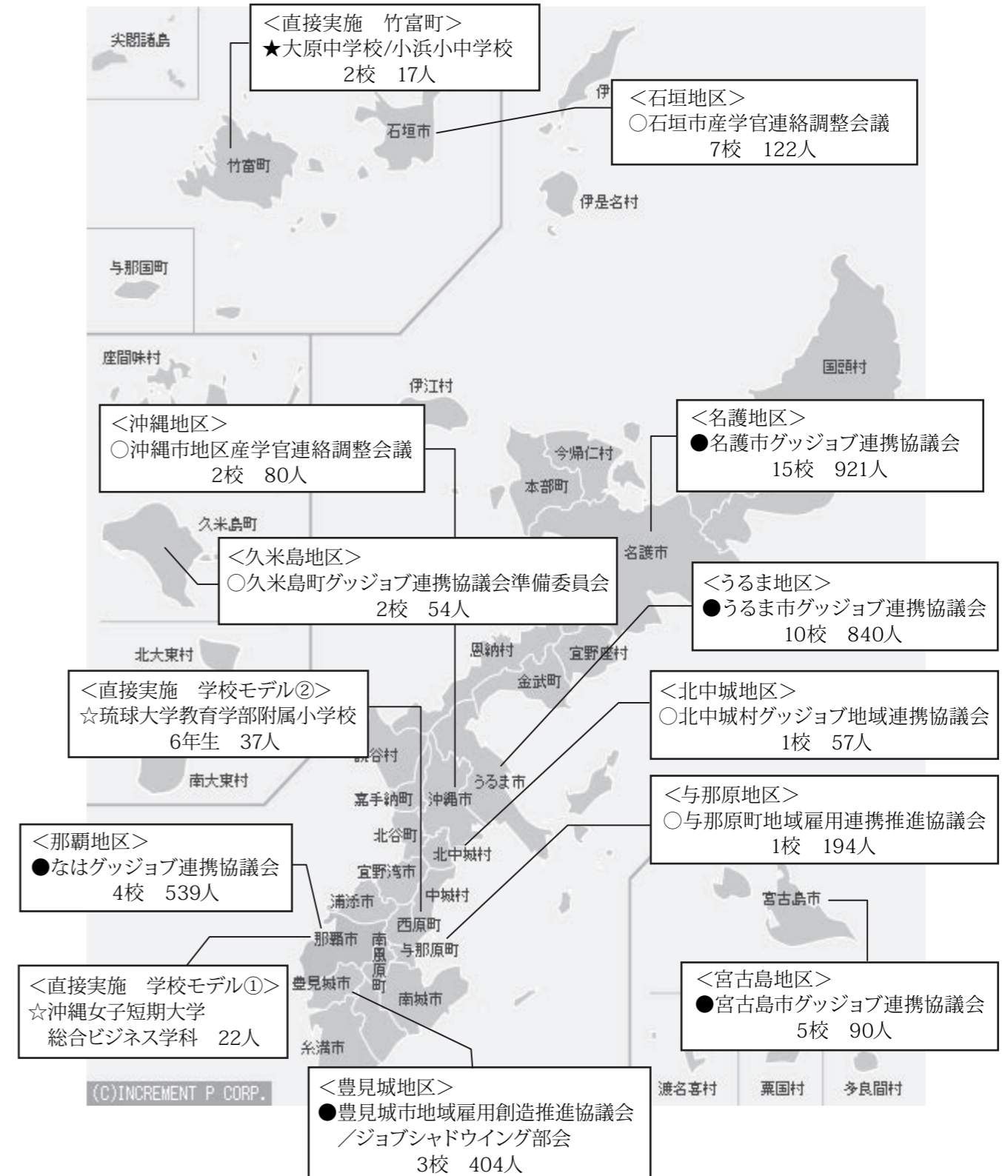
24 年度 拠点地区 活動報告



本年度の実施概要

各地区の報告書の取りまとめにあたり、沖縄型ジョブシャドウイングモデル事業を活用して、産学官・地域・家庭でどのような連携事例が見られたのかに焦点をあてるよう心掛けた。また、児童生徒を受入れた企業の分類については、日本産業標準分類に準拠して行っている。

なお、本年度の参加地区は拠点5地区(下図●)、次期拠点5地区(下図○)、直接実施1地区(下図★)となり、学校モデル2校(下図☆)を加えた参加学校数は全54校となっている。



1 名護地区

平成24年 名護市グッジョブ連携協議会

1 平成23年度 活動概況

(1) 協議会の概要と活動目的

名護市はこれまで積極的に雇用施策を進めてきたが、全国でも雇用状況の厳しい沖縄県において、本市は完全失業率が県平均を上回っており、年々厳しい状況がある。さらに若年者の失業率やニート率が非常に高く、将来を担う人材の育成が喫緊の課題となっている。

その解決に向けた取組みとして、産学官協働でジョブシャドウイングを実施することで、若年層の就業意識の向上を図り、将来的な雇用状況の改善を一つの目的とした。さらに、今後の名護地区の雇用創出、人材育成・企業誘致の地域雇用力の向上を推進するため、経済界、教育・行政機関、NPO法人等民間団体が一体連携した取組みとした。

本市では「沖縄型ジョブシャドウイングモデル事業」を円滑に実施し持続可能な人材育成へと繋いでいくため、平成22年6月に「名護市ジョブシャドウイング協議会」が設立された。

平成23年度においてはジョブシャドウイングだけではなく、沖縄県グッジョブ運動を通じた雇用対策事業を包括的に連携していくため、「名護市グッジョブ連携協議会」と名称を変え、その役割及び体制が引き継がれた。

(2) H23年度活動概況とH24年度への展望

	H23年度の課題	改善策
協議会及び事務局	平成23年度は、実施に向けた学校及び企業との間、または各個別の調整において主導的な立場で協議会構成委員への報告及び企業開拓の案内等の連絡調整に奔走した。しかし、後半期は企業の申し込みが著しく減少。企業の負担感もあると思われるが、受入れ案内等の開拓行動についても失速した感があった。	事務局体制の見直しを図りつつ、市支所配置の社会教育主事による地域企業の開拓、学校支援地域本部コーディネーターによる送迎サポートの保護者確保等、各立場からの協力を依頼し、今年度実施希望校の増加に対応する。
実施校	① ジョブシャドウイングの認知は、前年度実施校である名護中学校や教育委員会からの周知により知っていたケースが多かった。しかし、詳細な内容については学校担当者にはほとんど知られておらず、特に初めて実施する学校においては、不安と負担を感じていたことがあった。	可能な限りの説明によりジョブシャドウイングを理解頂き、また相互の信頼感を得るよう努めた。また、学年全体で積極的に取り組むよう促し、目的の明確化や調整マニュアル等を作成し、実施までの不安解消や企業側への理解等を深め円滑に進めるものとする。

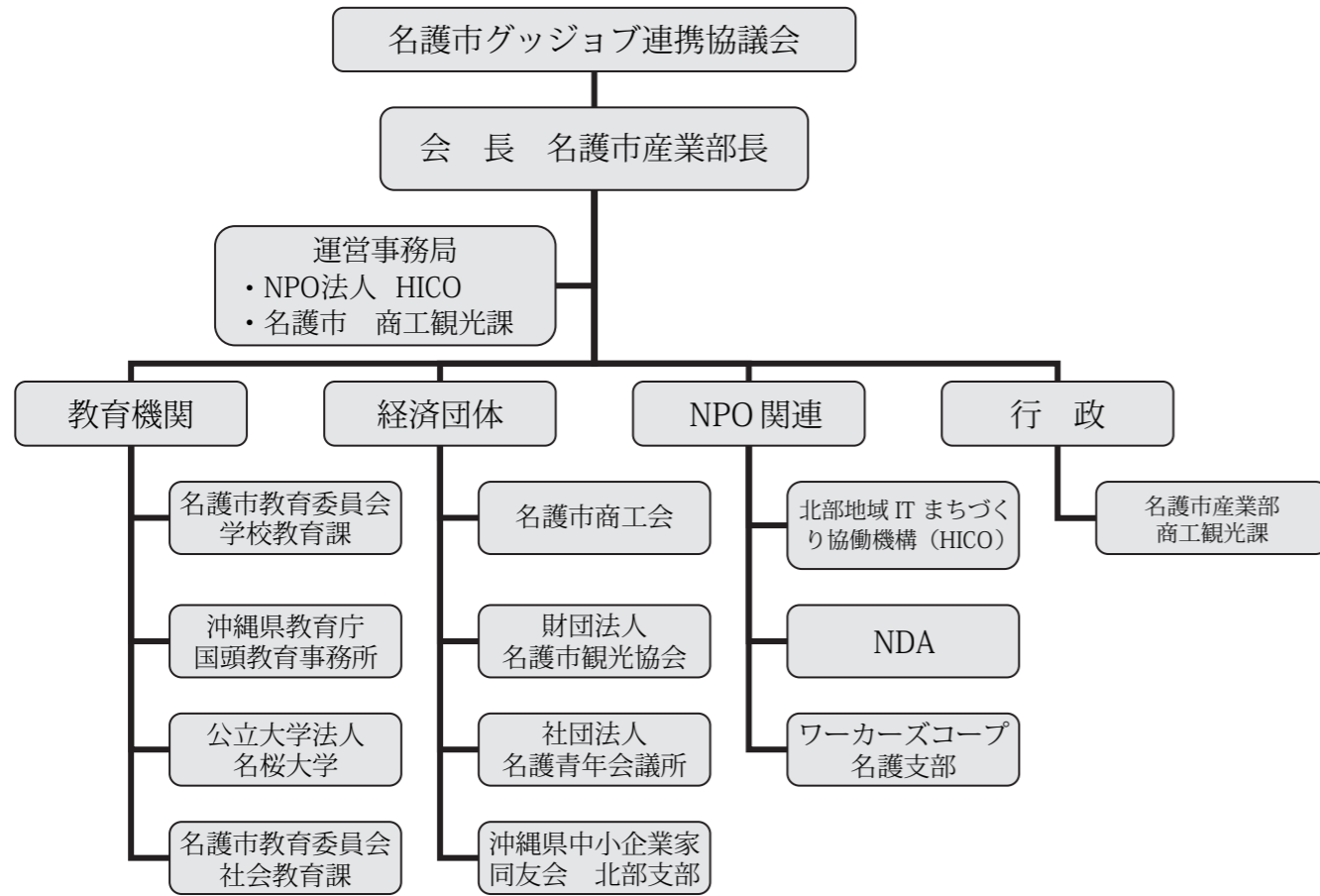
	② 学校単独での実施が不可能であると各学校が判断する中、実務的にみると学校（先生方）との調整は、授業時間を挟み連絡が取れないなど非常に困難な状況であった。	学校の役割を明確にして全体で負担を軽減することが必要である。学校全体の取組みとしては担当教諭以外に窓口調整をおいてのキャリア教育実施体制の拡充、メールの活用を強化することで、効率的かつ確実な確認対応システムを構築する。
企業	① 実施前半の初期にあたっては企業向けの事業説明会を実施したが、参加企業が限られてきたため、その後は個別に対応した。	全体説明会を設定するには募集状況と合わせ実施時期を検証し、特に新規の企業開拓においては協議会や協力体制等との連携を踏まえ募集方法を検討していく必要がある。
	② ジョブシャドウイング実施中においては、コミュニケーションに苦勞された意見や、実施時間の延長、業務内容によっては体験させたい等の要望があった。	企業の意見や課題に対応し、受入れ継続ができるよう改善すべき点は相互に検討できるような場を模索する。
	③ 引率者が児童生徒のジョブシャドウイング実施の様子について見学する際に、業務の邪魔にならないように配慮する件があった。	ジョブシャドウイング実施中の見学配慮として学校と協議し、見学方法やグループ分けによる滞在時間の配分等を計画し、企業と情報共有することに努める。
	④ 実施校毎に受入れが重複する企業が多く、特に中小企業が疲弊するなど負担が偏る傾向にある。そのため後半実施校における受入事業所が減少傾向となり、協議会委員への募集依頼以外にかなりの時間を要して実施直前まで企業訪問する等の必要があった。	新たな受入企業の開拓が必要であり、職場体験等に比べ負担の少ないジョブシャドウイング事業の理解や、地域の協力を得るため説明会の実施、募集方法の工夫等きめ細かい対策に努める。

2 平成24年度の取組

(1) 協議会について

協議会名称	名護市グッジョブ連携協議会
所在地	沖縄県名護市大東1-1-15 (NPO法人 HICO内)
活動目的 (理念)	名護市の抱える雇用問題に対し、地域一体となった取組みで支援することを根幹とし、改善策を実施していくものとする。

■構成表



名護市グッジョブ連携協議会	会 長	・・・	名護市産業部長
同	副会長	・・・	名護市産業部商工観光課 課長
同	事務局	・・・	NPO法人HICO、名護市産業部商工観光課

■構成団体名簿

No.	団体名	役職
1	名護市産業部商工観光課	課長
2	名護市教育委員会学校教育課	専門指導員
3	名護市教育委員会社会教育課	課 長
4	沖縄県教育庁国頭教育事務所	指導主事
5	名護市商工会	事務局長
6	財団法人 名護市観光協会	事務局長
7	社団法人 名護青年会議所 (JC)	理事長
8	沖縄県中小企業家同友会 北部支部	支部長
9	NPO法人 NDA	事務局長
10	NPO法人 北部地域ITまちづくり協働機構 (HICO)	理事長
11	NPO法人 ワーカーズコープ名護支部	ジョブトレーナー
12	公立大学法人 名桜大学	専任講師

(2) 事業計画 (実績) 報告

月	実 績
4月	<ul style="list-style-type: none"> 学校支援地域本部コーディネーター協力依頼で情報交換会出席 瀬喜田小学校挨拶ジョブシャドウイング内容、日程等調整 ジョブシャドウイング実施予定校へ実施確認と訪問調整 協議会開催及び会員への挨拶、調整、資料準備等
5月	<ul style="list-style-type: none"> 羽地小学校、久辺小学校、大北小学校、源河小学校、屋我地小学校、安和小学校、東江中学校、名護中学校、東江小学校、屋部小学校へ挨拶及び調整 NDA挨拶、協議会会員・ジョブシャドウイングマナー講師依頼調整 商工会、国頭教育事務所、名桜大学 協議会会員依頼 名護市役所羽地支所へ協力依頼調整 第1回 協議会開催
6月	<ul style="list-style-type: none"> 羽地地区区長会へジョブシャドウイング説明及び協力依頼 NDAとジョブシャドウイング推進への情報交換会 羽地小学校、瀬喜田小学校、源河小学校、屋我地小学校のジョブシャドウイング事前学習実施 羽地地区 (社会教育主事同行)、観光協会へ企業開拓及び調整 名護小学校、羽地小学校、屋我地小学校、瀬喜田小学校、久辺小学校、大北小学校のジョブシャドウイング事前準備・日程調整 「市民のひろば」広報調整 (市役所) マナー講師、企業人講師依頼調整 羽地小学校、源河小学校、屋我地小学校、久辺小学校マナー講習実施 瀬喜田小学校、羽地小学校、久辺小学校、屋我地小学校企業人講話実施 羽地小学校、瀬喜田小学校、屋我地小学校ジョブシャドウイング実施 受入企業の問合せ対応、人数・時間・場所等確認調整
7月	<ul style="list-style-type: none"> 久辺小学校、大北小学校、東江中学校ジョブシャドウイング事前準備調整 観光協会へ企業開拓再依頼 ジョブシャドウイング実施予定校へ日程調整 (緑風学園・稲田小学校・真喜屋小学校、屋我地中学校・大北小学校・源河小学校) 「市民のひろば」原稿作成及び提出 (ジョブシャドウイング紹介及び企業募集案内) 企業開拓依頼調整等 大北小学校保護者会にてジョブシャドウイング説明及び送迎協力依頼 東江中学校、大北小学校ジョブシャドウイング事前学習実施 瀬喜田小学校ジョブシャドウイング発表会 源河小学校企業人講話実施 久辺小学校、大北小学校、源河小学校ジョブシャドウイング実施

8月	<ul style="list-style-type: none"> ・真喜屋小学校、名護小学校、大北小学校、安和小学校、東江小学校、東江中学校ジョブシャドウイング事前準備及び日程調整 ・受入企業開拓及び実施説明 ・9月以降実施予定校の企業開拓実施、構成メンバー（経済団体）への企業開拓再依頼 ・名護小学校マナー講師、企業人講話の依頼 ・第2回協議会開催準備（資料作成、会員案内起案等） ・教育委員会等の関係機関へジョブシャドウイング実施の案内 ・名護小学校ジョブシャドウイング事前学習 ・<u>名護小学校ジョブシャドウイング実施</u>
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・9月以降実施予定校の企業開拓 ・東江中学校マナー講習、企業人講師手配の調整、講習実施 ・企業開拓及び事業説明 ・第2回 協議会開催 ・名護小学校、大北小ジョブシャドウイング発表会 ・商工会、サポートステーションへ企業開拓及び受入れ等の依頼 ・安和小学校事前学習実施 ・屋我地中学校、屋部小学校、東江小学校のジョブシャドウイング事前準備及び日程調整 ・屋我地中のマナー講師依頼及び調整 ・<u>東江中学校ジョブシャドウイン実施</u> ・安和小学校保護者会ジョブシャドウイング説明及び送迎依頼 ・企業アンケート依頼 ・安和小学校、東江小学校企業人講師手配及び調整、講話実施
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・屋我地中学校企業人講師手配及び調整、講話の実施 ・屋我地中ジョブシャドウイング事前学習内容の検討ヒアリング及び提案 ・企業開拓調整 ・東江小学校事前学習、マナー講習、企業人講話実施 ・屋我地中学校事前学習のプログラム及び資料作成、事前学習・マナー講習の実施 ・ジョブシャドウイング実施校へ発表会日程調整及びアンケートの再依頼 ・教育委員会スケジュール及び次年度調整 ・屋部小学校企業人講師依頼手配、事前学習、マナー講習の実施 ・緑風学園企業人講師依頼手配 ・各実施校へ備品及びアンケートの回収調整 ・ジョブシャドウイング発表会 ・<u>安和小学校、東江小学校、屋我地中学校ジョブシャドウイング実施</u> ・東江中学校、羽地小学校、久辺小学校ジョブシャドウイング発表会

11月	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>緑風学園 事前学習、マナー講習、企業人講話の実施、ジョブシャドウイング実施</u> ・東江小学校、屋我地中学校、久辺小学校事後学習等調整（壁新聞、写真、アンケート回収等の提出依頼） ・<u>屋部小学校 企業人講習実施、ジョブシャドウイング実施</u> ・教育委員会学校教育課、社会教育課へ状況等報告及び協力依頼 ・教育委員会へ次年度体制、課題等の調整 ・各実施校へ備品回収及び予定校へ手配 ・名護中学校受入企業開拓、ジョブシャドウイング事前準備及び日程調整 ・第1回キャリア教育に係わる地域連携の研究会開催 ・東江小学校、屋部小学校、屋我地中学校、ジョブシャドウイング発表会 ・学校及び企業へアンケート依頼、回収、整理、入力作業等
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・名桜祭へグッジョブ運動参画及び出展（ミニ職場体験） ・第2回及び第3回キャリア教育に係わる地域連携の研究会実施 ・企業、ジョブシャドウイング実施校のアンケート回収及び入力、分析作業 ・緑風学園（久志小中学校）、源河小学校、ジョブシャドウイング発表会 ・名護中学校受入企業開拓及び手配 ・平成24年報告書作成作業 ・名護中学校マナー講師の外部依頼
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・名護市新春の集い出席（企業へジョブシャドウイング受入協力依頼） ・名護中学校ジョブシャドウイング事前学習の学校及び講師調整、事前学習・マナー講習・企業人講習実施 ・<u>名護中学校ジョブシャドウイング実施</u> ・第4回キャリア教育に係わる地域連携の研究会実施 ・真喜屋小学校事前学習
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・真喜屋小学校マナー講習・企業人講話 ・第5回キャリア教育に係わる地域連携の研究会実施 ・教育委員会次年度方針及びキャリア担当者研修会の説明調整 ・<u>真喜屋小学校ジョブシャドウイング実施</u> ・小中学校キャリア教育担当者研修会へジョブシャドウイング概要及び次年度方針説明 ・名護小学校、東江小学校、東江中へキャリア教育現状及び次年度意向ヒアリング ・名護中学校ジョブシャドウイング発表会 ・各校へキャリア教育現状及び次年度意向ヒアリング ・第3回 協議会開催 ・アンケート入力集計
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書作成提出 ・次年度ジョブシャドウイング希望意向調査まとめ及び実施校決定 ・次年度ジョブシャドウイング希望校へ日程等調整

(3) 受入企業について

企業への依頼は協議会会員団体（名護市商工会、名護市観光協会、名護青年会議所、沖縄県中小企業家同友会北部支部、NPO法人NDA、NPO法人ワーカーズコープ名護支部、名桜大学、名護市役所、NPO法人HICO）等が各登録会員や紹介を通じ募集案内を手配し、受入回答書を協議会へ直接申込み事務局が取りまとめ窓口として確認調整のうえ受入先を決定した。

No.	企業名	業種	受入人数	取りまとめ窓口
1	有限会社ザمام	その他の小売業	29	商工会・JC・ワーカーズ
2	エフアイディ株式会社 (FID)	廃棄物処理業	36	ワーカーズ
3	子育て広場 ぴっぴ	社会保険・社会福祉・介護事業	24	ワーカーズ
4	ブセナ海中公園事業所	娯楽業	27	観光協会
5	つは写真館	その他の生活関連サービス業	5	商工会・ワーカーズ
6	有限会社フレッシュミートがなほ	飲食料点小売業	5	商工会
7	オリオンビール株式会社 名護工場	飲料・たばこ・飼料製造業	30	商工会・観光協会
8	JAおきなわ Aコープモーレ店	各種商品小売業	10	市羽地支所
9	羽地郵便局	郵便局	7	協議会
10	銀のすず保育園	社会保険・社会福祉・介護事業	5	JC・羽地支所
11	花の店 花ばたけハウス	その他の小売業	8	羽地小学校
12	名桜大学	学校教育	20	協議会
13	名護ツアーセンター	その他の生活関連サービス業	28	協議会
14	琉球製罐株式会社	プラスチック製品製造業 金属製品製造業	5	商工会
15	エアー沖縄 名護店	その他の生活関連サービス業	7	商工会・観光協会
16	株式会社 森のガラス館	窯業・土石製品製造業	11	商工会・観光協会
17	琉球新報社 北部支社	映像・音声・文字情報制作業	6	商工会・観光協会
18	沖縄フルーツランド株式会社	娯楽業	14	商工会・観光協会
19	ホールアース自然学校 沖縄校 (がじゅまる自然学校)	その他の教育,学習支援業	5	商工会・観光協会
20	AJ 幸喜リゾートホテル	宿泊業	0	観光協会
21	有限会社渡具知	食料品製造業	1	商工会
22	株式会社屋部土建	総合工事業	13	商工会
23	沖縄道路株式会社	設備工事業	2	商工会・同友会
24	NPO法人名護市体育協会	政治・経済・文化団体	24	市
25	琉栄生コン株式会社	窯業・土石製品製造業	4	商工会・同友会
26	さくら食堂	飲食店	14	市役所
27	なかむら製菓	飲食料点小売業	4	市・商工会
28	株式会社若草印刷 名護事業所	印刷・同関連業	3	NDA

29	株式会社もしもしホットライン	保険業(保険媒介代理業、保険サービス業を含む)	2	NDA
30	株式会社 PUREWORKS	インターネット付随サービス業	1	NDA
31	独立行政法人海洋研究開発機構 (GODAC)	学術・開発研究機関	4	NDA
32	名桜ボウル	娯楽業	2	商工会・観光協会
33	お菓子のエビス 宮里店	飲食料点小売業	5	協議会
34	宮城菓子店	飲食料点小売業	10	市
35	大城鮮魚店	飲食料点小売業	0	市
36	株式会社 FMやんばる	放送業	7	市
37	沖縄ヤクルト 北部営業所	飲食料点小売業	2	羽地小学校
38	有限会社ヒサシ自動車	機械器具小売業	1	協議会
39	株式会社沖縄銀行 名護支店	銀行業	4	協議会
40	有限会社やんばるライフ(ダスキんやんばる)	その他の事業サービス業	27	商工会・同友会
41	沖縄県北部農林水産振興センター 森林整備保全課	技術サービス業 (他に分類されないもの)	9	県
42	沖縄県北部農林水産振興センター 農林水産整備課	技術サービス業 (他に分類されないもの)	4	県
43	サンエー東江ショッピングセンター	各種商品小売業	4	事業局
44	あすなる保育園	社会保険・社会福祉・介護事業	5	JC
45	有限会社結設計	総合工事業	11	同友会
46	株式会社沖縄銀行 大宮支店	銀行業	10	協議会
47	株式会社 前田産業 (前田産業ホテルズ) ホテルゆがふいんおきなわ	宿泊業	3	観光協会
48	琉球銀行 名護支店	銀行業	8	事業局
49	株式会社沖縄シャングリラ 勝山ガーデンゴルフ練習場	娯楽業	10	JC
50	株式会社沖縄シャングリラ コミュニティショップ まぐくる	飲食料点小売業	12	JC
51	万国津梁館 (指定管理者:ザ・テラスホテルズ 株式会社)	宿泊業	2	県
52	名護市教育委員会 社会教育課	地方公務	3	市
53	名護大北郵便局	郵便局	4	協議会
54	「道の駅」許田やんばる物産センター	飲食料品卸売業	24	商工会・観光協会
55	沖縄サンコーストホテル	宿泊業	2	商工会・観光協会
56	株式会社AMS設計	総合工事業	4	商工会・同友会
57	赤坂共同BPO	専門サービス業 (他に分類されないもの)	14	商工会・同友会

58	A&W名護店	飲食店	3	商工会・観光協会
59	パティスリーボンシャンス!	飲食料点小売業	9	商工会
60	北沖縄ビル管理株式会社	その他の事業サービス業	3	市・商工会
61	名護博物館	その他の教育, 学習支援業	30	市
62	名護郵便局	郵便局	21	協議会
63	株式会社 Message	その他の教育, 学習支援業	2	NDA
64	有限会社ヤマシン (ファミリーマート 名護大南四丁目店)	飲食料点小売業	7	同友会
65	北部地区医師会病院 総務課	医療業	23	市
66	名護市消防本部 (総務課・警防課)	地方公務	18	市
67	沖縄電力株式会社 名護支店	電気業	0	事業局・協議会
68	沖縄県北部土木事務所 庶務班	技術サービス業 (他に分類されないもの)	16	県
69	福祉サービス事業所 フロンティア	社会保険・社会福祉・介護事業	5	JC
70	株式会社名護さくら不動産	不動産賃貸業・管理業	2	商工会
71	株式会社オキジム	その他の小売業	17	商工会・ワーカーズ
72	名護市役所 商工観光課商工係	地方公務	5	市
73	名護市役所 議会事務局	地方公務	5	市
74	名護市役所 広報渉外課 秘書広報係	地方公務	2	市
75	名護市役所 水道課	地方公務	3	市
76	合同会社キャリアアシスト (ビジネススクール LongBeach)	その他の教育, 学習支援業	4	商工会
77	株式会社りゅうせきロジコム 北部物流センター	運輸に附帯するサービス業	2	事業局
78	サンエー為又シティ	各種商品小売業	4	事業局
79	マキシパン	食料品製造業	17	商工会
80	株式会社琉球バス 名護出張所	道路旅客運送業	5	協議会
81	すだつ保育園	社会保険・社会福祉・介護事業	19	JC
82	琉球セメント株式会社	窯業・土石製品製造業	15	協議会
83	名護市教育委員会 文化課 市史編さん係	地方公務	2	市
84	株式会社クックソニア	農業	15	市
85	北部福祉保健所	保健衛生	21	県
86	名護市商工会	政治・経済・文化団体	4	協議会
87	Honda Cars 沖縄 名護店	機械器具小売業	4	協議会
88	株式会社国建 北部事務所	技術サービス業 (他に分類されないもの)	5	協議会
89	美容室サンクチュアリ	洗濯・理容・美容・浴場業	2	協議会
90	名護ビジネスホテル有限会社(ホテル山田荘)	宿泊業	1	協議会
91	やんばる看板	その他の事業サービス業	2	協議会
92	県立北部病院	医療業	28	県

93	有限会社大盛ハウジング	不動産賃貸業・管理業	2	商工会
94	トヨタカローラ沖縄株式会社 名護店	機械器具小売業	8	協議会
95	沖縄バス株式会社 名護出張所	道路旅客運送業	4	協議会
96	JA おきなわ 北部地区本部 管理部	協同組織金融業	1	協議会
97	スタジオエース 名護本店	その他の生活関連サービス業	15	協議会
98	沖縄タイムス 北部支社	映像, 音声, 文字情報制作業	2	協議会
99	わんさか大浦パーク	飲食料点小売業	2	協議会
100	名護市立中央図書館	その他の教育, 学習支援業	1	市
101	株式会社お菓子のボルシェ (やんばる憩いの森)	飲食料点小売業	13	協議会
102	社会福祉法人 松籟会 かりゆしぬ村	社会保険・社会福祉・介護事業	11	市・協議会
受入人数 合計			921	人

〈注1〉台風の為当日キャンセルとなった事業所は、受入人数0人で示している。

〈注2〉取りまとめ窓口の正式名称は以下の通り。(順不同)

市：名護市・教育委員会 商工会：名護市商工会 観光協会：名護市観光協会 JC：名護青年会議所
 同友会：沖縄県中小企業家同友会 北部支部 羽地支所：名護市役所羽地支所
 ワーカーズ：ワーカーズコープ名護支部(地域若者サポートステーションなど) 県：沖縄県商工労働部雇用政策課
 事業局：グッジョブおきなわ推進事業局 協議会：名護市グッジョブ連携協議会事務局

(4) 実施校 活動報告

平成23年度中に小中学校へ実施希望校を募り、実施規模及び日程等を検討した結果、全希望校を対象に実施した。

※JS：ジョブシャドウイングの略 ※コマ数(1校時)：小学校45分、中学校50分を指す

1	学校情報	名護市立 羽地小学校(継続)	校 長：伊礼 正二			
		住 所：〒905-1147 名護市字田井等601-2				
		電 話：0980-58-1212	F A X : 0980-58-1217			
	実施概略	対象学年：6年生 2クラス 57人 (内 実施 56人)				
		担 当：與那 せい子(1組担任)、久保田 潤(2組担任)				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習：平成 24年 6月～		4コマ		
		平成 24年 6月 3日			1コマ	
		平成 24年 6月 11日			1コマ	
		平成 24年 6月 14日			1コマ	7コマ
		JS実施：平成 24年 6月 21日			4コマ	4コマ
		事後学習：平成 24年 6月～		7コマ		
		平成 24年 10月 30日		2コマ		9コマ

2	特記事項	<ul style="list-style-type: none"> マナー講習は協議会会員NDAを通じMessage講師（吉本真紀氏）の派遣で実施。 企業人講話にオリオンビール名護工場（喜瀬乗幸氏）を招き、工場や仕事の様子を話して頂き、児童から大変多くの質問が上がった。 今年度最初の実施校としてJS当日新聞取材とともに元気な掛け声で出発していき、帰りは笑顔の表情とともに楽しかった感想が聞けた。 壁新聞では質問内容がまとめられ、メンターとのコミュニケーションや学んだ様子が伺えた。 発表会は多目的教室にてグループ別に企業ごとに発表し、学校開放日に実施することで保護者や関係者を招待できた。 実施後の児童は、働くことの意味や大切さをお互いに話し合うことが見られ意識するようになり、礼の仕方がとてもよくなったとの声が学校から聞かれた。 お互いまとめた新聞を見てから、児童はいろいろな職業に興味を持つようになった。 			
	学校情報	名護市立 瀬喜田小学校（継続）	校 長：伊差川 安秀		
実施概略	住 所	〒905-0025 名護市字幸喜4-1			
	電 話	0980-52-2846	F A X : 0980-52-2856		
	対象学年	6年生 1クラス 11人（内 実施 11人）			
	担 当	比嘉 七枝（担任）			
	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
	事前学習	平成 24年 5月 ～ 平成 24年 6月 5日 平成 24年 6月 12日	3コマ	2コマ 1コマ	6コマ
JS実施	平成 24年 6月 26日		4コマ	4コマ	
事後学習	平成 24年 6月 ～ 平成 24年 7月 17日	7コマ 1コマ		8コマ	
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 昨年のJS評価が高く、引継ぎから積極的に取組みが図られた。 マナー講師は協議会会員NDAを通じMessage講師（吉本真紀氏）の派遣で実施し、少数なので個々に注意が行き届いた。 プロが教えるマナーは、児童たちの社会への意識が高まったようだと感じた。 企業人講話はオリオンビール名護工場製造部（儀間敦夫氏）を講師に招き実施し、地域企業より業務内容の周知とともに働く上で大切なことを教えて頂いた。 実施後は取りまとめや発表の練習に力を入れ、発表当日で真剣に取り組んで発表していた。 発表会は音楽室で昨年同様 5年生に次年度実施を見込み見学させており、学校全体の取組みとして連携していた。 児童達はJSした職場に興味を持ち始め、仕事や夢について視野が広がったと感じる 5年、6年の先生からは、生活や生きて働くということを学ぶ期待通りのJSとなったと継続を望むと意見が聞かれた。 				

3	学校情報	名護市立 屋我地小学校（継続）	校 長：園原 實		
	住 所	〒905-1632 名護市字饒平名159			
実施概略	電 話	0980-52-8162	F A X : 0980-52-8488		
	対象学年	6年生 1クラス 13人（内 実施 12人）			
	担 当	比嘉 淳（担任）			
	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
	事前学習	平成 24年 6月 ～ 平成 24年 6月 20日 平成 24年 6月 22日	2コマ	2コマ 1コマ	5コマ
	JS実施	平成 24年 6月 27日		4コマ	4コマ
事後学習	平成 24年 6月 ～ 平成 24年 7月 18日	3コマ 1コマ		4コマ	
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 継続校として実施内容を昨年の担当者等から引き継ぎがしっかりとされ、担任が概要を把握していた。 マナー講師は協議会会員NDAを通じMessage講師（吉本真紀氏）の派遣で実施した。 企業人講師にJS事務局長（末吉司氏）よりパソコン業務の説明と働くうえで大切な話を頂いた。 JS当日は児童が落ち着かない様子だったが、出発式で校長や先生方が取りまとめ気を引き締め、保護者の協力のもと企業へ向うなど、連携が図れていた。 発表会は教室で、企業ごとに取りまとめた壁新聞をみせて発表した。 実施では、現実的な職業に触れながら、メンターとコミュニケーションが取れたことに児童達が満足していた。 				
4	学校情報	名護市立 久辺小学校（新規）	校 長：富田 尚		
	住 所	〒905-2172 名護市字豊原208			
実施概略	電 話	0980-55-2101	F A X : 0980-55-2187		
	対象学年	6年生 1クラス 28人（内 実施 28人）			
	担 当	仲宗根 朝儀（担任） → 馬場 浩光（担任）			
	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
	事前学習	平成 24年 5月 ～ 平成 24年 5月 31日 平成 24年 6月 19日 平成 24年 6月 28日	3コマ	1コマ 1コマ 1コマ	6コマ
	JS実施	平成 24年 7月 4日		4コマ	4コマ
事後学習	平成 24年 7月 ～ 平成 24年 10月 31日	11コマ 1コマ		12コマ	

	特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・JS 担当担任が体調不良により急遽交代となったが、学校の役割を明確にしていたため新任者に短い時間で理解を得られた。 ・マナー講師は協議会会員NDAを通じMessage 講師（吉本真紀氏）の派遣で実施し、児童が落ち着かなくなると講師の技術により注意を促し集中力を持続させた。 ・企業人講話はオリオンビール名護工場製造部（儀間敦夫氏）を講師に招き実施し、パソコンを使い興味を持たせながら働く重要性を話して頂いた。 ・JS 当日は、受入企業が学校から比較的遠方だったため、時間に余裕をもってスケジュールを組んだ。 ・日頃、担任のみ児童達に取り組んでいることが多いが、引率では多くの先生と保護者から協力が得られ校内及び地域の連携ができた。 ・発表会は体育館でメンター及び保護者を招待し、企業別取りまとめた壁新聞をプロジェクトに映しながら発表し、観やすく工夫されていた。 ・実施後、先生からは児童達が将来を考える良い機会となった、普段話しを聞かない児童達が授業中は落ち着いた態度になり変化が見られたと報告があった。 				
	5 学校情報	名護市立 大北小学校（継続）	校 長：玉城 奎			
		住 所：〒905-0019 名護市大北4-19-37				
		電 話：0980-53-1648	F A X：0980-54-3224			
	実施概略	対象学年：6年生 2クラス 79人（内 実施 78人）				
		担 当：與那嶺 ちひろ（1組担任）、松田 しずか（2組担任）				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習：平成 24年 7月～ 平成 24年 7月 18日		4コマ	2コマ	6コマ
		JS 実施：平成 24年 7月 26日			4コマ	4コマ
		事後学習：平成 24年 7月～ 平成 24年 9月 11日		3コマ 2コマ		5コマ
	特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・マナー講習はクラス毎に時間をずらして、協議会会員NDA講師（大兼久七瀬氏）及び事務局補助のもと小規模実施で行った。 ・夏休み中のJS 実施となり様々な事情により予定通りに進まない面もあった。 ・JS 当日は保護者及び関係者の協力も得られ、JS 中の真剣な態度の児童に初めて見た先生方からJS の評価が上がった。 ・発表会は授業参観に体育館で行い、保護者や 5 年生が参加する中、全体式後にグループ別にそれぞれ発表を進めていき、壁新聞にまとめた内容から真剣に取り組んだ姿が伺えた。学校内で学べないことを多く体験したことで、実施後の児童達は自分がやるべきこと（勉強、部活、清掃当番等）に努力するようになった。 				
	6 学校情報	名護市立 源河小学校（新規）	校 長：喜納 すえ子			
		住 所：〒905-1141 名護市字源河1031				
		電 話：0980-58-1232	F A X：0980-58-1311			
	実施概略	対象学年：5・6年生 1クラス 16人（内 実施 16人）				

		担 当：峯村 和美（担任）				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習：平成 24年 6月～ 平成 24年 6月 11日 平成 24年 6月 13日 平成 24年 7月 19日		1コマ	1コマ 1コマ 1コマ	4コマ
		JS 実施：平成 24年 7月 27日			4コマ	4コマ
		事後学習：平成 24年 7月～ 平成 24年 12月 12日		4コマ 1コマ		5コマ
	特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は真喜屋小学校へ合併し廃校が決定している。 ・マナー講師は協議会会員NDAを通じMessage 講師（吉本真紀氏）、企業人講師はJS 事務局長（末吉司氏）に行って頂いた。 ・出発式は先生方の諸注意等気配りから、児童が礼儀正しい姿勢で企業へ向かう姿が見られ、保護者サポートの協力のもと出発できた。 ・発表会は教室で企業ごとに取りまとめた壁新聞を順次発表していき、保護者や他の学年全員が見学し感想を述べてもらったことで学校全体の取りまとめとなった。 ・児童達は実施後、社会に出て働くという具体的なイメージを持ったようで、働くことについてよく考えるようになった。 ・マナーについてメンターから聞くことでよりマナーの大切さを強く感じ、普段の学校生活で話題にしながら返事やあいさつ、笑顔等、声を掛けると良い方へ直そうとするようになった。 ・児童達からは、「希望の職種に行きたがっていたが、実施後はどこの企業でも働くことが学べた」との声が聞こえた。 ・実施後のまとめた新聞から、好きだけで仕事はできず大変なことも責任を持って取り組むなど、考えが変わった様子が伺えた。 				
	7 学校情報	名護市立 名護小学校（継続）	校 長：仲村 一史			
		住 所：〒905-0018 名護市大西2-2-22				
		電 話：0980-52-2044	F A X：0980-52-1180			
	実施概略	対象学年：5年生 4クラス 138人（内 実施 135人）				
		担 当：森元 三奈子（3組担任）、比嘉 真由美（1組担任）、 久保田 裕巳（2組担任）、我部 喜美子（4組担任）				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習：平成 24年 7月～ 平成 24年 8月 28・29日		3コマ	1コマ	4コマ
		JS 実施：平成 24年 8月 28日 (平成 24年 8月 29日)			4コマ (4コマ)	4コマ
		事後学習：平成 24年 9月～ 平成 24年 9月 10日		5コマ 2コマ		7コマ

8	特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・台風の影響から夏休み中に予定していた事前学習が中止となり、先生方や講師と緊密な調整を図り、2日間に分けた実施当日の出発直前に最低限の内容としてJS説明・マナー講習の実施を行った。 ・台風被害により両日受入れ不可能な企業(3社)があり、緊急時の受入先として市役所各課で対応してもらった。 ・発表会は、全体規模や日程の都合により一か所ではできなかったため、同時刻に多目的教室と体育館別室でクラス及びグループ毎に発表を進めた。 ・実施後の行動に変化はみられないが、児童たちが人との関わりを持つ大切さを学べたようで、様々な場面で思い出している様子が伺える。 ・学校から、児童とともに送迎サポートやJS中の様子を伺えた保護者は、とても良い体験と連携になったと報告された。 				
	学校情報	名護市立 東江中学校(新規)	校 長：比嘉 明雄			
8	学校情報	住所：〒905-0016 名護市大東2-1-1				
	学校情報	電 話：0980-52-1225		F A X：0980-52-1226		
	実施概略	対象学年：1年生 4クラス 128人 (内 実施 126人)				
	実施概略	担 当：島袋 恵子				
	実施概略	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
8	実施概略	事前学習：平成 24年 7月 ~	2コマ			
	実施概略	平成 24年 7月 17日		1コマ		
	実施概略	平成 24年 9月 4日		2コマ		
	実施概略	平成 24年 9月 11日		1コマ		6コマ
	実施概略	JS実施：平成 24年 9月 19日			4コマ	4コマ
8	実施概略	事後学習：平成 24年 9月 ~	4コマ			
	実施概略	平成 24年 10月 16日	2コマ			6コマ
	特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・マナー講習では小規模実施の要望があった。そのため、事業局講師(比嘉佳美氏)及び協議会会員NDA(大兼久七瀬氏)で各2クラスずつ分担し、2時限連続実施することでクラス別の実施を可能とした。 ・企業人講話はオリオンビール名護工場製造部(儀間敦夫氏)を講師に招き実施し、最後に生徒から質問と感想を述べてもらった。 ・出発式の体育館では壁一面に送迎の順番で番号が張られており、送迎者がその前に立って生徒が集まり、車までの誘導がしやすい環境づくりをしていた。 ・JS当日に受入れキャンセルが発生したが、直前の受入可能な事業所を準備していたため無事に実施できた。 ・発表会は体育館で、クラス別から更にグループに分かれ随時発表を行い、最後に全員集合し生徒代表で学んだことや関係者への感謝の意を表明し、真剣に取り組んだ姿勢が伺えた。 ・実施後の生徒から、職場を見て働くことへの理解が深まったとの感想があった。 ・全体的に生徒が真剣かつ楽しそうに取り組む、実施後は2年生の職場体験で学ぶことを意識する生徒が増えた。 				
	特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・マナー講習では小規模実施の要望があった。そのため、事業局講師(比嘉佳美氏)及び協議会会員NDA(大兼久七瀬氏)で各2クラスずつ分担し、2時限連続実施することでクラス別の実施を可能とした。 ・企業人講話はオリオンビール名護工場製造部(儀間敦夫氏)を講師に招き実施し、最後に生徒から質問と感想を述べてもらった。 ・出発式の体育館では壁一面に送迎の順番で番号が張られており、送迎者がその前に立って生徒が集まり、車までの誘導がしやすい環境づくりをしていた。 ・JS当日に受入れキャンセルが発生したが、直前の受入可能な事業所を準備していたため無事に実施できた。 ・発表会は体育館で、クラス別から更にグループに分かれ随時発表を行い、最後に全員集合し生徒代表で学んだことや関係者への感謝の意を表明し、真剣に取り組んだ姿勢が伺えた。 ・実施後の生徒から、職場を見て働くことへの理解が深まったとの感想があった。 ・全体的に生徒が真剣かつ楽しそうに取り組む、実施後は2年生の職場体験で学ぶことを意識する生徒が増えた。 				

9	学校情報	名護市立 安和小学校(新規)	校 長：仲松 辰也			
	学校情報	住所：〒905-0001 名護市字安和174				
9	学校情報	電 話：0980-53-8649		F A X：0980-53-8472		
	実施概略	対象学年：6年生 1クラス 15人 (内 実施 14人)				
	実施概略	担 当：知念 巧(担任) → 古堅 講平(担任)				
	実施概略	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
	実施概略	事前学習：平成 24年 9月 ~		1コマ		
9	実施概略	平成 24年 9月 12日		1コマ		
	実施概略	平成 24年 9月 24日		1コマ		
	実施概略	平成 24年 9月 26日		1コマ		4コマ
	実施概略	JS実施：平成 24年 10月 4日			4コマ	4コマ
	実施概略	事後学習：平成 24年 10月 ~		4コマ		
9	実施概略	平成 24年 10月 23日	1コマ		5コマ	
	特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・JS担当者(担任)が研修出向のため途中交代となったが、JSの内容と意義を理解していたため、限られた時間で準備がスムーズに進められた。 ・マナー講習は事務局サポート員(新城詩織氏)がテキストを用いて行い、分かりやすく興味を引く事例等を交えながら工夫して実施した。 ・事前学習をすることで日常生活でも意欲が高まり、言葉遣い、挨拶を意識するようになった。 ・企業人講話は前田産業ホテルズ(城間秀美氏)を招き、沖縄の観光実態やホテル業務を通じ働く意義を教えた。 ・JS当日は台風の影響で受入れキャンセルが発生したが、緊急受入(役所等)の準備をしていたため無事実施できた。 ・JS当日の出発式は、保護者も揃ってグッジョブ運動の掛け声とともに元気に出発でき一体感を高めた。 ・JSから帰ってきた児童は興奮気味に感想を伝え、担任をはじめJS説明会を受け送迎サポートに臨んだ保護者から有意義なプログラムだと好評を得た。 ・発表会は教室で児童の司会により進行する形をとり、企業ごとにまとめた壁新聞を見せながら順次発表し、児童たちの職業の選択範囲が広がったように感じるとの声が先生から聞かれた。 				
	特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・JS担当者(担任)が研修出向のため途中交代となったが、JSの内容と意義を理解していたため、限られた時間で準備がスムーズに進められた。 ・マナー講習は事務局サポート員(新城詩織氏)がテキストを用いて行い、分かりやすく興味を引く事例等を交えながら工夫して実施した。 ・事前学習をすることで日常生活でも意欲が高まり、言葉遣い、挨拶を意識するようになった。 ・企業人講話は前田産業ホテルズ(城間秀美氏)を招き、沖縄の観光実態やホテル業務を通じ働く意義を教えた。 ・JS当日は台風の影響で受入れキャンセルが発生したが、緊急受入(役所等)の準備をしていたため無事実施できた。 ・JS当日の出発式は、保護者も揃ってグッジョブ運動の掛け声とともに元気に出発でき一体感を高めた。 ・JSから帰ってきた児童は興奮気味に感想を伝え、担任をはじめJS説明会を受け送迎サポートに臨んだ保護者から有意義なプログラムだと好評を得た。 ・発表会は教室で児童の司会により進行する形をとり、企業ごとにまとめた壁新聞を見せながら順次発表し、児童たちの職業の選択範囲が広がったように感じるとの声が先生から聞かれた。 				
	特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・JS担当者(担任)が研修出向のため途中交代となったが、JSの内容と意義を理解していたため、限られた時間で準備がスムーズに進められた。 ・マナー講習は事務局サポート員(新城詩織氏)がテキストを用いて行い、分かりやすく興味を引く事例等を交えながら工夫して実施した。 ・事前学習をすることで日常生活でも意欲が高まり、言葉遣い、挨拶を意識するようになった。 ・企業人講話は前田産業ホテルズ(城間秀美氏)を招き、沖縄の観光実態やホテル業務を通じ働く意義を教えた。 ・JS当日は台風の影響で受入れキャンセルが発生したが、緊急受入(役所等)の準備をしていたため無事実施できた。 ・JS当日の出発式は、保護者も揃ってグッジョブ運動の掛け声とともに元気に出発でき一体感を高めた。 ・JSから帰ってきた児童は興奮気味に感想を伝え、担任をはじめJS説明会を受け送迎サポートに臨んだ保護者から有意義なプログラムだと好評を得た。 ・発表会は教室で児童の司会により進行する形をとり、企業ごとにまとめた壁新聞を見せながら順次発表し、児童たちの職業の選択範囲が広がったように感じるとの声が先生から聞かれた。 				

		JS実施 ：平成 24年 10月 11日		4コマ	4コマ
		事後学習 ：平成 24年 10月 ~ 平成 24年 11月 16日		1コマ 2コマ	3コマ
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> マナー講習はクラス毎の実施を目指し、事務局 2 人（宇地原あずさ氏・山城千香子氏）及び事業局（宮里萌美氏）で分担し実施した。 企業人講話は前田産業ホテルズ（城間秀美氏）を招き、沖縄の観光実態やホテル業務を通じ働く意義等充実した内容を伝えて頂いた。 JS 当日は出発式が予定通り進まなかった所もあったが、送迎サポーターも参加し落ち着いた雰囲気の中、出発できた。 発表会はクラス別に 2、3 組は各教室、1 組がパソコン教室で行った。まとめ方も異なり、教室は壁新聞、パソコン教室ではパワーポイントの方法で発表を行った中、それぞれ児童が真剣に取り組んで発表していた様子が伺えた。 発表会にメンターが参加したクラスでは、発表後にメンターより挨拶を頂き交流が図れた。 学校行事の忙しい中での実施で児童の粘り強さが育成され、実施後は新しく将来の夢ができ、自分の目標を持つ機会となった児童がいた。 児童から実施前は、「希望する所へ行きたいとの声があったが、別の事業所に行ってみるとそこも勉強になった」との声があがった。 				
11 学校情報	名護市立 屋我地中学校（継続）	校 長 ：山城 秀樹			
	住 所 ：〒905-1632 名護市字饒平名340				
	電 話 ：0980-52-8108		F A X ：0980-52-8577		
実施概略	対象学年 ：1年生 1クラス 16人（内 実施 16人）				
	担 当 ：金城 梓（担任）				
	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
	事前学習 ：平成 24年 9月 ~		4コマ		
	平成 24年 10月 9日			1コマ	
	平成 24年 10月 16日			1コマ	
	平成 24年 10月 15日			1コマ	
	平成 24年 10月 18日			1コマ	8コマ
	JS実施 ：平成 24年 10月 31日			4コマ	4コマ
	事後学習 ：平成 24年 10月 ~		5コマ		
	平成 24年 11月 25日		1コマ		6コマ
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習では小学校で JS を経験済みであるため、沖縄の雇用や就職の課題をより詳細に解説し JS の必要性を説明した。 マナー講習では、事務局サポート員（新城詩織氏）がテキストを用いて行い、分かりやすく興味を引く事例等を交えながら工夫して実施した。 企業人講話は屋我地という狭い地域性から島内外の大人との接点を増やすため 2 回設定した。1回目は国頭地区 PTA 連合会会長（儀間高志氏）の紹介より地場産業であ 				

		<ul style="list-style-type: none"> る車エビ養殖業（座間味真氏）を招き、仕事を始めた経緯などから働く様子を伝えてもらい成果物の養殖した生車エビを全員に試食してもらった。最後に国頭地区 PTA 連合会会長（儀間氏）から社会現状と職業観について話して頂いた。 2 回目の企業人講話は名桜大学講師（大城美樹雄氏）を招き、自身の経験と働くことについて話して頂いた。 JS 出発式は体育館で全校生徒の前で行った。 発表では声も出て、大人も関心が持てるクイズ形式などよくまとめあげており、ジョブシャドウイングで学んだことが伝わるよう工夫されていた。 小学校時代と合わせると二度目の JS を体験し、生徒からは「違う事業所と新たな体験から多くを学ぶことができ行ってよかった」との感想が聞け、記憶にしっかり刻まれるとともに職場では学力だけでなく体力やコミュニケーション力、心が大切だと気づかされた様子で、先生からは「職場体験とは異なるプログラム実施は、より深い学びを与えるものだと感じた」との感想を頂いた。 受入事業所の多くから様々なことを教えて頂き、生徒がコミュニケーションを図ることができ学校から感謝の声が聞けた。 			
12 学校情報	名護市立 屋部小学校（継続）	校 長 ：石野 榮伸			
	住 所 ：〒905-0007 名護市字屋部47				
	電 話 ：0980-52-2647		F A X ：0980-52-2977		
実施概略	対象学年 ：6年生 2クラス 78人（内 実施 76人）				
	担 当 ：金城 保代（1組担任）、大城 良友（2組担任）、友寄 真由美（サポート）				
	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
	事前学習 ：平成 24年 9月 ~		4コマ		
	平成 24年 10月 26日			1コマ	
	平成 24年 10月 29日			1コマ	
	平成 24年 11月 2日			1コマ	7コマ
	JS実施 ：平成 24年 11月 6日			4コマ	4コマ
	事後学習 ：平成 24年 11月 ~		8コマ		
	平成 24年 11月 20日		2コマ		10コマ
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> マナー講習では事務局から講師（宇地原あずさ氏・新城詩織氏）をクラス毎に配置して実施した。 企業人講話は、社会人とより多く接する機会が欲しいとの学校要望から 2 回行い、1 回目はオリオンビール名護工場（喜瀬乗幸氏）を招き、工場や仕事の様子を話して頂いた。児童から大変多くの質問を受けプライベートも含め詳しく答えていただいた。2 回目の企業人講話は名桜大学講師（大城美樹雄氏）を招き、自身の経験と働くことについて話して頂いた。 JS 出発式は体育館で行い、式後に送迎サポートへの挨拶を含め滞りなく出発できた。 普段から児童はよく聞き返事がよい態度が印象的で、JS 当日メンターからの感想（直接・先生等）で、児童の態度が大変良かったとの意見が伺えた。 				

		<ul style="list-style-type: none"> 発表会は昨年の反省を踏まえ、体育館のスペースを効果的に確保し声が届いた。 発表方法について、質問や意見を聞いて発表毎に一人以上は質問を出すようにしていた。自分の言葉で答えることで、体験を自分のものとしていることが伝わった。 発表会最後に全体が整列し、児童代表がジョブシャドウイングの感想、将来の自分、決意等を述べたことで、メンターや関係者に感謝とともに貴重な体験をしたことが伝わった。 実施後の児童は、言葉遣いやあいさつが良くなった。 担当の先生だけでなく、昨年の経験した先生にも協力してもらおう等、学校内の連携ができた。 																																													
13	学校情報	名護市立 久志小学校【緑風学園】(新規) 校 長：島袋 克也 住 所：〒905-2265 名護市字汀間122 電 話：0980-55-8113 F A X：0980-55-8779																																													
	実施概略	対象学年：6年生 1クラス 21人 (内 実施21人) 担 当：宮城 潤 (担任)																																													
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>実施日</th> <th>コマ数</th> <th>学校 実施</th> <th>事務局 実施</th> <th>合 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事前学習：平成 24年 6月 ~</td> <td></td> <td>5コマ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成 24年 11月 1日</td> <td></td> <td></td> <td>1コマ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成 24年 11月 8日</td> <td></td> <td></td> <td>1コマ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成 24年 11月 9日</td> <td></td> <td></td> <td>1コマ</td> <td>8コマ</td> </tr> <tr> <td>J S 実施：平成 24年 11月 15日</td> <td></td> <td></td> <td>4コマ</td> <td>4コマ</td> </tr> <tr> <td>事後学習：平成 24年 11月 ~</td> <td></td> <td>10コマ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成 24年 12月 6日</td> <td></td> <td>1コマ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成 25年 2月 17日</td> <td></td> <td>1コマ</td> <td></td> <td>12コマ</td> </tr> </tbody> </table>	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計	事前学習：平成 24年 6月 ~		5コマ			平成 24年 11月 1日			1コマ		平成 24年 11月 8日			1コマ		平成 24年 11月 9日			1コマ	8コマ	J S 実施：平成 24年 11月 15日			4コマ	4コマ	事後学習：平成 24年 11月 ~		10コマ			平成 24年 12月 6日		1コマ			平成 25年 2月 17日		1コマ		12コマ
	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計																																										
	事前学習：平成 24年 6月 ~		5コマ																																												
	平成 24年 11月 1日			1コマ																																											
	平成 24年 11月 8日			1コマ																																											
平成 24年 11月 9日			1コマ	8コマ																																											
J S 実施：平成 24年 11月 15日			4コマ	4コマ																																											
事後学習：平成 24年 11月 ~		10コマ																																													
平成 24年 12月 6日		1コマ																																													
平成 25年 2月 17日		1コマ		12コマ																																											
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> マナー講習は事務局（新城詩織氏）により、あいさつの重要性や事例等を伝え、名刺交換のロールプレイングを実施した。 企業人講話は2回行い、1回目はわんさか大浦パーク（大城光長氏）より地元事業所として取り組んでいることや自身の職業観について話して頂いた。 2回目の企業人講話は卒業生でもある名桜大学講師（大城美樹雄氏）で、在学時の体験談や就職までの過程を話され、働くまでに大切な取り組み等について後輩へ伝えて頂いた。 発表会は教室で行い、児童ごとに取りまとめた壁新聞を貼り発表した。作業途中や説明不足については先生からの評価や問いかけにより内容を補完することで、学びを深めていた。 学びを深めたことを受けて、それをさらに多くの人に伝えるため、学校全体の取り組みである学年ごとに地域の方々に発表する別の機会を利用し、6年生はパソコン（パワーポイント）でまとめ直した内容で発表を行った。 児童達は、実施前に比べて自分の経験したことを周りの人に伝えるようになり、普段の学習意欲が増すなど意識の変化がみられ、明るく元気になった。 																																														

14	学校情報	名護市立 名護中学校 (継続) 校 長：金城 聡 住 所：〒905-0018 名護市大西2-2-33 電 話：0980-52-2641 F A X：0980-52-3695																																																		
	実施概略	対象学年：1年生 6クラス 217人：1日目108人・2日目109人 (内 実施1日目100人・2日目 98人 計198人) 担 当：玉城 史江、喜屋武 匡 (6組担任) 伊差川 仁 (1組担任)、津波古 清乃 (2組担任)、国吉 晃子 (3組担任)、 大城 純子 (4組担任)、金城 健太 (5組担任)																																																		
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>実施日</th> <th>コマ数</th> <th>学校 実施</th> <th>事務局 実施</th> <th>合 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事前学習：平成 25年 1月 11日</td> <td></td> <td></td> <td>1コマ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成 25年 1月 18日</td> <td></td> <td></td> <td>2コマ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成 25年 1月 21日</td> <td></td> <td></td> <td>1コマ</td> <td>4コマ</td> </tr> <tr> <td>J S 実施：平成 25年 1月 30日 (平成 25年 1月 31日)</td> <td></td> <td></td> <td>4コマ (4コマ)</td> <td>4コマ</td> </tr> <tr> <td>事後学習：平成 25年 1月 30・31日</td> <td></td> <td>2コマ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成 25年 2月 中</td> <td></td> <td>4コマ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成 25年 2月 4日</td> <td></td> <td>1コマ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成 25年 2月 14日</td> <td></td> <td>1コマ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成 25年 2月 26日</td> <td></td> <td>2コマ</td> <td></td> <td>10コマ</td> </tr> </tbody> </table>	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計	事前学習：平成 25年 1月 11日			1コマ		平成 25年 1月 18日			2コマ		平成 25年 1月 21日			1コマ	4コマ	J S 実施：平成 25年 1月 30日 (平成 25年 1月 31日)			4コマ (4コマ)	4コマ	事後学習：平成 25年 1月 30・31日		2コマ			平成 25年 2月 中		4コマ			平成 25年 2月 4日		1コマ			平成 25年 2月 14日		1コマ			平成 25年 2月 26日		2コマ		10コマ
	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計																																															
	事前学習：平成 25年 1月 11日			1コマ																																																
平成 25年 1月 18日			2コマ																																																	
平成 25年 1月 21日			1コマ	4コマ																																																
J S 実施：平成 25年 1月 30日 (平成 25年 1月 31日)			4コマ (4コマ)	4コマ																																																
事後学習：平成 25年 1月 30・31日		2コマ																																																		
平成 25年 2月 中		4コマ																																																		
平成 25年 2月 4日		1コマ																																																		
平成 25年 2月 14日		1コマ																																																		
平成 25年 2月 26日		2コマ		10コマ																																																
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 継続3年目、JS 実施は学年を1月30日実施組と31日実施組に分けて行った。 事前学習で、グッジョブ運動の背景及びJS 説明とともに、生活費の事例を通し具体的に働く実感を持たず講義を試みた。 マナー講習において、生徒が集中して短時間に習得させるため外部より専門講師（スカイグループ：宇久田恵美子氏）を招き、チェックシートを用いてグループ毎個別にマナーチェックを試みたところ、先生方から高い評価が得られた。 JS当日はインフルエンザ等による休みが多かった（1日目9人・2日目8人）。受入予定の企業は残念がり次回の受入れに期待して頂いた。 出発式及び送迎の手配等を先生方が準備され、当日の問題には臨機応変に対応していた。 送迎に協力した保護者達は、各企業への取次等臨機応変に対応して頂き、保護者との連携が図れた。 発表会は体育館で、2時限の1コマ目に他の人のまとめた壁新聞を閲覧し、ワークシートに書き留めて学んでいた。 																																																			
15	学校情報	名護市立 真喜屋小学校 (新規) 校 長：平良 正栄 住 所：〒905-1143 名護市真喜屋571 電 話：0980-58-1251 F A X：0980-58-1272																																																		
	実施概略	対象学年：6年生 1クラス 29人 (内 実施29人) 担 当：古堅 卓 (担任)																																																		

実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
事前学習：平成 25年 1月 ~		4コマ		
平成 25年 1月 31日			1コマ	
平成 25年 2月 7日			1コマ	
平成 25年 2月 12日			1コマ	7コマ
JS実施：平成 25年 2月 20日			4コマ	4コマ
事後学習：平成 25年 2月 ~		8コマ		
平成 25年 3月 6日		1コマ		9コマ

特記事項

- 事前学習では児童からの質問が少なかったが、最後まで集中して聞いていた。
- マナー講習は事務局（新城詩織氏）があいさつの重要性と事例、名刺交換のロールプレイングを中心に実施した。
- 企業人講話は、名桜大学講師（大城美樹雄氏）に実施して頂いた。
- 事前学習では数名の欠席者がいたが、JS当日は全員参加（29人）で実施できた。
- 出発式は野外運動場で行った。当日は風が強く気温が低かったが、保護者サポーターが時間通り集合していたため早めに始め、出発することが出来た。
- 壁新聞の取りまとめでは予定より多くの時間を割いて取組み、メンターの様子や仕事内容等を詳細に紹介し充実した内容に仕上げた。
- 発表会は多目的教室で、クラスを7グループに分けた中で順次発表した。来訪したメンターや保護者は児童から案内され見学し、クイズ形式などで参加者や同級生とのコミュニケーションを図り、学んだことを伝えながらより記憶に残るような発表となった。



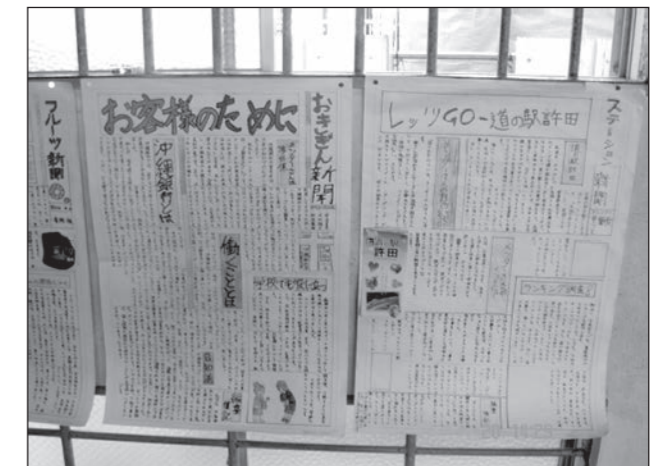
【出発式】
元気に出発するため気合いの「グッジョブ！」



【JS 実施中】
じっくりリジョブシャドウさせてもらいました。



【発表会】
緊張の発表だけど最後まで聞いてくれ！



【成果物】
びっしりと書ききれないほど学びました。



【事前学習】
マナー講習で学んだことをチェックしてもらおう！



【企業人講話】
メンターさんの働いている様子がよくわかりました。

(5) 実施総括（成果と課題）

	事 例	課 題	今後の取組についての 展望・改善点
実施校 /保護者	実施前は担当者等から負担感及び不安感があった。	担当者に負担が集中する傾向がある。	実施前に担当者が事前に実施内容を理解する機会と最低限の役割を明確にし、学校全体として実施する。
	事前学習のテキスト以外に、JS経験者及び学校要望等から通常プログラムのメニューを見直し（追加）の依頼があった。	事前学習は学校要望を踏まえ実施内容について見直したが、予定通りの進行とはいかない面で、児童生徒の理解度も検証できなかった。	事前に学校と事前学習の内容について可能な限り緊密な調整を図り、先生の参画も促すよう働きかける。

	発表会に向け取りまとめや発表方法を各学校に任せた。	取りまとめ内容や児童の発表態度に各校格差があり、事業主旨の理解に差がある様子であった。	学校全体で事業主旨を理解する機会を増やし、児童生徒が何を学ぶか伝わるよう努める。
	学校支援地域本部コーディネーターと学校担当者の連携により送迎者確保の保護者連絡等学校サポートを依頼した。	学校支援地域本部コーディネーターとの連携ができない学校は、保護者連絡等に担当者が負担を要し、送迎者確保に苦慮している場合が多い。	担当者と緊密な連携を取らせ、保護者等の調整等負担減となるよう事業内容や役割を理解でき、参画しやすい環境づくりに努める。
	保護者説明会及び送迎サポート依頼の実施。	具体的な役割以外の事業主旨等を理解したか疑問が残った。	キャリア教育の必要性と各立場から何が出来るかを考える機会として位置づけ理解を求めていく。
	授業参観等に合わせて事前学習・発表会等を実施できるようにした。	招待メンターとともに見学者が少ないことが多い。	発表会を地域規模に拡充させ、できるだけ多くの人に発表することで地域連携を図り、児童生徒の育成と事業周知への効果を高めていく。
教育機関	次年度へ向け、各学校へ実施希望募集の案内をし、取りまとめの情報とともに取組みを検討した。	キャリア教育の実施だけでなく、ジョブシャドウイングの趣旨を理解して申し込んでいるか分からない。	実施は学校全体の意向として担当者以外でも事業概要を理解できるよう学校全体の会議や取組み等に反映させる。
	市内小中学校キャリア教育担当者等各種研修会へ参加機会を設け、ジョブシャドウイング事業説明及び実施依頼等を行った。	説明できる機会が少なかった。	短い時間で効果的な説明及び資料提供が出来るよう改善しながら、説明できる機会を増やせるよう情報収集を行う。
	協議会主催のキャリア教育の連携等研究会で意見交換を行った。	これまで情報交換等の場が無く、研究会等の継続意向があるが具体的な予定や引継ぎが難しい。	今後とも教育委員会や学校間との連携を深め、効果的なキャリア教育が進められるよう情報交換の場や機会を設定する。
	社会教育主事へ各担当区の企業開拓等協力依頼した。	学校支援地域本部コーディネーターが、本事業内容及び役割を把握できない例があった。	ジョブシャドウイングの理解を前提に、学校と緊密な連携を図りながらそれぞれの立場と役割を考慮して、参画しやすい環境づくりに努める。
	地域 コミュニティ	区長会等にてジョブシャドウイング内容と地域協力依頼の説明を実施した。	地域イベントや区長会等の会合への参加機会が少なく、具体的に地域からの協力事例が無い。
行政	積極的な取組みとして、急な企業のキャンセル発生時は市役所で当日受入れを想定し、実施した。	どの課で受入れるか直前まで調整となり、また急な調整のため受入担当者負担が大きい。	事前に依頼できる部署をある程度想定範囲で準備しておき、学校・児童生徒との情報共有を図れるよう努める。
	市広報紙「市民のひろば」にジョブシャドウイング及びグッジョブ関連活動の広報記事を掲載。	記事範囲やニュース性への配慮もあって、こちらが望む形で掲載されないこともあった。	事業内容の重要性や必要性を伝え、新たな取組み発信の場に努め、今後も活用していく。

	行政主催の「やんばるの産業まつり」等イベントにてGJポスター掲示・JSチラシ等配布活動を行った。	資料配布や周知活動を効果的に行えなかった。	イベントに合わせ興味を引くための工夫等、周知方法を検討し継続実施する。
経済団体	商工会、観光協会、中小企業家同友会、青年会議所等の会員向けに、総会やメール等を通じ受入企業募集の案内及び問合せを対応頂いた。	どこまで企業に周知できたか把握できていない場合が多い。	各団体と情報交換の機会を増やし、それぞれの立場でできることを検討してもらいながら、補足が必要な懸案について検討し対応に努める。
	名護市特区合同企業説明会等へグッジョブ関連資料配布を行い周知した。	各事業の雇用対策において連携できておらず、相互の取組みがバラバラとなっている。	経済団体等の交流を図りながら情報を共有し、一体となって雇用対策に取り組めるよう努める。
協議会	協議会会員への状況報告及び企業開拓の再依頼等を行った。	受入企業への具体的な依頼内容が遅れることが多かった。	年間スケジュール等の調整を早く進め、具体的な実施内容を示すよう努める。
	名護市グッジョブ新聞発行し、市内全小・中・高校から、各世帯へ配布を行った。	保護者がどの程度見ているか把握が難しい。	アンケート等による追跡調査を行い、周知活動への反映や保護者協力への理解を求めていく。
	名護市グッジョブ協議会ブログを開設し、やんばるFM(地域FM)への出演等で近況報告を行うなど情報発信を行った。	広報担当者に一任していたため、内容や進捗を十分に把握しておらず、また宣伝効果の測定が難しい面があった。	内容の充実と継続を図りながら、事務局内だけでなく協議会等関係機関を通じ広範囲の宣伝活動に努める。また宣伝効果を見極め、広報活動の継続とより効率的な手法を検証する。

3 その他の取組や実績

■キャリア教育に係わる地域連携の研究会

"連携"を大きなキーワードに、小・中・高・大それぞれの発達段階に応じた教育機関における時間軸での縦の連携、地域・企業・地域住民・保護者・学校現場(含む教職員)など横の連携、縦と横の連携をそれぞれの立場で意見や情報の交換、研究、交流の場として、今後のキャリア教育のみならず基礎学力向上などにつなげていくための方向性も含め、「キャリア教育に係わる地域連携の研究会」を設置した。(当初(第1回11月14日)の情報交換会から2回目以降「研究会」として、【全5回】開催)

<参加者(委員の選定と依頼)>

小学校(2名)、中学校(2名)、名護市教育委員会(1名)、国頭教育事務所(2名)の計7名。
その他、高校、大学、企業(オリオンビール)、市情報特区推進室、沖縄県雇用政策課から参加。

<審議事項>

- ①ジョブシャドウイングの方向性
- ②キャリアパスポート(アルバム)の実施
- ③職場体験の充実(窓口の一本化)
- ④キャリア教育担当教諭および校内全体での研修の充実
- ⑤具体的なプロジェクトの検討(合同オープンキャンパス・情報交換会・発表会等)

■教育現場への周知活動

- ・教頭研修会へジョブシャドウイング実施内容の説明【平成24年2月12日】
- ・校長研修会へジョブシャドウイング資料の提供【平成24年2月12日】
- ・小中学校キャリア担当者研修会へジョブシャドウイング説明【平成24年2月21日】

■名桜祭（大学祭）にてグッジョブ出展【平成24年12月1～2日】

様々な立場から就業意識を高めるためのプログラムとして、「お笑いでグッジョブ！～働くことの重要性コント～（芸人：さんさんず出演）」や各企業（参加6社）の参加により「ミニ職場体験」を出展し、ジョブシャドウイングのパンフレット配布や紹介パネル展を開催した。

■広報

○名護市グッジョブ新聞作成・配布【毎回10,000部発行】

配布先：市内全学校（職員・世帯数）、企業（一部）、公共機関等へ設置

○名護市グッジョブブログ開設

- ・ジョブシャドウイング及びその他協議会活動報告、地域情報等の内容を、3月現在で約80回のアップで、月12回ほどの更新ペースとなっている。

○市広報誌「市民のひろば」への掲載広報

- ・ジョブシャドウイング紹介、JS受入企業募集、その他グッジョブイベント広報

○催事・イベント等への広報活動

- （グッジョブ運動・ジョブシャドウイング概要等のパンフレット配布及びポスター掲示等）
- ・やんばるの産業まつり【平成24年10月13～14日】
- ・久辺フェスタ【平成24年11月23日】
- ・やんばる合同企業説明会（名護市雇用創造協議会・NDA主催）【平成24年11月26日】

4 今後の展開について

ジョブシャドウイングは、キャリア教育プログラムの一つとして学校主体が前提である。学校側がその必要性を認識したうえで主体的に推進しなくては一方的な提供事業となり、担当者によっては継続できないことが危惧される。そのため、学校全体の取組みとして実施体制や役割を明確にし、学校が必要な内容を実施する上で協議会は事前調整等や相談を含めサポートする方向で進め、より効果的な内容の充実を図っていく。

学校では、実施に向けジョブシャドウイングの意義や目的を理解し、他のプログラムとの違い及びキャリア教育の位置づけを明確にしたうえで次の段階へ連携することが必要であり、対応としてよりきめ細かい説明や相互に検証する機会を増やすことに努めることとしている。

学校担当者の課題への取組みとして、今後さらに自立的な方向で業務の明確化や支援体制を強化し、関係者個々の役割において負担感の軽減を目指す。

以上の取組みから、小学校では職場見学の代替となるキャリア教育として歓迎され多くの学校で実施されたため、その効果に期待される学校に向け対応を進めることとし全校実施を目標にする。

中学校では、2年生の職場体験に向け1年生においてはより充実した取組みの準備期間としてのキャリア教育を望む声があったため希望校に対応することとし、実施においては意向調査を踏まえジョブシャドウイング効果の位置づけを明確にして取組むこととする。

＜平成25年度実施概要の方針＞

小学校から中学校へ、キャリア教育の連携を図ることを目標に実施する。

■小学校	■中学校
ジョブシャドウイングの概要は実績等から周知が図られていると考えられ、特に小学校ではその効果について高い評価を得ていることから、市内全校の実施を目指す方向で取組む	実施中学校において概ね評価は高いが、学校ごとの取組みや負担など各現場で様々な課題意見があることから、実施においては希望を募り検討していくこととする

＜企業＞

平成24年度ジョブシャドウイングの規模は昨年度から要望を受け拡大されたが、受入企業数が昨年度103社で今年度102社と規模は変わらない中、昨年度から継続した受入企業は約6割で、約4割は拒否や中止、日程の都合などから未実施となった現状があった。

次年度以降の実施規模拡充を踏まえ、事業所確保において継続した受入れの必要性があり、更に理解を深める対応に努めることで事業所数や業種を増大させ個別の負担を減少させるとともに、より充実した内容を図ることが重要である。

受入企業からは、社会貢献へ積極的な事業所は時間が短いとの意見が聞かれ、また職場体験と内容が重複している事業所もみられる。キャリア教育全体の連携を踏まえ各プログラムの説明等さらなる周知活動の必要性を感じており、更にジョブシャドウイングの主旨を理解してもらうことに努めるものとする。

一方、これまでインターンシップを受入れてきたことに比べると、受入れ時間や対応人員、プログラム作成等の負担が少ないため、より多くの児童生徒に対応できることに歓迎の声が聞かれた。希望するキャリアプログラムへの協力方法について選択が可能になるようなシステムづくりを推進し、キャリア教育において窓口（協議会等）を一本化し、より効率的な支援を可能とする方向で努めていく。

＜地域連携＞

今年度は、企業受入れ開拓等の支援を市及び各支所の社会教育主事が、送迎など担当教諭と保護者間のサポートを学校支援地域本部コーディネーターが担当する体制づくりを地域連携として試みた。しかし、各担当と認識合せがうまく進まなかった点があり、自立した体制づくりに課題が残った。

今後の取組みとして、地域連携の理解を深めながら各立場からできることを模索してもらうとともに、実施事項のマニュアル化などサポート内容を明確にする等、参画しやすい環境づくりから普及に努めることとする。

2 うるま地区

平成24年 うるま市グッジョブ連携協議会

1 平成23年度 活動概況

(1) 協議会の概要と活動目的

平成17年度国勢調査によると、うるま市の完全失業率は14.6%と、県内11市の中で最も高く、県平均の11.9%を大幅に上回り雇用状況改善が大きな課題となっていた。そのような中で、教育施策と合わせた対応が必要と考え、早期キャリア教育の重要性が唱えられていた。そこで、沖縄県の推進する「みんなでグッジョブ運動」と連携し、産学官・地域が一体となった具体的な取組みを実施することにより、将来のうるま市の担い手となる児童生徒の勤労観・職業観の醸成を図るとともに、地域の雇用問題の解決や地域全体の就業意識向上を図ることを目的に、うるま市グッジョブ連携協議会を発足した。

(2) H23年度活動概況とH24年度への展望

児童生徒の好奇心や興味を大事にしつつ、早い時期に興味分野を追求するチャンスが生まれることで、高校・大学へと成長した場合の人間性・社会性能力の基礎を強める目的とし、平成24年度は小中学校のみのジョブシャドウイング実施とした。それを踏まえ、課題を検討した。

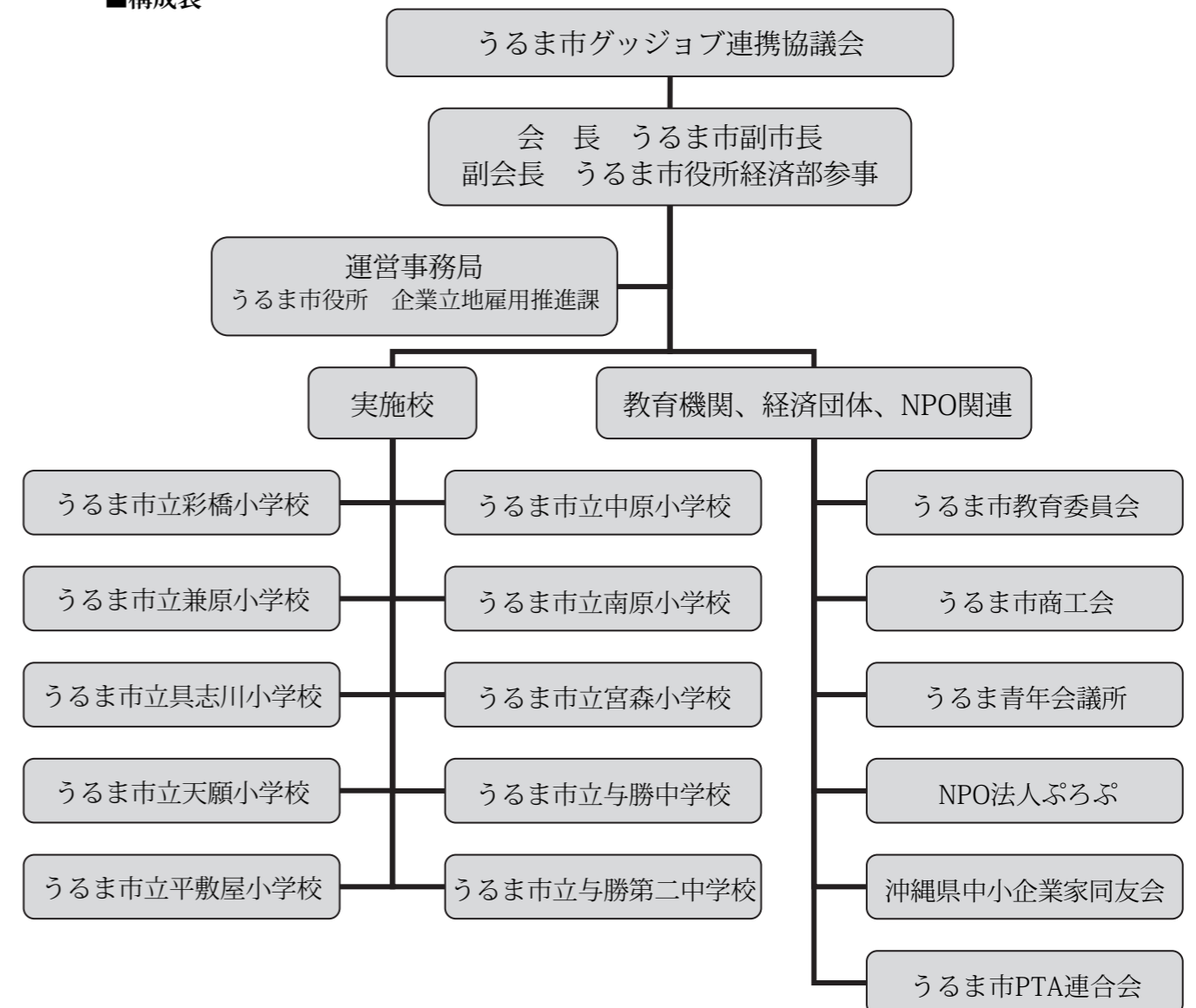
H23年度の課題	改善策
1) ジョブシャドウイングの実施時間について、時間が短いという意見が学校側や企業側から多く寄せられた。	6時間(10:00~16:00)に変更できないか、協議会総会で提案したが、通常通り2時間に決定した。(仕事の流れを知ることが目的ではなく、働く人の就業観を見たいのが趣旨であるため、6時間は必要ではないとの意見であった)
2) ジョブシャドウイング実施前に出発式を行ったが、出発式の内容・時間及び場所についても他地域の状況も踏まえながら再検討が必要。	出発式についても、簡素化できないかも含めて他地域の状況も参考にしながら再検討する。
3) 児童生徒の引率についても行政だけで担ってしまい、父母や地域の協力を得ることができなかった。	既存のキャリア教育のように、PTAを中心に引率を行うよう協力を求めている。
4) 当協議会として初めての事業実施となったため、企業開拓を事務局だけで行ってしまい、各団体との連携に課題が残った。	企業開拓については協議会会員を中心に連携を取りながら実施し、うるま市の既存システムを活用し、受入企業登録制度の導入を検討する。

2 平成24年度の取組

(1) 協議会について

協議会名称	うるま市グッジョブ連携協議会
所在地	沖縄県うるま市石川石崎1丁目1番 石川庁舎1階
活動目的(理念)	本協議会は、うるま市雇用情勢の中でも、特に20歳から24歳までの若年者失業率を、深刻に受け止め、うるま市の企業を地域の児童生徒に知ってもらい、将来の進路の視野を広げるのがねらいとして、他地域と比べても類をみない企業を誘致した製造業等を含めた。 今年度、小中高一校ずつを選定し、将来の小中高のジョブシャドウイング実施を取り入れたキャリア教育のモデルとする。

■構成表



うるま市グジョブ連携協議会 会長・・・うるま市 副市長 同 副会長・・・うるま市役所 経済部参事 同 事務局・・・うるま市役所 企業立地雇用推進課		
■構成団体名簿		
No.	団体名	役職
1	うるま市教育委員会	指導部長
2	うるま市商工会	会長
3	うるま青年会議所	理事長
4	NPO法人ぷろぷ	代表者
5	沖縄県中小企業家同友会	中部副支部長
6	うるま市PTA連合会	会長
7	うるま市立 彩橋小学校	校長
8	うるま市立 兼原小学校	校長
9	うるま市立 具志川小学校	校長
10	うるま市立 天願小学校	校長
11	うるま市立 平敷屋小学校	校長
12	うるま市立 中原小学校	校長
13	うるま市立 南原小学校	校長
14	うるま市立 宮森小学校	校長
15	うるま市立 与勝中学校	校長
16	うるま市立 与勝第二中学校	校長

(2) 事業計画 (実績) 報告

月	実績
4月	各経済団体へ挨拶 H24年度実施予定、各実施校へ挨拶
5月	各実施校へ日程調整及び保護者勤務先紹介依頼 各経済団体へ企業紹介依頼 「広報うるま」での受入企業募集 市役所庁舎内でのメーリングにて受入部署募集 企業リスト、メンター名簿の取りまとめ NPOへ大学生サポート依頼 【兼原小学校】事前学習 (マナー学習、企業人講話) 【中原小学校】事前学習 (マナー学習) 協議会 第1回会議開催

6月	【中原小学校】事前学習 (企業人講話) 【兼原小学校】ジョブシャドウイング実施 実施校、受入先、バス会社へのお礼 【平敷屋小学校】(現場で学ぶマナー講座) 【天願小学校】事前学習 (マナー学習、企業人講話) 【南原小学校】事前学習 (マナー学習、企業人講話)
7月	中学校事前学習 講師手配 【天願小学校】ジョブシャドウイング実施 実施校、受入先、バス会社へのお礼 【宮森小学校】事前学習 (マナー学習、企業人講話) 【兼原小学校】発表会 【平敷屋小学校】事前学習 (マナー学習、企業人講話) 【具志川小学校】事前学習 (マナー学習、企業人講話) 【中原小学校】ジョブシャドウイング実施 【南原小学校】ジョブシャドウイング実施 実施校、受入先、バス会社へのお礼
8月	【具志川小学校】ジョブシャドウイング実施 【平敷屋小学校】ジョブシャドウイング実施 実施校、受入先、バス会社へのお礼 【宮森小学校】ジョブシャドウイング実施 実施校、受入先、バス会社へのお礼
9月	【南原小学校】発表会 【与勝中学校】事前学習 (企業人講話)
10月	【与勝第二中学校】事前学習 (企業人講話) 【与勝中学校】事前学習 (マナー学習) 【与勝第二中学校】事前学習 (マナー学習) 【中原小学校】発表会 【具志川小学校】発表会 【与勝第二中学校】ジョブシャドウイング実施 【与勝中学校】ジョブシャドウイング実施 実施校、受入先、バス会社へのお礼 【彩橋小学校】事前学習 (企業人講話) 【与勝第二中学校】発表会 各企業へアンケート実施
11月	【平敷屋小学校】発表会 【与勝中学校】発表会 【宮森小学校】発表会 【彩橋小学校】事前学習 (マナー学習) 【彩橋小学校】ジョブシャドウイング実施 実施校、受入先へのお礼
12月	協議会 第2回会議開催 【彩橋小学校】発表会 報告書作成、各種アンケート集計 次年度ジョブシャドウイング実施希望案内 ジョブシャドウイング作業部会議 (実施小学校教諭)
1月	報告書作成、各種アンケート集計 次年度ジョブシャドウイング実施校選定

2月	報告書作成、各種アンケート集計 次年度総合学習（キャリア教育）カリキュラム作成
3月	報告書作成、各種アンケート集計 協議会 第3回会議開催 次年度各実施校へ日程調整 JS受入企業登録システム稼動（予定） 企業合同意見交換会（予定）

(3) 受入企業について

下記のリストの他に、台風通過直後の緊急受入先として、うるま市役所（介護長寿課、市民課、環境課、保育課、企画課、秘書広報課、企業立地雇用推進課）と中城湾港開発推進協議会に予備の受付先としての調整を行い不測の事態に備えた。

No.	企業名	業種	受入人数	取りまとめ窓口
1	株式会社喜神サービス	職別工事業	10	うるま市役所
2	株式会社高江洲製塩所	食料品製造業	9	企業
3	株式会社ぬちまーす	食料品製造業	6	具志川小学校
4	有限会社神村酒造	飲料・たばこ・飼料製造業	8	うるま市役所
5	崎山酒造 泡盛工場	飲料・たばこ・飼料製造業	4	うるま市役所
6	崎山酒造 しろみ酢工場	飲料・たばこ・飼料製造業	4	うるま市役所
7	琉球アジアンビレッジ株式会社	飲料・たばこ・飼料製造業	4	うるま市役所
8	株式会社海人工房	繊維工業	3	うるま市役所
9	株式会社バイオマス再資源化センター	木材・木製品製造業	2	中城湾港協議会
10	バイオ21株式会社	化学工業	3	中城湾港協議会
11	琉球ペイント株式会社	化学工業	2	グッドジョブ協議会
12	株式会社沖縄計測	プラスチック製品製造業	3	中城湾港協議会
13	フェイス沖縄株式会社	プラスチック製品製造業	7	中城湾港協議会
14	有限会社海邦生コン工業	窯業・土石製品製造業	18	中城湾港協議会
15	コンボルト・ジャパン株式会社	窯業・土石製品製造業	10	中城湾港協議会
16	昭和金型工業株式会社	生産用機械器具製造業	26	中城湾港協議会
17	株式会社ベアック	生産用機械器具製造業	4	中城湾港協議会
18	一般社団法人ものづくりネットワーク沖縄	生産用機械器具製造業	2	中城湾港協議会
19	東京計装株式会社 沖縄工場	業務用機械器具製造業	21	中城湾港協議会
20	株式会社琉 SOK	業務用機械器具製造業	4	中城湾港協議会
21	OMJP 株式会社	電気機械器具製造業	1	中城湾港協議会
22	株式会社ピューズ	輸送用機械器具製造業	3	中城湾港協議会
23	ヤマハ発動機株式会社	輸送用機械器具製造業	40	中城湾港協議会
24	奏愛工房 沖縄三線のお店	その他の製造業	4	兼原小学校

25	株式会社沖電工	電気業	2	中城湾港協議会
26	沖縄電力株式会社 お客さま本部うるま支店	電気業	10	グッドジョブおきなわ
27	株式会社互恵石油瓦斯	ガス業	18	うるま市役所
28	有限会社ユタカ電子産業（auショップみどり町）	通信業	6	うるま青年会議所
29	株式会社レキサス	情報サービス業	3	中城湾港協議会
30	オキナワデジタルモーション株式会社	映像・音声・文字情報制作業	12	うるま市役所
31	株式会社はいさい観光	道路旅客運送業	22	うるま市役所
32	株式会社平成重車輛	道路貨物運送業	6	中城湾港協議会
33	郵便事業株式会社 具志川支店	郵便業	2	うるま市役所
34	株式会社パルタック九州支社 沖縄支店	各種商品卸売業	5	南原小学校
35	有限会社ワコー貿易	繊維・衣服等卸売業	23	中城湾港協議会
36	イオン琉球株式会社 イオン具志川店	各種商品小売業	18	うるま市役所
37	株式会社サンエー 与勝シティ店	各種商品小売業	4	グッドジョブおきなわ
38	ダイレックス株式会社 具志川支店	各種商品小売業	2	グッドジョブ協議会
39	有限会社全沖フード	食料品小売業	3	グッドジョブ協議会
40	ファミリーマート FC 具志川前原支店	食料品小売業	2	グッドジョブ協議会
41	有限会社プティフル みどり町店	食料品小売業	12	うるま市役所
42	有限会社プティフル 江洲店	食料品小売業	8	うるま市役所
43	有限会社プティフル 石川工場	食料品小売業	4	うるま市役所
44	株式会社コンピュータ沖縄	機械器具小売業	2	中城湾港協議会
45	サイクルプラザ池原	機械器具小売業	4	うるま市役所
46	有限会社赤峰家具	その他の小売業	2	グッドジョブ協議会
47	有限会社中央調剤薬局（あかみち薬局）	その他の小売業	4	うるま市役所
48	つりぐの米吉	その他の小売業	4	グッドジョブ協議会
49	有限会社グットサポート	保険業	9	グッドジョブ協議会
50	沖縄県金型技術研究センター	学術・開発研究機関	2	中原小学校
51	沖縄健康バイオテクノロジー研究開発センター	学術・開発研究機関	2	中城湾港協議会
52	山城司法書士事務所	専門サービス業	1	グッドジョブ協議会
53	NTT データエンジニアリングシステム	技術サービス業	1	中城湾港協議会
54	株式会社サン電設	技術サービス業	2	グッドジョブ協議会
55	日本電気計器検定所 沖縄支社	技術サービス業	22	うるま市役所
56	琉球国際航空株式会社	技術サービス業	22	中城湾港協議会
57	古民家食堂 ていーらぶい	飲食店	2	うるま市役所
58	うるま市立学校給食センター（第二調理場）	持ち帰り・配達飲食サービス業	6	うるま市役所
59	うるま市立与勝学校給食センター	持ち帰り・配達飲食サービス業	8	うるま市役所
60	Hairroom MOKU	洗濯・理容・美容・浴場業	2	グッドジョブ協議会
61	株式会社 パシフィック・ホスピタリティ・グループ	洗濯・理容・美容・浴場業	2	うるま市役所

62	有限会社スカイランドサービス	その他の生活関連サービス業	12	うるま市役所
63	株式会社ダスキンサーヴ九州 美里支店	その他の生活関連サービス業	5	グッジョブ協議会
64	海邦電子ビジネス専門学校	学校教育	12	グッジョブ協議会
65	ぐしけん眼科	医療業	2	グッジョブ協議会
66	ちねん歯科医院	医療業	4	グッジョブ協議会
67	うるま市立きむたか保育所	社会保険・社会福祉・介護事業	7	うるま市役所
68	うるま市立石川保育所	社会保険・社会福祉・介護事業	2	うるま市役所
69	うるま市立安慶名保育所	社会保険・社会福祉・介護事業	2	天願小学校
69	うるま市立豊原保育所	社会保険・社会福祉・介護事業	4	うるま市役所
70	うるま市与那城保育所	社会保険・社会福祉・介護事業	3	うるま市役所
71	有限会社介護サービスたばた	社会保険・社会福祉・介護事業	21	うるま市役所
72	医療法人社団志誠会 介護老人保健施設 陽光館	社会保険・社会福祉・介護事業	6	兼原小学校
73	有限会社在宅介護サービスひまわり 具志川本店	社会保険・社会福祉・介護事業	59	うるま市役所
74	有限会社在宅介護サービスひまわり 石川支店	社会保険・社会福祉・介護事業	20	うるま市役所
75	社会福祉法人うるま市社会福祉協議会 地域生活支援センターあいあい	社会保険・社会福祉・介護事業	1	グッジョブ協議会
76	有限会社中央調剤薬局 あかみち薬局居宅介護支援事業所	社会保険・社会福祉・介護事業	1	うるま市役所
77	有限会社中央調剤薬局 デイサービスあかみち	社会保険・社会福祉・介護事業	4	うるま市役所
78	社会福祉法人文光福祉会 デイサービスセンター 輝	社会保険・社会福祉・介護事業	4	うるま市役所
79	営利法人株式会社四つ葉 デイサービス 四つ葉	社会保険・社会福祉・介護事業	2	グッジョブ協議会
80	社会福祉法人与勝福祉会 特別養護老人ホーム 与勝の里	社会保険・社会福祉・介護事業	2	うるま市役所
81	社会福祉法人歩夢福祉会 野の花保育園	社会保険・社会福祉・介護事業	6	南原小学校
82	社会福祉法人友和福祉会 ハッピーネス保育園	社会保険・社会福祉・介護事業	2	うるま市役所
83	株式会社ユースフル デイサービスあおぞら	社会保険・社会福祉・介護事業	4	うるま市役所
84	郵便局株式会社 与勝郵便局	郵便局	2	グッジョブ協議会
85	うるま市勝連漁業協同組合	協同組合	6	うるま市役所
86	うるま市与那城漁業協同組合	協同組合	8	うるま市役所
87	沖縄県農業協同組合 与那城支店	協同組合	4	グッジョブ協議会
88	株式会社中部自動車整備工場	自動車整備業	3	グッジョブ協議会
89	合名会社東洋自動車整備工場	自動車整備業	4	グッジョブ協議会
90	株式会社セシールコミュニケーションズ	その他の事業サービス業	107	中城湾港協議会
91	うるま市消防本部	地方公務	12	中原小学校
92	うるま市消防本部 石川消防署	地方公務	2	うるま市役所
93	うるま市消防本部 具志川消防署	地方公務	3	うるま市役所
94	うるま市消防本部 与勝消防署	地方公務	4	うるま市役所
95	うるま市消防本部 与勝消防署 平安座出張所	地方公務	6	うるま市役所

96	うるま市教育委員会 教育部文化課	地方公務	2	うるま市役所
97	うるま市教育委員会 (学校適正配置推進プロジェクトチーム)	地方公務	6	うるま市役所
98	沖縄県中部農林土木事務所	地方公務	2	沖縄県雇用政策課
99	沖縄県中部農業改良普及センター	地方公務	2	沖縄県雇用政策課
100	うるま市農業委員会事務局	地方公務	11	うるま市役所
101	うるま市役所 商工観光課	地方公務	8	うるま市役所
102	うるま市役所 職員課	地方公務	1	うるま市役所
103	うるま市役所 生活福祉課 (うるみんプール)	地方公務	21	うるま市役所
受入人数 合計			856	人

※グッジョブ協議会・・・うるま市グッジョブ連携協議会
 ※中城湾港協議会・・・中城湾港開発推進協議会
 ※グッジョブおきなわ・・・グッジョブおきなわ推進事業局

(4) 実施校 活動報告

当協議会としては、将来うるま市の全小中学校でジョブシャドウイングを実施するのが目標である。平成23年度中に市小中学校校長会にて、ジョブシャドウイング事業の説明を行い、合わせて募集も行った。その際、回答を頂いた学校をすべて実施すると決定した。

※JS:ジョブシャドウイングの略 ※コマ数(1校時):小学校45分、中学校50分を指す

1	学校情報	うるま市立 彩橋小学校 (新規)	校 長 : 森根 功			
		住 所 : 〒904-2426 うるま市与那城平安座8169				
		電 話 : 098-977-8102	F A X : 098-983-1017			
	実施概略	対象学年 : 6年生 1クラス 23人 (内 実施 23人)				
		担 当 : 桃原広隆 (1組)				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習 :		3コマ		3コマ
		マナー学習 : 平成 24年 11月 14日			1コマ	1コマ
		企業人講話 : 平成 24年 10月 30日			2コマ	2コマ
		J S 実施 : 平成 24年 11月 15日			4コマ	4コマ
特記事項	事後学習 :		12コマ		12コマ	
	発 表 会 : 平成 24年 12月 4日		2コマ		2コマ	
	9日		2コマ		2コマ	
・与那城地区は、小学校2校・中学校2校で離島を含む地域となり、小規模校が多い。隣接する業種は主に漁業や農業などが多く、職種の視野を広げることを考え実施した。 ・マナー学習では、インターンシップ高校生が「立ち方」「挨拶」「おじぎ」「名刺交換」を見本で実演しサポートした。 ・企業人講話は、(株)喜神サービス 代表取締役 川満秀吉氏に実施頂いた。 ・送迎においては保護者だけでなく、インターンシップの高校生も参加して頂いた。 【発表会】企業向け：パワーポイントで企業別グループでの発表。 通路側に壁新聞も展示。 保護者向け：学習発表会で保護者向けに発表を行った。						

2	学校情報	うるま市立 兼原小学校 (新規)	校 長 : 岩本 利章			
		住 所 : 〒904-2225 うるま市字喜屋武66				
		電 話 : 098-973-3350	F A X : 098-974-7143			
	実施概略	対象学年 : 6年生 3クラス 122人 (内 実施 122人)				
		担 当 : 島袋弘文 (キャリア担当) 砂川成人 (1組) 島袋朋子 (2組) 松岡義幸 (3組)				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習 :				
		マナー学習 : 平成 24年 5月 15日		1コマ		1コマ
		企業人講話 : 平成 24年 5月 15日		1コマ		1コマ
		J S 実施 : 平成 24年 6月 19日		4コマ		4コマ
事後学習 :		10コマ		10コマ		
発 表 会 : 平成 24年 7月 12日		1コマ		1コマ		
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 具志川地区は、うるま市の中心部分に位置し小学校9校・中学校4校で他地区より児童生徒数が多い。隣接する職種は商工業や福祉業が多く、地域企業を絡めた取組みを意識し、実施した。 マナー学習では、協議会に加えてNPOにも講師を依頼。また「立ち方」「挨拶」「おじぎ」「名刺交換」を見本で大学生がサポートした。 企業人講話は、リザンシーパークホテル 料飲事業部長 山根悟氏に実施頂いた。 送迎においては保護者だけでなく、バス5台手配し、大学生サポートも参加してもらった。 【発表会】(授業参観) 各ブースに企業別グループでパワーポイント、壁新聞、紙芝居で発表を行った。					
3	学校情報	うるま市立 具志川小学校 (新規)	校 長 : 棚原 恵子			
		住 所 : 〒904-2223 うるま市字具志川3133				
		電 話 : 098-973-3536	F A X : 098-974-7129			
	実施概略	対象学年 : 6年生 2クラス 45人 (内 実施 45人)				
		担 当 : 新垣こずえ (キャリア担当) 後蔵根直人 (1組) 大関まりも (2組)				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習 :				
		マナー学習 : 平成 24年 7月 17日		1コマ		1コマ
		企業人講話 : 平成 24年 7月 17日		1コマ		1コマ
		J S 実施 : 平成 24年 8月 1日		4コマ		4コマ
事後学習 :		6コマ		6コマ		
発 表 会 : 平成 24年 10月 16日		2コマ		2コマ		
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 具志川地区は、うるま市の中心部分に位置し小学校9校・中学校4校で他地区より児童生徒数が多い。隣接する職種は商工業や福祉業が多く、地域企業を絡めた取組みを意識し、実施する。 マナー学習では、協議会スタッフ2名が対応した。 企業人講話は、(株)FMうるま 代表取締役 伊波良和氏に実施頂いた。 送迎においては保護者だけでなく、バス2台手配して実施した。 【発表会】(授業参観) 企業別グループで壁新聞の発表を行った。					

4	学校情報	うるま市立 天願小学校 (新規)	校 長 : 島袋 裕久			
		住 所 : 〒904-2215 うるま市みどり町1-8-1				
		電 話 : 098-973-3359	F A X : 098-974-7128			
	実施概略	対象学年 : 6年生 4クラス 129人 (内 実施 129人)				
		担 当 : 小濱勉 (1組) 石井園子 (2組) 比嘉善也 (3組) 上江洲七美 (4組) 大城紀子 (特別支援)				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習 :				
		マナー学習 : 平成 24年 6月 22日			1コマ	1コマ
		企業人講話 : 平成 24年 6月 22日			1コマ	1コマ
		J S 実施 : 平成 24年 7月 5日			4コマ	4コマ
事後学習 :		3コマ		3コマ		
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 具志川地区は、うるま市の中心部分に位置し小学校9校・中学校4校で他地区より児童生徒数が多い。隣接する職種は商工業や福祉業が多く、地域企業を絡めた取組みを意識し、実施した。 マナー学習では、NPOからも講師を依頼し協力頂いた。 企業人講話は、オキナワデジタルモーション (株) 代表取締役 入江貞四郎氏に実施頂いた。 送迎においては保護者だけでなく、バス5台手配した。 【発表】教室前の通路側に壁新聞を展示した。					
5	学校情報	うるま市立 平敷屋小学校 (新規)	校 長 : 下地 輝美			
		住 所 : 〒904-2314 うるま市勝連平敷屋 3850				
		電 話 : 098-978-2223	F A X : 098-978-2223			
	実施概略	対象学年 : 6年生 1クラス 40人 (内 実施 40人)				
		担 当 : 豊里勝宏 (1組)				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習 :				
		マナー学習 : 平成 24年 7月 12日			1コマ	1コマ
		企業人講話 : 平成 24年 7月 12日			1コマ	1コマ
		J S 実施 : 平成 24年 8月 1日			4コマ	4コマ
事後学習 :		5コマ		5コマ		
発 表 会 : 平成 24年 11月 1日		2コマ		2コマ		
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 勝連地区は、小学校4校・中学校2校で各学校とも1クラスから2クラスと小規模校が多い。隣接する職種は、漁業や農業などが多く、職種の視野を広げることを考え、実施した。 言葉使いの意識付けを目的に、マナー学習に入る前【現場で学ぶマナー講座(企業見学)】を実施した。 マナー学習では、協議会スタッフ2名が対応した。 企業人講話は、オキナワデジタルモーション (株) 代表取締役 入江貞四郎氏に実施頂いた。 送迎においては保護者だけでなく、バス1台手配した。 【発表会】企業別グループで壁新聞での発表を行った。					

6	学校情報	うるま市立 中原小学校 (新規)	校 長 :安里 禮子			
		住 所 :〒904-2243 うるま市字宮里 731				
		電 話 :098-973-6810	F A X :098-974-7125			
	実施概略	対象学年:6年生 3クラス 121人 (内 実施 117人)				
		担 当:仲地エリ子 (1組) 新崎今日子 (2組) 宮城志正 (3組)				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習 :		5コマ		5コマ
		マナー学習 :平成 24年 5月 24日			1コマ	1コマ
		企業人講話 :平成 24年 6月 15日			1コマ	1コマ
		J S 実施 :平成 24年 7月 24日			4コマ	4コマ
事後学習 :			10コマ		10コマ	
発 表 会 :平成 24年 10月 12日		2コマ		2コマ		
特記事項	<p>・具志川地区は、うるま市の中心部分に位置し小学校9校・中学校4校で他地区より児童生徒数が多い。中原小学校に関しては自由貿易地域にも隣接しており、この地域ならではの特色ある企業の職種に接することで、視野を広げることも念頭に実施した。</p> <p>・マナー学習では、協議会スタッフに加えてNPOにも講師を依頼した。また「立ち方」「挨拶」「おじぎ」「名刺交換」を見本で大学生がサポートした。</p> <p>・企業人講話は、授業参観を利用し沖縄県中小企業家同友会 理事 照屋守道氏に実施頂いた。</p> <p>・送迎においては保護者だけでなく、バス5台手配した。</p> <p>【発表会】(授業参観) 企業別グループで壁新聞や紙芝居の発表を行った。</p>					
7	学校情報	うるま市立 南原小学校 (継続)	校 長 :天久 昇			
		住 所 :〒904-2311 うるま市勝連南風原 279				
		電 話 :098-978-2225	F A X :098-978-0228			
	実施概略	対象学年:6年生 1クラス 39人 (内 実施 39人)				
		担 当:大庭真由美 (キャリア担当) 佐久本健人 (1組)				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習 :		7コマ		7コマ
		マナー学習 :平成 24年 6月 26日			1コマ	1コマ
		企業人講話 :平成 24年 6月 26日			1コマ	1コマ
		J S 実施 :平成 24年 7月 24日			4コマ	4コマ
事後学習 :			8コマ		8コマ	
発 表 会 :平成 24年 9月 12日		2コマ		2コマ		
特記事項	<p>・ジョブシャドウイング実施2年目継続校。</p> <p>・勝連地区は、小学校4校・中学校2校で各学校とも1クラスから2クラスと小規模校が多い。南原小学校に関しては自由貿易地域にも隣接しており、この地域ならではの特色ある企業の職種に接することで、視野を広げることも念頭に実施した。</p> <p>・マナー学習では、「立ち方」「挨拶」「おじぎ」「名刺交換」を見本で実施校卒業生の大学生がサポートした。</p> <p>・企業人講話は、オキナワデジタルモーション (株) 代表取締役 入江貞四郎氏に実施頂いた。</p> <p>・送迎においては保護者だけでなく、バス1台手配した。</p> <p>【発表会】(授業参観) パワーポイントで企業別グループでの発表。後ろの壁に新聞を展示した。</p>					

8	学校情報	うるま市立 宮森小学校 (新規)	校 長 :伊波 シゲミ			
		住 所 :〒904-1106 うるま市石川1-46-1				
		電 話 :098-964-2077	F A X :098-964-3244			
	実施概略	対象学年:6年生 3クラス 87人 (内 実施 78人)				
		担 当:喜名美知代 (1組) 松井一幸 (2組)				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習 :		4コマ		
		マナー学習 :平成 24年 7月 6日			1コマ	1コマ
		企業人講話 :平成 24年 7月 6日			1コマ	1コマ
		J S 実施 :平成 24年 8月 28日			4コマ	4コマ
事後学習 :			12コマ		12コマ	
発 表 会 :平成 24年 11月 14日		2コマ		2コマ		
特記事項	<p>・石川地区は、小学校3校・中学校2校で各学校ともほぼ中規模校の学校である。隣接する職種は、小さな商工業が多く、地域企業を絡めた取組みを意識し、実施した。</p> <p>・マナー学習では、協議会スタッフに加えてNPOにも講師を依頼。</p> <p>・企業人講話は、オキナワデジタルモーション (株) 代表取締役 入江貞四郎氏に実施頂いた。</p> <p>・送迎においては保護者だけでなく、バス3台手配した。</p> <p>【発表会】(授業参観) クラス単位で企業別グループを作り、パワーポイントや新聞での発表を行った。</p>					
9	学校情報	うるま市立 与勝中学校 (新規)	校 長 :斉藤 美喜夫			
		住 所 :〒904-2311 うるま市勝連南風原 3615				
		電 話 :098-978-2220	F A X :098-978-8211			
	実施概略	対象学年:1年生 6クラス 211人 (内 実施 208人)				
		担 当:狩俣みさお (キャリア担当) 村上茂 (キャリア担当) 金城哲夫 (1組) 名嘉知世 (2組) 佐久本優太 (3組) 金城加奈子 (4組) 柴引智彦 (5組) 田里智也 (6組) 大城荒 (特別支援)				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習 :		13コマ		13コマ
		マナー学習 :平成 24年 10月 10日			2コマ	2コマ
		企業人講話 :平成 24年 9月 12日			1コマ	1コマ
		J S 実施 :平成 24年 10月 17日			4コマ	4コマ
事後学習 :			10コマ		10コマ	
発 表 会 :平成 24年 11月 7日		2コマ		2コマ		
特記事項	<p>・勝連地区は、小学校4校・中学校2校で各学校とも1クラスから2クラスと小規模校が多いが、与勝中学校に関しては全生徒数が600名弱の中規模校である。隣接する職種は、主に漁業や農業などが多く、職種の視野を広げることを考え、実施した。</p> <p>・マナー学習では、ビジネスマナー講師を依頼した。</p> <p>・企業人講話は、沖縄県中小企業家同友会 理事 照屋守道氏に実施頂いた。</p> <p>・送迎においては保護者だけでなく、バス6台手配した。</p> <p>【発表会】6教室を各事業種ごとに分け、企業別グループでパワーポイントでの発表を行った。</p>					

10 学校情報	うるま市立 与勝第二中学校（継続）	校 長：志良堂 保夫			
	住 所：〒904-2307 うるま市与那城饒辺 153				
	電 話：098-978-2648	F A X：098-978-2638			
実施概略	対象学年：1年生 2クラス 39人（内 実施 39人）				
	担 当：長濱和章（キャリア担当）伊波聡（1組）長嶺法子（2組）				
	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
	事前学習：		4コマ		4コマ
	マナー学習：平成 24年 10月 10日			1コマ	1コマ
	企業人講話：平成 24年 10月 3日			1コマ	1コマ
	J S 実施：平成 24年 10月 16日			4コマ	4コマ
	事後学習：		6コマ		6コマ
発表会：平成 24年 10月 31日		2コマ		2コマ	
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョブシャドウイング実施 2年目継続校。 ・与那城地区は、小学校 2校・中学校 2校で離島を含む地域となり小規模校が多い。隣接する業種は、主に漁業や農業などが多く職種の視野を広げることを考え、実施した。 ・マナー学習では、ビジネスマナー講師を依頼した。 ・企業人講話は、沖縄県中小企業家同友会 理事 照屋守道氏に実施頂いた。 ・送迎においては保護者だけでなく、バス 1台手配した。 【発表会】 企業別グループでパワーポイントでの発表を行った。				

※事前学習や事後学習の実施日・・・学校側が主体となり総合学習等の時間を調整しながら行った。
 ※NPO・・・「NPO那覇事業支援センター」学習支援や大学生ボランティアなどの活動をしている団体。
 小学校でのマナー学習では協力を依頼した。
 ※ビジネスマナー講師・・・個人運営のビジネスマナー講師
 中学校でのマナー学習では、資格を持っているビジネスマナー講師を依頼した。



【企業人講話】生徒から講師へ質問



【出発式】引率者紹介



【JS 実施中】ミーティングに参加中



【発表会】授業参観



【事前学習】大学生サポート



【事前学習】インターンシップ高校生

(5) 実施総括（成果と課題）

	事 例	課 題	今後の取組についての 展望・改善点
実施校 /保護者	1) 実施校（2校）のPTA 総会で、JS 事業の説明を行い、事業への理解と協力をお願いした。 2) 授業参観にて企業人講話と JS 発表会を実施した。 3) 保護者に対し、受入企業の紹介や勤務先の紹介を依頼した。 4) JS 実施に伴い送迎サポーターとして参加及び登録の依頼を行った。	1) PTA 総会で、JS 事業の説明を行うため参加したが、総会への参加者（各校約 20名前後）が少なかった。 2) 特になし。 3) 依頼を行ったが、反応が鈍く調整に時間を要した。 4) 訪問企業の地図をわかりやすく、速やかに提示できるようにしたい。	○校内委員会等を対象とした研修会を実施することで、JS への理解と実施体制の構築を図る。 ○うるま市で実施している、就活センターのシステムを活用し、JS 協力企業の地図や情報を構築し、実施校が利活用できるようなネットワークの構築を図る。

<p>教育機関</p>	<p>1) うるま市の校長会で JS 事業の説明会を実施し、次年度実施校の公募を行った。 2) 中頭教育事務所へも JS 事業の説明をした。 3) 実施の際に担当教員が巡回スタッフとして協力連携した。 4) インターンシップ高校生をマナー学習・JS 引率に参加。 5) 担当教諭の意見交換会を実施。</p>	<p>1) 2) JS 事業の位置づけや各校で実施しているキャリア教育との違い（認識）に JS 事業の必要性が理解できていないと感じる。 3) 巡回を連携して行った。特に問題なし。 4) 5) 特になし。</p>	<p>○JS スタッフと社会教育主事が連携し、新たな企業開拓を実施することで、JS 実施の際のスムーズな連携が図られる。 ○JS 実施に教育委員会の職員メンターを多く参加させ、JS 事業の認知度を高め、キャリア教育事業の強化連携を図る。 ○次年度、各学校が実施しやすいプランを提示。</p>
<p>地域 コミュニティ</p>	<p>1) JS 実施校の事前学習において、講師補助を大学生の協力により実施。 2) 中学校へのマナーについてはビジネスマナー講師に依頼し実施した。 3) うるま市の FMうるまでの JS 事業の周知広報を実施した。</p>	<p>1) 2) NPOを通して、本事業への参加を依頼したが、大学生との連絡が取りにくく、参加確認をとるまでに時間を要した。 3) 特に問題なし。</p>	<p>○今後は、本協議会で大学生ボランティアを募集し、JS 事業の実施及び事前学習において、スムーズな連携が出来るようにシステム構築を図る。 ○毎週火曜日 18:00～「ジョブジャブ就活」継続予定</p>
<p>行政</p>	<p>1) うるま市の広報誌で JS 事業の掲載を継続的に実施。 2) JS 実施の際に企業側の受入れが困難になった場合を想定し、緊急予備メンターを確保した。</p>	<p>1) 特に問題なし。 ※参考:約 45,000世帯ヘアナウンス。 2) 特に問題なし。</p>	<p>○うるま市本庁や各支所のロビー等で JS 事業の広報展を開催し、JS 事業の重要性や若年層への就業意識向上のために実施する。</p>
<p>経済団体</p>	<p>1) うるま市商工会総会にて JS 事業の説明を行い商工会に加盟する企業の協力をお願いした。 2) うるま市 FMうるまに企業人・高校生が出演。（企業人へ聞きたいこと、今の学生へ伝えたいこと）</p>	<p>1) JS 事業の認知度が低く、事業内容に対する問い合わせが多かった。 2) 特に問題なし。</p>	<p>○市内企業に対し、JS 事業を説明するための簡単な JS マニュアルを作成し、例題をまじえ JS 普及活動を図る必要がある。</p>
<p>協議会</p>	<p>1) 協議会総会にて、今年度の JS 事業の開催を報告。 2) 総会にて、新たな企業開拓の必要性を説明し、企業紹介の依頼を行った。 3) 協議会会議にて、次年度事業内容を提案。</p>	<p>1) 特になし。 2) 実施校が増えたことから、新たな企業開拓が必要となり、JS 実施における実施校と保護者及び本協議会の情報共有や連携が不足していると感じた。 3) 特になし。</p>	<p>○JS 実施前に実施校合同会議を開催し、共通の課題や問題などを認識する。 ○JS 実施前に受入企業に対し、合同会議を開催することで、メンターの「心得」と JS 事業の理解と認知度を高める。 ○ジョブシャドウイングに「取材」という形を取り入れる。 ○今年度実施校を深掘しつつ、他校の拡大を検討。</p>

3 その他の取組や実績

- マナー学習を濃い内容にする目的として（【現場で学ぶマナー講座】～市内のサービス 事業所訪問&マナー実践）を1校のみチャレンジ実施。目的は「場に応じた言葉づかいを意識させ就業意識向上」である。企業見学実施後、後日マナー学習に入った。（株）セシールコミュニケーションズ・（株）富士通ラーニングメディア沖縄の2社に協力頂いた。
- インターンシップ高校生を協議会へ受入時に、彩橋小学校の事前学習・ジョブシャドウイングを実施。ジョブシャドウイング実施後、協議会スタッフとして情報発信業務目的で、うるま～ぶ就活センターのブログを掲載した。

4 今後の展開について

1. 実施目的

平成25年度は、早い時期に様々な職を知るきっかけ作りのため、児童生徒の好奇心や興味を大事にしつつ、良い刺激が与えられるよう、うるま市独自のアイデアを用いた新たなジョブシャドウイングを実施する。また、昨年度からは高校生を含む若年層を対象とした就業意識向上の事業を実施しており、今年度もラジオ番組や広報誌を通しての就労情報の発信、イベント等を実施する。
2. 受入対象企業

企業がもつ人材育成（社員含む）のカリキュラムを十分に活かすことを目的とする。児童生徒の成果物発表により、地域へ事業内容の周知広報の機会も図る。
学校側・企業側の負担を軽減する目的で、行政や協議会で企業開拓をし、学校・企業間の調整を行政が行う。これまでの実践上の課題や地域の実情を踏まえ、現実的な推進を図る。

 - ・中城湾港新港地区立地企業 約160社（製造業、情報・サービス業、流通・卸売業等）
 - ・うるま市商工会会員企業
 - ・うるま青年会議所会員企業
 - ・中小企業家同友会会員企業
 - ・各実施校保護者勤務企業
 - ・その他（行政、観光、研究施設等）
3. ジョブシャドウイング実施校

今年度に引き続き、学校間（小学校→中学校）の系統性・発展性を意識する。また総合学習の時間を充実する目的として、キャリア教育をメニュー化し最も効果の高いカリキュラムを学校側で選択して頂く。それに伴い学校側の負担軽減を図る。
4. 実施事業の内容
 - ・ジョブシャドウイング事業の実施（小学校）
対象：小学6年生
内容：従来のジョブシャドウイング事業はシャドウのみであったが、新たな取組みとして、メンターを通して働く人の就業感・その仕事への思いなどを取材し、コミュニケーション能力の向上や考える力を養うために実施する。また本事業では学校側が希望するキャリア教育をメニュー化し、教育現場が「選択と集中」ができる状況を作り、最も効果の高い事業を実施する。
 - ・ジョブシャドウイング事業の実施（中学校）
対象：中学1年生
内容：中学2年生で実施するインターンシップ前の意識向上を図るために学校側が希望するキャリア教育をメニュー化し、教育現場が「選択と集中」ができる状況を作り、最も効果の高い事業を実施する。
 - ・チャレンジJOB体験事業（仮称）
休日に小規模の人数で市内の受入企業にて実際の制服を着用し、スタッフとしての位置づけでチャレンジJOBを実施する。

3 那覇地区

平成24年 なはグッジョブ連携協議会

1 平成23年度 活動概況

(1) 協議会の概要と活動目的

都市化した那覇では、子どもの教育を学校や親だけで完結しなければならず、子どもが抱える多様な課題を解決することに困難な状況があった。そこで、ジョブシャドウイングなどキャリア教育の実践を通して、子どもの課題解決に地域組織・企業・行政・大学が関わり、連携する仕組みを作るため、なはグッジョブ連携協議会が発足した。

(2) H23年度活動概況とH24年度への展望

23年度は小学校2校で実施したが、実施後のメンターのアンケートから、メンター自身が観察から何を学ばせるのが解りにくく、戸惑っている様子を感じられた。さらに、今年度は実施回数や受入生徒数が増加するため、受入事業所との調整において円滑に進める必要があった。

そこで、ジョブシャドウイング学習の目的を明確化し、メンター及び受入企業が安心して実施できるように取組んだ。また、実施校では授業時間確保が一番の負担となるため、具体的な学習計画及び日数を提示して取組んだ。

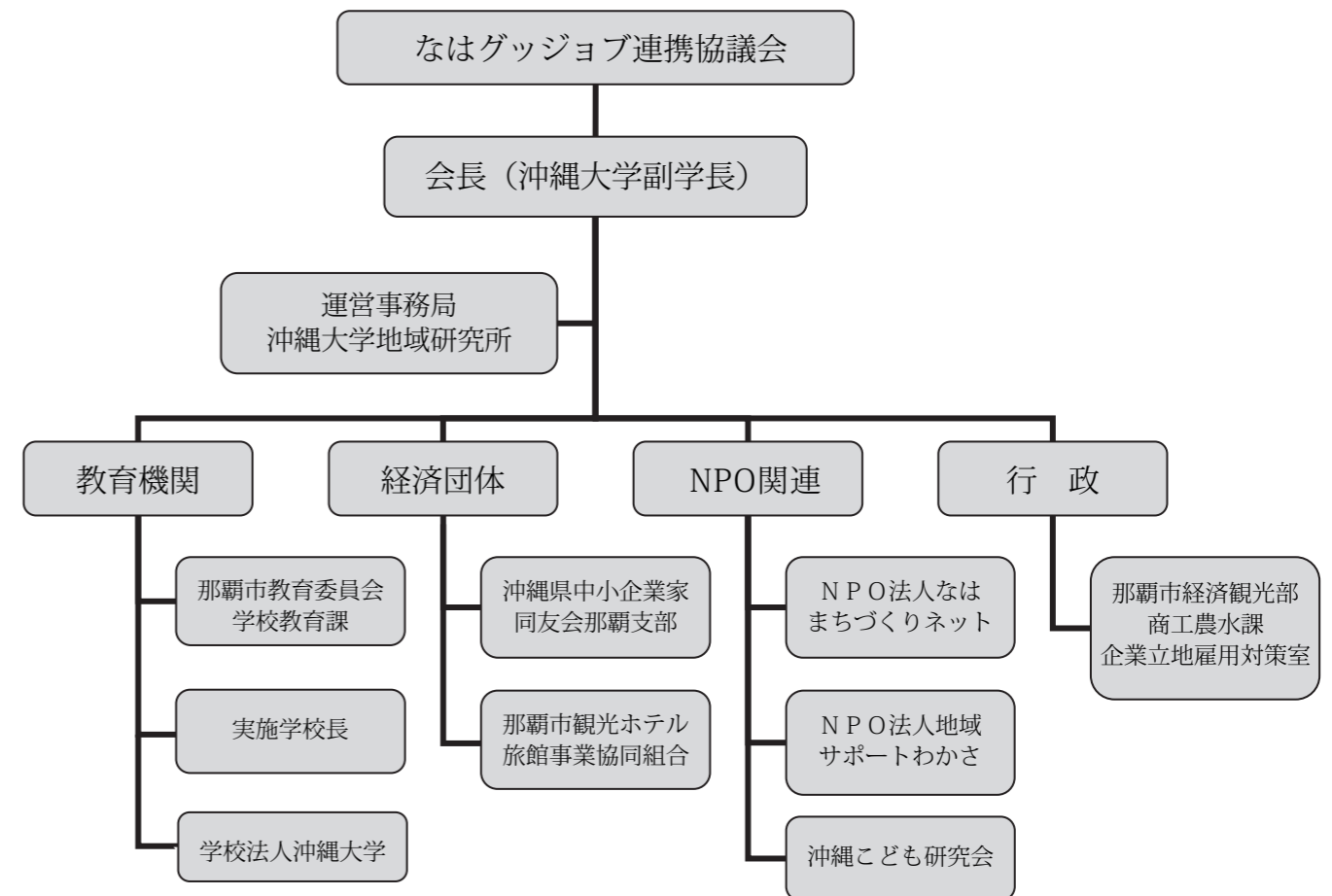
H23年度の課題	改善策
1) 小学校側から、「時間数の確保が大変」との意見が挙がっていた。	事前学習、事後学習を含めた時間数の目安を提示し、成果物のまとめも含めて事前に調整することで、時間数を数値化し、学校内での調整を円滑にする。
2) メンターのアンケート項目で「退屈させていないか気になった」の問いに対して、63.5%が「そうだった」「どちらか」とそうだった」と答えており、自由回答欄にも「どの様に仕事を見せるのか迷った」などの意見が挙がっていた。	学習目的、学習の流れ、観察に求めることをまとめた説明文を作成し、解りやすくする。

2 平成24年度 の取組

(1) 協議会について

協議会名称	なはグッジョブ連携協議会
所在地	沖縄県那覇市国場555 沖縄大学内
活動目的（理念）	本協議会は、産学官・地域及び家庭が連携し、地域が一体となった具体的な取組みを実施することにより、将来の地域の担い手となる児童生徒の勤労観・職業観の醸成を図るとともに、雇用を含めた地域課題の解決や地域全体の就業と子育て意識の向上を図ることを目的とする。

■構成表



なはグッジョブ連携協議会 会長・・・沖縄大学 副学長 同 事務局・・・沖縄大学地域研究所		
■構成団体名簿		
No.	団体名	役職
1	那覇市	経済観光部商工農水課 企業立地雇用対策室 参事兼室長
2	那覇市教育委員会	学校教育部学校教育課 課長
3	沖縄県中小企業家同友会（那覇支部）	副支部長
4	那覇市観光ホテル旅館事業協同組合	専務理事
5	特定非営利活動法人なはまちづくりネット	公民館リーダー
6	特定非営利活動法人地域サポートわかさ	若狭公民館事業部長
7	実施校	那覇市立識名小学校 校長 那覇市立若狭小学校 校長
8	沖縄子ども研究会	事務局
9	学校法人沖縄大学	副学長

(2) 事業計画（実績）報告

月	実績
4月	<ul style="list-style-type: none"> 市教育委員会へ挨拶 若狭小学校、識名小学校、松城中学校、古蔵中学校に調整、事前アンケート実施、学習スケジュール説明及び意見交換
5月	<ul style="list-style-type: none"> 第1回協議会開催 受入企業開拓 松城中学校 学習内容調整
6月	<ul style="list-style-type: none"> 松城中学校 事前学習実施、企業人講話調整 受入企業開拓
7月	<ul style="list-style-type: none"> 松城中学校ジョブシャドウイング実施 受入企業開拓 識名小学校、古蔵中学校 学習内容調整 石田中学校 校内研修会に参加
8月	<ul style="list-style-type: none"> 那覇商工会議所青年部 訪問 松城中学校 実施後意見交換 受入企業開拓 識名小学校 企業人講話調整
9月	<ul style="list-style-type: none"> 識名小学校 事前学習実施 古蔵中学校 事前学習実施、企業人講話調整 受入企業開拓

10月	<ul style="list-style-type: none"> 識名小学校ジョブシャドウイング実施 事後アンケート集計 若狭小学校 事前調整 受入企業開拓
11月	<ul style="list-style-type: none"> 若狭小学校 事前学習・企業人講話・ジョブシャドウイング実施 識名小学校 学習発表会参加 受入企業開拓
12月	<ul style="list-style-type: none"> 古蔵中学校ジョブシャドウイング実施 若狭小学校 学習発表会参加 事後アンケート集計 報告書作成 企業向け報告資料作成
1月	<ul style="list-style-type: none"> アンケート分析 次年度へ向けて市教育委員会、市企業立地雇用対策室と調整 協議会準備
2月	<ul style="list-style-type: none"> 第2回協議会開催 次年度向け資料作成 事務局、市教育委員会、市企業立地雇用対策室と調整
3月	<ul style="list-style-type: none"> 報告書作成 実施小学校 卒業式参加

(3) 受入企業について

実施校と実施人数の増加に対応するため、一度に多くの受入れが可能な事業所だけでなく、複数回受入れが可能な事業所の獲得を目指し、案内を行った。また、児童生徒向けの事前アンケートで関心があった業種などにも依頼し、多様な業種と出会う機会となるよう心掛け、企業開拓を行った。

No.	企業名	業種	受入人数	取りまとめ窓口
1	那覇市教育委員会	学校教育	4	協議会
2	郵便局株式会社 真和志郵便局	郵便局	2	協議会
3	株式会社波の上自動車学校	その他の教育	9	協議会
4	株式会社琉球ファクトリー	専門サービス業	4	事業局
5	株式会社ラジカル沖縄	職業紹介業	2	協議会
6	株式会社求人おきなわ	職業紹介業	10	事業局
7	沖縄県立博物館・美術館	その他の教育	5	協議会
8	ジュンク堂書店 那覇店	その他の小売業	15	協議会
9	沖縄県農業協同組合真和志支店 JA 真和志	協同組織金融業	4	協議会
10	沖縄県農業協同組合真和志支店 JA 国場支店	協同組織金融業	6	協議会

11	株式会社ティオーエイチ 東京第一ホテル那覇シティリゾート	宿泊業	8	協議会
12	沖縄県ホテル旅館生活衛生同業組合	その他の卸売業	2	協議会
13	有限会社スタプランニング	不動産賃貸業	2	協議会
14	有限会社なんくる デイサービス繁多川	社会保険・社会福祉・介護事業	17	協議会
15	有限会社なんくる デイサービス三原	社会保険・社会福祉・介護事業	9	協議会
16	有限会社なんくる デイサービス識名	社会保険・社会福祉・介護事業	2	協議会
17	有限会社なんくる グループホームたけとんぼ	社会保険・社会福祉・介護事業	6	協議会
18	繁多川借生園デイサービスセンター	社会保険・社会福祉・介護事業	14	協議会
19	医療法人育泉会 識名清風苑	社会保険・社会福祉・介護事業	6	協議会
20	医療法人愛和会 池田苑・ファミリークリニック	社会保険・社会福祉・介護事業	4	協議会
21	那覇市安謝福祉複合施設 (日本赤十字沖縄支部)	社会保険・社会福祉・介護事業	6	協議会
22	日本赤十字沖縄支部赤十字血液センター	医療業	2	協議会
23	医療法人おもと会 大浜第一病院	医療業	3	協議会
24	有限会社アンテナ	専門サービス業	6	協議会
25	株式会社リマップロ	専門サービス業	2	事業局
26	株式会社アルペン スポーツデポ天久店	その他の小売業	12	協議会
27	いしだ丘保育園	社会福祉	5	協議会
28	沖縄ワタベウェディング株式会社	その他生活関連サービス業	3	協議会
29	社団法人那覇市観光協会	その他生活関連サービス業	2	協議会
30	沖縄県庁	地方公務員	13	事業局
31	沖縄県教育庁	地方公務員	2	事業局
32	那覇市役所	地方公務員	3	協議会
33	那覇市立若狭浦保育所	社会福祉	4	協議会
34	那覇市歴史博物館	その他の教育	11	協議会
35	那覇市繁多川公民館	その他の教育	9	協議会
36	那覇市繁多川図書館	その他の教育	2	協議会
37	那覇市IT創造館	その他の教育	3	協議会
38	那覇市立若狭公民館	その他の教育	10	協議会
39	漫湖水鳥・湿地センター	その他の教育	2	協議会
40	奥武山公園運営管理事務所	その他の教育	3	協議会
41	沖縄県立図書館	その他の教育	2	協議会
42	那覇市第一牧志公設市場組合	各種商品小売業	7	協議会
43	沖縄都市モノレール株式会社本社	鉄道業	12	事業局

44	沖縄都市モノレール株式会社那覇空港駅	鉄道業	2	事業局
45	沖縄都市モノレール株式会社県庁前駅	鉄道業	2	事業局
46	沖縄経済同友会 事務局	経済団体	7	事業局
47	沖縄ビル管理株式会社	不動産管理業	6	協議会
48	沖縄総合警備保障株式会社	その他の事業サービス業	4	協議会
49	財団法人沖縄観光コンベンションビューロー	その他生活関連サービス業	17	事業局
50	壺屋焼窯元育陶園	その他の製造業	9	協議会
51	株式会社お菓子のボルシェ	飲食料点小売業	14	協議会
52	有限会社カネヤマ水産	飲食料品卸売業	8	協議会
53	琉風株式会社	飲食料品卸売業	9	協議会
54	動物病院 22時株式会社 那覇医院	その他生活関連サービス業	2	協議会
55	株式会社琉球補聴器	その他生活関連サービス業	4	協議会
56	興南アイドマ印刷(営業・企画)	印刷業	2	協議会
57	有限会社福琉印刷	印刷業	6	協議会
58	文進印刷株式会社	印刷業	4	協議会
59	有限会社クリエイティブ	美容業	4	協議会
60	株式会社樹来	飲食店	2	協議会
61	株式会社りゅうせきロジコム 那覇物流センター	熱供給業	4	事業局
62	株式会社サンエー サンエー経塚シティ	各種商品小売業	8	事業局
63	株式会社サンエー サンエー那覇メインプレイス	各種商品小売業	4	事業局
64	有限会社首里琉染	織物・衣服小売業	4	協議会
65	童夢幼児園・保育園	社会福祉	6	協議会
66	株式会社 PASCO SPACE MAPPING TECHNOLOGY	専門サービス業	6	協議会
67	繁多川自治会	分類不能	2	協議会
68	スタジオハリウッド	その他生活関連サービス業	2	協議会
69	桜坂劇場	娯楽業	3	協議会
70	株式会社アメニティだいこんの花小緑店	飲食店	2	協議会
71	株式会社トヨタレンタリース沖縄	その他の生活関連サービス業	9	協議会
72	学校法人フジ学園	学校教育	4	協議会
73	学校法人沖縄大学	学校教育	2	協議会
74	合資会社沖縄関ヶ原石材	その他の小売業	2	協議会
75	ゆいワークス株式会社	映像・音声・文字情報制作業	4	協議会
76	スカイホールディングス株式会社	その他の生活関連サービス業	12	協議会
77	株式会社ジャンボツアーズ	その他の生活関連サービス業	4	協議会
78	株式会社普天間商会 普天間洋服店	織物・衣服小売業	4	協議会

79	株式会社りゅうせき建設	総合工事業	2	事業局
80	大晋建設株式会社	総合工事業	8	協議会
81	タマキハウジング株式会社	総合工事業	4	協議会
82	タマキホーム株式会社	総合工事業	4	協議会
83	株式会社かりゆし 沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ	宿泊業	1	協議会
84	株式会社ロワジュール・ホテルズ沖縄	宿泊業	2	協議会
85	ホテル日光	宿泊業	4	協議会
86	ホテルサン沖縄	宿泊業	2	協議会
87	株式会社まえたか 那覇セントラルホテル	宿泊業	2	協議会
88	ダイワロイヤル株式会社 ダイワロイネットホテル沖縄県庁前	宿泊業	2	協議会
89	ダイワロイヤル株式会社 ダイワロイネットホテル那覇国際通り	宿泊業	2	協議会
90	ダイワロイヤル株式会社 ダイワロイネットホテル那覇おもろまち	宿泊業	2	協議会
91	株式会社ラジオ沖縄	放送業	6	協議会
92	株式会社エフエム那覇・タイフーン FM	放送業	6	協議会
93	ニコニコ整形外科	医療業	2	協議会
94	沖縄ガスリビング株式会社	熱供給業	2	事業局
95	ソニービジネスオペレーションズ株式会社	情報サービス業	10	協議会
96	琉球日産自動車株式会社 南風原営業所	自動車整備業	3	協議会
97	新沖縄スバル株式会社	自動車整備業	4	協議会
98	沖縄トヨタ自動車株式会社	自動車整備業	2	事業局
99	おきなわ証券株式会社	金融商品取引業	2	事業局
100	株式会社リウボウインダストリー	各種商品小売業	1	事業局
101	フィッシング王国サンノリー2 曙店	その他の小売業	3	協議会
102	花の店なかじま	その他の小売業	2	協議会
103	株式会社シュガートレイン	映像・音声・文字情報制作業	2	協議会
104	株式会社スズケン沖縄薬品	その他の小売業	5	事業局
105	財団法人沖縄県学校給食会	その他の生活関連サービス業	4	協議会
106	エイアンドダブリュ沖縄株式会社 A&W 古波蔵店	飲食店	2	協議会
107	東亜運輸株式会社	水運業	3	事業局
108	コープおきなわ協同組合 小禄店	各種商品小売業	4	協議会
109	沖縄県物産公社わしたショップ那覇空港店	各種商品小売業	2	協議会
		受入人数 合計	537	人

※協議会…なはグッジョブ連携協議会の略 事業局…グッジョブおきなわ推進事業局の略

(4) 実施校 活動報告

※JS：ジョブシャドウイングの略 ※コマ数（1校時）：小学校45分、中学校50分を指す

1	学校情報	那覇市立 識名小学校（継続）	校 長：大湾 清彦			
		住 所：〒902-0078 那覇市識名2丁目2番地1号				
		電 話：098-917-3310	F A X：098-917-3350			
	実施概略	対象学年：6年生 4クラス 153人（内 実施151人）				
		担 当：宮城 正（学年主任）、野原 均（キャリア教育担当）				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習：平成 24年 9月 3日～24日		2コマ	4コマ	6コマ
	J S 実施：平成 24年 10月 2日			4コマ	4コマ	
	事後学習：平成 24年 10月 2日～11月 16日		6コマ		6コマ	
	特記事項	地域との連携が活発で、各学年で地域の講師が関わる授業などを展開している。3年目の継続校として、学校と保護者との連携を意識して取組んだ。その結果、保護者から受入事業所を紹介いただくこともあり、また、事後学習発表会を実施するだけでなく、学芸会でジョブシャドウイングの様子を劇として発表することで、多くの保護者に情報を共有することができた。				
2	学校情報	那覇市立 若狭小学校（継続）	校 長：桃原 廣市			
		住 所：〒900-0031 那覇市若狭2丁目16番地1号				
		電 話：098-917-3312	F A X：098-917-3352			
	実施概略	対象学年：6年生 2クラス 58人（内 実施58人）				
		担 当：具志堅 恵美子（学年主任）				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習：平成 24年 11月 21日・26日		2コマ	4コマ	6コマ
	J S 実施：平成 24年 11月 27日			4コマ	4コマ	
	事後学習：平成 24年 11月 28日～12月 12日		6コマ		6コマ	
	特記事項	2年目の実施のため、円滑に実施することができた。生徒の特長として、人と話すことに慣れているので、「知りたいことを丁寧に質問する」ことを重視し、事前学習を行った。学習発表会には5年生も参加し、発表を聞いた後に質問をするなど、学年同士がつながる学習の機会となった。				

3	学校情報	那覇市立 松城中学校 (新規)	校 長：中村 昌隆		
		住 所：〒902-0071 那覇市繁多川3丁目15番地1			
		電 話：098-917-3414	F A X：098-917-3434		
	実施概略	対 象 学 年：2年生 3クラス 111人 (内 実施 109 人)			
	担 当：吉田 妙子 (学年主任)				
	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
	事前学習：平成 24年 6月 20日 ~ 27日		1コマ	4コマ	5コマ
	J S 実施：平成 24年 7月 4日		4コマ		4コマ
	事後学習：平成 24年 7月 4日 ~ 20日		3コマ	1コマ	4コマ
	特記事項	<p>1学年110名程度と、市内では小規模な中学校。校区には識名小学校も含まれる。担当教員との調整で、「静かで質問が少ない」という点が挙がったため、実施に際しては「知りたいことをしっかり質問しよう」を学習成果の一つに掲げ、コミュニケーションを重視したワークを取り入れ、メンターへ聞きたいこと等を準備した。</p> <p>実施後に「質問できなかった」と悔やむ姿も見られたが、「来月の職場体験の時に頑張ってチャレンジしよう」と次につなげることができた。</p>			
4	学校情報	那覇市立 古蔵中学校 (新規)	校 長：上原 秀人		
		住 所：〒900-0024 那覇市古波蔵4丁目8番地1号			
		電 話：098-917-3409	F A X：098-917-3429		
	実施概略	対 象 学 年：1年生 6クラス 230人 (内 実施 221人)			
	担 当：友寄 隆江 (学年主任)				
	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
	事前学習：平成 24年 9月 7日 ~ 12月 11日		2コマ	5コマ	7コマ
	J S 実施：平成 24年 12月 14日			4コマ	4コマ
	事後学習：平成 24年 12月 14日~		3コマ		3コマ
	特記事項	<p>古蔵中学校では近年、キャリア教育に力を入れており、生徒の意欲や関心も高かった。大規模校のため、事前学習ではインタビューワークやグループワークを取り入れ、学ぶ内容や目的を具体的に説明するように心がけた。</p> <p>実施の送迎などでは、保護者の協力を得ることが難しく、事務局スタッフ及び教員で、バス5台、ジャンボタクシー5台他車両を使用して送迎を行った。</p>			



【事前学習】
インタビューの練習を事前学習で行う。



【企業人講話】
中学生と社会人とのつながりを講話で考える。



【出発式】「みんなでグッジョブ！」でスタート。



【JS実施中】緊張の初対面。



【事後学習】
授業外でもまとめを続ける生徒たち。



【発表会】
発表会では、大きな声で発表していました。

(5) 実施総括（成果と課題）

今年度は昨年度の気づきを活かし、メンターと生徒のコミュニケーションを深め、質問をできる関係づくりを深めることを重視し、事前学習やメンター向け説明資料の作成を行った。その結果として、生徒の壁新聞の文字量も前年より増加していた。

3回目の実施となる識名小学校では、保護者の職場でのジョブシャドウイング実施を案内する、学芸会の出し物として発表するなど、教員との連携で新しい取組みも行うことが出来た。その結果、保護者自らが企業開拓を行うなど、連携を深めることにつながった。

しかし、実施回数および受入生徒数が昨年度の倍以上に増加したため、受入先の確保がコーディネーターによる対応だけでは間に合わず、事業局の支援を受けて対処する状況となった。協議会各委員には、受入先を確保するための事業所情報の提供などをいただいたが、具体的な調整が間に合わない状態となったため、協議会メンバーとの役割分担に課題が残った。実施校や受入事業所との調整を短時間で処理したことで、中学校では職場体験との目的の違いや進行の違いへの理解が深まらず、当日の様子を見て納得していただくケースもあった。

	事例	課題	今後の取組についての展望・改善点
実施校 /保護者	<ul style="list-style-type: none"> 実施生徒の保護者へ引率協力、メンター協力の案内を実施したところ、受入先を紹介していただいた。 保護者がジョブシャドウイング学習について知らず、引率の際に内容について丁寧に説明する必要があった。 大規模校のため送迎を現地集合の方法で実施したいとの学校からの要望があったが、企業側への配慮から、学校出発で実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への案内が1度だけだったため、理解が深まらなかった。 大規模校、保護者の状況などの特徴を把握していなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会や3者面談など、保護者と直接顔合せのできる機会を確保することが重要。 上記同様、保護者へ直接会える機会に案内することが必要。 具体的流れを先生と共有し、事前学習の内容を深め、現地集合でも対応できる学習計画にするなど、学校の状況に合わせた学習スタイルにすることも必要だと考える。
教育機関	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会から、次年度実施校の呼びかけなどの案内を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 呼びかけ、実施先の選定や調整など、学校との窓口を統一する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明会の実施など、関心を持つ先生へ直接説明できる機会があると、その後も進めやすい。
地域 コミュニティー	<ul style="list-style-type: none"> 自治会や地域公民館にジョブシャドウイングの受入、引率を行った。 地域の方に引率をしていただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在はジョブシャドウイング実施に関する依頼を受けていただいている関係のため、互いに協力し合う関係になる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業以外との連携なども行う事で、学習の時間以外での交流も深めることが出来る。

行政	<ul style="list-style-type: none"> 市役所内で生徒受入をいただいた。 関係事業所の紹介をいただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の積極的な開拓など、連携して取り組む関係づくりを深める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 関連事業所の紹介や調整など、行政の持つ資源を生かす視点での連携関係を深めることが必要。
経済団体	<ul style="list-style-type: none"> 加盟事業所への案内、受入先の紹介、加盟企業の情報提供をいただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 詳細な説明ができないため、コーディネーターとの説明に食い違いがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 受入先の確保を協力いただく場合、説明内容をまとめたマニュアルを作成するなどの工夫が必要。

3 その他の取組や実績

○那覇市内小・中学校の校内研修にてジョブシャドウイング学習の講話を実施

ジョブシャドウイングの実施校以外でも、教員対象の校内研修にて、県内の失業率や早期離職率の状況を紹介し、課題解決としてのキャリア教育の重要性について説明し、観察型キャリア学習の役割について解説する講話を、事業局と連携して実施した。

4 今後の展開について

これまでの実施を通して、学校現場ではジョブシャドウイングのほか、企業人講話の講師や職場体験の受入先、キャリア学習に関連する学習プログラムなど、多様な地域の情報や連携を求めていることが解った。

また、学校での職業観育成を外部から支える事業所からも、人材育成に関する意見や要望をいただいた。このことから、地域の事業所や企業を含め、次世代の人材育成に関する情報共有、意見交換、共通の目標設定が必要であることを実感した。

2月12日に実施した第2回の協議会では、この2年間の取組みとともに、今後の展開について話し合われた。実施校からは、様々な支援が選べることが重要であり、学校から企業と連携する点に課題があるため、今後も何らかの支援を必要としているとの意見があった。また、NPO法人なはまちづくりネットからは、ひきこもりの若者自立支援に取り組んでいる経緯もあり、産学官の多様な参加者と人材育成についての議論ができる場づくりの重要性について意見があった。また、那覇市観光ホテル旅館事業協同組合からは、法人格を持った組織として自立し、人材育成支援と企業の人材問題の解決につながる取組みとすることなどの提案があった。

この様な意見をもとに、協議会では次年度以降も沖縄大学を事務局として、活動を継続することが決定した。今後は、これまでの取組みを活かした学校現場のキャリア学習支援に取り組むとともに、大学生を対象とした企画の実施や、人材育成についての課題を多様な参加者と共有する円卓会議の開催など、地域全体の人材育成意欲を向上させる取組みにつなげていこうと検討している。

4 豊見城地区

平成24年 豊見城市地域雇用創造推進協議会

1 平成23年度 活動概況

(1) 協議会の概要と活動目的

本市の労働力人口は25,545人（平成17年国勢調査）、年齢構成別では、15歳から39歳までの労働人口は全体の49.5%を占めている。常用有効求人倍率は、平成21年度には0.21倍となり、完全失業率は12.8%（平成17年国勢調査）で、非常に厳しい雇用情勢が続いている。若年者の雇用の課題を解決するため、平成23年度から県の「産学官・地域連携就業意識向上支援事業（以下、「本事業」という）」を活用。ジョブシャドウイング部会を発足させた。

(2) H23年度活動概況とH24年度への展望

豊見城地区は、市内小学校7校・中学校3校あり各校の児童、生徒の在籍数が多く中学校は平均200人を超える。昨年の課題として中学校側から、全生徒に実施してほしいとの要望があった。改善策として既存のキャリア教育と融合し補完できるカリキュラム作り、体制作りに取り組み実施した。

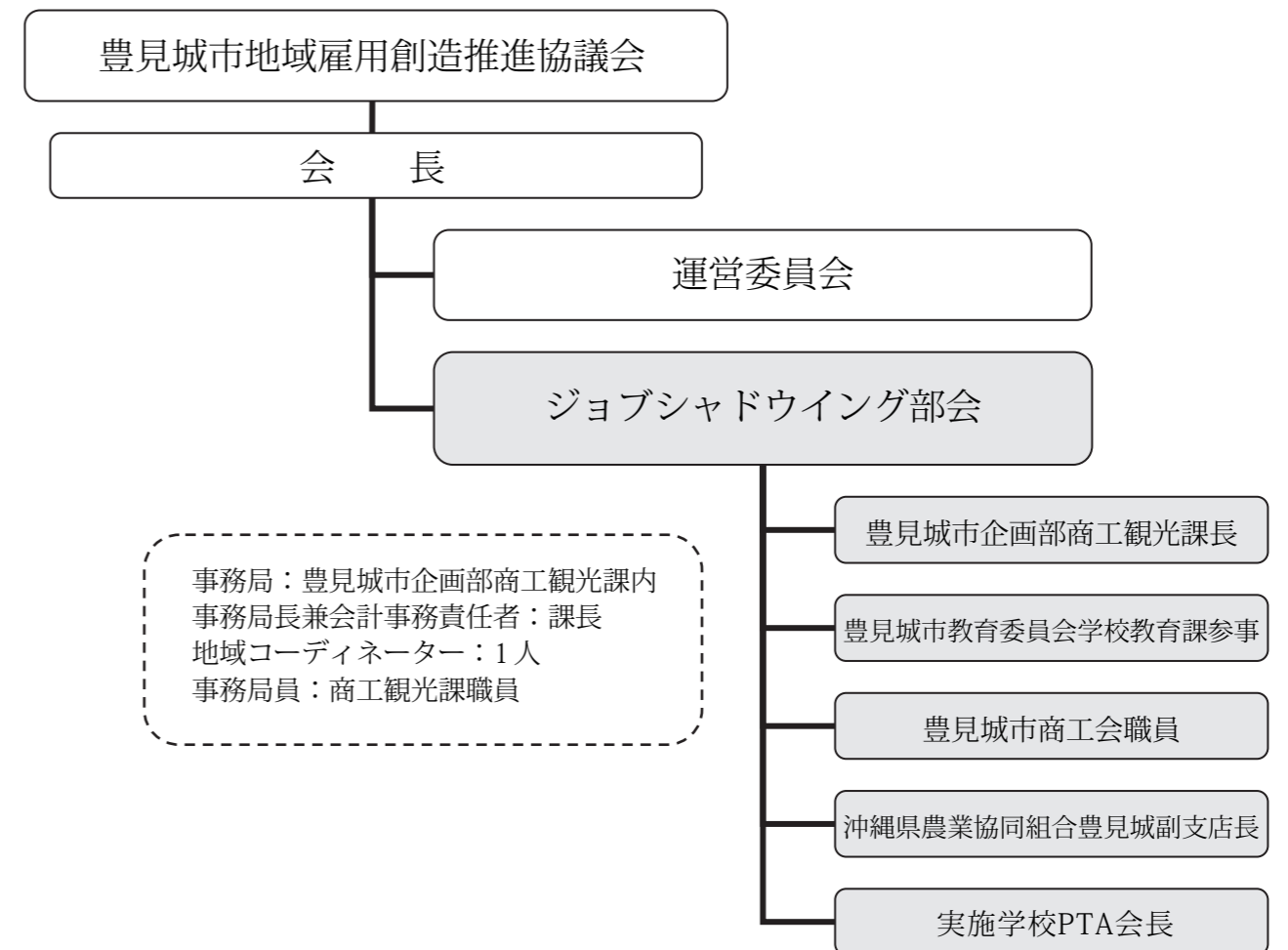
H23年度の課題	改善策
1) 中学校側から、既存のキャリア教育と融合し補完できるカリキュラムで実施してほしいとの要望があった。	中学校の職場体験と融合補完できるカリキュラム作りを学校と作成。職場体験の初日午前中、ジョブシャドウイングを実施した。
2) 簡素化できるところを協議し、関係者の負担軽減を図り子どもたちと関わる時間を増やす工夫が必要。	既存のキャリア教育と共通している部分を統合し、ジョブシャドウイングの特徴を活かしつつ、学校が自主的に取組めるようにした。学校行事として取組んだことで、関係者の負担軽減ができ、より高い教育効果が得られた。
2) 地域の特性、優位性を活かした実施にしたい。	学校、協議会で構築したプログラムで、産学官、地域や家庭の関わりやすい状況をつくり、子どもたちにより良い環境でキャリア教育を提供した。

2 平成24年度の取組

(1) 協議会について

協議会名称	豊見城市地域雇用創造推進協議会
所在地	沖縄県豊見城市翁長854-1
活動目的（理念）	本協議会（部会）では、豊見城地区で実施する「ジョブシャドウイング事業」について、産学官・地域及び家庭が連携し、一体となった具体的な取組みをする。次代の豊見城地区の担い手となる児童生徒の勤労観・職業観の醸成を図るとともに、雇用問題の解決や地域全体の就業意識の向上を図ることを理念とする。

■構成表



ジョブシャドウイング部会 部長・・・豊見城市企画部商工観光課長		
同 事務局・・・豊見城市企画部商工観光課		
■構成団体名簿		
No.	団体名	役職
1	豊見城市	企画部商工観光課長
2	豊見城市教育委員会	学校教育課参事
3	豊見城市商工会	職員
4	JA沖縄豊見城支店	副支店長
5	実施校(小学校)	校長
	実施校(中学校)	校長
6	実施校PTA(小学校)	会長
	実施校PTA(中学校)	会長

(2) 事業計画(実績)報告

月	実績
4月	<ul style="list-style-type: none"> 市教育委員会、豊見城中学校担当教諭へ挨拶・意見交換 豊見城中学校 職場体験との融合について調整 市商工会総会にて、メンター募集要項配布 豊見城中学校 企業リストと協議会企業リスト活用、調整
5月	<ul style="list-style-type: none"> 豊見城中学校 受入企業開拓、調整 豊見城中学校 行事と連携、調整 受入企業、市商工会に企業人講話を依頼 豊見城中学校にて企業人講話(七職種)実施 豊見城中学校 企業人講話の新聞社取材依頼 とよみ小学校挨拶、事業説明(参加者:校長、教頭、各クラス担任、教育委員会、市商工観光課、コーディネーター)
6月	<ul style="list-style-type: none"> 企業人講話お礼状を作成し郵送 第1回協議会(JS部会)開催 とよみ小学校6年生に、マナー学習実施 豊見城中学校調整、備品届ける(事前・事後学習テキスト、観察シート、名刺ホルダー) 受入企業調整 豊見城中学校事前学習Ⅲマナー研修参加 学校の人的ネットワークの活用、KBC学園マナー担当講師七人と意見交換

7月	<ul style="list-style-type: none"> 豊見城中学校ジョブシャドウイング+職場体験実施、事後学習 市教育委員会主催の初任者・十年者研修にて事業説明とマナー学習を担当 とよみ小学校 職員校内研修にて事業説明とマナー学習を担当 とみぐすく祭りにて、協議会ブース担当
8月	<ul style="list-style-type: none"> とよみ小学校 講師依頼文、保護者送迎依頼文書を作成 企業人講話 講師を依頼 受入企業開拓、リスト作成
9月	<ul style="list-style-type: none"> 法人保育園園長会議にて事業説明、受入協力依頼 とよみ小学校 事前学習実施、報告書作成 とよみ小学校 企業人講話実施、報告書作成 保護者送迎者リスト、案内文作成 受入企業(39社)との最終調整
10月	<ul style="list-style-type: none"> とよみ小学校ジョブシャドウイング実施 受入企業に、お礼文書・アンケート郵送 とよみ小学校 保護者送迎者にお礼文書 豊見城中学校 発表会を見学 市教育委員会へ簡易報告書提出 とよみ小学校 児童アンケートまとめ 豊見城中学校 生徒アンケートまとめ 南部農林高校 進路担当教諭と意見交換
11月	<ul style="list-style-type: none"> 南部農林高校の事業説明資料作成 第2回キャリア教育担当者連絡会にてとよみ小学校、豊見城中学校実施報告 市教育委員会へヒアリング 南部農林高校 各クラス担任に事業説明 意見交換 平成24年度報告書作成
12月	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度報告書作成 南部農林高校 調整 資料作成 全体会議報告書作成
1月	<ul style="list-style-type: none"> とよみ小学校 発表会参加 南部農林高校 企業開拓 南部農林高校 就業促進講演会 南部農林高校 事前、事後カリキュラム作成
2月	<ul style="list-style-type: none"> 南部農林高校 事前・事後学習 南部農林高校ジョブシャドウイング実施
3月	<ul style="list-style-type: none"> 第2回協議会(JS部会)開催、資料作成 平成24年度報告書作成 WEB版

(3) 受入企業について

No.	企業名	業種	受入人数	取りまとめ窓口
1	豊見城中央病院附属 健康管理センター	医療業	2	協議会
2	豊見城中央病院附属 豊崎クリニック	医療業	2	協議会
3	株式会社琉球バス交通	道路旅客運送業	12	協議会
4	沖縄アウトレットモールあしびなー	織物・衣服・身の回り品小売業	4	協議会
5	OTSレンタカー	物品賃貸業	3	協議会
6	沖縄ツーリスト株式会社	その他の生活関連サービス業	7	協議会
7	株式会社戸田書店 豊見城店	その他の小売業	6	協議会
8	ソニービジネスオペレーションズ株式会社	情報サービス業	9	協議会
9	株式会社ミヤギパッケージ	パルプ・紙・紙加工品製造業	4	協議会
10	合資会社琉通航空	航空運輸業	2	協議会
11	沖縄特産販売株式会社	飲食料品小売業	12	協議会
12	株式会社拓琉金属 豊崎工場	鉄鋼業	2	協議会
13	特産品ショップ 美童	飲食料品小売業	2	商工会
14	JA おきなわ食菜館 「菜々色畑」	飲食料品小売業	2	協議会
15	道の駅「豊崎」情報ステーション	地方公務	4	協議会
16	りゅうせき建設びたホーム豊崎	不動産取引業	2	事業局
17	介護付き有料老人ホームとよさき	介護事業	8	協議会
18	忠孝酒造株式会社 くうすの杜忠孝蔵	飲料製造業	2	商工会
19	株式会社ジョインFPサポート	専門サービス業	2	商工会
20	琉球エアークommunity株式会社	航空運輸業	2	協議会
21	株式会社テンポンドジャパン回転寿司 雅	飲食店	8	豊見城中学校
22	沖縄コカ・コーラボトリング株式会社	飲料製造業	4	協議会
23	株式会社GENコーポレーション アジアン薬局	その他の小売業	2	協議会
24	沖縄銀行 豊見城支店	銀行業	4	協議会
25	沖縄文化シャッター株式会社	金属製品製造業	4	協議会
26	旧海軍司令部壕事業所	その他の教育・学習支援業	2	事業局
27	漫湖水鳥・湿地センター	その他の教育・学習支援業	2	協議会
28	株式会社サンエー サンエーウィングシティ豊見城店	各種商品小売業	5	事業局
29	第一印刷株式会社	印刷・同関連業	4	協議会
30	大星広告	その他の製造業	2	商工会
31	那覇鋼材株式会社	金属製品製造業	3	協議会

32	株式会社東部自動車	自動車整備業	5	豊見城中学校
33	株式会社 琉球漆器	その他の小売業	2	協議会
34	ピッツェリア ナポレターナ ブッフアロ	飲食店	2	商工会
35	株式会社みたのクリエイト仲買マーケット	飲食店	4	協議会
36	那覇空港観光案内所	情報サービス業	1	事業局
37	豊見城市商工会	政治・経済・文化団体	2	商工会
38	ケーキの店 プール・ザー	飲食店	2	商工会
39	豊崎保育園	社会福祉事業	5	協議会
40	有限会社アイランドワークス追風丸 豊崎店	飲食店	2	豊見城中学校
41	株式会社 JCCはなまるうどん 豊崎とみとん店	飲食店	3	豊見城中学校
42	株式会社 JCCはなまるうどん マックスバリューとよみ店	飲食店	3	豊見城中学校
43	与那原家II	飲食店	3	豊見城中学校
44	株式会社ブリックス ほっともっと豊見城中央店	持ち帰り・配達飲食サービス業	3	豊見城中学校
45	asian café ChaiDee (アジアンカフェ チャイディー)	飲食店	2	豊見城中学校
46	沖縄三越豊崎マイキッチン	各種商品小売業	3	豊見城中学校
47	モスバーガー南風原店	飲食店	3	豊見城中学校
48	ケンタッキークイーン武富店	飲食店	1	豊見城中学校
49	カバのパン屋さん	食料品製造業	3	豊見城中学校
50	有限会社ハマキョーパン	食料品製造業	3	豊見城中学校
51	手作りパンの店 しまや	食料品製造業	4	豊見城中学校
52	有限会社ドッグスハンド託児所せせらぎ保育園	社会保険・社会福祉・介護事業	3	豊見城中学校
53	つばみ保育園	社会保険・社会福祉・介護事業	4	豊見城中学校
54	あゆみ保育園	社会保険・社会福祉・介護事業	3	商工会
55	ゆたか保育園	社会保険・社会福祉・介護事業	2	豊見城中学校
56	とよみ保育園	社会保険・社会福祉・介護事業	5	豊見城中学校
57	むつみ保育園	社会保険・社会福祉・介護事業	6	豊見城中学校
58	上田保育所	社会保険・社会福祉・介護事業	4	豊見城中学校
59	大地保育園	社会保険・社会福祉・介護事業	8	豊見城中学校
60	座安保育所	社会保険・社会福祉・介護事業	3	豊見城中学校
61	キッズクラブ クローバー	社会保険・社会福祉・介護事業	3	豊見城中学校
62	美容室なないろ MV小祿店	理容・美容業	2	豊見城中学校

63	アルヴェール	飲食料品小売業	2	豊見城中学校
64	千代田プライダルハウス 那覇西町店	物品賃貸業	2	豊見城中学校
65	夢菓子工房 トックドール	飲食料品小売業	4	豊見城中学校
66	有限会社わかまつどう製菓	食料品製造業	2	豊見城中学校
67	千代田プライダルハウス 豊崎店	物品賃貸業	2	豊見城中学校
68	美容室なないろ小緑店	洗濯・理容・美容・浴場業	3	豊見城中学校
69	パーマ太郎	洗濯・理容・美容・浴場業	3	豊見城中学校
70	株式会社 LifeTime Company エモーション	洗濯・理容・美容・浴場業	4	豊見城中学校
71	メンズハウス BON	洗濯・理容・美容・浴場業	1	豊見城中学校
72	Hair atelier ヘアーあとりえ	洗濯・理容・美容・浴場業	3	商工会
73	castle hill 株式会社アネモステラス豊見城店	洗濯・理容・美容・浴場業	2	協議会
74	有限会社珍品堂	食料品製造業	3	豊見城中学校
75	happy flower 一花 (いちか)	その他の小売業	2	豊見城中学校
76	豊見城市立中央図書館	その他の教育・学習支援業	2	豊見城中学校
77	真玉橋郵便局	郵便局	2	豊見城中学校
78	座安幼稚園	学校教育	5	豊見城中学校
79	上田小学校	学校教育	4	豊見城中学校
80	豊見城小学校	学校教育	5	豊見城中学校
81	豊見城市消防本部	地方公務	5	豊見城中学校
82	豊見城市役所	地方公務	2	協議会
83	野球工房くばがわ	その他の小売業	2	豊見城中学校
84	株式会社沖縄スイミングスクール (ガルフスポーツクラブ豊見城)	その他の教育・学習支援業	5	豊見城中学校
85	ファミリーマート根差部店	飲食料品小売業	4	豊見城中学校
86	ファミリーマート ニュータウン店	飲食料品小売業	4	豊見城中学校
87	ローソン豊崎店	飲食料品小売業	2	豊見城中学校
88	スポーツデポ豊崎店	その他の小売業	4	豊見城中学校
89	ゴルフ5 豊崎店	その他の小売業	1	豊見城中学校
90	ファミリー給油所	その他の小売業	2	豊見城中学校
91	JA グリーン豊見城店	その他の小売業	2	豊見城中学校
92	那覇ダイビングサービス	娯楽業	2	豊見城中学校
93	豊見城中央病院	医療業	4	協議会
94	とよみ生協病院	医療業	3	豊見城中学校
95	動物病院 22時	医療業	2	豊見城中学校
96	有限会社仲村自動車整備工場	自動車整備業	5	豊見城中学校

97	ベッツステーションワン	娯楽業	3	豊見城中学校
98	沖縄トヨタ自動車株式会社 カーランド豊見	機械器具小売業	4	豊見城中学校
99	株式会社求人おきなわ	広告業	3	豊見城中学校
100	那覇市沿岸漁業協同組合	共同組合	4	豊見城中学校
101	有限会社ミサキ工務店	総合工事業	2	豊見城中学校
102	沖縄ヤクルト株式会社 豊見城センター	飲食料品小売業	5	豊見城中学校
103	ドコモショップ豊見城店	その他の小売業	2	豊見城中学校
104	株式会社メイクマン 豊見城店	その他の小売業	4	豊見城中学校
105	マックスバリュ豊見城店	その他の小売業	8	豊見城中学校
106	ドコモショップモバイルタウン小緑店	その他の小売業	3	豊見城中学校
107	マンガ倉庫 那覇店	その他の小売業	3	豊見城中学校
108	くば笠屋 平和通り店	その他の小売業	2	豊見城中学校
109	株式会社 FMとよみ	放送業	2	協議会
110	株式会社いとまんコミュニティエフエム放送	放送業	4	豊見城中学校
111	糸満ホスピタリティ株式会社 サザンビーチホテル&リゾート	宿泊業	4	豊見城中学校
112	NBC サムシングフォー西崎	その他の生活関連サービス業	2	豊見城中学校
113	上原ミート株式会社	食料品製造業	1	協議会
			受入人数 合計	404 人

※協議会・・・豊見城市地域雇用創造推進協議会

(4) 実施校 活動報告

今年度は、豊見城市立とよみ小学校5年生、豊見城市立豊見城中学校2年生、沖縄県立南部農林高校1年生で実施。学校の特色とネットワークを活用し、産学官・地域連携の仕組みを共に構築できた実施となった。

※JS：ジョブシャドウイングの略 ※コマ数（1校時）：小学校45分、中学校50分を指す

1	学校情報	豊見城市立 とよみ小学校（新規）	校 長：金城 桂子			
		住 所：〒901-0242 豊見城市字高安1132-2				
		電 話：098-850-8030		F A X：098-850-8034		
	実施概略	対象学年：5年生 3クラス 119人（内 実施 116人）				
		担 当：當山（1組担任）、真玉橋（2組担任）、内間（3組担任）				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習：平成 24年 9月 11日			2コマ	
		企業人講話：平成 24年 9月 14日		1コマ	1コマ	4コマ
		J S 実施：平成 24年 10月 2日			4コマ	4コマ
		事後学習：平成 24年 10月 2日		2コマ		2コマ

	特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「豊かな人間力が育つ学校をめざして」との学校経営方針のもと、ジョブシャドウイングを取入れることで、働く人との交流を通して子ども達の人間力を育てることを期待して実施した。 ・ジョブシャドウイング部会において、保護者が参加し積極的に事業に参画した。 ・新規校であるが、事業への理解が深く実施体制を共に構築することができた。 ・実施における送迎についても保護者の積極的な協力を得ることができた。 ・事前・事後学習、実施において学校側が常に積極的に参画し事業を円滑に進めることができた。 ・学習発表会の日に、ジョブシャドウイングの発表を行うため各クラスで趣向を凝らしていた。 				
2	学校情報	豊見城市立 豊見城中学校（新規）	校 長：宮城 調仁			
		住 所：〒901-0244 豊見城市字宜保 218番地1				
		電 話：098-850-0036	F A X：098-850-3929			
	実施概略	対象学年：2年生 7クラス 270人（内 実施 266人）				
		担 当：古謝（総合担当）				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習：平成 24年 4月 26日 平成 24年 6月 28日 平成 24年 7月 7日	1コマ 1コマ		1コマ	
	企業人講話：平成 24年 5月 31日			1コマ	4コマ	
	J S 実施：平成 24年 7月 10日			3コマ	3コマ	
	事後学習：平成 24年 7月 13日	2コマ			2コマ	
	特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験の目的は、働く人の仕事内容や仕事への思いを知り、自らも体験することによって進路選択に役に立てる機会にすると掲げている。ジョブシャドウイングを取入れることで、メンターと生徒の関係性を築き、仕事への思いを深く知り、様々な部署で働く人を観察することでより多くの気づきを得ることを期待して実施した。 ・学校側から、職場体験にジョブシャドウイングの目的を導入し、より充実した実施プログラムで取組んでほしいと要望があったので、職場体験の初日午前中ジョブシャドウイングを実施した。 ・学校側の人的ネットワーク、ノウハウも活用し負担軽減を図り事業を円滑に進め全生徒に実施することができた。 ・学校行事として、ジョブシャドウイングを組んだので授業時間数も十分に確保でき、生徒への教育効果もより充実したものになった。発表会準備には、18コマ、発表会当日は4コマの時間数で行った。 				

3	学校情報	沖縄県立 南部農林高等学校（継続）	校 長：大城 正也			
		住 所：〒901-0203 豊見城市字長堂 182番地				
		電 話：098-850-6006	F A X：098-850-1937			
	実施概略	対象学年：1年生 5クラス 希望選択 25人（内 実施 22人）				
		担 当：照喜名（進路指導）、各クラス担任				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		企業人講話：平成 25年 1月 28日 事前学習Ⅰ：平成 25年 1月 13日 事前学習Ⅱ：平成 25年 2月 19日			2コマ 1コマ 2コマ	5コマ
	J S 実施：平成 25年 2月 20日			4コマ	4コマ	
	事後学習：平成 25年 2月 20日 平成 25年 2月 25日			1コマ 2コマ	3コマ	
	特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・職業コースのある学校の課題として、専攻している分野に就職する学生が少ない。進路決定する際に、生徒の職業選択の幅を広げ、職業観を養なわせたい。キャリア形成のため、1年生でジョブシャドウイングを実施した。 ・進路指導担当教諭、各クラスの担任に事業説明と意見交換をして理解と協力を仰いだ。 ・各クラスから希望者を募り、リーダーを養成することでクラス全体への波及効果を学校側が期待している。 				



【豊見城中学校 事前学習】
みんなであいさつの練習



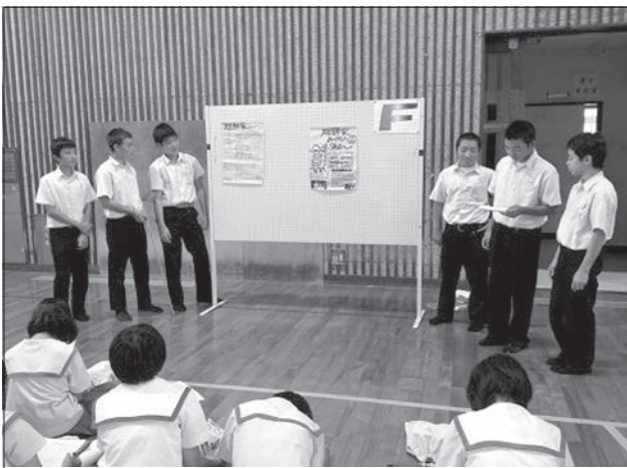
【とよみ小学校 企業人講話】
講師と楽しく記念撮影



【とよみ小学校 出発式】
実施をひかえてドキドキわくわく



【とよみ小学校 JS 実施中】
メンターさんとおそろいのヘルメット



【豊見城中学校 発表会】
働くことをテーマに熱く報告



【南部農林高校 JS 実施中】
かっていいメンターさんを観察中

(5) 実施総括（成果と課題）

豊見城地区では、小学校1校、中学校1校、高等学校1校に、段階を踏まえたキャリア教育としてジョブシャドウイングを実施した。実施校、市教育委員会においてヒアリングした内容を実施総括とする。

小学校は、実施後の児童の変化としてマナーを遵守することや清掃に励む姿が見られた。日々の研鑽がかっこいい働く大人のイメージとなったようだ。学習面においても明るく前向きに取り組んでいて効果性があると実感している。学校全体に、波及効果も見られ他の児童も素直に自分の力を発揮していて、学校全体の雰囲気が良い。その効果を教員も自信を持って保護者や外部に発信している。

中学校では、学年全体（266人）で実施することができたことが成果である。学校の力を発揮しつつ既存のキャリア教育と両立することで、学校の負担を軽減し、なおかつ職場体験とジョブシャドウイングのいい部分を活用できた。実施校以外にも普及させるような、今後につながる取組みができたと思う。

高校は、1年生でジョブシャドウイング、2年生でインターンシップ、3年生で進路決定と段階を踏まえたキャリア教育が実施できて良かった。メンターとの交流で自身の働くイメージや、将来の夢など描く気づきを得ることができた。対象学生が他の学生へと伝達し、いい影響がでることを期待している。

	事例	課題	今後の取組についての展望・改善点
実施校 / 保護者	<ul style="list-style-type: none"> 職員校内研修会において事業説明会とマナー研修実施。 実施対象学年以外の6年生職場見学のためのマナー研修実施。 部会にオブザーバーとして保護者参加。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校主体としての取組。 継続できる仕組み。 保護者との連携。 	実施校の理解と協力を得ることができているので、今後も連携を強化すると共に、継続できるようにしたい。
教育機関	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会主催の初任者、十年者研修にて事業説明と事前学習におけるマナー学習実施。 校長会、教頭会にオブザーバーとして参加。 市内キャリア教育担当者連絡会議で事業説明と協力依頼をしている。 		教育委員会の理解と協力を得ることができているので、今後も連携を強化すると共に、継続できるようにしたい。
地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> 公民館にパンフレット設置。 認可保育園園長会議にて事業説明と協力依頼した。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携を強化する。 	自治会定例会などにも働きかけ地域との連携を深める。
行政	<ul style="list-style-type: none"> 市役所人事課と連携しメンター開拓を行っている。 実施を行う前に、職員が市の概要や市役所の役割などについて児童生徒に座学を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業への協力を強化しメンターを増やす。 	今後も、連携を深め継続できるようにしたい。
経済団体	<ul style="list-style-type: none"> 市商工会に、事業所や企業人講話の講師を紹介してもらっている。 沖縄県中小企業家同友会に事業所の紹介をしてもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 市商工会会員の受入企業を増やしていく。 	受入企業数も増え、企業人講話の講師依頼にも協力してもらっている。 今後も、事業への理解と協力体制が継続できるようにしたい。

協議会	・産学官、地域連携を図り地域に根ざしたキャリア教育を進めてきた。	・地域の関係者へ協議会のノウハウとネットワークを移行していく。	これからも、関係機関との連携を図り、ネットワーク構築と情報が集積するプラットフォームとしての役割を担う。
-----	----------------------------------	---------------------------------	--

3 その他の取組や実績

<市教育委員会との取組>

- ・市教育委員会と協議会で、実施校の校長、教頭、各クラス担任に事業説明、意見交換をし、事業への理解を深め協力体制を図った。
- ・昨年から継続している初任者・十年者研修を通して、実施校以外の先生方と交流を図り事業内容の周知広報した。
- ・初任者・十年者研修の講座内容は、ジョブシャドウイング事前学習のカリキュラムを加味し、学校全般、担当教員が、児童、生徒と情報を共有することができるよう工夫した。
- ・情報共有のため、随時簡易報告書を市教育委員会に報告し意見交換をした。
- ・市内小・中学校キャリア教育担当者の連絡会に参加。

<とよみ小学校との取組>

- ・実施学年以外に、職場見学のためのマナー学習をすることで学校全体に事業の理解を深めると共に、協力体制を整えることができた。
- ・職員校内研修にて事業説明とマナー学習を実施し、学校全体に事業の理解を深めると共に協力体制を整えた。
- ・送迎を担当した保護者へのお礼文書を協議会の会長名で作成し各担任から配布した。
- ・学校側が、アクションプランリーフレットに市グッジョブ運動ジョブシャドウイングモデル指定校と明記し学校内外へ発信し周知広報した。

<豊見城中学校との取組>

- ・昨年の課題であった大型実施対策として（266人）、担当教員と共に、ジョブシャドウイングを職場体験の前段階のプログラムとして構築。学校年間行事に組み込み、授業時間の確保と実施体制を整え、双方の事業の長所を活かし、負担を軽減した。
- ・既存のキャリア教育との連携を図り、学校の負担を軽減すると共に、ジョブシャドウイングの教育効果を高め、ノウハウ、ネットワークを学校へ移行し継続できるよう工夫した。
- ・学校の外部人的ネットワークとの連携と意見交換を図り実施を円滑に進めることができた。
- ・学校側の提案で、県グッジョブ運動の周知広報として実施教材の中に「みんなでグッジョブ運動県民宣言」を折り込み、2学年266名に配布した。

<実施校以外での取組>

- ・実施校以外の教頭先生に事業説明とメンター就任の協力依頼をした。卒業生が、ジョブシャドウイングすることで、身近な働く大人である先生を観察。母校や後輩との交流を通して地域に対する愛情を育み、人的交流と地域連携を深めることができた。

<その他の取組>

- ・市内16法人保育園定例園長会議において事業説明及び受入協力依頼をした。
- ・豊見城シティスクール開校 基調講演 会場設営、運営
- ・豊見城高校、豊見城南高校就業促進講演会 補佐
- ・豊見城小学校企業人講話 補佐
- ・地域の活動として、とみぐすく祭りにて協議会ブースを開設し、グッジョブ運動、ジョブシャドウイング事業について周知、広報活動を行い地域連携を図った。

4 今後の展開について

豊見城市は、本土復帰を境に人口が急激に増加し、村として全国で1位、2位の人口規模を競い合う大きな村に発展してきた。平成14年4月1日、村から市へ市制施行を行い、「豊見城市」となる。豊見城市地域雇用創造推進協議会は、豊見城市内において、市町村や経済団体等の創意工夫により実施する地域経済の活性化や雇用機会の創出のため地域再生の具体的取組みと雇用創造効果を高める事業を実施し、当該地域の雇用創造の改善を図ってきた。また、若年者の雇用の課題を解決するキャリア教育のひとつとして、若年者の就業意識の啓発と向上を促進し、将来の産業人材の育成を図り、地域事業所への就労のための意識付けとして平成23年度からジョブシャドウイングを実施し、今年度は2年目となる。

実施のまとめとして、児童生徒の働くことへの意識の変化、働く大人、仕事への関心や興味が高まったこと、子ども達の素直な反応から、学校や受入事業所からも好評であった。メンターのアンケートからは「自分自身を顧みることができた」「自分の業務への意識が高まった」など社会貢献に加えメンター自身の気づきにもつながったと85%が回答している。

初年度の実施の課題として、市内3校（豊見城中学校264人、長嶺中学校205人、伊良波中学校240人）における対象学年の生徒数が200人を超える大規模での実施になることと授業時間数の確保があげられた。大規模での実施について学校側から、既存のキャリア教育である職場体験とジョブシャドウイングのカリキュラムをうまく組み合わせ実施したいとの提案があった。双方でカリキュラムを構築する中で、子ども達と関わる時間を増やし、さらなる教育効果を高める取組みを行うため、作業を簡素化し互いの負担軽減を図ることとした。

今年度は、職場体験の前段階としてジョブシャドウイングを組み込み行うこととした。それにより、学校行事と連携を図ることで授業時間の確保と学校、保護者との実施体制を整えることができ、マンパワーの課題解決と安全確保をさらに強化することができた。

その結果、学校の主体性を尊重することで、他学校に普及させることのできるモデル事業が構築できたと教育委員会から評価された。

今後においては、ジョブシャドウイングの最大の目的である「子ども達が将来働く場としてのイメージが描けるようなキャリア教育」を学校や地域の事業所につなげることが出来る仕組みづくりを構築することが第一である。これらを踏まえ、今年度実施している「豊見城市若年者就業意識向上事業」を次年度継続事業として実施することを検討していた。しかし、現時点において、当初予算での予算措置が図れず、今後の補正予算において対応を考えていくこととしている。うれしい事に、ジョブシャドウイング受入事業所、若年者就業意識向上事業実施事業者、学校、教育委員会から、キャリア教育に携わりたい旨の要望もあるため、今後はその関係性を保ちながら、学校・企業の負担をさらに軽減し、豊見城市にあったキャリア教育内容で事業を実施したいと考えている。

5 宮古島地区

平成24年 宮古島市グッジョブ連携協議会

1 平成23年度 活動概況

(1) 協議会の概要と活動目的

平成21年度に市長発案の宮古島市におけるジョブシャドウイング推進協議会を立ち上げ、平成23年度に宮古島市グッジョブ連携協議会へと名称を変えながらも教育機関、経済団体、行政の産学官の連携のもとに実施校の代表を含め15団体で構成され、更なる地域連携の基盤強化を図り、本事業の推進、継続を考えるものである。今年度は、鏡原小学校、狩俣小学校、宮原小学校、鏡原中学校、西辺中学校の5校でジョブシャドウイングを実施し、持続可能な地域主体型のロールモデルを構築し、推進確立していく為に発足された。

(2) H23年度活動概況とH24年度への展望

下記のように23年度の協議会であがった課題に対して沖縄県における地域主体型キャリア教育のロールモデルとなる宮古島として、更なる連携の強化、各主体の役割の再確認など「横の連携」に対する課題と丁寧に向き合う必要がある。

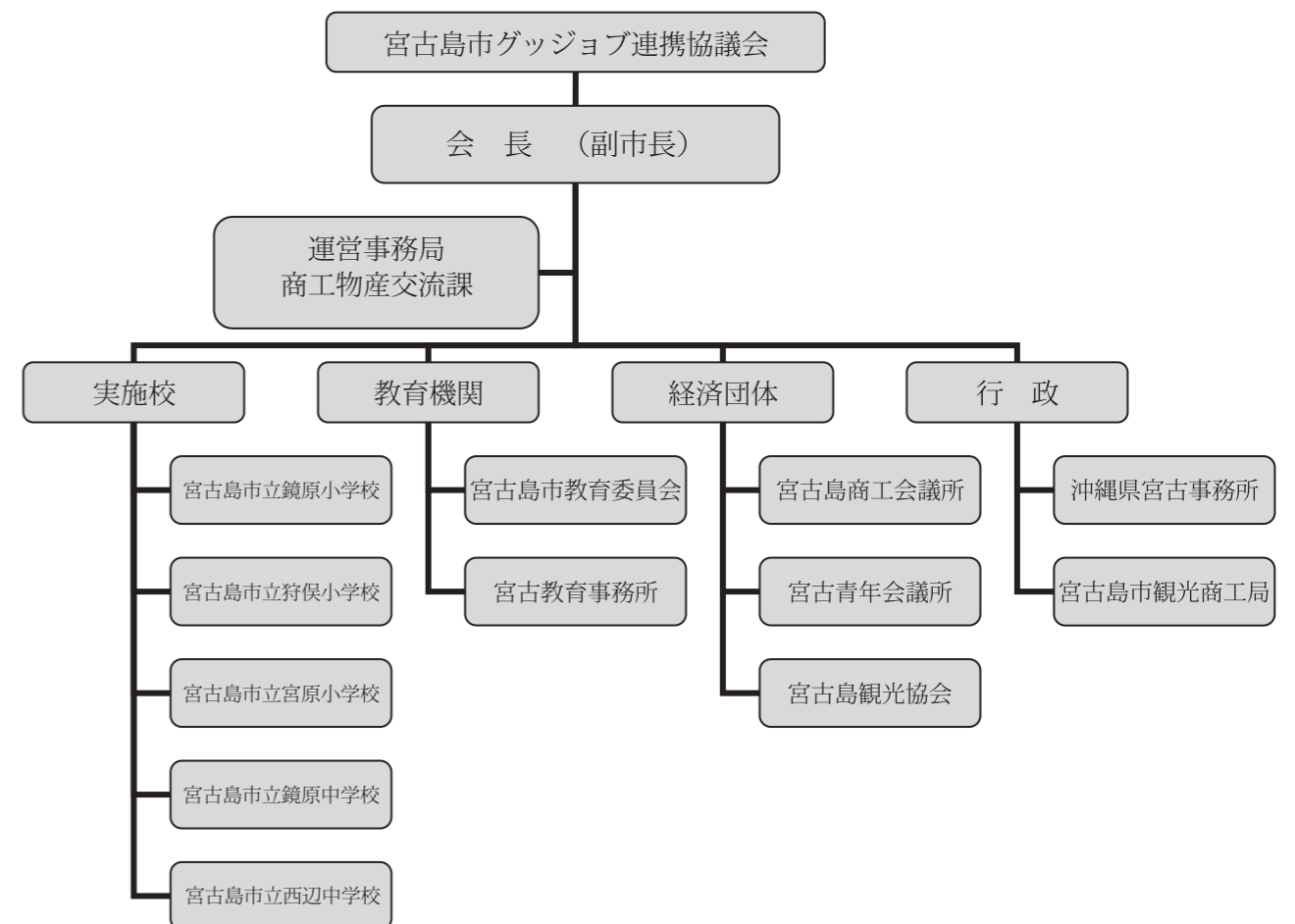
H23年度の課題	改善策
1) カリキュラムの位置づけの工夫、時間数の確保、日程調整の時間の確保等	必要な時間数を早めに周知するようにした。
2) 担当者だけの負担にならないように、学校内で定期的に職員の共通理解がはかれる時間を持ち、一方で外部と連絡調整が可能な担当を置いて連携していくことが望まれる。	学校側の希望を確認しグッジョブおきなわ推進事務局の方から校内研修に出向いてもらった。
3) ジョブシャドウイング以外にも複数の児童生徒を受入れている事業所がほとんどで、どれも9月～11月に重複している現状にある。協力したい気持ちはあるが物理的に追いつかないこともある。	日程の重複する企業に対しては、他の事業との差別化を説明し、理解、協力してもらえるように働きかけた。
4) もっと受入側にも分かり易く、受入に対する企業メリットを検討していきたい。	協力企業を周知できるよう、市役所ロビー等にて企業名を写真等にて展示した。
5) 受入企業へのフォロー体制 事前アンケートの中で「退屈しないか気を遣った」「希望外の職種をみても無意味では?」「何度もやっているのに、変わって欲しい」等一部ではあったがメンターや事業所から声があった。事業趣旨を伝える工夫を講じる必要がある。	メンターへの理解を深めるため、訪問説明を行ったり、合同メンター説明会を実施し、学校側からも生徒達の変容等を伝えて頂くことにより、理解を求めた。

2 平成24年度の取組

(1) 協議会について

協議会名称	宮古島市グッジョブ連携協議会
所在地	沖縄県宮古島市平良字西里187番地
活動目的(理念)	本協議会は、宮古島市で実施する本事業の周知広報、実施支援を目的に行政、教育機関、経済団体並びに企業が連携して受入体制を構築するために発足された。将来的に宮古島市内の小中高での本事業の実施展開の支援を目的とする。

■構成表



宮古島市グッジョブ連携協議会 会長・・・宮古島市 副市長		
同 事務局・・・宮古島市 観光商工局商工物産交流課		
■構成団体名簿		
No.	団体名	役職
1	宮古島市	観光商工局長 商工物産交流課長
2	沖縄県宮古事務所	総務課長
3	社団法人宮古青年会議所	理事長
4	宮古島観光協会	専務理事
5	宮古島商工会議所青年部	会長
6	宮古教育事務所	所長
7	宮古島市教育委員会	教育部長 学校教育課指導主事
8	実施校	宮古島市立 鏡原小学校長
9	実施校	宮古島市立 狩俣小学校長
10	実施校	宮古島市立 宮原小学校長
11	実施校	宮古島市立 鏡原中学校長
12	実施校	宮古島市立 西辺中学校長

(2) 事業計画（実績）報告

月	実績
4月	<ul style="list-style-type: none"> 宮古島市教育委員会へ挨拶 研修（24日～27日まで） 新年度引継ぎ
5月	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄県教育事務所へ挨拶 沖縄県宮古事務所へ挨拶 学校訪問（実施日の調整） 合同実施予定の宮原小学校・鏡原小学校合同調整 全体会議
6月	<ul style="list-style-type: none"> 第1回宮古島市グッジョブ連携協議会 企業訪問開始 青年会議所、商工会議所へ挨拶 全体会議
7月	<ul style="list-style-type: none"> 企業訪問、開拓 担当者会議 事前学習（宮原小学校、西辺中学校）

8月	<ul style="list-style-type: none"> 企業訪問 ・メンターリスト作成 学校訪問 ・メンター自己紹介シート回収 沖縄県宮古事務所へ再度あいさつ
9月	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習（宮原小学校、狩俣小学校、西辺中学校、鏡原小学校） 担当者会議・合同メンター説明会 沖縄県宮古事務所へ再度訪問
10月	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習（西辺中学校、鏡原中学校）（企業人講話・マナー講習） 校内研修（宮原小学校・鏡原小学校・狩俣小学校で実施） ジョブシャドウイング実施（小学校三校合同） ジョブシャドウイング実施（中学校二校同日） ジョブシャドウイング実施校発表会 （西辺中学校・鏡原中学校・狩俣小学校・宮原小学校・鏡原小学校）
11月	<ul style="list-style-type: none"> 鏡原中学校・西辺中学校 発表会 アンケート配布、回収、分析 （生徒用事後アンケート・メンター用ジョブシャドウイング実施後アンケート）
12月	<ul style="list-style-type: none"> 報告書作成 全体会議参加 関係各位へ年賀状作成・送付
1月	<ul style="list-style-type: none"> 次年度に向けて調整 次年度ジョブシャドウイング実施校募集、選定
2月	<ul style="list-style-type: none"> 次年度実施校決定 実施校訪問（宮古島市教育委員会 学校教育課指導主事同行）
3月	<ul style="list-style-type: none"> 報告書作成 第2回宮古島市グッジョブ連携協議会 協議会議事録作成

(3) 受入企業について

No.	企業名	業種	受入人数	取りまとめ窓口
1	株式会社ながはま建築工房	総合工事業	1	商工会議所
2	有限会社都一級建築設計事務所	総合工事業	2	事務局
3	那覇地方公務局宮古島支局	地方公務	2	事務局
4	沖縄電力株式会社 離島カンパニー宮古支店	電気業	11	事務局
5	株式会社 PAC 宮古支店	映像	3	事務局
6	ひよどり保育園	保育所	5	事務局
7	有限会社 宮古電水土木	総合工事業	1	事務局

8	琉球銀行宮古支店	銀行業	2	事業局
9	株式会社 サンエーショッピングタウン	飲食料品卸売業	2	事業局
10	株式会社 サンエーおりた館	飲食料品卸売業	2	事業局
11	株式会社 サンエーV21 カママヒルズ店	飲食料品卸売業	2	事業局
12	宮古島市立平良図書館	その他の教育学習支援事業	2	事務局
13	宮古島市立図書館北分館	その他の教育学習支援事業	1	事務局
14	NK自動車	機械器具小売業	2	商工会議所
15	株式会社 いさむ自動車	自動車整備	1	青年会議所
16	有限会社 恵和商会 宮古空港前給油所	その他の小売業	3	青年会議所
17	有限会社ミナト ファミリーマート西里店	飲食料	1	青年会議所
18	有限会社ミナト ファミリーマート東仲宗根店	飲食料	1	青年会議所
19	有限会社ミナト ファミリーマート下里パイパイ店	飲食料	1	青年会議所
20	有限会社ミナト ファミリーマート松原店	飲食料	1	青年会議所
21	有限会社ミナト ファミリーマート久貝店	飲食料	1	青年会議所
22	光宮古商事株式会社	インターネット付随サービス	3	青年会議所
23	福原組設計事務所	総合工事業	2	事務局
24	宮古島市 海業センター	地方公務	5	事務局
25	宮古織物組合	繊維工業	1	事務局
26	下地商事・ワイドーゴルフ倶楽部	娯楽業	4	青年会議所
27	宮古学園 アダナス	食料品製造業	2	事務局
28	株式会社 八千代バス・タクシー	運輸に付随するサービス	4	事務局
29	人工授精師	農業	2	事務局
30	ワイドー市場	各種商品小売業	1	事務局
31	宮古畳	その他の製造業	3	事務局
32	響和楽器	映像音声文字情報制作業	1	事務局
33	総合建設業 有限会社 大昭建設	総合工事業	1	事務局
34	工房 がじまる	繊維工業	2	事務局
35	農業研究センター 宮古島支所	地方公務	1	県宮古事務所
36	宮古島地方気象台	地方公務	2	県宮古事務所
37	沖縄県宮古島福祉保健所	地方公務	1	県宮古事務所
38	沖縄県立宮古病院	地方公務	1	県宮古事務所
39	沖縄県農林水産振興センター	地方公務	1	県宮古事務所
40	宮古島海上保安署	地方公務	1	県宮古事務所

41	沖縄県宮古事務所	地方公務	2	県宮古事務所
42	沖縄県宮古土木事務所	地方公務	2	県宮古事務所
43	さいわい歯科	医療業	1	事務局
受入人数 合計			90	人

※事務局…宮古島市グッジョブ連携協議会 事業局…グッジョブおきなわ推進事業局
商工会議所…宮古島商工会議所 青年会議所…宮古青年会議所

(4) 実施校 活動報告

今年度は従来の大規模校に関しては自立を促し、必要に応じてサポートをする形で実施し、小規模校の学校数を増やすことによりジョブシャドウイングの宮古島での周知に努めた。鏡原小・宮原小は合同実施を行うことにより、鏡原中学校への連携をつなげる形での実施を行った。

※JS：ジョブシャドウイングの略 ※コマ数（1校時）：小学校45分、中学校50分を指す

1	学校情報	宮古島市立 狩俣小学校（継続）	校 長：野原 敏之			
		住 所：〒906-0002 宮古島市平良字狩俣 1242				
		電 話：0980-72-5151		F A X：0980-72-5100		
	実施概略	対象学年：4・5・6年生 1クラス 18人（内 実施 18人）				
		担 当：棚原 美由紀、垣花 秀幸				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習：平成 24年 9月 27日～ 10月 11日 まで		5コマ	2コマ	7コマ
		J S実施：平成 24年 10月 11日			4コマ	4コマ
		事後学習：平成 24年 10月 11日から		7コマ		7コマ
	特記事項	発表会：平成 24年 10月 25日				
発表会：平成 24年 10月 25日						
<ul style="list-style-type: none"> 実施日には送迎用にバスを1台手配した。企業への送迎は保護者が行った。 発表会では、各ブースに分かれて壁新聞を作成し、発表した。発表の際は児童がとてはきはきと行い、活発に保護者からの質問等に答えていた。保護者・地域の方・メンターも多数参加し、発表後はシェアリングをし、参加者からの意見も頂いた。 発表会等には参加者が100名程度いた。これは、保護者やその親戚等だけではなく、児童達が独自で近所の方に声をかけた賜物であり、学校と地域が密着・連携をしている成果である。 事前学習でも保護者参観を通して、よりジョブシャドウイングを理解してもらえような取組みがなされていた。 						
2	学校情報	宮古島市立 鏡原小学校（継続）	校 長：永松 才易			
		住 所：〒900-0013 宮古島市平良字下里3107-2				
		電 話：0980-72-3146		F A X：0980-72-6687		

実施概略	対象学年：4年生 1クラス 28人 (内 実施28人)				
	担 当：平良 美和子(1組担任)、友利 進弥				
	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	
	事前学習：平成 24年 6月 28日 ~ 10月 11日まで		7コマ	3コマ	10コマ
	J S実施：平成 24年 10月 11日			4コマ	4コマ
	事後学習：平成 24年 10月 11日 ~		16コマ		16コマ
	発表会：平成 24年 10月 30日		2コマ	2コマ	
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョブシャドウイング実施2年目の継続校 ・事前学習として行ったコミュニケーション講話でも活発に児童が参加していた。 ・宮原小学校と交流をかねて事務局で行う事前学習はほとんど一緒に行った。 ・実施時の学校からの送迎においては、バス1台を手配した。 ・事後学習後、宮原小学校と合同開催で鏡原小学校体育館での発表会を設け、企業別グループで各自壁新聞形式での発表を行った。 ・発表会の際はメンターも多数参加があった。メンターより仕事をする上で励みになるので、児童の作成した新聞が欲しいとの声があがった。 ・宮原小学校と鏡原小学校は校長先生を始め担当者が親密に連絡調整を行うことにより合同実施を成功裏に迎えることができた。宮原小学校・鏡原小学校・鏡原中学校は校長会を通して密に連携を図っている。 				
3 学校情報	宮古島市立 宮原小学校(新規)		校 長：屋嘉比 邦昭		
	住 所：〒906-0011 宮古島市平良字東仲宗根 2928				
	電 話：0980-72-3447		F A X：0980-72-3460		
実施概略	対象学年：4・5・6年生 1クラス 8人 (内 実施8人)				
	担 当：下里 道代、与那覇 修				
	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	
	事前学習：平成 24年 7月 3日 ~ 10月 11日		8コマ	4コマ	12コマ
	J S実施：平成 24年 10月 11日			4コマ	4コマ
	事後学習：平成 24年 10月 11日 ~		14コマ		14コマ
	発表会：平成 24年 10月 30日		2コマ	2コマ	
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習・発表会等鏡原小学校と交流を兼ねて合同にて実施した。 ・合同実施の際は、宮原小学校と鏡原小学校の担当の先生方の協力により調整がスムーズに行われた。 ・宮古島市中央公民館で行われた出発式の決意表明は合同実施を代表して宮原小学校の児童が行った。児童の言葉にとても心がこもっていて良かったと他校からの声があった。 ・発表方法は来場するメンターに合わせて臨機応変に行った。中には2度程発表した児童もいた。 				

		<ul style="list-style-type: none"> ・新聞作成ではカラフルに見やすく、かつ沢山の思いを載せていた。(地元新聞に掲載あり) ・発表会とは別に行われた成果発表会では地域の方々も参加し、日頃公民館で行っている体操を地域の方が披露したり、児童のために持ち寄ったお菓子等を食べながら交流を深めた。 ・児童たちが成果発表の一環としてジョブシャドウソングを作成し披露した。 			
4 学校情報	宮古島市立 鏡原中学校(継続)		校 長：島尻 政俊		
	住 所：〒90-0013 宮古島市平良字下里3107-3				
	電 話：0980-72-3147		F A X：0980-72-3117		
実施概略	対象学年：1年生 1クラス 21人 (内 実施21人)				
	担 当：根間 朝子				
	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	
	事前学習：平成 24年 6月 27日 ~ 10月 25日まで		7コマ	3コマ	10コマ
	J S実施：平成 24年 10月 25日			4コマ	4コマ
	事後学習：平成 24年 10月 25日 ~		10コマ		10コマ
	発表会：平成 24年 11月 14日		2コマ	2コマ	
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・マナー講習会は他の学年と一緒に開催、名刺交換やお辞儀の仕方等学んでいた。 ・発表会では、保護者や関係者から質問等も多数あり、生徒が応えられない時等に参加していたメンターからサポートがあるなど実のある発表会になっていた。 ・実施日には生徒主体で出発式を行った。 ・小中学校連携を意識し2年継続実施となった。鏡原中学校は県のキャリア教育指定校であり、学校独自で毎週講師を招いて講話を行っている。 				
5 学校情報	宮古島市立 西辺中学校(新規)		校 長：饒平名 和枝		
	住 所：〒906-0005 宮古島市平良字西原 1138 番地				
	電 話：0980-72-4047		F A X：0980-72-4049		
実施概略	対象学年：1年生 1クラス 15人 (内 実施15人)				
	担 当：与那覇 慎也、砂川 千賀				
	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	
	事前学習：平成 24年 7月 11日 ~ 10月 25日		7コマ	3コマ	13コマ
	J S実施：平成 24年 10月 25日			4コマ	4コマ
	事後学習：平成 24年 10月 25日 ~		10コマ		10コマ
	発表会：平成 24年 11月 20日		2コマ	2コマ	
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・企業人講話は元パラリンピック選手の方に行って頂いた。 ・発表会では、パワーポイントを使用しながら壁新聞も掲示していた。少人数という特性を活かし、1人1人が1回ずつ発表することによりメンターさんや地域の方々 				

が全員の報告を聞くことができた。又、質問等にも活発に答えていた。

- ・発表会では全員の発表が聞ける発表方法となっており、工夫がみられた。
- ・西辺中学校は「たまうつ教室」という名で地域の方々を招いての講話を学校独自で行っている。
- ・早い段階より校長先生を含め担当の先生が保護者のサポートを呼びかけたことにより、実施日当日はスムーズに送迎等を行うことができた。保護者も積極的にサポートしていた。
- ・マナー講習を行うことにより発表時にお辞儀の仕方等に変化がみられたとの報告があった。



【事後学習】発表会での自信あふれる発表



【成果物】生徒の新聞「私のメンターさん・・・」



【事前学習】宮原小学校にてマナー講習



【企業人講話】夢に向かって 加藤正さん



【出発式】3校合同出発式！！



【JS 実施中】働く大人の背中をみる

(5) 実施総括（成果と課題）

	事例	課題	今後の取組についての 展望・改善点
実施校 /保護者	<ul style="list-style-type: none"> ○全校内職員を対象とした校内研修会の実施 ○2者面談等での保護者サポーター参加の呼びかけ ○送迎サポートとして参加・事前学習に保護者も参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○他の行事と重なり、協力体制が難しい実施校もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○送迎サポーターの確保は必須なので、早い時期からの協力依頼が大切である。
教育機関	<ul style="list-style-type: none"> ○教育部長・学校教育課への事業説明 ○次年度の実施校の公募・選考 ○出発式・協議会等への参加 ○合同説明会への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○初実施の学校へのジョブシャドウイングを行うにあたり説明が不十分だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○次年度の体制をきちんと報告する必要がある。
地域 コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ○新聞でのジョブシャドウイング周知広報 ○事前学習の講師 	<ul style="list-style-type: none"> ○ジョブシャドウイングに関する周知徹底。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域を巻き込む形でコミュニティにも呼びかけをする。
行政	<ul style="list-style-type: none"> ○市役所ロビーでの協力企業の写真掲載 ○出発式でのあいさつ ○発表会等への参加 ○メンターとして協力 ○ジョブシャドウイング実施のサポーター(送迎サポート) 	<ul style="list-style-type: none"> ○十分にメンターは確保できたが、メンター全員を学校に紹介できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○早めに内容説明をして、組合わせを心掛ける。

経済団体	<ul style="list-style-type: none"> ○合同メンター説明会を実施 ○ジョブシャドウイングについての説明 ○発表会等への参加依頼 ○メンター協力 ○協議会参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○協力メンターの職種を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○色々な業種の方にメンターとして協力頂けるようにもっと周知を図りたい。
協議会	<ul style="list-style-type: none"> ○実施校の担当者会議開催 ○発表会等への参加依頼 ○協議会実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○継続校を交え、分からないところは間に入ってもらったが、他の地区からも意見を取り入れたかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○継続校だけに頼らず、他の地域からも意見がもらえるようにしたい。

③ その他の取組や実績

- 実施校担当者会議を数回にわたり行うことにより、本事業の主旨やジョブシャドウイング内容、進め方について教員同士の理解を深めることができた。
- 合同メンター説明会を実施の際は、全実施校の担当教員も参加した。学校から協力メンターに対し感謝と思いを伝えた。
- ジョブシャドウイングに関する宮古の取組み記事が地元新聞社の紙面で特集され、周知が進んだ。
- ポスター展を平良庁舎1階ロビーにて2回実施（協力メンター用・発表会の報告等）した。

④ 今後の展開について

次年度からは、宮古島地域就業意識向上事業の一環としてジョブシャドウイング事業を行う。ジョブシャドウイング事業については小学校を実施対象とし、実施校は公募にて決定することとなった。ジョブシャドウイング事業として関われない学校等へは、企業人講話やマナー講習の実施を支援する形で関わり、多く開催することにより地域の就職意識向上へつなげていく活動を予定している。

今後の展開としてはジョブシャドウイング事業の他、地域フォーラムの開催、職の魅力強化・勉強会の開催、地域にない職種の企業への訪問、体験等の実施、マナー講習、様々な研究機関、職種の方をよんで講話（上級学校への接続）、職相談という形で活動を行い、そのための体制を構築していくことが課題である。

宮古島は離島であるため、現状としては働く受け皿が大きい。そのため、高校卒業後は誰もが島から一度は出ていくと強く意識している現状がある。地域連携を通して地域の大人や地域の仕事にふれることで島にある仕事の可能性を知ると共に、島外での経験を踏まえて改めて故郷の魅力に気がつき戻って来ても様々な仕事につける、仕事を始めることができるということが伝えられるよう今後もジョブシャドウイングを活用して地域連携を深め、活動を広げていく予定である。

SECTION

4

24年度 次期拠点地区 活動報告



1 沖縄地区

平成24年 沖縄地区活動報告

1 準備会発足の背景

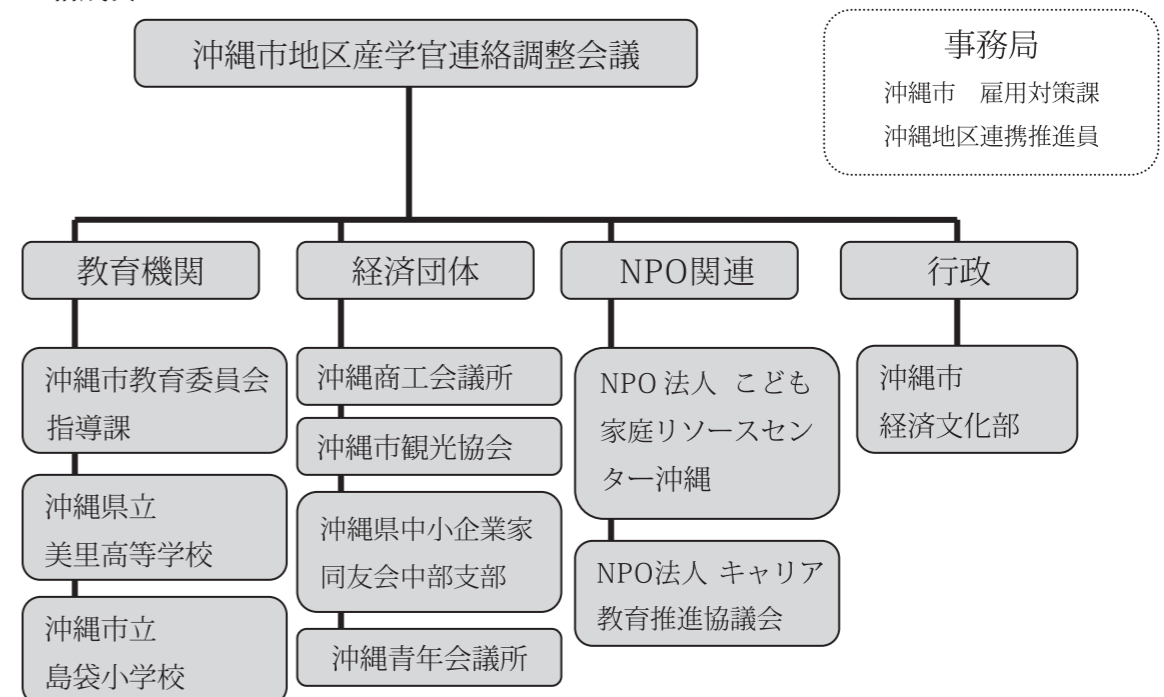
本会は、沖縄市における児童生徒を対象とした沖縄型ジョブシャドウイング事業の実施主体として設置している。本市は、厳しい雇用情勢を踏まえ平成18年度より独自で就労支援施設を開設し、きめ細やかな就労相談や講座実施などの雇用対策に取り組んできた。そうした中、平成22年国勢調査によると、本市の完全失業率は14.5%で、その内15歳から34歳までの若年者層では18.3%と高い水準となっていることから、若年者を対象とした重点的な就労支援が必要とされている。そのような背景から、幼いうちから職業観を育てる教育の充実を目的とした同事業を実施することで、児童生徒及び保護者が、将来の生き方、進路を考える契機となるよう、職業観の形成において効果的な事業の実施を担うものとする。

2 準備会の概要と取組

(1) 構成団体

準備会名称	沖縄市地区産学官連絡調整会議
所在地	沖縄県沖縄市仲宗根町26番1号
活動目的（理念）	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡調整会議にて、受入企業の選定および協力要請を行う。 ・沖縄市地区におけるキャリア教育の情報の共有化を図る。 ・次の事業年度の拠点地区指定を見据え、各団体の連携強化、協議会発足の基礎をつくる。

■構成表



■構成団体名簿		
No.	団体名	役職
1	沖縄商工会議所	総務部長
2	社団法人 沖縄市観光協会	事務局長
3	沖縄県中小企業家同友会 中部支部	副支部長
4	社団法人 沖縄青年会議所	副理事長
5	NPO法人 こども家庭リソースセンター沖縄	理事長
6	特定非営利活動法人 キャリア教育推進協議会	部長
7	沖縄県立 美里高等学校	校長
8	沖縄市立 島袋小学校	校長
9	沖縄市経済文化部	部長
	雇用対策課	課長
10	沖縄市教育委員会 指導課	課長
事務局	沖縄市経済文化部 雇用対策課	

(2) スケジュールおよび今年度の取組

月	ジョブシャドウイング事業モデル的实施にかかる活動	準備会 活動
4月	・実施校の選定 ・地区連携推進委員への研修参加	・選定決定 ・連携推進員の雇用、配置
5月	・島袋小学校訪問 ・美里高校訪問	
6月	・ジョブシャドウイング現場研修	
7月	・美里高校 保護者説明会 ・島袋小学校 校内研修会	
8月		・連絡調整会議準備
9月	・美里高校 第1回事前学習	・第1回 連絡調整会議開催
10月	・美里高校 第2回事前学習 第3回事前学習	
11月	・島袋小学校 第1回事前学習 ・美里高校 第4回事前学習 ・美里高校ジョブシャドウイング ・美里高校 事後学習 ・島袋小学校 第2回事前学習	
12月	・美里高校 成果発表会 ・島袋小学校ジョブシャドウイング ・島袋小学校 事後学習 ・美里高校ヒヤリング	
1月	・島袋小学校ヒヤリング	
2月	・次年度に向けての調整 ・島袋小学校 成果発表会 ・グッジョブパネル展	
3月	・グッジョブパネル展	・第2回 連絡調整会議開催

(3) その他の活動

- 美里中学校2学年PTA進路講演会（美里中学校視聴覚室）
 - ・平成25年2月19日（火）14:10～14:55
 - ・講師 赤坂 守 氏（整体院・整骨院キャトル・エー院長）
 - ・PTA主催講演会を担当する教育委員会キャリア教育コーディネーターへ講師紹介の協力を行った。
- グッジョブパネル展（久保田公民館）
 - ・平成25年2月25日（月）～3月9日（土）
 - ・島袋小学校ジョブシャドウイングの取組み状況とグッジョブ運動を地域住民へ周知することを目的として開催した。
 - ・児童がジョブシャドウイングを通して学んだことを新聞にまとめ、掲示した。
 - ・自治会と学校支援地域本部コーディネーターの協力を頂くことで開催に至った。

3 ジョブシャドウイング モデル実施の報告

(1) 実施概略

島袋小学校は、従来からキャリア教育に熱心に取り組んでおり、また、小規模校で6年生担当が学校のキャリア教育担当ということで、沖縄地区小中学校のモデル校として選定した。

美里高等学校は、前年度から継続して実施することで沖縄市における高校モデルの確立を目指し、1年次ジョブシャドウイング、2年次インターンシップを実施するキャリア教育のプログラムの安定化をすすめることを目的として選定した。

※JS:ジョブシャドウイングの略 ※コマ数(1校時):小学校45分、高校50分を指す

1	学校情報	沖縄市立 島袋小学校（新規）	校 長：安里 嗣浩			
		住 所：〒904-0023 沖縄市久保田 2丁目 21番 1号				
		電 話：098-933-3365	F A X：098-932-6872			
	実施概略	対象学年：6年生 1クラス 39人（内 実施 39人）				
		担 当：稲福 正（6年担任）				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習：平成 24年 11月 1日 平成 24年 11月 28日 平成 24年 9月から実施		14コマ	2コマ 1コマ	17コマ
特記事項	J S実施：平成 24年 12月 11日					
	事後学習：平成 24年 12月 18日					
	2コマ 1コマ 3コマ					

◆学校の紹介
児童数 192人。沖縄市立小学校で一番の小規模校である。平成元年に北中城村島袋小学校に分離し、275人の児童が移動した。児童は、自己実現への挑戦・意欲が旺盛で、一人一人が個性豊かである。

◆島袋小学校の教育目標 ～児童像～
知・徳・体調和のとれた教育活動を進め、一人一人が輝き、共に学び合い活かす島っ子
・本年度の重点目標 みんなでみんなが輝く島っ子の育成を目指す。
1 確かな学力の向上
2 豊かな心・健やかな体の育成
3 開かれた学校づくり

	◆取組み ・自治会との連携を図り、公民館でのメンター説明会を行った。また、自治会長が送迎サポーターとしてマイクロバスの提供を行い、児童の送迎を行った。 ・パネル展は沖縄市教育委員会生涯学習課管轄である学校支援地域本部（学校と地域社会をつなげる組織）と自治会の連携イベントの展示、ジョブシャドウイングの展示を合同で行った。 ・学校支援地域本部コーディネーターとの連携を図り、学校、保護者との調整を協力して行った。 ・5年生の保護者の出発式の参加があった。 ・企業人講話は、学校主催のお仕事講演会と協力して開催。講師2人を紹介した。 合同会社琉球シンカ 代表 小原美和 氏 ペットメディカルセンター・エイル 院長 池原秀壱 氏																																									
2	<table border="1"> <tr> <td>学校情報</td> <td>沖縄県立 美里高等学校（継続）</td> <td>校 長：安里 辰洋</td> </tr> <tr> <td></td> <td>住 所：〒904-2151 沖縄市松本2丁目5番1号</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>電 話：098-938-5145</td> <td>F A X：098-938-5419</td> </tr> </table>	学校情報	沖縄県立 美里高等学校（継続）	校 長：安里 辰洋		住 所：〒904-2151 沖縄市松本2丁目5番1号			電 話：098-938-5145	F A X：098-938-5419																																
学校情報	沖縄県立 美里高等学校（継続）	校 長：安里 辰洋																																								
	住 所：〒904-2151 沖縄市松本2丁目5番1号																																									
	電 話：098-938-5145	F A X：098-938-5419																																								
	<table border="1"> <tr> <td>実施概略</td> <td>対象学年：1年生 1クラスと選択希望 44人（内 実施 41人）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>担 当：豊里 和美（進路指導主任）</td> </tr> <tr> <td></td> <td> <table border="1"> <tr> <th>実施日</th> <th>コマ数</th> <th>学校 実施</th> <th>事務局 実施</th> <th>合 計</th> </tr> <tr> <td>事前学習：平成 24年 9月 20日</td> <td></td> <td></td> <td>1コマ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成 24年 10月 3日</td> <td></td> <td></td> <td>2コマ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成 24年 10月 10日</td> <td></td> <td></td> <td>1コマ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成 24年 11月 7日</td> <td></td> <td></td> <td>2コマ</td> <td>6コマ</td> </tr> <tr> <td>JS実施：平成 24年 11月 13日</td> <td></td> <td></td> <td>4コマ</td> <td>4コマ</td> </tr> <tr> <td>事後学習：平成 24年 11月 20日</td> <td></td> <td>4コマ</td> <td></td> <td>4コマ</td> </tr> </table> </td> </tr> </table>	実施概略	対象学年：1年生 1クラスと選択希望 44人（内 実施 41人）		担 当：豊里 和美（進路指導主任）		<table border="1"> <tr> <th>実施日</th> <th>コマ数</th> <th>学校 実施</th> <th>事務局 実施</th> <th>合 計</th> </tr> <tr> <td>事前学習：平成 24年 9月 20日</td> <td></td> <td></td> <td>1コマ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成 24年 10月 3日</td> <td></td> <td></td> <td>2コマ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成 24年 10月 10日</td> <td></td> <td></td> <td>1コマ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成 24年 11月 7日</td> <td></td> <td></td> <td>2コマ</td> <td>6コマ</td> </tr> <tr> <td>JS実施：平成 24年 11月 13日</td> <td></td> <td></td> <td>4コマ</td> <td>4コマ</td> </tr> <tr> <td>事後学習：平成 24年 11月 20日</td> <td></td> <td>4コマ</td> <td></td> <td>4コマ</td> </tr> </table>	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計	事前学習：平成 24年 9月 20日			1コマ		平成 24年 10月 3日			2コマ		平成 24年 10月 10日			1コマ		平成 24年 11月 7日			2コマ	6コマ	JS実施：平成 24年 11月 13日			4コマ	4コマ	事後学習：平成 24年 11月 20日		4コマ		4コマ
実施概略	対象学年：1年生 1クラスと選択希望 44人（内 実施 41人）																																									
	担 当：豊里 和美（進路指導主任）																																									
	<table border="1"> <tr> <th>実施日</th> <th>コマ数</th> <th>学校 実施</th> <th>事務局 実施</th> <th>合 計</th> </tr> <tr> <td>事前学習：平成 24年 9月 20日</td> <td></td> <td></td> <td>1コマ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成 24年 10月 3日</td> <td></td> <td></td> <td>2コマ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成 24年 10月 10日</td> <td></td> <td></td> <td>1コマ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成 24年 11月 7日</td> <td></td> <td></td> <td>2コマ</td> <td>6コマ</td> </tr> <tr> <td>JS実施：平成 24年 11月 13日</td> <td></td> <td></td> <td>4コマ</td> <td>4コマ</td> </tr> <tr> <td>事後学習：平成 24年 11月 20日</td> <td></td> <td>4コマ</td> <td></td> <td>4コマ</td> </tr> </table>	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計	事前学習：平成 24年 9月 20日			1コマ		平成 24年 10月 3日			2コマ		平成 24年 10月 10日			1コマ		平成 24年 11月 7日			2コマ	6コマ	JS実施：平成 24年 11月 13日			4コマ	4コマ	事後学習：平成 24年 11月 20日		4コマ		4コマ						
実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計																																						
事前学習：平成 24年 9月 20日			1コマ																																							
平成 24年 10月 3日			2コマ																																							
平成 24年 10月 10日			1コマ																																							
平成 24年 11月 7日			2コマ	6コマ																																						
JS実施：平成 24年 11月 13日			4コマ	4コマ																																						
事後学習：平成 24年 11月 20日		4コマ		4コマ																																						
	<table border="1"> <tr> <td>特記事項</td> <td> ◆学校紹介 ・ジョブシャドウイング4回目の継続校。 ・美里高校は全日制普通科で1学年7クラス定員280人。 ・美里高校では、「美里の心」（＝当たり前前ができる生徒の心）と「美里の力」（＝なりたい自分になる生徒の力）をキーワードに教育活動を行っている。同校は平成20年6月から地域の経済団体である中小企業家同友会（中部支部）と協力していち早くジョブシャドウイングを行っている。又、平成22年、23年度は沖縄県教育委員会進路指導（キャリア教育）の研究指定校にもなっている。平成24年度キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰被表彰者にて、学校部門で選出された。 ◆美里高等学校の教育方針 (1) 個々の生徒の実態を的確に把握し、その個性・能力を可能な限り開発するとともに民主的で文化的な社会を築きあげる連帯と協力の精神を身につけさせる。 (2) 基礎的な学力の充実に努めるとともに、自ら課題を発見し解決する意欲的な学習態度を育成する。 (3) 自己の社会的使命と責任を自覚し、自分をとりまく環境に対し、正しい判断のもとに積極的に働きかけて行く創造性豊かな人間を育成する。 (4) 生命の尊重について、あらゆる教育活動で認識させ、自他の敬愛と思いやりの精神を養う。 ◆取組み ・保護者サポーター募集は生徒自ら保護者に依頼する形をとった。 ・文書、メール、ブログ等複数の募集手段をとることで、4人の保護者サポーターの参加が得られた。 </td> </tr> </table>	特記事項	◆学校紹介 ・ジョブシャドウイング4回目の継続校。 ・美里高校は全日制普通科で1学年7クラス定員280人。 ・美里高校では、「美里の心」（＝当たり前前ができる生徒の心）と「美里の力」（＝なりたい自分になる生徒の力）をキーワードに教育活動を行っている。同校は平成20年6月から地域の経済団体である中小企業家同友会（中部支部）と協力していち早くジョブシャドウイングを行っている。又、平成22年、23年度は沖縄県教育委員会進路指導（キャリア教育）の研究指定校にもなっている。平成24年度キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰被表彰者にて、学校部門で選出された。 ◆美里高等学校の教育方針 (1) 個々の生徒の実態を的確に把握し、その個性・能力を可能な限り開発するとともに民主的で文化的な社会を築きあげる連帯と協力の精神を身につけさせる。 (2) 基礎的な学力の充実に努めるとともに、自ら課題を発見し解決する意欲的な学習態度を育成する。 (3) 自己の社会的使命と責任を自覚し、自分をとりまく環境に対し、正しい判断のもとに積極的に働きかけて行く創造性豊かな人間を育成する。 (4) 生命の尊重について、あらゆる教育活動で認識させ、自他の敬愛と思いやりの精神を養う。 ◆取組み ・保護者サポーター募集は生徒自ら保護者に依頼する形をとった。 ・文書、メール、ブログ等複数の募集手段をとることで、4人の保護者サポーターの参加が得られた。																																							
特記事項	◆学校紹介 ・ジョブシャドウイング4回目の継続校。 ・美里高校は全日制普通科で1学年7クラス定員280人。 ・美里高校では、「美里の心」（＝当たり前前ができる生徒の心）と「美里の力」（＝なりたい自分になる生徒の力）をキーワードに教育活動を行っている。同校は平成20年6月から地域の経済団体である中小企業家同友会（中部支部）と協力していち早くジョブシャドウイングを行っている。又、平成22年、23年度は沖縄県教育委員会進路指導（キャリア教育）の研究指定校にもなっている。平成24年度キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰被表彰者にて、学校部門で選出された。 ◆美里高等学校の教育方針 (1) 個々の生徒の実態を的確に把握し、その個性・能力を可能な限り開発するとともに民主的で文化的な社会を築きあげる連帯と協力の精神を身につけさせる。 (2) 基礎的な学力の充実に努めるとともに、自ら課題を発見し解決する意欲的な学習態度を育成する。 (3) 自己の社会的使命と責任を自覚し、自分をとりまく環境に対し、正しい判断のもとに積極的に働きかけて行く創造性豊かな人間を育成する。 (4) 生命の尊重について、あらゆる教育活動で認識させ、自他の敬愛と思いやりの精神を養う。 ◆取組み ・保護者サポーター募集は生徒自ら保護者に依頼する形をとった。 ・文書、メール、ブログ等複数の募集手段をとることで、4人の保護者サポーターの参加が得られた。																																									

	<ul style="list-style-type: none"> ・企業人講話講師 有限会社ゆうな商事代表取締役 太田一 氏 ・ジョブシャドウイング・インターンシップ合同発表会では、ジョブシャドウイングの取組みや目的についての説明し、学んだことを発表した。ジョブシャドウイングに参加していない生徒からの感想で「仕事についてもっと考えたい」など、プラスの影響を与えることができていた。また、昨年ジョブシャドウイングを体験した生徒（1クラス+選択希望者）には、自身の体験を振り返り、目標の再確認の場となった。
--	--

(2) 受入企業

沖縄市産学官連絡調整会議の構成団体の協力の下、受入企業開拓を行った。地域連携というテーマから学校所在地域の企業を中心に開拓を行った。特に島袋小学校受入企業開拓では、地域の企業を学べるよう徒歩圏内の企業の開拓を行った。また、個人経営が多い沖縄の特性から個人で活躍されている方への受入要請を行った。

【企業一覧】

No.	企業名	業 種	受入人数	取りまとめ窓口
1	松田整骨院	医療業	1	事務局
2	Flowershop 春らんまん	その他の小売業	1	事務局
3	有限会社ラミネックスセンターコザ店	印刷・同関連業	2	同友会
4	有限会社コザベーカーリー	飲食品製造業	1	商工会議所
5	株式会社沖縄電力 うるま支店	電気業	19	事業局
6	株式会社りゅうせきロジコム 中部物流センター	ガス業	2	事業局
7	株式会社サンエー メインシティ店	各種商品小売業	8	事業局
8	株式会社一善オートボディ	自動車整備業	1	商工会議所
9	株式会社ももやま	その他小売業	2	同友会
10	株式会社仲本工業	総合工事業	1	同友会
11	チームプレイズ株式会社 (パッションホープカレッジスクール)	その他の教育、学習支援業	2	同友会
12	株式会社おきなわ浄管技建	総合工事業	1	同友会
13	ハウス産業株式会社	総合工事業	2	同友会
14	竹製菓	飲食品製造業	1	商工会議所
15	嶺井美香子 (フィットネスインストラクター)	その他の教育、学習支援業	1	事務局
16	株式会社りゅうせき建設 ぴたホーム泡瀬展示場	総合工事業	2	事業局
17	株式会社サンニン	総合工事業	1	同友会
18	株式会社川畑自動車学校	その他の教育、学習支援業	2	商工会議所
19	株式会社ワールドツーリスト	その他の生活関連サービス業	2	商工会議所
20	ペットメディカルセンター・エイル	技術サービス業	2	事務局
21	美容室 LOOP	美容業	1	事務局
22	社会福祉法人胡屋保育園	社会保険・社会福祉・介護事業	2	リソース
23	有限会社内盛産業	総合工事業	2	商工会議所
24	沖縄商工会議所	経済団体	1	商工会議所

25	沖縄メディカル・スポーツ学院 (整体院・整骨院キャトル・エー)	その他の教育、学習支援業	2	事務局
26	菓子工房ソレイユ	飲食品製造業	2	事務局
27	キングラン沖縄株式会社	洗濯業	2	同友会
28	Cake&pie なつのお	飲食品製造業	1	事務局
29	NPO 法人 Mahalo (障がい児デイサービスくるみ)	社会保険・社会福祉・介護事業	2	事務局
30	医療法人ちゅうざん会 ちゅうざん病院	医療業	2	事務局
31	コープおきなわ 美里店	各種商品小売業	2	リソース
32	専門学校 日経ビジネス	学校教育	2	事務局
33	公益財団法人 沖縄こどもの国	その他の教育、学習支援業	2	事務局
34	合同会社琉球シンカ	情報サービス業	2	事務局
35	沖縄市役所教育委員会指導課	地方公務	2	教育委員会
		受入人数 合計	80	人

注) 事務局：グッジョブおきなわ推進事務局 同友会：沖縄県中小企業家同友会中部支部
リソース：NPO法人 こども家庭リソースセンター沖縄 商工会議所：沖縄商工会議所

(3) 成果物



【事前学習】 みんなで挨拶の練習をしています



【企業人講話】 講師のお話に耳を傾けます



【出発式】 クラス全員でグッジョブ♪



【JS 実施中】 メンターに質問しています



【事後学習】 発表会に向け資料作成中



【成果物】 カラフルな新聞が完成しました

(4) 実施を振り返って

①実施校について (ヒヤリング、アンケートの考察)

1) 鳥袋小学校

良かった点としては、事務局のサポート体制が充実していたことで、企業開拓、授業の資料など多くの支援が得られ、現場としては助かったということであった。児童の変化で特筆すべきこととして、憧れの職業の現実的部分を知ることができ、希望の職業を変更しようと考えたり、勉強がもっと必要だと学習塾に入ったり、私立中学校の受験をしたりという変化が見られた。

学校独自で工夫した点として、授業の中で受入企業の調べ学習、マナーや行動についての指導を行った。苦労した点は、メンター組合せ名簿の作成、学校行事が重なっていたために事前学習に取り組む時間があまり作れなかったこと、などが挙げられる。

関連して、ジョブシャドウイングへの理解を深めることを目的として教職員へ校内研修を通して、キャリア教育とジョブシャドウイングの必要性について説明を行った。また、保護者向けにも講演会を実施し、保護者への意識を高めることができた。この講演会をきっかけに他校での講演の依頼があるなど、波及効果が見られた。

また、自治会からは特に多くのご協力を頂き、学校と自治会が連携して取組みを行うことができた事例と考える。メンター合同説明会を公民館で開催したり、自治会長に引率サポーターとしてご参加頂いたり、さらに自治会の協力のもとパネル展を開催するなど、様々な取組みができた。更に、学校と地域をつなげる学校支援地域本部コーディネーターより協力を得られたため、互いに連携しあいながらジョブシャドウイングを実施することができた。学校や地域間で更なる連携体制が整えば、学校独自での実施が見込めるだろう。

学校側からの受けたい支援や要望については、以下の通りである。

- ・心がまえやマナー教育など、企業側が最低限行って欲しいことを指導したほうが良い。
- ・受入企業数、職種などさらに増やして欲しい。
- ・観察だけでなく、良い活動にするために体験も入れて欲しい。
- ・実施時間は2時間ではなくもう少し伸ばして欲しい。

2) 美里高校

インターンシップとジョブシャドウイングの実施報告会は、全校生徒が参加しており、体験していない生徒への就業の意識を高め、情報共有の場となっている。今回の実施を通して、学校側からの良かった点としては、以下の通りである。

- ・生徒の仕事に対する意識が高まった。
- ・大学や進路先等への意識が向上した。
- ・学校での勉強が社会につながるということが理解でき、英語・パソコンスキル・資格取得の必要性が感じられるようになった。

今回、保護者へのアプローチを複数回行い、保護者が送迎サポーターとして参加したことが学校にとって大きな意味のあることであった。地域、保護者との連携では、保護者の協力が得られたことが大きい。事

前学習で生徒にサポーター募集について説明し、生徒自ら保護者に協力を要請する取組みを行った成果が得られた。また、「受入企業がジョブシャドウイングを理解してくださってより良い活動になっている」との意見もあった。課題として、マイクロバス運転手の確保などの送迎体制が挙げられた。

②児童生徒について（振り返りシートからの考察）

1) 島袋小学校

担任がキャリア教育担当ということもあり、仕事に対する意識が高く、挨拶やお辞儀などのマナーも身につけていた。事前学習、事後学習、当日も含めてすべての生徒が積極的に発言、取組むことができていた。児童のレベルに応じた学習内容を担当教諭と協力して作成する必要があったと感じた。

事前アンケートでの「大人になったら仕事をしたいか」という質問に対し、全員が「はい」と答えている。「仕事をしたい理由」では、「みんなを笑顔にしたいから」「自分の力で上まで頑張りたいし、親に苦労かけるので、お金は自分で稼ぎたいから」など、親のこと、社会など自身の周囲についてよく考えていることが伺える。

実施後の感想では、「すごい」「一生懸命」「信頼されている」など肯定的な感想が多く、今後の取組みでは、「もう一度職場体験をしたい」「当たり前前を当たり前にする」「真剣に勉強する」「人との触れ合いを大事にしたい」「ジョブシャドウイングで、自分とみんなの為にそしていつも笑っているという事を学んだので、そのような小さなことから頑張りたい」などメンターからの刺激を受け、これまでの学習がより強化され、また、新しいことにチャレンジしようとする気持ちが芽生えたことと思われる。

<児童の感想（一部抜粋）>

- ・生活のためだけじゃなくて、自分、みんなのために仕事をするという思いもあるということ知りました。
- ・メンターさんの仕事は、獣医師の助手や補助、電話の受け答えや薬の処方まで、たくさんあるのに、それを全て丁寧にこなすのは、すごいと思う。
- ・仕事をしている人はもっと怖い顔をしてやっていると思ったけど、みんな笑顔だった。

2) 美里高校

生徒の主体的な活動となるべく取組んだ。多くの生徒が自分のこととして、主体的にジョブシャドウイングに取組み、将来の夢、目標に向けて、現在取組むべきことを考える機会となったが、一部では受動的な取組みになっていた生徒が若干見られたため、主体的な活動となるための動機づけについてさらなる工夫の必要性を感じた。

事前アンケートでの「大人になったら仕事をしたいか」という質問に対し、全員が「はい」と答えている。「どのような仕事をしたいか」の質問に対して、11人が「ない」と答えていたが、実施後には「ない」と答えたのが8人に減り、仕事に対しての意識の変化が見えた。

実施後の感想では、ほとんどが働くことに対して肯定的に捉えており、働く大人の姿を見て「カッコいい」「責任感がある」「楽しそうでやりがいがある」との感想が挙げられた。また、仕事の表の部分だけではなく、裏での地道な作業を行うなど、仕事には様々な側面があることを学ぶことができたと言える。

<生徒の感想（一部抜粋）>

- ・お客として、表から見ているときと、今日裏の方を見ていると、自分の想像を超えて、はるかに大変そうだった。
- ・とても優しく患者と接していて職員と患者がとてもコミュニケーションをとっていて、すごいと思った。
- ・いつでも明るく、仕事を楽しんでいて、それでも作業をスムーズにこなすメンターさんがすごくかっこよかったです。
- ・商品を補充しているのを見て気持ち良く買い物ができるのは、メンターさんが裏で頑張っているんだと初めて知った。
- ・仕事は探すのは大変。10代のうちでいるんなことを経験すべきで、すべての人が自分の就きたい職業に就けるとは限らない。目標を持つのは大事。

③受入企業について（ヒヤリング、アンケートの考察）

1) 島袋小学校

多くの企業が初めての児童受入れとなり、ジョブシャドウイングを知っていたメンターが46%、知らなかったメンターが54%であった。実施前に不安であったというメンターが64%おり、不安を解消するために実施前の説明を工夫する必要があることがわかった。

実施中の児童の様子については、観察に集中し、敬語、挨拶等がうまくでき、また、いたづらをした

という項目が、0となっていたことから、真剣に観察に取り組んだことが伺える。

ジョブシャドウイングが勤労観・職業観の一助になるかという質問に対し、「思う」「どちらかといえば思う」が79%、「思わない」「どちらかといえば思わない」が18%であった。「思わない」「どちらかといえば思わない」の理由として、年齢が若すぎるが3人、ジョブシャドウイングでは不足が1人だった。

ジョブシャドウイングを引受けて「良かった」「どちらかといえば良かった」というメンターが93%、企業が78%であった。

ジョブシャドウイングを、次回も引受けたいというメンターが79%、企業が50%あった一方で、引受けたいと思わないメンターが14%、企業は11%となった。その理由として、児童の対応に苦慮したとの声が受入企業よりあった。児童の普段の様子を受入企業に伝えることで、効果的なジョブシャドウイングが実施できるのではないかと。企業と学校相互の情報交換の方法を検討したい。

なお、主な意見、感想は以下の通りである。

<肯定的意見・感想>

- ・生徒と私との関係も、負担がすごくあるというわけでもなく、見ることで学んで欲しいということがしっかり理解できていていい取組みだと思いました。
- ・子ども達には、見て学ぶこと、感じることで、このような視点で得ることがあるのも、教育として必要だと思う。必ず体験とか、教えてもらうだけでなく、感じることで成長することもあると思います。

<改善が必要との意見・感想>

- ・年齢が若すぎる。子守をしている様だった。
- ・見るだけでなく、実際に体験できるようなシステムを希望します。他では体験できない職業、職種であるため。
- ・安全面での心配。（建設工事現場）

2) 美里高校

継続校となるが受入を行う企業に新規企業が多かったため、ジョブシャドウイングを知っていたメンターが46%、知らなかったメンターが50%であった。実施前に不安だったというメンターが73%おり、島袋小学校と同様に実施前の説明で不安を解消するための工夫が必要であることがわかった。

実施中の生徒の様子については、「メモをよくとっていた」「観察に集中していた」との回答が多かったが、その反面、質問は活発にできなかったようだ。

ジョブシャドウイングが勤労観・職業観の一助になるかという質問に対し、「思う」「どちらかといえば思う」が81%、「思わない」「どちらかといえば思わない」が8%であった。「思わない」「どちらかといえば思わない」の理由として、時間が短い1人、ジョブシャドウイングでは不足が1人だった。

ジョブシャドウイングを引受けて「良かった」「どちらかといえば良かった」というメンターが77%、企業が80%であった。次回もジョブシャドウイングを引受けたいというメンターが85%、企業が80%、引受けたいと思わないメンターが12%、企業は7%となった。

今後、受入企業に更なるご理解を得て、受入の負担軽減に考慮し、円滑な実施につなげていきたい。

主な意見や声としては以下の通りである。

<肯定的意見・感想>

- ・生徒にはいろいろと質問をされることによって、仕事をする目的や、やり方を考えさせられました。
- ・大人がどんな仕事をしているのか、事務が何をしているのか等、実際に見て感じることでできる良い取組みだと思います。メンターも自分（仕事）を見直すことになり、仕事に対する意識を再認識できた。
- ・生徒さんの学ぶ心構えがとても良かった。
- ・今回初めて体験させてもらい、事業所を知ってもらえてよかったと思う。

<改善が必要との意見・感想>

- ・時間的に短い、仕事を体験することができない。

<要望>

- ・たくさんの方が経験できるよう、多くの企業の協力を促して欲しいと思う。
- ・5年後、10年後、20年後、ジョブシャドウイングの経験者がどうなっているか、就職率が変わったか、公表して欲しい。

4 成果と次年度に向けた課題および改善点

(1) 成果と次年度に向けた課題および改善点

	事例	課題	今後の取組についての展望・改善点
実施校/保護者	美里高校 ・保護者説明会開催。 ・保護者連絡用メールと文書にてジョブシャドウイングの紹介とサポーター募集案内を行った。 島袋小学校 ・校内研修開催。 ・保護者向け講演会。 ・5年生保護者の出発式の参加。	・美里高校での校内研修未実施。 ・生徒が主体的に取り組める仕組み作り。 ・保護者への働きかけが不足。	・校内研修等でのジョブシャドウイングの周知とキャリア教育の必要性を周知する。 ・PTAとの連携を図る。
教育機関	・沖縄市教育委員会指導課事業説明 ・指導課長の出発式参加及び激励の挨拶。 ・島袋小学校学校支援地域本部コーディネーターとの連携した取組み。 ・美里中学校での企業人講話。		・学校支援地域本部コーディネーターとの連携強化 ・教育委員会指導課キャリア教育コーディネーターとの連携を図る。
地域コミュニティ	久保田自治会 ・公民館でのメンター合同説明会の開催、のぼり、ポスターの掲示。 ・自治会長の送迎サポーターとして参加、マイクロバスの提供。 ・公民館でのグッジョブパネル展開催。	・美里高校近隣自治会へのアプローチができなかった。	・自治会でのパネル展の開催。 ・地域住民へのグッジョブ運動の周知を図る。
行政	・広報誌ジョブシャドウイング実施掲載。 ・出発式、サポーターとして参加。	・多くの課との連携。	・周知活動を展開する。
経済団体	戸別訪問事業説明 ・沖縄商工会議所 ・沖縄市観光協会 ・沖縄県中小企業家同友会中部支部 ・沖縄青年会議所	・ジョブシャドウイングの理解度を高める必要がある。	・ジョブシャドウイングへの更なる理解を得る。
準備会	・2回の調整会議を実施。 ・ジョブシャドウイング事業の説明、企業開拓の協力依頼を行った。		・年3回の実施を目指す。

(2) 協議会設立に向けて

次期拠点地区として取組んだ1年であったが、関係機関の協力を得ることができ、活動を展開することができた。活動から見てきた今後の主な課題として、自立した組織となるための基盤固め、構成団体との連携強化、受入企業のジョブシャドウイングの理解を深める、実施校PTAや自治会との連携が挙げられる。

今後の具体的な活動として、年度内3回程度の協議会開催を目標とし、構成団体との連携を図る。また、受入企業間の意見交換や交流の場を設け、企業が児童生徒を受入れる際に工夫している点、苦労している点、面白いアイデアなどを話し合い、円滑な受入方法を作り出す機会とする。

ジョブシャドウイングを地域連携の触媒として、実施校PTA、自治会、学校支援地域本部との連携を図り、地域が一体となって児童生徒の職業観の形成に寄与できる体制を整えることに努める。

2 北中城地区

平成24年 北中城地区活動報告

1 準備会発足の背景

北中城村は村面積が11.53km²で村土の約18%を軍用地が占めており、全体的に丘陵地で平地が少ないため、まとまった住宅地、畑の耕作面積も少ない。産業別人口を見ても(2008年調べ)第1次産業2.5%、第2次産業17.8%、第3次産業が79.6%で第3次産業の割合が非常に高く、完全失業率も13.8%と県平均を上回っており、雇用問題について慢性的な課題を抱えている。

2007年の雇用対策法の改正以後、自治体における雇用政策の努力義務が明記されたものの、大きな雇用の受け皿となる主たる産業をもたない本村において、具体的な雇用政策としての取組みはなかなか進んでいなかった。そのような中で沖縄県が推進するグッジョブ運動の中で沖縄の高い失業率の問題を教育・産業・行政との連携に活路を見出そうとする取組みが注目され、本村においても導入を検討。平成23年度の地域支援グッジョブ事業の導入を経て準備会の発足を目指した。

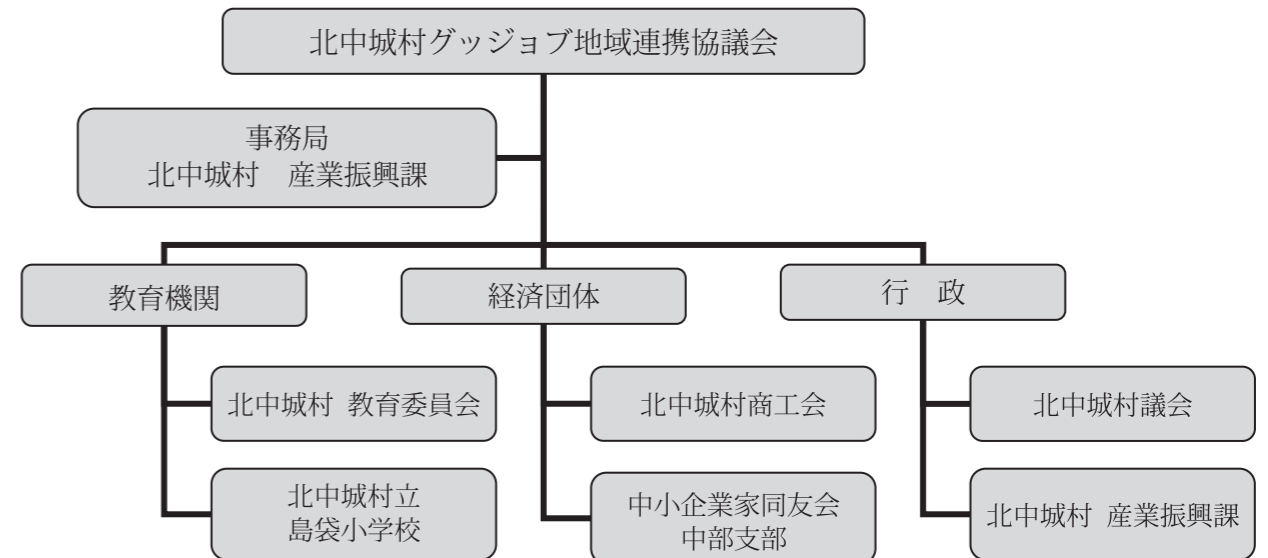
2 準備会の概要と取組

(1) 構成団体

本準備会は、教育機関や経済団体を含む6団体で構成しており、北中城村産業振興課が運営事務局の役割を担っている。

準備会名称	北中城村グッジョブ地域連携協議会
所在地	沖縄県北中城村字喜舎場426番地2
活動目的(理念)	本会議は、北中城村地区のジョブシャドウイング実施における、実施主体となり、安全でより効果的な実施を担う。北中城村地区において、行政・企業・経済団体や教育機関等を含めた産学官連携の場をつくり、ジョブシャドウイングを介した産学官連携の布石とする。また、北中城村地区全体へのキャリア教育の新たな手法の発信体としての機能も併せ持つ。

■構成表



■構成団体名簿		
No.	団体名	役職
1	北中城村議会	建設文教委員長
2	北中城村教育委員会 教育総務課	課長
		係長
		指導主事
3	北中城村 産業振興課	課長
		係長
4	北中城村立島袋小学校	校長
		教頭
		教諭
5	北中城村商工会	会長
		経営指導員
6	中小企業家同友会 中部支部	支部長
事務局	北中城村 産業振興課	

(2) スケジュールおよび今年度の取組

月	ジョブシャドウイング事業モデル的实施にかかる活動	準備会 活動
4月	・実施校の選定 ・地区連携推進委員への研修参加	・選定決定 ・連携推進員の雇用、配置
5月	・企業開拓	
6月	・保護者説明	・第一回 連絡調整会の開催 ・企業開拓
7月	・保護者説明（ブース） ・校内研修会	
8月	・企業開拓	
9月	・企業調整	・中間報告（報告書）
10月	・事前学習（企業人講話を含む） ・メンター説明会 ・ジョブシャドウイング実施	
11月	・事後学習 ・発表会 ・お礼・アンケート集計	・報告書作成
12月	・事後学習（企業人講話）	・校長会参加（報告）
1月	・次年度実施校の依頼	・次年度実施校募集、選定 ・報告書作成
2月	・次年度実施校の調整	・第二回 連絡調整会の開催
3月		・報告書仕上げ

(3) その他の活動

- 北中城まつり・パネルブース（しおさい公苑）
 - ・平成24年11月17日（土）～11月18日（日） 15:00～21:00
 - ・パネルにてジョブシャドウイング実施までの様子写真を展示
 - ・机上天にて島袋小学校6年生（57名）の成果新聞をファイルにして展示（2部）
- ジョブシャドウイング・パネル展（北中城村役場内ロビー）
 - ・平成24年12月10日（月）～12月14日（金）
 - ・児童全員の作成新聞をA4サイズに縮小し企業別に掲示
 - ・期日前投票の時期だったため、普段より来庁者も多く、たくさんの方の目に触れることが出来た。

③ ジョブシャドウイング モデル実施の報告

(1) 実施概略

北中城村には小学校2校、中学校1校があるが、初年度のモデル校としての取組みやすさを考え、小規模校にて実施。順を追って規模を拡大し、継続・展開できるような仕組みづくりを行う。

※JS:ジョブシャドウイングの略 ※コマ数(1校時):45分を指す

1	学校情報	北中城村立 島袋小学校（新規）	校 長：宇都宮 幸雄			
		住 所：〒901-2301 北中城村字島袋 1234				
		電 話：098-933-9863	F A X：098-933-9864			
	実施概略	対象学年：6年生 2クラス 57人（内 実施57人）				
		担 当：新里 みゆき（1組担任）、脇田 武史（2組担任）				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習：平成24年9月26日 ～平成24年10月25日		9コマ	6コマ	15コマ
		JS実施：平成24年10月26日				4コマ
		事後学習：平成24年10月29日 ～平成24年12月21日		9コマ	1コマ	10コマ
	特記事項	・北中城村ジョブシャドウイング実施初のモデル校 ・学校経営目標の中で「子ども達が楽しいという学校の実現（継続）」をあげ、子ども達の「生きる力」を育み活かすために、ジョブシャドウイングを実施することとした。 ・保護者説明会は、保護者への負担を減らすために学校行事に合わせて回数を分けて実施（計3回）。 ・出発式は継続性を考慮し、今後も学校行事として取組みやすくするために規模や出席者について検討し、校内規模にて実施。 ・実施時の送迎においては保護者だけではなくバス1台を手配した。 ・事前学習の企業人講話は連絡調整会員でもある北中城村議会議員の比嘉次雄氏に依頼。また、事後学習では発表会後に児童が選んだメンター（株式会社沖永開発・安里邦夫氏、安里和晃氏）を招き、講話を実施した。 ・事後学習の総括として1人1枚（B4サイズ）の壁新聞を作成し、受入企業（メンター）及び保護者を招待して11月14日に発表会を実施した。				

(2) 受入企業

準備会会員より、関係企業へアプローチをして貰い、リスト及び賛同企業を中心に開拓を進めた。また、業種が偏らないよう配慮した。一部、村外大手企業への依頼もあるが、基本的には村内企業での実施にこだわった。

【企業一覧】

No.	企業名	業種	受入人数	取りまとめ窓口	
1	沖縄電力株式会社 本店	電気業	10	グッジョブおきな	
2	琉球開発株式会社 中部本社	総合工事業	3	なわ推進事業局	
3	北中城村役場	地方公務	2	北中城村役場	
4	社会福祉法人 北中城村社会福祉協議会	社会保険・社会福祉・介護事業	1		
5	中城城跡共同管理協議会	娯楽業	2	北中城村教育委員会	
6	北中城村立北中城幼稚園	学校教育	1		
7	社会福祉法人琉球キリスト教奉仕団 特別養護老人ホーム 愛の村	社会保険・社会福祉・介護事業	3	北中城村商工会	
8	北中城村あやかりの杜	その他の教育, 学習支援業	3		
9	株式会社 EM 研究機構 EMウェルネスリゾートコスタピスタ沖縄 ホテル&スパ	宿泊業	2		
10	伊舎堂浩明写真事務所スタジオ写舎	技術サービス業	1		
11	株式会社沖永開発	総合工事業	2		
12	ガレーヂ TOMO	機械器具小売業	2		
13	株式会社ココストアイースト ココストア北中城島袋店	飲食料品小売業	3		
14	株式会社佐久本工機	物品賃貸業	4		
15	株式会社チェリーペーパー	その他の卸売業	2		
16	チームグクル合同会社	持ち帰り・配達飲食サービス業	1		
17	ヘアースタジオディード	洗濯・理容・美容・浴場業	2		
18	社会福祉法人三河福祉会 百登保育園	社会保険・社会福祉・介護事業	3		
19	和食 樂	飲食店	2		
20	有限会社花時	その他の小売業	4		北中城村商工会 ／中小企業家同友会中部支部
21	O nail salon (オーネイルサロン)	洗濯・理容・美容・浴場業	2		事務局
22	日本郵政株式会社 沖縄支社 北中城郵便局	郵便局	2		
受入人数 合計			57		人

(3) 成果物

事前学習からジョブシャドウイング実施、発表会、事後学習に至るまで、6年生全員で参加。



【事前学習】初めての名刺交換



【企業人講話】真剣に講話を聴講中



【出発式】緊張した面持ちで集合写真



【JS 実施中】メンターさんを観察中



【事後学習】メンターさんの紹介



【成果物】1人1枚 (B4サイズ) の壁新聞

(4) 実施を振り返って

①実施校について（ヒアリング、アンケートの考察）

北中城村ではジョブシャドウイングの実施は初めての地区であり、ジョブシャドウイング事業の認知を高めるため、校内研修等を実施することで事業の目的を説明し共有を図った。事前学習の段階から児童が意欲的で、実施後の反応も良かった。将来の夢を意識し始めた子や、あいさつが自然体で実践できる子が増え、保護者からも好反応で「期待以上」との回答を頂いた。少なくとも3年の実践・検証と継続を望む意向が示された。また、学校だけでは企業への対応が難しく、仲介者がいることで不安が解消され、実施が円滑に進んだとの意見も挙がった。本事業の主旨である地域連携と学校で行うキャリア教育を支援する仕組みのモデル構築が出来た。

②児童生徒について（振り返りシートからの考察）

実施前からほぼ全員が「仕事をしたい」と思っているものの、仕事に対するイメージは漠然としている。実施後はほとんどの児童が仕事に対するイメージが「変わった」と回答。実際にジョブシャドウイングを体験し、大人が働く姿を観察することによって、漠然としていた仕事に対するイメージが鮮明になり、将来の職業に対する興味の幅が広がり、仕事について具体的に考えるなどのきっかけとなっている。

③受入企業について（ヒアリング、アンケートの考察）

ジョブシャドウイングに対する認知度は低かったが、職場体験を受入れている企業が多かったせいか、受入れに対して不安を感じる企業・メンターは少なかった。窓口担当者はメンター選出に苦慮したようだが、主旨を理解し、児童及び業務に支障が無いよう配慮しつつ、多岐に渡る部署からメンターを選出頂き、児童・メンター共に実施後の反応は良かった。ただ、移動時間も含め約2時間という厳しい時間割だったため、学校から距離がある企業からは時間が足りないとの声も上がった。企業及びメンターにとっても良い刺激となったようで、今後の受入れに関し9割以上が肯定的な回答だったことから、負担感が少なく、満足度が高いことと、企業の地域貢献に対する意識の高さが伺える。

4 成果と次年度に向けた課題および改善点

(1) 成果と次年度に向けた課題および改善点

	事例	課題	今後の取組についての 展望・改善点
実施校 /保護者	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修会 保護者説明会 送迎サポーターとして参加 	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体に対する事業の理解 事業の理解と協力要請の体制作り 	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体のキャリア教育に対する意識を高める 送迎サポーターを確保する体制・仕組み作り
教育機関	<ul style="list-style-type: none"> 発表会見学の呼びかけ 実施校以外への周知 	<ul style="list-style-type: none"> 教育機関内の情報共有と連携体制 	<ul style="list-style-type: none"> 他の教育機関への情報発信と調整支援の依頼

	<ul style="list-style-type: none"> 校長会での事業説明及び依頼 	<ul style="list-style-type: none"> 日程や時間など実施校との調整補助 ジョブシャドウイング事業に対する理解 	<ul style="list-style-type: none"> 学校支援地域本部コーディネーターとの連携 事前学習の講師としての協力依頼
地域 コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> 祭り会場にてブースを設置し周知活動 	<ul style="list-style-type: none"> 講師の発掘 村内への周知 	<ul style="list-style-type: none"> 協力体制作りと周知依頼
行政	<ul style="list-style-type: none"> 祭り会場にて周知活動 役場ロビーにてパネル展を行い周知活動 村広報誌に記事の掲載 	<ul style="list-style-type: none"> 関連機関との連携と協力体制作り 広報活動の方法 	<ul style="list-style-type: none"> 円滑な計画の実行 広報周知と定着
経済団体	<ul style="list-style-type: none"> 商工会議所の総会でジョブシャドウイングの呼びかけを実施 合同メンター説明会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 村内受入企業の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 受入企業及び講師の確保と管理の工夫
準備会	<ul style="list-style-type: none"> 準備会の実施 JS通信の発行 講師の依頼及び紹介 企業紹介の依頼 合同メンター説明会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 会員が事業に絡むための工夫 情報発信の方法 	<ul style="list-style-type: none"> 受入企業及び講師の確保と管理の工夫 情報の発信（提供） 年間事業計画

(2) 協議会設立に向けて

今年度は、モデル事業として村としても初の試みだったため、実施校及び受入企業も手探りでの実施で、ある意味新鮮な気持ちで事業を行うことが出来た。地域性もあると思うが、企業や保護者が初めから協力的だったため、大変スムーズな実施が行えた。学校としては、個人面談の際にジョブシャドウイングについての説明の場を設け、個別で事業説明や保護者の疑問に答えられる体制を取ったことで、保護者へ学校の取組みを上手くアピールすることができた。また、実施後に自然と児童が家庭の中でジョブシャドウイングの様子等を話題にし、児童たちの充実した感想を聞くことで、保護者へ事業の目的や児童への効果が伝わった。その結果、さらに保護者が学校の取組みに対して興味を持つきっかけとなり、学校や児童、保護者にとって良い相乗効果を得ることが出来た。また、実施後の受入企業側の反応も良く、ほとんどが次年度も是非協力したいという前向きな意見だった。今後実施校を増やしていくことを考えると、必然的に企業への負担も増えてくるので、体験学習など既存のカリキュラムとの住み分け及び共存の方法を考えつつ、事務作業の効率化を考える必要がある。今回、既存の学校支援地域本部コーディネーターとの連携が十分ではなかった。その辺りも考慮しながら、次年度は関係者との連携を図り、構成団体及び地域との協力体制を強化しながら事業運営に取り組んでいきたい。

3 与那原地区

平成24年 与那原地区活動報告

1 協議会発足の背景

与那原町の状況は、15～29歳（平成22年度）の若年者失業率は17.6%で、県全体の12.6%と比べ高い数値となっており、人口増加著しい昨今において将来を担う若年者の就業意識の向上及び早期キャリア教育の充実が必要とされている。今後における地域雇用の問題解決や地域の就業意識の向上を図るため、行政・経済団体や教育機関等を含めた地域社会と産学官連携の場をつくり、地域主体のロールモデルを構築・推進するために発足された。

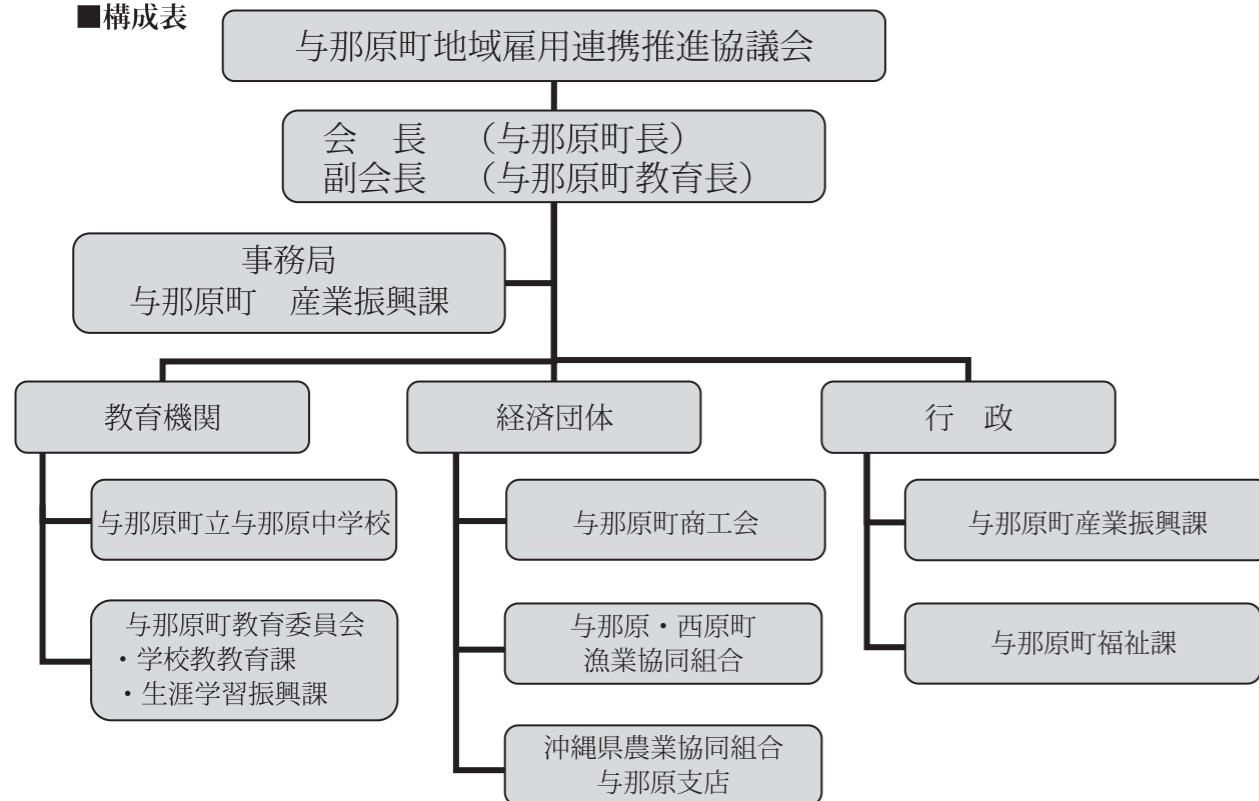
2 協議会の概要と取組

(1) 構成団体

本協議会は、与那原町長を会長とし、教育機関や経済団体等を中心に構成。運営事務局を与那原町産業振興課内に設置し、課長が本事務局長を担う。

協議会名称	与那原町地域雇用連携推進協議会
所在地	沖縄県与那原町字上与那原16番地
活動目的（理念）	本協議会は、地域雇用の問題解決や地域の就業意識の向上を図るため、与那原地区で実施する「ジョブシャドウイング事業」等の事業実施について、産学官及び地域が一体となった具体的な取組みを支援することを目的とする。

■構成表



与那原町地域雇用連携推進協議会	会長・・・与那原町長	
同	副会長・・・与那原町教育長	
同	事務局・・・与那原町 産業振興課	
■構成団体名簿		
No.	団体名	役職
1	与那原町	産業振興課
2		福祉課
3	与那原町教育委員会	学校教育課
		生涯学習振興課
4	与那原町立 与那原中学校	校長
5	与那原町商工会	会長
		事務局長
6	与那原・西原町漁業協同組合	組合長
		参事
7	沖縄県農業協同組合 与那原支店	支店長

(2) スケジュール及び今年度の取組

月	ジョブシャドウイング事業モデル的实施にかかる活動	準備会/協議会 活動
4月	・実施校の選定 ・地区連携推進委員への研修参加	・選定決定 ・連携推進員の雇用、配置
5月	・教育委員会へあいさつ ・与那原中学校へあいさつ	・学校調整
6月	・ジョブシャドウイング実施に係る打合せ	・学校調整
7月	・与那原町地域雇用連携推進協議会設立総会 ・与那原町広報誌へジョブシャドウイングの連載開始	・学校調整 ・企業開拓
8月	・ジョブシャドウイング オリエンテーション ・受入企業開拓開始	・学校調整 ・企業との調整
9月	・事前学習	・学校調整 ・企業との調整
10月	・企業メンター合同説明会 ・事前学習 ・企業人講話	・学校調整 ・企業との調整、説明会の開催 ・講話講師の選定及び調整

11月	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習（マナー講習） ・ジョブシャドウイング実施 ・受入先企業へお礼 ・受入企業用アンケート実施・回収・集計 ・生徒用アンケート実施・回収・集計 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校調整 ・受入企業との調整 ・アンケート集計
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会（総合文化発表会） ・第2回協議会開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会開催準備 ・事業報告書作成
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度事業計画 ・ジョブシャドウイングパネル展（庁舎ロビー） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョブシャドウイング実施校以外で企業人講話の実施調整 ・事業報告書作成
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回協議会開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会開催準備 ・事務局連絡会の開催 ・事業報告書作成
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度受入企業開拓開始 ・次年度実施校向け事業説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会の開催 ・事業報告書作成・発刊 ・学校調整

(3) その他の活動

- 5月 与那原町商工会 総会参加(ジョブシャドウイング事業の周知)
- 与那原中学校 教職員校内研修会(ジョブシャドウイング事業の周知)
- 6月 与那原町立小中学校キャリア教育担当勉強会
- 9月 与那原中学校区保護者講演会
- 10月 合同企業メンター説明会開催 10/18(4回)、10/25(3回)
- 偶数月 地域の行事「綱がるちゃんぷる～市・軽便市(地域活性化事業)」にてグッジョブブースを設置(グッジョブ運動とジョブシャドウイング事業の周知)
- 毎月 町広報紙「広報よなばる」に記事掲載

3 ジョブシャドウイング モデル実施の報告

(1) 実施概略

与那原町において次年度以降のロールモデルとなるよう町立3小中校のうち、全校生徒600名余の与那原中学校を選定した。同校は、町内全地域が校区であり、学校・地域・企業・保護者と連携した体制が望めることと、同校がキャリア教育の充実を図っていることを推進する目的でモデル校とした。

※JS:ジョブシャドウイングの略 ※コマ数(1校時):50分を指す

1	学校情報	与那原町立 与那原中学校（新規）	校 長：安谷屋 守松(もりまつ)			
		住 所：〒901-1303 与那原町字与那原 57番地				
		電 話：098-946-2254		F A X：098-946-5549		
	実施概略	対象学年：1年生 5クラス 195人（内 実施 194人）				
		担 当：上原 仁(教頭)、伊波 奈月(総合学習担当教諭)、知花 綾子(1学年主任)				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習：平成 24年 8月 30日		1コマ		
		平成 24年 9月 3日			1コマ	
		平成 24年 9月 10日			1コマ	
		平成 24年 9月 24日		1コマ		
平成 24年 10月 5日		1コマ				
平成 24年 10月 15日		1コマ				
平成 24年 10月 22日		1コマ				
平成 24年 10月 30日			1コマ			
平成 24年 11月 6日			2コマ	10コマ		
J S実施：平成 24年 11月 8日			4コマ			
(平成 24年 11月 9日)			(4コマ)	4コマ		
事後学習：平成 24年 11月 8日		2コマ				
(平成 24年 11月 9日)		(2コマ)				
平成 24年 11月 12日		3コマ				
平成 24年 11月 13日		3コマ				
平成 24年 11月 14日		3コマ				
平成 24年 11月 15日		2コマ				
平成 24年 11月 16日		2コマ				
平成 24年 12月 15日		6コマ		21コマ		
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョブシャドウイング新規実施校。 ・教育目標：勤勉・立志・自主（将来に夢や希望を持ち、その目標に向かって努力することができる生徒。将来の生き方を考え、主体的に進路を選択決定することができる生徒。） ・この事業を通して、仕事や働くことへの気づきを促し、学習意欲の向上を図り、社会人としての規律、礼儀、言葉づかいの大切さを知る機会とし、生徒自身の将来を考え進路の選択に活かせるよう、地域の企業や団体等と協力してキャリア教育の推進を図る新たな取組みとする。 ・11月8日（木）1・2組、11月9日（金）3・4・5組と2回に分け実施。 ・ジョブシャドウイング実施当日は、主に保護者が送迎を担当。（全50コース、PTA 44名） ・事後学習の後、別日に学校全体の発表会を設け、保護者ほかメンターを招待。 					

(2) 受入企業

本協議会の参加団体の協力のもと、与那原町内の企業や事業所を中心に企業開拓を行った。行政はじめ地元密接した企業・小売店など幅広い職種にて実施した。

【企業一覧】

No.	企業名	業種	受入人数	取りまとめ窓口
1	株式会社サンエー 西原シティ	各種商品小売業	8	グッジョブおきなわ推進事業局
2	沖縄経済同友会	政治・経済・文化団体	4	
3	財団法人沖縄観光コンベンションビューロー	その他の生活関連サービス業	6	与那原町商工会
4	有限会社国際旅行社南部	その他の生活関連サービス業	4	
5	社会福祉法人南島会 与那原日の出園特別養護老人ホーム	社会保険・社会福祉・介護事業	11	与那原町商工会
6	社会福祉法人南島会 与那原日の出園 デイサービスセンター	社会保険・社会福祉・介護事業	7	
7	株式会社沖縄イグトー	建築材料、鋳物・金属材料等卸売業	3	事務局
8	株式会社興洋電子	通信業	10	与那原町・西原町漁業協同組合
9	与那原・西原町漁業協同組合	協同組合(他に分類されないもの)	8	
10	株式会社次郎工業	自動車整備業	8	与那原町商工会
11	フラワーショップ みやび	その他の小売業	1	
12	JA おきなわ ファーマーズマーケット 与那原あがりはま市場	協同組合(他に分類されないもの)	9	JA
13	JA おきなわ 与那原支店	協同組織金融業	5	与那原町商工会
14	株式会社東部電気土木	設備工事業	4	
15	株式会社三倉食品	食料品製造業	4	
16	株式会社政喜産業	各種商品小売業	1	
17	株式会社照正組	総合工事業	1	
18	新垣瓦工場	窯業・土石製品製造(販売)業	2	
19	沖縄協同ガス株式会社	ガス業	6	
20	株式会社くみき	自動車整備業	3	JA
21	株式会社JA おきなわSS 新開SS	その他の小売業	2	
22	くに旅行サービス	その他の生活関連サービス業	2	与那原町商工会
23	与那原町商工会	政治・経済・文化団体	1	
24	きゃん司法書士事務所	専門サービス業	2	
25	大衆 よなばる食堂	飲食店	2	
26	金秀商事株式会社 タウンプラザかねひで与那原店	各種商品小売業	15	

27	株式会社スズキ自販沖縄 東浜営業所	機械器具小売業	3	事務局
28	エルコーポレーション有限公司 風風ラーメン与那原店	飲食店	4	
29	株式会社コールアップジャパン ドコモショップはえばる店	通信業	2	与那原町商工会
30	しまんちゅ工房	その他の小売業	1	
31	琉球ダイハツ販売株式会社 東浜支店	機械器具小売業	6	事務局
32	神谷茶舗	飲食料品卸売業	1	与那原町商工会
33	有限会社日光写真館	技術サービス業(他に分類されないもの)	8	
34	東部清掃施設組合 事務局	廃棄物処理業	6	事務局
35	イオン琉球株式会社 ジャスコ南風原店	各種商品小売業	30	
36	卓球ショップ T&T 田畑	娯楽業	1	与那原町商工会
37	与那原町役場	地方公務	3	事務局
受入人数 合計			194 人	

注) JA: 沖縄県農業協同組合 与那原支店

(3) 成果物



【事前学習】
マナー学習であいさつの練習「お願いします」



【企業人講話】
「社長」になった先輩の話に、興味津々



【出発式】
いろんなことを見て勉強してきます！



【JS 実施中】
メンターの背中から仕事を観察



【事後学習】

メンターさんから教わったことを、振り返ってまとめるのは難しい…。



【成果物（発表会）】

プレゼンテーションを一生懸命聞いています

(4) 実施を振り返って

①実施校について（ヒアリング、アンケートの考察）

ジョブシャドウイングを実施するにあたり、当初より受入企業の開拓について懸念があったが、協議会会員の協力を得て円滑に実施することができた。また、送迎でも多くの保護者に協力を得ることができ、事業を周知することができた。今回この事業を通し、仕事や働くことに対する気づきや社会人としての規律、礼儀、言葉づかいの大切さを知るよい機会となったと思われる。後述にもあるように、生徒自身の将来、進路について考えるよいきっかけになったと思われる。次年度以降は、さらなる事業の周知と企業や学校・家庭など地域との連携を図っていきたい。

②生徒について（振り返りシートからの考察）

「将来仕事をしたいですか？」というアンケートで、実施前は78%だったのに対し、実施後は87%であった。ジョブシャドウイング体験後、8割の生徒が働くイメージが変わったと回答。具体的な将来の夢がなくても、自分の好きなことを見つけて将来の職業につなげていけるよう勉強に取り組みたいという意見が多くあった。

③受入企業について（ヒアリング、アンケートの考察）

今回の事業は、初の取り組みではあったが、依頼した企業すべてから、アンケートの結果「次回も生徒を受入れたい」という回答があり、事業内容が理解されたと思われる。

4 成果と次年度に向けた課題および改善点

(1)成果と次年度に向けた課題および改善点

	事例	課題	今後の取組についての 展望・改善点
実施校 /保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修会の実施 ・JS実施学年の担当教諭との情報共有化 ・保護者へ送迎の協力依頼 ・家庭教育講演会の実施 ・企業人講話の実施 ・学校行事「立志の日講演会」(2年生)で、講師を紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な連絡会の開催が必要 ・事業説明会を開催し、PTAへジョブシャドウイング事業の活動内容を周知 ・送迎サポーターについて情報共有の方法と確保 ・講師依頼の調整方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回定期的連絡会を開催し、情報共有体制の構築 ・日程等を調整してPTA向け事業説明会の開催 ・窓口担当者との情報共有の方法を検討し、各種調整等の連携を図る ・企業情報のデータベース化
教育機関	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援地域本部コーディネーターとの連携 ・次期実施校との情報共有と連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援地域本部コーディネーターとの情報共有と連携体制の確立 ・教育機関内の情報共有と連携体制の確立 ・小中連携によるキャリア教育の実施 ・義務教育後の地域教育機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・各機関について情報共有と連携体制の確立を図る ・小学校高学年から中学校まで各学年での職場見学、体験、JS実施を体系立てた計画策定 ・知念高校など地域の教育機関との連携により現状を把握する必要がある
地域コミュニティー	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化イベント（ちゃんぷるー市など）でブースを設置し、周知活動を実施 ・成果物のジョブシャドウイング新聞とジョブシャドウイングパネルの展示 ・町広報紙の配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の周知方法 ・成果物の発表方法 ・地域内の講師の発掘と依頼方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・他地域の実践内容を参考にし、事業内容の周知方法の検討、連携体制の確立を図る
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・月刊の町広報誌へ記事掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌読者の意見や反応が測れない ・情報の周知方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業内容の周知方法の検討、意見集積方法、連携体制の確立を検討
経済団体	<ul style="list-style-type: none"> ・校区内の企業を中心に受入を依頼 ・商工会の定例会議へ参加し情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・多種多様な企業の開拓 ・小規模の企業が多いため、受入人数の振り分け調整が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い業種を開拓し、生徒への職業選択の幅を広げる ・定期的な運営委員会の実施を検討

<p>協議会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会の開催 ・講師の依頼並びに紹介 ・校区内企業へ受入要請 ・ジョブシャドウイング実施報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・会員向け事業内容の周知方法 ・情報共有の方法 ・会員からの意見集約取りまとめ方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な運営委員会の実施を検討 ・事業内容の周知方法の検討 ・各団体連携体制の確立を図るための会議の実施
-------------------	--	---	---

(2) 協議会を設立して

本協議会は、沖縄型ジョブシャドウイング事業実施の拠点地区として活動することを見据え、平成24年度から「次期拠点地区」として関係団体が連携した協議会を発足した。与那原町での取組みは、与那原中学校1年生を対象にジョブシャドウイング事業を行い、実施校において生徒への事前・事後学習によりジョブシャドウイングの目的どおりに実施することができた。また、受入企業の方々にも事業趣旨をご理解いただき37事業所・団体において194名の生徒受入れを行い、多種多様な業種に事業が実施できたことは生徒自身の視野を広げるよいきっかけになったと思われる。

本協議会の設立運営にあたり地域の経済団体や企業、学校・教育機関、行政の産学官が連携したことで、各機関それぞれの状況把握するよい機会になったと思われる。本協議会が就業意識の向上と雇用拡大に向け地域連携の与那原モデルのプラットフォームとなるよう、関係団体が協働し、未来につながる人材を育成することを目標として今後の協議会運営に取り組んでいきたい。

4 石垣地区

平成24年 石垣地区活動報告

1 準備会発足の背景

石垣市は小学校20校、中学校9校（内小中併置校4校）、高等学校3校からなるが、高等学校卒業後の進学先が石垣市内には無いため、沖縄本島、あるいは県外へ出る子ども達がほとんどである。そのため、石垣市内への職業の興味関心は低く、島内企業では若い世代の確保が課題となっている。

このことを踏まえ、地域で活躍する人材を地域で育成するためにも、産学官、地域連携の仕組み構築を図る場として石垣市産学官連絡調整会議を発足した。

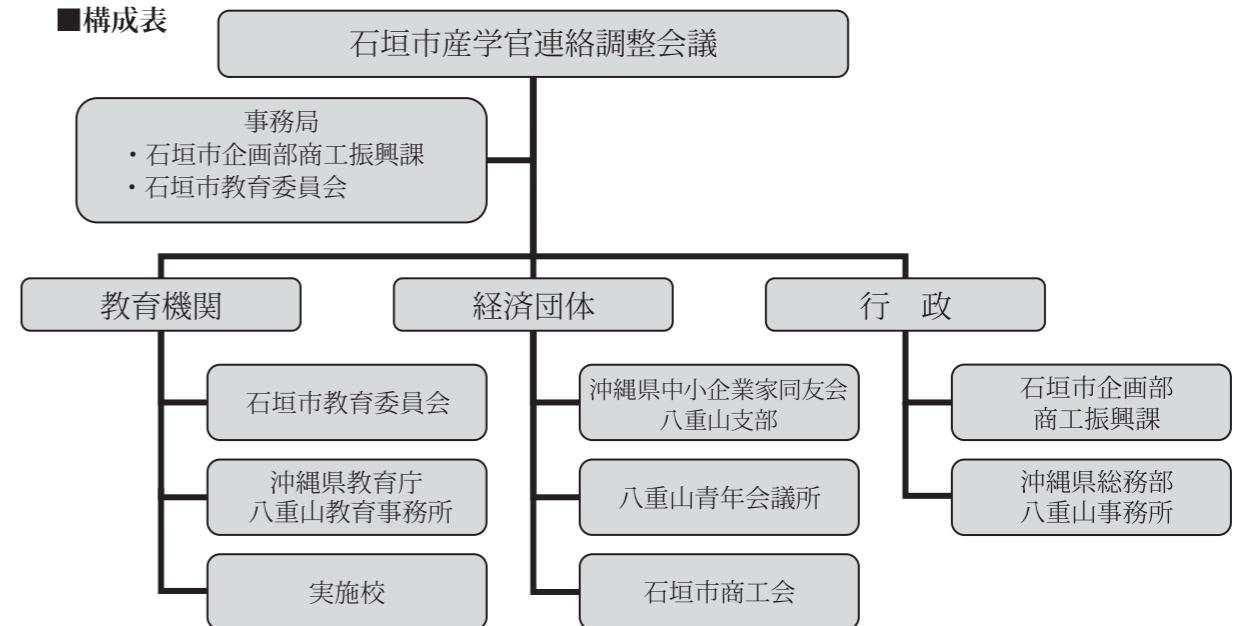
2 準備会の概要と取組

(1) 構成団体

平成22年度から23年度にかけて、八重山地区産学官連絡調整会議として一市一町で沖縄型ジョブシャドウイングモデル事業を実施していた。平成24年度からは石垣市として協議会発足に向けて取組んでおり、新たに中小企業家同友会八重山支部が構成メンバー入りした。

準備会名称	石垣市産学官連絡調整会議
所在地	沖縄県石垣市美崎町14番地
活動目的（理念）	石垣市では20年度からジョブシャドウイングをモデル事業として行ってきた。今年度は前年度の実施児童生徒数28人を大きく上回る126人の実施を行うため、これまで以上に産学官、地域連携の仕組みづくりが必要となった。特に、受入企業の開拓は重要な課題であるため、企業団体を構成メンバーとして加え、受入れ態勢を強化した。そこから児童生徒に幅広い職種を観察させ、将来の進路に対する視野を広げてもらうことを目的としている。

■構成表



■構成団体名簿		
No.	団体名	役職
1	沖縄県総務部八重山事務所	総務課長
2	沖縄県教育庁八重山教育事務所	指導主事
3	沖縄県中小企業家同友会八重山支部	支部長
4	石垣市商工会	経営指導員
5	八重山青年会議所	理事長
6	石垣市立 白保中学校	校長
	石垣市立 石垣小学校	校長
	石垣市立 平久保小学校	校長
	石垣市立 明石小学校	校長
	石垣市立 伊野田小学校	校長
	石垣市立 野底小学校	校長
7	石垣市企画部商工振興課	課長
8	石垣市教育委員会 学校指導課	課長
事務局	石垣市企画部商工振興課、石垣市教育委員会	

(2) スケジュールおよび今年度の取組

月	ジョブシャドウイング事業モデル的实施にかかると活動	準備会 活動
4月	・実施校の選定	・選定決定
5月	・北部4校合同第一回事前学習	
6月	・地区連携推進委員への研修参加	・連携推進員の雇用、配置 ・第一回産学官連絡調整会議
7月	・石垣中学校企業人講話 ・企業開拓	
8月	・企業開拓 ・企業合同説明会	・石垣ロータリークラブ卓話事業説明
9月	・石垣小学校、大本小学校合同校内研 ・学校調整	・八重山教育事務所主催初任研キャリア教育講習
10月	・白保中学校保護者説明会 ・メンター合同説明会	
11月	・石垣小学校事前学習 ・石垣小学校企業人講話 ・石垣小学校ジョブシャドウイング ・石垣小学校事後学習 ・北部4校合同第二回事前学習 ・北部4校合同ジョブシャドウイング	

12月	・白保中学校事前学習 ・白保中学校校内研 ・白保中学校企業人講話 ・大本小学校第一回事前学習 ・大本小学校第二回事前学習 ・大本小学校企業人講話 ・3校合同ジョブシャドウイング ・2校合同事後学習 ・石垣小学校発表会	・校長会出席（次年度実施校募集） ・構成メンバーへの実施報告
1月	・次年度実施校の選定	・事務局会議
2月	・大本小学校発表会 ・白保中学校発表会 ・北部4校合同発表会	・第二回産学官連絡調整会議
3月	・報告書作成	・第三回産学官連絡調整会議

(3) その他の活動

- 2月 石垣市教育委員会主催平成25年度年度実施校担当者研修会
（平成25年度実施校担当者に向けて事業概要説明、平成24年度実施内容報告、実施に向けての取組み等の内容で石垣市教育委員会主催の研修会を行った。）
- 3月 パネル展
（石垣市役所売店前ロビーにて、市民への周知及び受入れ企業・団体へのフィードバックを目的として、児童生徒の成果物を展示するパネル展を行った。）

③ ジョブシャドウイング モデル実施の報告

(1) 実施概略

今年度から初の大規模校として石垣小学校が実施を行った。北部地区の平久保小学校、明石小学校、野底小学校、伊野田小学校の4校は独自で行っている合同学習の中に本事業を取入れた。白保中学校は竹富町小浜小中学校と共に、交流学习も目的のひとつとして実施した。その際、大本小学校も含め、3校合同で実施を行った。

【単独実施校】 ※JS:ジョブシャドウイングの略 ※コマ数(1校時):小学校45分、中学校50分を指す

1	学校情報	石垣市立 石垣小学校（新規）	校 長：田本 由美子			
		住 所：〒907-0023 石垣市字石垣 204番地				
		電 話：0980-82-2107	F A X：0980-83-6331			
	実施概略	対象学年：6年生 2クラス 67人（内 実施 65人）				
		担 当：半嶺 当陽（1組担任）、高木 彩花（2組担任）、岡崎 心一（教務）				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習：平成 24年 11月 19日			3コマ	3コマ

	J S実施 ：平成 24年 11月 20日		4コマ	4コマ
	事後学習 ：平成 24年 11月 20日		2コマ	
	平成 24年 11月 7日	2コマ		
	平成 24年 12月 14日	2コマ		
	平成 24年 12月 20日	2コマ		8コマ
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・企業人講話講師：ミュージシャン きいやま商店（崎枝大樹氏、崎枝将人氏） ・事前学習内の企業人講話では5年生も一緒に参加した。 ・平成23年度に130周年を迎えた歴史ある学校で、平成24年度石垣市実施唯一の大規模校ということもあり、次年度以降他の大規模校が実施を行う上で、実施方法、送迎等のロールモデルとなり得る。 ・平成24年度は沖縄県立総合教育センターの連携校に指定されている。（国語科） ・ジョブシャドウイング発表会は、企業ごとにブース分けをするなど大規模校ならではの工夫が見られ、メンターも数多く訪れた。 			

【北部4校】

2	学校情報	石垣市立 平久保小学校（新規）	校 長 ：安和 守光				
		住 所 ：〒907-0331 石垣市字平久保 77番地					
		電 話 ：0980-89-2143		F A X ：0980-89-2261			
	実施概略	対象学年 ：5・6年生 1クラス 5人（内 実施 5人）					
		担 当 ：諸見里 圭（5、6年担任）					
		実施日		コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習 ：平成 24年 5月 30日				2コマ	
		平成 24年 11月 22日				2コマ	4コマ
		J S実施 ：平成 24年 11月 27日				4コマ	4コマ
		事後学習 ：平成 24年 11月 27日			1コマ		
3	学校情報	石垣市立 伊野田小学校（新規）	校 長 ：西原 貴和子				
		住 所 ：〒907-0241 石垣市字桃里 168-56					
		電 話 ：0980-86-7850		F A X ：0980-76-7351			
	実施概略	対象学年 ：5・6年生 1クラス 4人（内 実施 3人）					
		担 当 ：比嘉 正和（5、6年担任）					
		実施日		コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習 ：平成 24年 5月 30日				2コマ	
		平成 24年 11月 22日				2コマ	4コマ
		J S実施 ：平成 24年 11月 27日				4コマ	4コマ
		事後学習 ：平成 24年 12月 7日			1コマ		
平成 24年 12月 20日			1コマ				
平成 25年 1月 18日			1コマ				
平成 25年 2月 6日			1コマ				

4	学校情報	石垣市立 明石小学校（継続）	校 長 ：前上里 徹				
		住 所 ：〒907-0332 石垣市伊原間 249番地					
		電 話 ：0980-89-2142		F A X ：0980-84-5275			
	実施概略	対象学年 ：5・6年生 1クラス 6人（内 実施 6人）					
		担 当 ：真鶴 かおり（5、6年担任）					
		実施日		コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習 ：平成 24年 5月 30日				2コマ	
		平成 24年 11月 22日				2コマ	4コマ
		J S実施 ：平成 24年 11月 27日				4コマ	4コマ
		事後学習 ：平成 24年 11月 27日			1コマ		
平成 25年 2月 7日			1コマ				
平成 25年 2月 8日			1コマ				
平成 25年 2月 12日			1コマ				
平成 25年 2月 13日			1コマ				
平成 25年 2月 14日			1コマ		6コマ		
5	学校情報	石垣市立 野底小学校（新規）	校 長 ：西前津 松市				
		住 所 ：〒907-0333 石垣市字野底 138					
		電 話 ：0980-89-2144		F A X ：0980-89-2079			
	実施概略	対象学年 ：5・6年生 1クラス 11人（内 実施 10人）					
		担 当 ：田中 直晶（5、6年担任）					
		実施日		コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習 ：平成 24年 5月 30日				2コマ	
		平成 24年 11月 22日				2コマ	4コマ
		J S実施 ：平成 24年 11月 27日				4コマ	4コマ
		事後学習 ：平成 24年 12月 7日			1コマ		
平成 24年 12月 20日			1コマ				
平成 25年 1月 18日			1コマ				
平成 25年 2月 6日			1コマ				

	平成 25年 2月 7日	1コマ		
	平成 25年 2月 12日	1コマ		
	平成 25年 2月 13日	2コマ		
	平成 25年 2月 14日	1コマ		9コマ
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・4校合同企業人講話講師：株式会社南山舎 やいま編集部 笹本真純氏 ・出発式を市内中心に位置する石垣市役所で行ったため、徒歩ルートを設定することができ、送迎の負担を減らせた。 ・北部地区4校は学校同士独自で交流学习を設けている。また、交流学习以外にも合同ジョブシャドウイングを合理的に実施するために、放課後、幹事校担当教員を中心として、他3校の担当教員と合計8時間連携調整を行った。 ・ジョブシャドウイング発表会も4校合同で行い、遠隔地にもかかわらず多くのメンターが訪れた。 			

【小・中合同実施】

6	学校情報	石垣市立 大本小学校（新規）	校 長 ：石垣 俊子			
		住 所 ：〒907-0002 石垣市真栄里 1111				
		電 話 ：0980-82-6315	F A X ：0980-84-1860			
	実施概略	対象学年 ：5・6年生 1クラス 7人（内 実施 7人）				
		担 当 ：高橋 康浩（5、6年担任）				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習 ：平成 24年 12月 12日			2コマ	
		平成 24年 12月 13日			2コマ	4コマ
		J S 実施 ：平成 24年 12月 14日			4コマ	4コマ
		事後学習 ：平成 24年 12月 17日		1コマ		
	平成 24年 12月 18日		1コマ			
	平成 24年 12月 20日		1コマ			
	平成 24年 12月 21日		1コマ			
	平成 25年 1月 15日		1コマ			
	平成 25年 1月 18日		1コマ			
	平成 25年 1月 21日		2コマ			
	平成 25年 1月 28日		1コマ		9コマ	
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・企業人講話講師：ゴーヤカンパニー有限公司 代表取締役社長 伊良皆誠氏 ・ジョブシャドウイングは合同で実施したが、事後学習は学校独自で行うスタイルをとった。 ・農村地ならではの体験学習（野鳥観察、畜産・農業観察等）は独自で実施していたが、キャリア教育の視点を含めた観察型実施は初の試みとなり、市街地の企業をジョブシャドウイングすることで児童の視野を広げることができた。 ・学習発表会の中でジョブシャドウイング発表会を行い、多くのメンターが訪れた。 					

7	学校情報	石垣市立 白保中学校（継続）	校 長 ：上里 多一			
		住 所 ：〒907-0242 石垣市字白保 268-35				
		電 話 ：0980-86-7841	F A X ：0980-86-7841			
	実施概略	対象学年 ：1年生 1クラス 26人（内 実施 26人）				
		担 当 ：山内 みどり（1学年担任）				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習 ：平成 24年 12月 12日			3コマ	3コマ
		J S 実施 ：平成 24年 12月 14日			4コマ	4コマ
		事後学習 ：平成 24年 12月 14日			2コマ	
		平成 24年 12月 20日		1コマ		
	平成 25年 1月 9日		1コマ			
	平成 25年 1月 16日		2コマ			
	平成 25年 1月 18日		1コマ			
	平成 25年 1月 23日		2コマ			
	平成 25年 1月 25日		1コマ			
	平成 25年 1月 30日		1コマ			
	平成 25年 2月 1日		1コマ			
	平成 25年 2月 2日		1コマ		13コマ	
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間継続校 ・企業人講話講師：国立天文台 石垣島天文台 副所長 宮地竹史氏 ・3校合同ジョブシャドウイング実施校の1校 ・事後学習は竹富町の小浜小中学校と合同で行った。その際、グループワークを主に行うに当たり、事業局、先生方にファシリテーターとして参加していただいた。 ・実施担当教員が前年度も担当だったこともあり、連携がスムーズに行えた。 ・学習発表会の中でジョブシャドウイング発表会を行い、多くのメンターが訪れた。 					

※3校合同実施とは上記2校に竹富町立小浜小中学校の中学1年生が加わっての実施

(2) 受入企業

石垣市産学官連絡調整会議構成メンバーの協力を得ながら、幅広い職種の開拓を目指した。

【企業一覧】

No.	企 業 名	業 種	受入人数	取りまとめ窓口
1	株式会社サンエー 石垣シティ	各種商品小売業	2	事業局
2	株式会社石垣市経済振興公社	各種商品小売業	3	商工会
3	株式会社石垣島かまぼこ	食料品製造業	1	商工会
4	株式会社西表島観光センター	その他の生活関連サービス業	2	中小企業家同友会
5	株式会社あざみ屋	繊維工業	2	事業局

6	株式会社琉球銀行 八重山支店	銀行業	2	市役所
7	ベスト電器石垣店 株式会社喜舎場電気商会	機械品具小売業	1	青年会議所
8	株式会社ピースアイランド ホテルピースアイランド石垣イン八島	宿泊業	2	観光協会
9	株式会社ピース企画 ホテルピースランド石垣島	宿泊業	2	観光協会
10	株式会社りゅうせきロジコム 八重山物流センター	その他の小売業	4	事業局
11	株式会社トータルライフサポートえん	社会保険・社会福祉・介護 事業	2	石垣小学校
12	沖縄電力株式会社離島カンパニー 八重山支店	電気業	9	事業局
13	八重山観光フェリー株式会社	水運業	3	事業局
14	宮平観光株式会社	宿泊業	2	中小企業家同友会
15	沖縄トヨタ自動車株式会社 八重山支店	機械品具卸売業	4	事業局
16	日本トランスオーシャン航空株式会社 八重山支社	航空運輸業	6	ロータリークラブ
17	陸運総合株式会社	機械品具卸売業	1	中小企業家同友会
18	石垣島ビール株式会社	飲料・たばこ・飼料製造業	1	中小企業家同友会
19	ルートイン株式会社 石垣リゾートグランヴィリオホテル	宿泊業	4	事業局
20	日本郵便株式会社	郵便業(信書便事業を含む)	11	市役所
21	石垣島ドリーム観光株式会社	水運業	6	事業局
22	有限会社ホンダ四輪大川モーター	自動車整備業	2	中小企業家同友会
23	有限会社八重泉酒造	飲料・たばこ・飼料製造業	3	中小企業家同友会
24	有限会社ディーシーコーポレーション	洗濯・理容・美容・浴場業	3	中小企業家同友会
25	有限会社ロイヤルマリンパレス	宿泊業	1	青年会議所
26	幸地薬局	その他の小売業	1	中小企業家同友会
27	ANA インターコンチネンタル 石垣リゾート	宿泊業	12	事業局
28	石垣市商工会	政治・経済・文化団体	1	商工会
29	石垣市特産品振興協同組合	協同組合(他に分類されな いもの)	6	商工会
30	J A ファーマーズマーケットやえやま ゆらていく市場	協同組合(他に分類されな いもの)	1	事業局
31	海上保安庁 石垣海上保安部	国家公務	5	事業局

32	環境省 九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所 石垣自然保護官事 務所	国家公務	8	事業局
33	国立天文台(石垣島天文台、VERA 観測所)	学術・開発研究機関	1	事業局
34	気象庁 石垣島地方気象台	国家公務	2	事業局
35	沖縄県 土木建築部八重山土木事務所	地方公務	2	八重山事務所
36	沖縄県 福祉保健部八重山福祉保健所	地方公務	2	八重山事務所
37	沖縄県 総務部八重山事務所	地方公務	3	八重山事務所
38	農業研究センター石垣支所	地方公務	5	八重山事務所
39	石垣税務署	国家公務	2	事業局
40	竹富町役場 建設課	地方公務	1	事業局
41	竹富町教育委員会 教育課	地方公務	1	事業局
42	八重山平和祈念館	地方公務	1	八重山事務所
受入人数 合計			133	人

※商工会:石垣市商工会 ※事業局:グッジョブおきなわ推進事業局 ※青年会議所:八重山青年会議所
 ※中小企業家同友会:沖縄県中小企業家同友会八重山支部 ※市役所:石垣市役所 ※八重山事務所:沖縄県総務部八重山事務所

(3) 成果物



【事前学習】働くとは？



【企業人講話】講師：きいやま商店



【出発式】副市長挨拶



【JS実施中】海上保安庁巡視船にて



【事後学習】緊張の発表



【成果物（発表会）】ブースごとに

(4) 実施を振り返って

①実施校について（ヒアリング、アンケートの考察）

石垣市でジョブシャドウイングを実施した7校全てが「期待通り」あるいは「期待以上」と評価した。理由として、児童生徒の実施前と実施後の変化を挙げた。「挨拶、お辞儀のしかたなど、事前学習で学んだことが日頃の学校生活にも垣間見られる。」や「一人で観察することで、精神的に成長し、自信を持った表情をする生徒が増えた。」などの報告があった。

また、「子ども達の仕事のイメージが広がり、授業の中でも関連させて話ができるようになった」との声もあり、ジョブシャドウイングを通して、学校生活と社会が繋がることへの「気づき」を促せた。

②児童生徒について（振り返りシートからの考察）

ジョブシャドウイングを通して、仕事に対するイメージが変わったと答えた児童生徒は、実施を行った児童生徒全体の7割に上った。その中で多くの児童生徒が、「大変そう」「きつそう」「面倒そう」というイメージから、「楽しそう」「仕事をしたい」と変わった。また、「仕事は一人でするものだと思っていたけど、みんなで協力し支え合うことで、仕事ができる」との回答もあり、社内及び社外との連携によって社会が成り立っていることを学べた。

また、「仕事をする人」を観察することで、「家庭」においても変化がみられたようだ。共働きの両親を持つ児童生徒の仕事に対する悪印象が好転した例もあった。

（以下抜粋）

・両親が共働きで家にいないので、「仕事はダメだ」という考えをもっていたけど、笑顔で接客するメンターさんを見て働くことは良いことだと考えた。

③受入企業について（ヒアリング、アンケートの考察）

石垣市で、100名を超えるジョブシャドウイングは今年度が初ということもあり、ジョブシャドウイングを「知らなかった」と回答したメンターが57%だった。これは企業開拓で新規の受入れ先を確保できた成果といえる。また、「知っていた」と回答したメンターの多くは、ジョブシャドウイング経験者もしくは、前任地、前部署で受入れがあったと回答した。このことから、継続して受入れる企業側の、事業に対する理解と期待が窺える。

「またジョブシャドウイングを引受けるか」の質問に対しては8割が「引受ける」と回答し、その理由については「子ども達の将来のため」「社会貢献」の回答が多く見られた。他にも、「メンターの勤労意欲の向上」「自らの仕事を省みることができる」等が挙げられ、児童生徒の勤労観の育成のみならず、企業側にもメリットになっていると推察される。

一方、「2時間では短すぎる」「対象年齢が低い」等の意見もあり、時間設定、事業主旨をしっかりと説明した上で、課題として解決策を探りたい。

4 成果と次年度に向けた課題および改善点

(1) 成果と次年度に向けた課題および改善点

	事例	課題	今後の取組についての展望・改善点
実施校 / 保護者	<ul style="list-style-type: none"> 保護者説明会の実施 校内研修会で全職員の事業共通理解 送迎の協力 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への事業説明が十分ではなかった 送迎サポーター確保 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者説明会を通して保護者の事業理解を深める
教育機関	<ul style="list-style-type: none"> 初任者研修での事業説明 校長会での事業説明及び実施校募集 送迎の協力 	<ul style="list-style-type: none"> 実施校への指導、事業説明 	<ul style="list-style-type: none"> 事務局として協力体制を強化したい 教育委員会主催の研修会及び説明会で現場の先生方に事業周知を図る
地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> 八重山記者クラブを利用した各メディアへの取材依頼 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会、公民館等との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会定例会などに働きかけ、事業周知から連携を図る
行政	<ul style="list-style-type: none"> 協議会設立に向けた準備 学校選定事務局会議の実施 出発式挨拶（市長・副市長） 送迎の協力 	<ul style="list-style-type: none"> 市役所内のメンター及び予備メンターの確保 緊急時の危機管理徹底 周知広報 	<ul style="list-style-type: none"> 事務局として、緊急時の体制を整える 広報紙など利用し、市民への事業周知を図る
経済団体	<ul style="list-style-type: none"> 各経済団体より、受入企業のリストを頂いた 石垣ロータリークラブでの卓話にて事業説明及び受入企業募集 	<ul style="list-style-type: none"> 連絡調整会議の出席率 紹介企業の数 	<ul style="list-style-type: none"> 会議への積極的参加を呼びかけ、事業の共通理解を深める 各経済団体の定例会などに働きかけ、受入企業の開拓を行う
準備会	<ul style="list-style-type: none"> 産学官連絡調整会議の実施 学校選定事務局会議の実施 次年度実施校担当者研修会の実施 企業向け合同説明会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 実施状況の共通認識 出発式、説明会への参加 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に会議を実施し、成果及び課題を構成メンバーで共有したうえで、今後の役割の棲み分けが必要

5 久米島地区

平成24年 久米島地区活動報告

1 準備会発足の背景

久米島町における中学校卒業後の進路（2012年3月卒業生）では、約30%の生徒が島外への進学、さらに、久米島高等学校卒業後の進路（2012年3月卒業生）では、約94%の生徒が島外へ進学・就職をするのが現状である。また、久米島町は少子高齢化・人口減少などの過疎化に歯止めがかからず、その対策としての産業の創出や雇用の確保など大きな課題を抱えている。これらの課題を克服するため、喫緊の経済対策を実施しながら、大所高所かつ中長期スパンでの産業戦略の立案と実行が求められている。

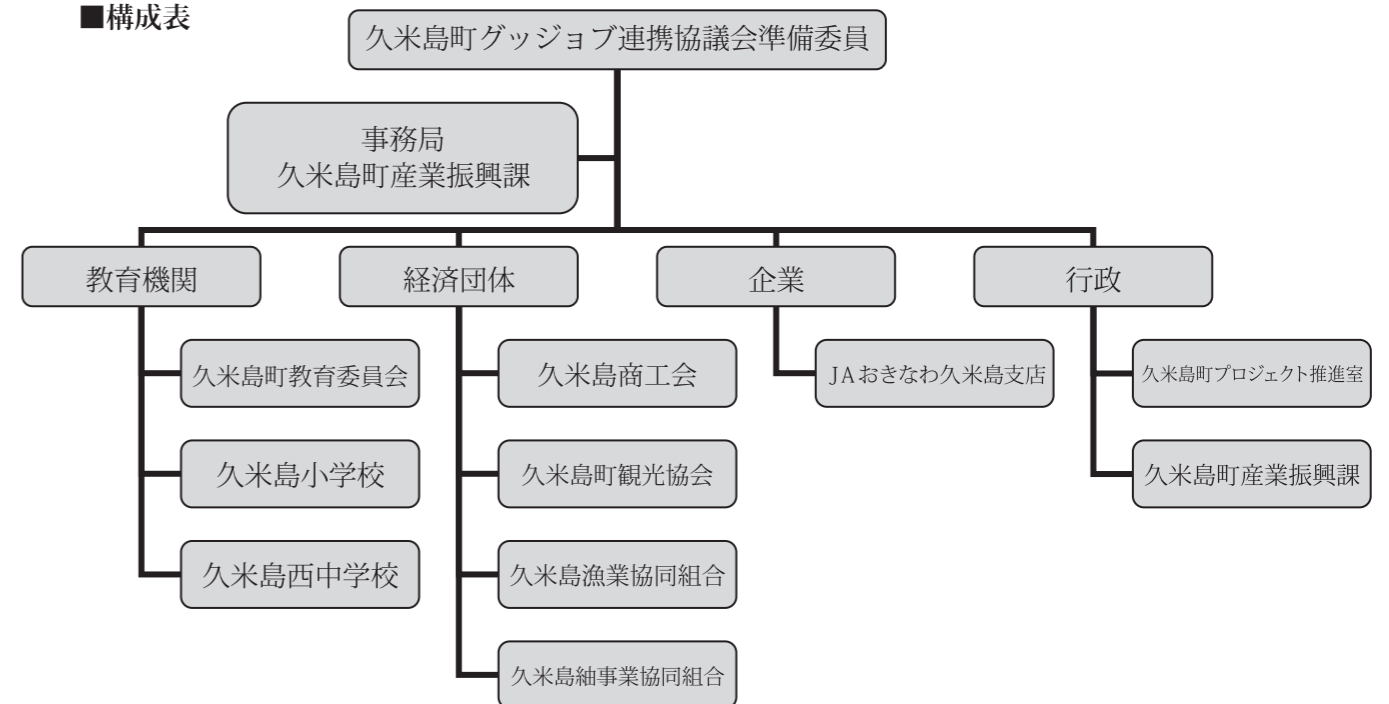
このような背景から、久米島町で沖縄型ジョブシャドウイング事業を実施することにより、久米島町が抱えている地域産業への若年層の就業意欲・関心の低さの要因を追求しながら、高校卒業後、就学や就職のため島を離れ、他地域で働く傾向にある離島育ちの子ども達に、幼いうちから「働くこと」への意識付けを行い「故郷に帰って働きたい」「地元で会社で頑張りたい」と、夢の持てる、魅力ある島づくりを考えるため、行政・教育機関・経済団体等を含め産学官連携を図ることはもとより、地域住民を巻き込んだ産学官地域連携の支援体制づくりを強化していくものとする。

2 準備会の概要と取組

(1) 構成団体

準備会名称	久米島町グッジョブ連携協議会準備委員会
所在地	沖縄県島尻郡久米島町字比嘉2870番地
活動目的（理念）	久米島町で教育を受ける児童生徒を対象に沖縄型ジョブシャドウイング事業を取入れ、その実施主体となるものとし、若年者の失業率の高止まりやニート・フリーターの増加が問題になっているなか、幼いうちから「働くこと」への意識付けを行っていく環境を作る役割を担うことを目的とする。

■構成表



(2) 協議会設立に向けて

今年度石垣市では、大規模校の実施、北部地区4校合同実施、竹富町との3校合同実施と、石垣市地区では初めての実施体制がほとんどとなり、それぞれの特性に合わせた出発式、事前学習、送迎、ジョブシャドウイング実施の工夫が必要となったが、特に大きなトラブルもなく無事全校実施を行えたことが一番の成果である。

今年度は、前年度の28名の受入れ児童生徒数から大幅に増えて133名（竹富町を含む）の実施となったが、各機関からご協力のもと企業開拓を行った結果、無事すべての児童生徒が（欠席者を除く）働く大人の姿を観察できた。

各校実施当日の送迎は保護者、石垣市役所、石垣市教育委員会、八重山事務所、全ての協力を得て行うことができた。また遠隔地の学校、合同実施においては学校での出発式が行えないため、市役所が管理する施設で行った。

北部地区4校合同実施に際しては、重要な課題であった各校との学校調整において、伊野田小学校担当教諭が他3校への調整を担って頂いたことで、日程調整、資料のやり取り等、スムーズに行えた。

また、3校合同実施では竹富町と合同で行うことで、離島間の交流学习としてコミュニケーションを育む一助となった。

次年度への課題として、送迎は、家庭を含めた地域連携の観点から、保護者の協力がこれまで以上に必要となる。保護者説明会での依頼も行い、学校側からの要請も必要となる。そのためには担当教員、担任の事業への理解が重要である。また、遠隔地少人数校の合同実施においては、送迎は全て教員でカバーすることが望ましいとの声がある一方で、児童生徒の数は学校によってばらつきがあるため、児童生徒数が多い学校では負担との声もあった。合同実施の場合はしっかりと各校の意見を吸い上げて、特性に合った調整が必要となる。

今年度は、事務局を石垣市商工振興課と石垣市教育委員会が担っていたが、次年度からは協議会が発足するため、これまで以上に構成メンバー内での役割分担、棲み分け、連携が必要となってくる。

以上の成果と課題を踏まえ、次年度は、今年度以上に産学官地域で連携した仕組みを構築し、石垣市の子ども達が将来へ希望を持ち、仕事に対する憧憬を抱けるようサポートを行っていく。

■構成団体名簿		
No.	団体名	役職
1	久米島町産業振興課	課長 課長補佐
2	久米島町教育委員会 教育課	課長 指導主事
3	久米島町プロジェクト推進室	室長 主任
4	久米島町立久米島小学校	校長 教頭
5	久米島町立久米島西中学校	校長 教諭
6	久米島商工会	会長 経営指導員
7	久米島町観光協会	副会長 事務局長
8	JAおきなわ久米島支店	支店長 組合員課長
9	久米島漁業協同組合	参事 総務課長
10	久米島紬事業協同組合	理事長 総務
事務局	久米島町産業振興課	

(2) スケジュールおよび今年度の取組

月	ジョブシャドウイング事業モデル的实施にかかわる活動	準備会 活動
4月	・実施校の選定 (24年度モデル校：久米島町立久米島小学校 ：久米島町立久米島西中学校)	
5月	・久米島小学校、久米島西中学校訪問 (今年度の取組みについて説明)	
6月	・久米島小学校、久米島西中学校訪問 (ジョブシャドウイング実施日程調整)	
7月	・地区連携推進員への研修参加 ・久米島町教育委員会主催 久米島町キャリア教育研修会	・連携推進員の雇用、配置 ・第1回協議会準備委員会
8月	・企業開拓、事業概要説明 ・企業リスト、メンター名簿の作成	
9月	・受入企業決定 ・久米島小学校 第1回事前学習	

10月	・メンター説明実施（各企業へ訪問し行う） ・久米島小学校 第2回事前学習 ・久米島小学校 第3回事前学習 ・久米島小学校 第4回事前学習 ・久米島小学校 第5回事前学習 ・久米島小学校ジョブシャドウイング ・久米島小学校 事後学習	
11月	・企業開拓、事業概要説明 ・企業リスト、メンター名簿の作成 ・久米島小学校 成果発表会	
12月	・久米島町校長会の場にて次年度実施校公募 ・久米島西中学校 第1回事前学習 ・久米島小学校 ヒアリング	
1月	・久米島西中学校 第2回事前学習 ・久米島西中学校ジョブシャドウイング ・久米島西中学校 事後学習	・次年度実施校の選定準備
2月	・久米島西中学校 成果発表会 ・久米島西中学校 ヒアリング ・次年度に向けて調整	・次年度実施校実施時期の調整
3月		・第2回協議会準備委員会 (実施報告、次年度の取組み)

(3) その他の活動

- ・久米島商工会会員集会の場でジョブシャドウイング事業を説明・周知
- ・久米島町内幼稚園教諭集会の場でジョブシャドウイング事業を説明・周知
- ・久米島小学校保護者説明会実施
- ・久米島西中学校PTA評議委員会の場でジョブシャドウイング事業を説明・周知
- ・久米島町校長会の場でジョブシャドウイング事業を説明、次年度実施校の公募
- ・久米島町産業まつり会場にてブースを設置しジョブシャドウイング事業を説明・周知
- ・久米島西中学校三者面談の行われる日に簡易ブースを設置し、保護者に向けてジョブシャドウイング事業を説明・周知

3 ジョブシャドウイング モデル実施の報告

(1) 実施概略

久米島町立久米島小学校、久米島町立久米島西中学校は、久米島町教育委員会の推薦にて決定した。

※JS：ジョブシャドウイングの略 ※コマ数(1校時)：小学校45分、中学校50分を指す

1	学校情報	久米島町立 久米島小学校 (新規)	校 長：松元 慶子
		住 所：〒901-3115 沖縄県島尻郡久米島町字儀間 1 番地	
		電 話：098-985-2007	F A X：098-985-4120
	実施概略	対象学年：6年生 1クラス 16人 (内 実施 16人)	
		担 当：玉那覇 周作 (6学年担任)	

	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
	事前学習：平成 24年 9月 21日			1コマ	
	平成 24年 10月 10日			1コマ	
	平成 24年 10月 16日			1コマ	
	平成 24年 10月 18日			1コマ	
	平成 24年 10月 25日			2コマ	
	平成 24年 10月 1日 ~24日		2コマ		8コマ
	J S実施：平成 24年 10月 31日			4コマ	4コマ
	事後学習：平成 24年 10月 31日			2コマ	
	平成 24年 11月 1日 ~28日		12コマ		
	発表会：平成 24年 11月 29日		2コマ		16コマ
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標「心豊かな子、進んで学習する子、健康でたくましい子」 ・職業人講話講師：久米島紬事業協同組合 総務・経理 村吉政太 氏 「夢に向かって頑張ること」「将来の自分」をテーマに講話を実施した ・学校実施の内容としては、事前学習で名刺作成を、事後学習でお礼状作成、新聞作成、発表原稿作成、発表練習を行い、事前学習、事後学習合わせて14コマ使用している ・久米島小学校は、総合計28コマを使用しジョブシャドウイングを行った ・発表会は、4グループに分かれポスターセッション方式を用いて、1グループ3回発表し、6年生全員がみんなの発表を聞き、質問出来るよう工夫した 				
2 学校情報	久米島町立 久米島西中学校（新規）		校 長：伊志嶺 哲男		
	住 所：〒901-3131 沖縄県島尻郡久米島町字西銘 1324 番地				
	電 話：098-985-2006		F A X：098-985-4407		
実施概略	対象学年：1年生 1クラス 39人（内 実施 38人）				
	担 当：中村 文彦（キャリア教育担当）				
	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
	事前学習：平成 24年 12月 20日			2コマ	
	平成 25年 1月 15日			2コマ	
			12コマ		16コマ
	J S実施：平成 25年 1月 18日			4コマ	4コマ
	事後学習：平成 25年 1月 18日 ~		1コマ	1コマ	
			2コマ		
	発表会：平成 25年 2月 26日		1コマ		5コマ
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標「元気で明るく思いやりのある生徒・正しいことは最後までやりぬく生徒・自ら学び考えて行動できる生徒」 ・学校と家庭と地域が一緒になって共に育む教育を推進 ・学年ごとに目標を設け、日々の教育に努めている <ul style="list-style-type: none"> ・1学年目標「何事にも素直に一生懸命取り組む生徒」 ・2学年目標「職場体験を通して具体的に進路に対して理解を深める」 ・3学年目標「将来の職業を見据えて、適切な進路を決定する」 ・職業人講話講師：沖縄県海洋深層水研究所 主任研究員 石川貴宣 氏 「趣味から将来の自分に繋がること」をテーマに講話を実施した 				

	<ul style="list-style-type: none"> ・久米島西中学校では、総合計 25コマ使用し、実施の内容としては、事前学習で将来に向けてのワークを行ったり、企業研究や名刺作成、事後学習でお礼状作成や、新聞作成など発表会に向けた準備を行い、成果発表会を実施した ・発表会は、約 9人の 4グループに分かれて発表し、1人 2、3分の持ち時間の中で一生懸命発表した ・グループ内全員の発表が終わると、一人一人感想を述べ、発表時の良かった点、改善点などを全員で共有した
--	--

(2) 受入企業

久米島小学校実施時の企業開拓では、16人の小規模実施ということもあり、職業選択の幅を広げる目的のもと、一人一人が様々な職種・企業へジョブシャドウイングを行えるよう開拓を行った。

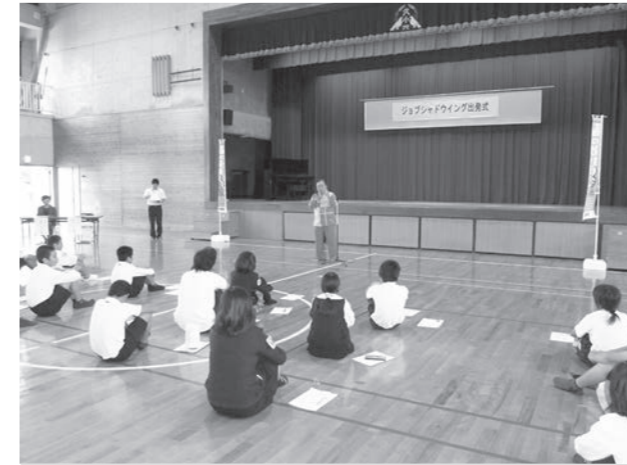
久米島西中学校実施時の企業開拓では、次年度の円滑な受入れ依頼に向け、民間企業を中心に開拓・周知を行った。

【企業一覧】

No.	企 業 名	業 種	受入人数	取りまとめ窓口
1	久米島町教育委員会	地方公務	1	久米島町 教育委員会
2	久米島博物館	その他の教育業	1	
3	久米島町立 久米島学校給食センター	配達飲食サービス業	1	
4	久米島漁業協同組合	協同組合	2	久米島 漁業協同組合
5	久米島紬事業協同組合	協同組合	3	久米島 紬事業協同組合
6	株式会社イーストレンタカー	物品賃貸業	2	久米島町 観光協会
7	民宿なんくるないさあ	宿泊業	1	
8	サイプレスリゾート久米島	宿泊業	2	久米島商工会
9	FM久米島株式会社	放送業	2	
10	久米島ガス株式会社	ガス業	1	
11	株式会社たいよう薬局本店	その他の小売業	1	
12	美容室アミターバ	美容業	2	
13	株式会社丸吉組	総合工事業	2	
14	花館	その他の小売業	2	
15	デイホーム家福み一家	介護事業	1	
16	デイホーム家福み一家大田事業所	介護事業	1	
17	デイホーム家福み一家美崎事業所	介護事業	1	
18	久米島海洋深層水開発株式会社	水産養殖業	1	
19	有限会社仲里石油商会	その他の小売業	1	
20	株式会社久米島物産公社	運輸に附帯するサービス業	1	
21	農業生産法人有限会社アグリット久米島	食料品製造業	1	
22	ニコー株式会社 ベスト電器久米島店	機械器具小売業	1	
23	湖城写真館	技術サービス業	1	

24	株式会社たいよう薬局東店	その他の小売業	1	久米島商工会
25	株式会社久米島の久米仙	飲料製造業	1	
26	米島酒造	飲料製造業	1	
27	久米島赤鶏牧場	農業	1	
28	久米島ウミガメ館	その他の教育業	1	事務局
29	なでしこ第二保育園	社会福祉事業	1	
30	株式会社ポイントピュール	化学工業	3	
31	JAおきなわ Aコープ久米島店	各種商品小売業	1	
32	郵便局株式会社 久米島郵便局	郵便局	2	
33	日本トランスオーシャン航空	航空運輸業	2	
34	久米商船株式会社	水運業	1	
35	純水企画開発	飲料製造業	1	
36	ホームプラザよしなが	その他の小売業	2	
37	有限会社ハマユウキ おろしスーパー	飲食料品小売業	2	
38	沖縄ヤマト運輸株式会社 久米島営業所	道路貨物運送業	1	
39	有限会社喜納 AGS カーゴサービス	道路貨物運送業	1	
		受入人数 合計	54	人

注) 事務局：久米島町グッジョブ連携協議会準備委員会



【出発式】久米島町で初のジョブシャドウイングに、町長も出席してくれました！



【JS 実施中】JAおきなわ Aコープ久米島店でジョブシャドウイング！



【事後学習】ジョブシャドウイングを振り返ってみて、感じたことや学んだことの発表！



【成果物】久米島小学校6年生の児童が作成した新聞です！

(3) 成果物



【事前学習】ビジネスマナー学習の中で、名刺交換の練習も行いました！



【職業人講話】沖縄県海洋深層水研究所主任研究員の石川さんが講師をしてくださいました！

(4) 実施を振り返って

①実施校について（ヒアリング、アンケートの考察）

1) 久米島小学校

企業開拓について、去年まで久米島小学校が行っていたシャドウ学習（キャリア教育の一環であり、保護者の働く姿を観察することで、将来の職業選択に結びつける）では、保護者の働いている企業に連絡を取り、受入れをお願いしていたが企業側の都合が悪かったり、見学に適さない環境だったり、学校側が企業開拓に苦勞していた。そこを、事務局では児童一人一社ジョブシャドウイング（シャドウ学習、保護者の職場という限られた職業のみならず、多種多様の職種に関わり、職業選択の幅を広げることも目的の一つとする）を行える様に開拓し、児童が多岐にわたる職種を観察でき非常に良かったとの声がヒアリングから挙がった。また、実施前と実施後では、「仕事」「働くこと」に関しての価値観がかなり良いイメージへ変化したと評価をいただいた。

一方、課題としては、今年度年間計画が決定した後で本事業を取組むことになったため、ジョブシャドウイングに必要なコマ数の確保が難しかったとの声が挙がった。また、他の職員との情報共有が上手く回れない部分もあり、実施に向けて校内研修会、職員会議を利用し校内での情報共有を図るなど、早い段階から取組んで行きたいとの話も挙がり、次年度に向けても継続実施を望む声が聞けた。

2) 久米島西中学校

事前学習、実施、事後学習までを行い、日常生活における生徒の変化は見られなかったとのことだったが、発表会での生徒一人一人の発表を聞き初めて、生徒が働くことや将来に対して前向きにとらえることが出来ていたことに、担当教員は驚いており、本事業を取組んで非常に良かったとの声を頂いた。また、1学年主任を学校窓口として、学校コーディネーターという調整役に位置付けて取組んだことで、管理者である校長もしくは教頭を始め、他の職員への内部調整や周知、ジョブシャドウイングに関連付けた事前学習の実施など、担任の実務の負担軽減が図れ、多角的な視点で事業を捉えさまざまな工夫をすることができた。

仲介者に関して、職員の離島勤務は3年間という基本サイクルがあり、どうしても島民と信頼関係を築くまでに時間がかかるなど、職員が企業・事業所と連携を取るには地域に核となる仲介者が居ることで円滑に行えるのではないかと、この声も挙がり、久米島における新たな地域連携の可能性を感じた。継続の意思としては、事務局のような外部講師が入ることで生徒の意識も高まり、普段先生方が行っている授業内容と同じでも、生徒の認識度、定着度に違いが表れるとの意見もあり、離島育ちの子ども達にとってたくさんの「大人」と出会い、学ぶことは非常に大事であるため、次年度も引き続き地域人材を活用しての実施を望む声が聴けた。

② 児童生徒について（振り返りシートからの考察）

小学校の事前、事後のアンケートから、75%の児童がジョブシャドウイング体験後、仕事をすること、働くことへのイメージが変わったと述べている。また、将来に向けてどの様なことを取組みたいですか？との問いに、「自分も知らない人と話をする時には、言葉遣いに気を付けたい」「相手からではなく、自分から積極的に話しかけるようにしたい」などと日常の生活態度から改善していこうとの意欲が見られた。

中学校の事前、事後のアンケートからも、88%の生徒がジョブシャドウイング体験後、仕事をすること、働くことへのイメージが変わったと回答した中で、「仕事は、自分がやりたい職業でも、そうでない職業でも、自分が決めた仕事なら最後までやりとげることが大切だと分かった」など、深い部分での気付きも見られた。また、メンターを観察して感じたことでは、「メンターさんは仕事をする上で大事なのは挨拶と言っていて、日頃先生達から言われている『挨拶』という言葉の大切さを改めて知りました。」などと、普段教師からも言われていることの大切さを、ジョブシャドウイングを通して改めて気付いた様子だった。

③ 受入企業について（ヒアリング、アンケートの考察）

今年度久米島町では初めてのジョブシャドウイング実施となり、多くの企業が職場体験やインターンシップとの違いに戸惑いが見受けられたが、実施を終えてみると「職場体験などの体験型とは違い、観察やメンターさんとのコミュニケーションを重視する観察型の取組みなので受入れやすい」との声や、「久米島町にとって、とても良い取組みだと思います」などの声があった。

また、地元企業は地域貢献の意識が高く「島の子ども達のためになるなら」「私達が受入れることで、子ども達が少しでも将来を考える良いきっかけづくりになると思うので、今後も協力していきたい」などの、本事業に対する賛同の声も多く寄せられた。

4 成果と次年度に向けた課題および改善点

(1) 成果と次年度に向けた課題および改善点

	事例	課題	今後の取組についての展望・改善点
実施校/保護者	<ul style="list-style-type: none"> 久米島町キャリア教育研修会 保護者説明会 久米島西中学校PTA評議委員会にて事業説明 送迎、巡回の協力 	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体での情報共有 保護者説明会以外でも同一情報を共有する手段の模索 	<ul style="list-style-type: none"> 実施校内での校内研修会を設ける 保護者に向け、学級だよりなどを用いた、本事業の周知 他学年の保護者とも連携をとれる仕組み作りの構築
教育機関	<ul style="list-style-type: none"> 校長会での本事業説明及び次年度実施の公募 島内全幼稚園教員への本事業説明 実施校以外への本事業説明 次年度に向けての日程、時数調整が円滑に進んだ 	<ul style="list-style-type: none"> 教頭会、学年会での本事業説明 実施担当教員を交えての定期的に情報交換の場を設置 	<ul style="list-style-type: none"> 実施担当教員対象の部会の開催（参加者：教育委員会、教員、事務局） 久米島町内全教員対象の合同校内研修会の開催 実施校ごとへ校内研修会の実施
地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> モデル校担当教員による学年会での周知 久米島町産業まつり会場内にてブースの設置、周知 久米島通信員による記事の掲載（タイムス・新報） FMくめじまでの周知 	<ul style="list-style-type: none"> 青年会への呼びかけ 校区内自治会との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 区長会にて周知、自治会との連携を図る 公共機関（改善センター、空港ロビー、兼城港ロビー、公民館など）でのパネル展の実施、周知 青年会への周知、送迎、巡回の協力依頼、講話講師依頼
行政	<ul style="list-style-type: none"> 出発式挨拶（町長） 「広報くめじま」にて周知 FMくめじまでの周知 	<ul style="list-style-type: none"> 広報、周知 	<ul style="list-style-type: none"> パネル展の実施 ラジオ放送での年度始、年度末報告 広報誌を利用して島民へ引き続き周知を行う
経済団体	<ul style="list-style-type: none"> 企業開拓の協力 商工会会員集会にて事業説明及び受入の募集 	<ul style="list-style-type: none"> 本事業のさらなる理解 	<ul style="list-style-type: none"> 企業開拓における連携の強化
準備会	<ul style="list-style-type: none"> 協議会準備委員会の実施 島内への周知 	<ul style="list-style-type: none"> 会員の役割分担 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な部会の実施 学校を支援する企業のリスト化と整備

(2) 協議会設立に向けて

今年度久米島町では、久米島小学校、久米島西中学校という2校の実施ではあったが、久米島町初めてのジョブシャドウイングということもあり、島民への周知を行いながら手探りでの実施となった。

企業開拓では、協議会準備委員会参加の経済団体の協力があり、受入企業開拓が円滑に行え、久米島小学校16人実施に対し16社、久米島西中学校38人に対し31社という非常に多くの企業・事業所が受入をして下さり、54人の児童生徒が無事ジョブシャドウイングを終えることができた。

今年度は年間計画の途中からの実施校決定となり、限られた総合学習の時間を活用し事前学習、実施、事後学習、発表会を行った。そのため、総合学習以外の教科でもジョブシャドウイングに関連付けて事前学習を行ったり、新聞作成を行ったりと、当初予定していたよりも時数が必要だった。その反省を踏まえて、きちんと体系立てたキャリア教育の実施を行うためにも年間計画の中に組み込み、繋がるキャリア教育を目指し、より深く児童生徒の中に根付く学びとなるよう、次年度の実施に向け学校との連携を図りたい。

また、産学官地域連携を目指した本事業において行政では、島内初の実施となる久米島小学校ジョブシャドウイング出発式で町長による激励の挨拶を頂いたり、島内ほとんどの世帯に配布される「広報くめじま」にて本事業の記事の掲載を行ったりと、町を上げての取り組みが出来たと改めて成果を感じる。

今年度の実施校においては、学校内の職員同士での情報共有が思うように図れず、実施担当者の負担が多いように思えた。それを踏まえ次年度の課題として、実施校ごとの校内研修会を設け、職員全体の情報共有を図ると共に町内全教員対象の合同校内研修会を実施したいと考えている。島内職員に対する本事業の理解を深め、意見交換や情報交換等を行う場を設け、そこに教育委員会や事務局も参加するなど、島の子ども達のキャリア教育を考えていく新たな地域連携の仕組み作りの構築を行いたい。

次年度の実施規模は、今年度の実施規模2校54人の倍となる8校198人の実施予定であるため、協議会発足をきっかけに、参加団体協力による企業開拓の強化や役割分担など、今年度以上に協議会としての連携を強める必要がある。

また「島内の子ども達のために」と、島の大人達が取組んでいく姿勢こそが、島の将来を担う子ども達の「地域のために頑張りたい」という意欲や関心を高め、これからの久米島における魅力ある企業づくりに繋がると考える。

SECTION

5

24年度 直接実施区（モデル実施） 活動報告



本事業は産学官、地域、家庭の連携体制のもと、ジョブシャドウイングをツールとして就業意識の向上を目指すことであるが、実証的な取組みを検証する上でグッジョブおきなわ推進事業局（以下、「事業局」という）が直接実施の支援を行うモデルを設置した。モデルとしては①地域モデルと②学校モデルの2種類である。

①地域モデルにおいては『地域の特性を生かしつつ、子ども達へのキャリア形成の働きかけに必要な連携構築の在り方』である。②学校モデルにおけるテーマは、『事前・事後学習の効果をより深めるための手法を探る』、『学内連携の在り方を模索する』の2点である。

1 竹富町での取組

1 実施概要

(1) ジョブシャドウイング実施の背景と経緯

竹富町地区には9つの有人島に13校の小・中学校があるが高等学校はなく、中学校を卒業後はほぼ全員が親元を離れ、島から巣立っていく現状がある。身近な職業が限られている環境下で過ごす生徒にとって、ジョブシャドウイングが働くことへの視野を広げるだけでなく、将来や自立に向けたイメージを早い段階から持つきっかけとなることを狙いとし、今年度は大原中学校（西表島）と小浜小中学校（小浜島）の中学1年生を対象に実施を行った。

(2) 産学官の連携について

島嶼地域である竹富町において円滑にジョブシャドウイングを進めるためには、産学官の協力が必要不可欠である。そこで、竹富町における本事業を円滑に行う目的で、行政・教育機関・経済団体・実施校による竹富町ジョブシャドウイング運営会議（以下、「運営会議」という）を発足させた。運営会議では、ジョブシャドウイング実施の目的と企業開拓等の取組みの確認を行った。また、竹富町における子ども達の進路にまつわる現状や課題点等の情報共有を行う場としての機能も併せ持っている。

参加団体名
竹富町商工観光課
竹富町教育委員会 教育課
沖縄県教育庁 八重山教育事務所
沖縄県中小企業家同友会 八重山支部
竹富町立 大原中学校
竹富町立 小浜小中学校
沖縄県商工労働部 雇用政策課
グッジョブおきなわ推進事業局



【会議の様子】

●竹富町ジョブシャドウイング運営会議

<第1回>

日時：平成24年8月28日（火）10:30～12:00

場所：竹富町教育委員会2F 委員会室

目的：参加者へ事業概要説明及び今年度の竹富町における取組みの計画を紹介し、関係各位の理解と協力を仰ぐ。

<第2回>

日時：平成25年2月15日（金）10:30～12:00

場所：竹富町教育委員会2F 委員会室

目的：今年度の実施報告及び成果と課題の共有を図り、各機関からの実施後の所感、意見を交えた協議を行う。

(3) 活動スケジュール

時期	実績
5月	・小浜小中学校 事業説明
6月	・竹富町役場商工観光課、教育委員会ミーティング ・小浜小中学校 ミーティング
7月	・運営会議の開催準備
8月	・第1回運営会議 開催 ・小浜小中学校 校内研修会、ミーティング
9月	・小浜小中学校 受入企業開拓
10月	・小浜小中学校 ミーティング、マッチング依頼 ・メンター説明 ・大原中学校 調整
11月	・大原中学校 事前学習 ・大原中学校ジョブシャドウイング実施 ・小浜小中学校 事前学習資料準備・講師手配
12月	・小浜小中学校 企業人講話 ・小浜小中学校 事前学習 ・石垣市・竹富町3校合同ジョブシャドウイング実施
1月	・小浜小中学校 発表会
2月	・第2回運営会議 開催

2 実施校別報告

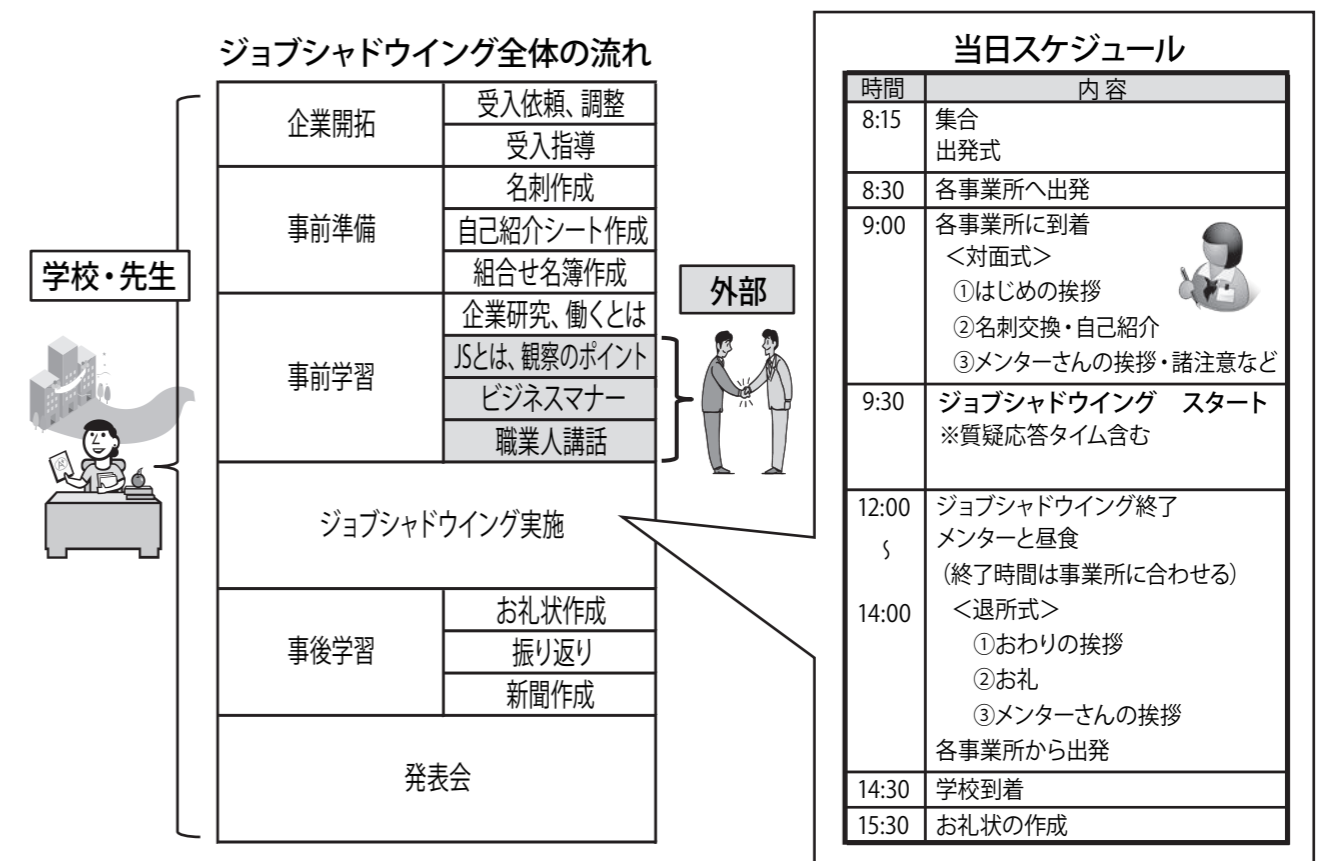
(1) 大原中学校での取組

①実施概要

同校は平成19年度から3年間、沖縄県教育委員会のキャリア教育研究校の指定を受けていた。その最終年度（平成21年度）に八重山教育事務所の推薦によりジョブシャドウイングを導入し、1年生でジョブシャドウイング、2年生で職場体験、3年生で進路選択という体系だったキャリア教育を行った。その後も沖縄型ジョブシャドウイングモデル事業を活用し、毎年継続して1年生で実施を行ってきた。

今年度は、4年目の取組みとして学校の自立化に向けた支援の在り方を模索し、学校と事業局での役割分担を取り決めた形で進めた。事前学習のうち、動機づけ（働くとは、観察のポイント等）とマナー学習（挨拶、お辞儀、名刺交換の仕方）を事業局が担い、それ以外の受入企業開拓や受入指導をはじめとする実施に付随する項目は全て学校主体で行った。担当の先生が行う事前学習では、企業研究・自己紹介シート作成・名刺作成に加え、同校が平成21年度に独自で作成し継続活用している「生徒用のジョブシャドウイングしおり」の読み合わせを行った。しおりの中身は、ジョブシャドウイングの約束事や狙いの記載、ジョブシャドウイング日誌や自己評価をつける欄があり、生徒が効果的に学習できるよう工夫が凝らされている。さらに、ジョブシャドウイング当日のスケジュールにも学校独自の工夫を盛り込み、午前中のジョブシャドウイング実施後に昼食をメンターと一緒に過ごすことで、よりコミュニケーションを深めることを狙いとした。

<ジョブシャドウイング取組 学校主体モデル>



②活動報告

※JS:ジョブシャドウイングの略 ※コマ数(1校時):50分を指す

学校情報	竹富町立 大原中学校(継続校)	校 長:佐事 安弘			
	住 所:〒907-1433 八重山郡竹富町南風見仲 29-2				
	電 話:0980-85-5352	F A X :0980-85-5194			
実施概略	対象学年:1年生 1クラス 10人(内 実施 10人)				
	担 当:花城 真希(1年担任)、宮崎 健(1年副担任)				
	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
	事前学習:平成24年11月 8日		1コマ		
	平成24年11月12日		1コマ		
	平成24年11月14日		1コマ	2コマ	5コマ
	JS実施:平成24年11月15日		4コマ		4コマ
事後学習:平成24年11月15日		2コマ			
平成24年11月16日		3コマ			
発表会:平成24年11月16日		1コマ		6コマ	
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 西表島にある8校の学校のうちの1つ。全校生徒で約30人の小規模校である。 校訓「立志・自立・郷土愛」小さな島からでも夢は叶うという「志」を高く持つこと、親元を離れ生活していても強い信念を持ち「自立」していける精神力を身に付けること、いかなる地で活躍しようとも生まれ育った西表島を忘れることなく誇りに思い、心の糧として頑張りたい、との願いがある。 				



【事前学習】働くことについて考えよう



【マナー学習】ペアで名刺交換の練習中



【出発式】みんなで〜グッジョブ!



【JS実施中】メンターさんは船の運転手

③受入企業リスト

今年度は地域で働く人を見る目的で、学校が主体となって西表島内の企業を開拓した。先生方で身近にある病院や駐在所等の主要機関、西表島の地場産業である観光事業所等をリストアップし、直接訪問して説明を行うことで早く受入協力を得ることができた。

No.	企業名	業種	受入人数	取りまとめ窓口
1	沖縄県立八重山病院附属 大原診療所	医療業	1	大原中学校
2	西表島東部地区 学校給食共同調理場	料品製造業	1	大原中学校
3	マリンレジャー金盛	娯楽業	2	大原中学校
4	八重山警察署 大原駐在所	地方公務	1	大原中学校
5	由布島 亜熱帯植物楽園	宿泊業	3	大原中学校
6	ホテル ラ・ティエダ西表島	宿泊業	2	大原中学校
		受入人数 合計	10	人



【成果物】地元の主要観光地 由布島



【成果物】地域住民を支える町の診療所

④実施総括（成果）

今年度は、過去3年間のノウハウをベースに学校の自立化に向けた支援の在り方を模索し、3つの成果をあげることが出来た。

1つ目は、学校との役割分担に関して、事前学習のうちマナー学習は外部人材を活用して行うことでより高い効果が得られるということである。先生方が普段から指導しているマナーや挨拶の大切さを改めて外部の人が指導することで、生徒の気持ちが引き締まり、これらをしっかりと身につけようとする意欲や態度が見られたと評価の声を先生から頂いた。また、学校職員だけで行った企業開拓では、同校の実施規模が10人と小さかった点と地域性の関係上、先生方の負担感は少なかったと言える。しかし、今後石垣市内でのジョブシャドウイング実施を検討する場合は、西表島から石垣島まで地理的距離があることを踏まえると、日々の授業等で時間の限られている先生方のみで開拓を行ったり、企業に足を運んでの調整等は非常に難しい面があり、外部からのサポートが必要であると言える。

2つ目は、大原中スタイルのジョブシャドウイング当日スケジュールで、昼食までメンターさんと一緒に過ごすことにより生徒の緊張がほぐれ、質問をする時間も十分に確保でき、交流が深まったことである。実施後の生徒各々がとても楽しく過ごせた様子で、観察シートにあらかじめ用意されている質問以外の質問を行っていることが生徒作成の新聞からも見て取れるなど、プラスの効果が得られた。

3つ目には、今年度初めて西表島内の事業所でジョブシャドウイングを実施することで、生徒が島の産業の成り立ちに注目できたことである。西表島は収入の柱に観光業があるが、地元の人にはなかなかそこに足を運ばず、イベントがあれば行く程度という現状がある。しかし、メンターの働く姿を通して地元を支えている仕事の目に見える部分だけでなく、生徒が予想出来なかった業務を知ることが出来た。実施後の生徒の新聞に「いつも見ている仕事以外にも色々なことをやっていることが分かった」「（メンターさんによる）仲間川（国の天然記念物）の説明では自分が知らないことも沢山あって勉強になった」等、自分達の住む島の魅力や、そこで働く大人のカッコよさを発見するきっかけになったといえる。更に、授業参観日に発表会を行ったことで、生徒のみならず参加した保護者も地域企業への理解が深まったとの声があった。地場産業が「雇用の場」として認識されるきっかけに繋がる取組みとして、ジョブシャドウイングの効果の可能性が示されたといえる。

(2) 小浜小中学校での取組

①実施概要

小浜小中学校は小浜島にある唯一の学校で、小中併設の小規模校（児童生徒約50人）である。同校の中学校が掲げるキャリア教育の目標は、「生徒一人一人が自己を見つめ、自己を高める態度を育てる」「将来の生き方を考え、自主的に進路を選択する能力を育てる」である。

同校にとっては初めての取組みのため、まず全職員へ向けての校内研修会を実施し、学校全体でジョブシャドウイング事業の理解促進と情報共有化を行った。今回の取組みは、総合学習の時間で行われる。そのため、学校調整では総合担当の先生に加え、教頭先生による手厚いサポート体制によって、円滑に進めることが出来た。

小浜島は独自のお祭りや行事が多く、子ども達は島の歴史ある伝統文化の担い手であるため、学校と地域の繋がりが強い。そこで、ジョブシャドウイングの実施においては、島外である石垣市内で働く人を見ることによって、仕事や働くことに関する認識の幅を広げるだけでなく、故郷の外に広がる自分達を取り巻いている社会を学ぶ機会となることを狙った。また、ジョブシャドウイング実施及び同日の事後学習を石垣市立白保中学校の生徒と合同で行い、他校生徒との交流を図る機会とした。

②活動報告

※JS：ジョブシャドウイングの略 ※コマ数（1校時）：50分を指す

学校情報	竹富町立 小浜小中学校（新規校）	校 長：松原 範夫			
	住 所：〒907-1221 竹富町字小浜 2575 番地				
	電 話：0980-85-3154	F A X：0980-85-3958			
実施概略	対象学年：中学1年生 1クラス 7人（内 実施 7人）				
	担 当：深谷 知明（総合担当）、黒島 善一（教頭）、池間 太一（1年副担任）				
	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
	事前学習：平成24年 9月 18日		1コマ		
	平成24年 9月 25日		1コマ		
平成24年 10月 30日		1コマ			
平成24年 11月 21日		1コマ			
平成24年 12月 5日			1コマ		
平成24年 12月 10日			2コマ	7コマ	
JS実施：平成24年 12月 14日			4コマ	4コマ	
事後学習	平成24年 12月 14日			2コマ	
	平成24年 12月 18日		1コマ		
	平成25年 1月 7日		1コマ		
	平成25年 1月 15日		1コマ		
発表会：平成25年 1月 27日		1コマ		6コマ	
特記事項	<その他の取組> 校内研修会 平成24年8月29日 14:10～15:30 参加者：小中学校教員13人 内 容：沖縄県の雇用の現状、基礎的・汎用的能力を踏まえたこれからのキャリア教育について、ジョブシャドウイング事業概要				

③受入企業リスト

事業局にて石垣市内の事業所を開拓するにあたり、竹富町ジョブシャドウイング運営会議参加団体の他、石垣市や各種経済団体にご協力頂いた。

No.	企 業 名	業 種	受入人数	取りまとめ窓口
1	竹富町役場 建設課 水道係	地方公務	1	竹富町
2	竹富町教育委員会 教育課	地方公務	1	竹富町
3	日本郵便株式会社	郵便業	1	石垣市役所
4	沖縄電力株式会社 離島カンパニー 八重山支店	電気業	1	事業局
5	A N A インターコンチネンタル 石垣リゾート	宿泊業	2	事業局
6	石垣島ドリーム観光株式会社	水運業	1	事業局
受入人数 合計			7	人



【事前学習】マナー学習にてお辞儀の練習中



【事前学習】企業人講話でお話し頂いた山田氏



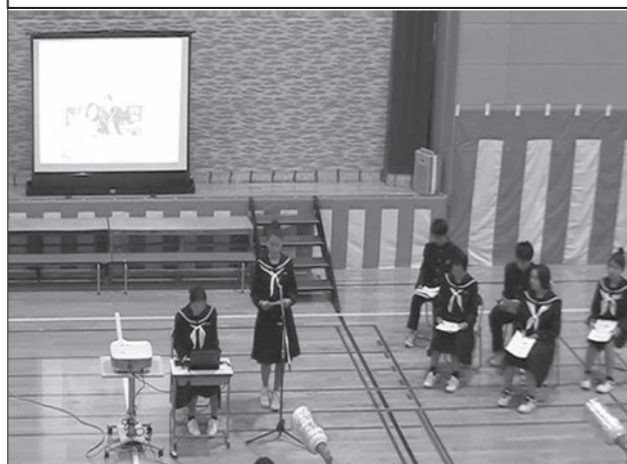
【出発式】みんなでグッジョブ!



【JS 実施中】じっくりとメンターさんを観察



【合同事後学習】最後に 33 人全員で記念撮影



【発表会】学芸会で一人ずつ発表

④実施総括（成果）

事前学習の企業人講話では、ジョブシャドウイング対象の1年生だけでなく2・3年生も一緒に参加し、石垣出身者である石垣島ドリーム観光株式会社 営業取締役 山田豊 氏より「働くとは」をテーマに語って頂いた。山田氏は子どもの頃に抱いた夢を追い続け、海外留学や本土の会社勤務を経て、その後夢を果たした方である。現在は故郷石垣島に戻って、観光業界でこれまでの経験を活か

しながら地元に貢献している。講師選定の際には、島に住む生徒達が島外には広い世界があることを認識し、諦めることなく自分の道を切り開いていく大切さを感じ取ることを狙いとした。生徒や先生からの質問も多く、刺激を受ける良い機会となった。

実施当日においては、生徒が石垣市内の事業所でのジョブシャドウイングを通じて、小浜島にはない企業や仕事への理解を深めることができた。生徒への実施前アンケートでは、仕事に対して「上下関係が厳しい」「忙しくて休む暇がない」等のネガティブなイメージが先行していたり、仕事をする理由としては「お金が欲しいから」「生活ができなくなるから」等の記述がみられた。内発的動機ではなく生活の手段としてのみで働くことを捉えている傾向が顕著であったが、実施後のアンケートでは、「仕事のイメージが変わった」という意見が7人中6人あり、仕事は1つではないこと、働くことの大切さと厳しさに気づいたり、メンターの仕事への姿勢から見習いたいとの記述もあるなど意識が変化していた。

実施同日の午後に行った石垣市立白保中学校との合同事後学習では、「人間関係形成・社会形成能力」を高める機会となることを目的とした。そこで、グループで互いに見てきたことや感じたことを共有し、意見をまとめて発表するスタイルを取った。それにより、普段は少人数授業で行う小浜小中学校の生徒達が、同年代の生徒の多様な考えや立場を理解し、相手の意見を聞いて自分の考えを伝えることが出来た。グループ別の発表の中で、ジョブシャドウイングを通して学校生活に活かせると思ったこととして、「先輩や後輩関係なく、挨拶をきちんとする」「時間のけじめ（時間厳守で無駄のない動き）をつける」等の意見があり、ジョブシャドウイングで得た気づきや学びを「まずは自分たちが実践できること」へ繋げて捉えていた。

更に、学芸会の機会を利用して、一人一人がパワーポイントを使ってジョブシャドウイングの成果発表を行った。保護者だけでなく地域の方々も多く来校しており、島ならではの地域の結びつきの強さを感じられた。小中が併設していて、幼いころから共に過ごすことの多い子ども達は、互いに学び合うと共に、後輩を導き先輩を見習う姿勢を自然と身に付けている。学校全体に向けた発表の機会を設けることによって、ジョブシャドウイングを体験した生徒だけでなく、他学年への波及効果と就業意識への働きかけが期待できる。ジョブシャドウイング後の発表方法や見せ方を工夫していくことで、小中併置校の特色を生かした「繋がるキャリア教育」を構築していく可能性が示唆されたと考えられる。

実施後の学校ヒアリングにおいては、先生方から「次年度もぜひ実施したい」「事前学習に“生き方を考える時間”を入れる等もっと充実させたい」との前向きな声もあり、ジョブシャドウイングの目的や手法の理解が深まったと考えられる。今後は、年間計画の中で指導計画を立ててもらうことにより、事前・事後学習のさらなる充実が見込める。

3 今後の課題と展望

今年度、運営会議の発足により産学官が協働することで、中学校2校の生徒17人のジョブシャドウイングを無事に終えることが出来た。

今年度の取組みを通して、竹富町の子ども達の学力とキャリア教育に関わる課題が見えてきた。文部科学省が平成19年度から行っている全国学力・学習状況調査によると、竹富町の小学生・中学生の平均正答率は沖縄県全体の結果より5～10ポイント上回って全国と同レベルまたはそれ以上であり、高い学力を身に付けていることが分かる。しかし一方で、中学卒業後、島を出てからの伸びしろが低くなっている傾向にあるのではないかと不安視する意見が運営会

議の中で出た。実際、竹富町の学校は小規模であり地域コミュニティも小さく、幼少期から固定し安定した人間関係の中で育つ期間が長いこと、社会性や人間関係形成・社会形成能力が培われにくいことが考えられる。これは、ジョブシャドウイング中のコミュニケーション力からも伺える。今回の事例の中で、昼食をメンターと過ごすことにより、観察シートに用意された質問以外の質問を自ら考え、コミュニケーションを深められたことは一つの成果であるが、見方を変えると、用意された環境でしか積極性を出せなかったとも言える。竹富町の子ども達のほとんどは中学卒業後「15歳の旅立ち」を余儀なくされるからこそ、新しい環境の中でも自分の置かれている状況を受け止め、主体性を発揮し、他者との関係性を自ら築いていく能力を身に付けさせることは重要である。今後、ジョブシャドウイングを活用し既存のキャリア教育との補完性を高めることによって、中学校の早い時点で自分に足りないものや必要なことに気づき、その後の学校生活に活かすのみならず、卒業後の自分の夢や目標をしっかりと持った人材の育成に繋げる必要があると考えられる。

本事業の目的は、子ども達へのキャリア教育と就業意識向上のための支援の輪を広げてくこと、そして地域に還元できる人材の育成を図るために生きる力を高めていけるよう働きかけることである。そのために、ジョブシャドウイングを一つの手段として用いながら、産学官、地域、家庭、学校間といった様々な連携が取れる仕組みをより強化していくことがポイントとなる。

家庭・地域との連携に関しては、今年度、両校ともジョブシャドウイング実施当日のサポーターとして保護者を絡めることは出来なかった。しかし、成果発表を授業参観日や学芸会と併せて行ったことにより、生徒がジョブシャドウイング体験を通して学んだことや就業意識の変化を、保護者のみならず地域の方にも広くフィードバック出来たことは大きな成果である。保護者は子ども達が将来のことを相談したり進学先を考える際の一番のサポーターであるという観点から、生徒だけでなく保護者の啓蒙、視野の拡大を図ることが重要であるといえる。更に、地域の特性上、学校と地域とが密着している利点を生かして、地域住民も巻き込んだ形で子ども達を支えていく仕組みづくりが求められる。例えば、保護者や地域住民向けのキャリア教育に関する説明会や講話を積極的に行うことで、雇用の問題について共通の理解を得、ジョブシャドウイングのみならず、様々な側面から子ども達を支援していくための連携強化を検討していく必要がある。

学校間の連携に関しては、現状として、各島々に分布した13校同士で交流する機会は校長・教頭会以外ではほとんど無い。また、各々の教員は竹富町外から赴任してくることが多く、3～5年で移動になる。限られた期間で竹富町の子ども達の現状を把握し、教育の質向上を図っていくには、島同士で共通する課題やキャリア教育の取組みについて情報交換、協議を深めていく必要があると考えられる。更に、小中併置校の多い竹富町においては、中学1年生でジョブシャドウイング、2年生で職場体験という中学校間での繋がりを持たせるだけでなく、小学校から中学校までの9年間で体系立てたキャリア教育の組み立ての可能性も模索しやすいと考える。こうした、異なる学校間での「横の連携」と、小学校・中学校教育の「縦の連携」を並行して行うことで、体系的な取組みとして子ども達の勤労観・就業観の形成・確立、ひいては生きる力の育成に寄与できると考える。

今後は、ジョブシャドウイングを一つのツールとして各校に広めつつ、竹富町商工観光課、同町教育委員会に加えて、竹富町商工会、観光協会といった経済団体も新たに絡める形で各機関が連携を強め、皆が一丸となって竹富町にあったキャリア教育を検証・発展させていけるよう支援を続けていきたい。

2 沖縄女子短期大学での取組

1 実施の狙い

(1) ジョブシャドウイング実施の背景と経緯

大学生を対象としてのジョブシャドウイングは昨年に引き続き2年目の取組みとなる。沖縄女子短期大学1年生には昨年同様、進路や就職、キャリア形成に対する意識変革を狙った。

今年度は昨年度の実施を踏まえ、社会人基礎力を高めることを核とし、キャリア形成の構築を目指したカリキュラムを作成した。講義で知識を得て、ジャブシャドウイング体験を終えた後には、学生自ら自分の価値を見出し、社会の中の自分、働く自分をイメージすることができるよう取組んだ。また、2年生については就職活動や進路決定の際、1年次でのジョブシャドウイングの経験がどのような効果・影響を与えたのかをヒアリングすることで、効果の検証を行った。

(2) 活動スケジュール

時 期	実 績
6月	・学校調整
7月	・授業計画、カリキュラム調整 ・平成23年度ジョブシャドウイング実施学生への追跡調査アンケート（1回目）
8月	・授業計画、カリキュラム調整
9月	・カリキュラム調整
10月	・第1回目講義 ・第2回目講義 ・第3回目講義（事前アンケート）
11月	・受入企業開拓 ・第4回目講義 ・第5回目講義
12月	・受入企業開拓 ・第6回目講義 ・第7回目講義 ・第8回目講義 ・企業リスト、メンター名簿の取りまとめ
1月	・受入企業メンター説明の訪問 ・第9回目講義 ・学校調整 ・第10～13回目講義 <u>ジョブシャドウイング実施</u> ・第14回目講義 ・第15回目講義（事後アンケート） ・学校調整
2月	・第16回目講義（成果発表会）
3月	・平成23年度ジョブシャドウイング実施学生への追跡調査アンケート（2回目） ・沖縄女子短期大学 卒業式参加

2 実施概要

(1) 実施の取組

大学生に対するジョブシャドウイング実施となるため、大学におけるキャリア形成支援の在り方のロールモデル確立を意識した。そのため、カリキュラムでは社会人基礎力を身につけ、2年次からの就職活動や卒業後のキャリア形成に役立てるよう、ビジネスに必要な専門知識に加えて、社会人に必要不可欠な教養・ビジネスマナーを身に付けると共に、社会人としての規律、礼儀、言葉づかいの大切さを知る機会とすることを狙った。

ジョブシャドウイングの体験を通して①仕事や職種に関する認識と職業観の幅を広げ、働くことへの気付きを促すこと、②メンターの働く姿に卒業後の自分を投影させることで、実践的かつ現実に即した気付き、今後の学習意欲を促すこと、を目的として実施した。

更に今年度は、昨年度大学生を対象としては初めての試みとなるジョブシャドウイングを行った学生が、2年次の就職活動などで、どのように進路決定に際して影響を受けたのか追跡調査を行った。

大学が自立して実施できるよう、グッジョブおきなわ推進事業局（以下、「事業局」という）と学生を含む学内での調整・情報共有を行う学内でのコーディネーターの位置づけとし担当教員へ協力して頂いた。その結果、講義・カリキュラム全体の進行をスムーズに行うことが出来た。

【受入企業リスト】

No.	企業名	業種	受入人数	取りまとめ窓口
1	沖縄経済同友会	政治・経済・文化団体	2	事業局
2	日本トランスオーシャン航空株式会社	道路旅客運送業	1	事業局
3	株式会社 JALJTA セールス	道路旅客運送業	1	事業局
4	沖縄ガス株式会社 本社	ガス業	2	事業局
5	日本レコード・キーピング・ネットワーク株式会社	情報サービス業	4	事業局
6	沖縄ガスリビング株式会社	ガス業	2	事業局
7	株式会社琉球新報社	映像・音声・文字情報制作業	2	事業局
8	アメリカンホーム保険会社	保険業	1	事業局
9	フォルクスワーゲン沖縄中央 沖縄トヨタ自動車株式会社	機械器具小売業	1	事業局
10	株式会社リウボウインダストリー	各種商品小売業	1	事業局
11	株式会社りゅうせき 本社	石油製品・石炭製品製造業	2	事業局
12	税理士法人 添石総合会計事務所	専門サービス業	1	事業局
13	ダブルツリー by ヒルトン那覇	宿泊業	2	事業局
		受入人数 合計	22	人

(2) 実施校 活動報告

対象となる総合ビジネス学科は、ビジネスに関する専門性を兼ね備え地域社会に貢献しながら、自分自身の人生をまっとうに生きていくことのできる人材の育成を目標としている。

履修科目は、共通科目、必修科目、選択必修科目、選択科目、医療事務資格取得チャレンジ科目に分類されており、すべての講義を通して社会人基礎力を養うものとなっている。本事業の取組みは、選択科目に位置づけられ「特殊講義Ⅰ」として実施された。また担当教員と連携してカリキュラムの作成を行い、講義の進行は事業局が主体となって行なった。

特殊講義Ⅰの授業到達目標は、総合ビジネス学科で身につけることのできる社会人基礎力の修得を意識し、幅広い学びを通して、人生には様々な選択肢があることを発見させ、自分自身のライフプランをしっかりと築いていける力を養うこととした。

※JS:ジョブシャドウイングの略 ※コマ数(1校時):90分を指す

1	学校情報	沖縄女子短期大学 (継続)	学 長：福地 孝			
		住 所：〒902-0077 那覇市長田2丁目2番地21号				
		電 話：098-833-0716	F A X：098-833-3308			
	実施概略	対象学年：1年生 総合ビジネス学科 22人 (内 実施 22人)				
		担 当：福里 芝人(総合ビジネス学科 准教授)				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習：平成 24年 10月 3日			9コマ	9コマ
	JS実施：平成 25年 1月 16日			4コマ	4コマ	
	事後学習：平成 25年 1月 23日			3コマ	3コマ	
	特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 講義実施日は水曜日に設定された。(90分×16コマ) JS実施当日は、運営事務局を配置して役割分担を行った。 受入企業のメンターには、学生の単位取得の指標となる評価表を用いて、JS実施1日の様子を評価してもらった。 体験を振り返る成果物の作成も行った。その際、プレゼンテーション能力、自分の思いを伝える情報発信能力を身につけることを目的とし、パワーポイントによる成果発表会を行った。 更に補講として体験を振り返りながら、発表会へ向けた個別指導も行い、発表で伝えたい部分を意識させ、パワーポイントの見せ方、伝え方を指導した。 発表会後の大学関係者からの感想として、昨年より体験から得た気づき、見る視点が深く落とし込みができていたとの声が多かった。 				

(3) 実施総括 (成果)



【ワーク】自分の考えを伝えよう!!



【講話】女性が働くってどんな感じ?



【出発式】激励の挨拶を真剣に聞いています



【実施当日】笑顔でコミュニケーション



【成果物作成指導】体験のまとめ中



【成果発表会】出席者へ堂々と伝えています

1. 学生について

講義始めでは学生の持っていた「働く」に対する消極的なイメージが、実際ジョブシャドウイングを体験し、一連の講義を経た後では、前向きなイメージへと変化が生まれた。メンターと一日過ごし

たことで、「自分自身が働いている状況を具体的にイメージし、働く意欲を強めた」という声や、訪問企業の職種についても「自分もその仕事に就けるよう、今の自分に足りないものを考え、今後の学生生活への意欲を高めた」という意見が多く出た。

2. 実施校について

今後学内で自立して講義運営ができるよう担当教員と役割分担をし、学内での認識の共有を図った。また大学のホームページを通して「特殊講義Ⅰ」の取組みを学内外へ発信を行い周知した。

学生へ対しては、昨年に引き続き、「自ら考え、行動する」ことを前提とした、学生の主体性を促す実施体制作りを担当教員と協力し指導を行うなかで構築した。

3. カリキュラムについて

●事前学習 (講義1~9回目)

事前学習の取組みとして、講義全体の構成を①導入、②展開、③体験、④まとめの4段階に分けて取組み、社会の中の自分、働く自分がイメージできるまでの定着を最終目標として意識した。

自分の過去・現在を振り返りながら、将来の自分をイメージできるよう、自分自身を内省する時間を多く取り入れた。また、より将来のイメージを具体的に描けるようワークシートの改善を図った。その際は、そのワークシートを元に発表し、伝える力を養うよう指導した。

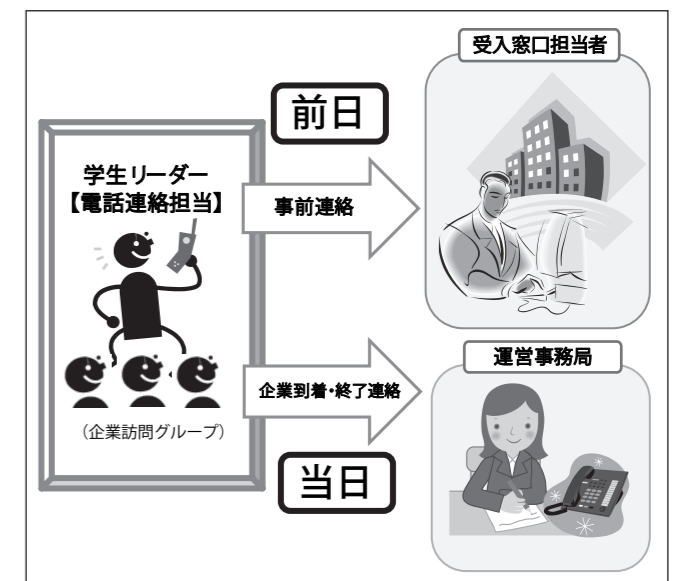
職業人講話の人選の工夫としては、企業での人事を担当している方の生の声が聞け、社会人・大人としての道りがイメージできるようにすることを念頭においた。特殊講義Ⅰを履修する学生がすべて女性ということもあり、働く女性に視点を置き、「女性が働くこと」をイメージできるような講話内容となるよう工夫した。

ジョブシャドウイング実践前準備としては、訪問企業先ごとに学生をグループに分け、その中でリーダーを選出し、代表して事前に訪問企業へ電話連絡を行う一方、学生全体への電話・訪問指導等も行い、今後の就職活動でも活かせるよう配慮した。

●ジョブシャドウイング実施 (講義10~13回目)

新規の受入企業も多かったため、事業局コーディネーターは学生・メンターの当日の様子や、メンターからの疑問に答えられるよう、全ての受入企業の訪問を行った。その際、成果発表へ向けた資料集めも併せて行った。

学生の動きとして、右図のように企業グループごととなって訪問したため、学生リーダーからジョブシャドウイング運営事務局へ企業到着時、終了時に連絡を入れるよう指示をし、安全確認を行いながら実施をスムーズに運営できるよう配慮した。



●事後学習（14～15回目）

指導案を担当教員と調整し発表方法等のコマ数を確保したことで、昨年度に比べ学生の指導により時間をかけることができた。事後学習実施では更に学生の講義での反応、課題提出の出来栄えなどを見ながら、臨機応変に指導案を組み直した。

発表指導前には学びの定着を深めるため、学生の考えでの発表を行ってもらった。発表を聞くことで自分と他の学生の体験内容・感想を比較し、自分自身の発表方法を振り返り、発表内容についての新たな視点に気づきを与えられるよう配慮した。

また、発表指導後には、発表会用パワーポイントの作成指導を個別で行った。

●成果発表会（16回目）

大学側による会場設営、大学内への発表会周知を行うことで、大学との連携を強化し、大学が主体となって実施に関われるように取組んだ。その際、以下のような工夫を行っている。

- ①学生発表の前に、大学関係者へのジョブシャドウイング事業説明と今年度の特殊講義Ⅰでの取組みを説明し、学内での情報共有を図った。
- ②受入企業が発表会へ出席しやすいよう発表スケジュールを組み、学生の細かな発表時間を事前に周知したことで、企業窓口担当者やメンターが多数出席頂けた。

4. 企業について

企業研究・情報取得の際、学生の就職活動傾向として大手企業やネームバリューに強く影響を受けるため、より多くの企業へ視野を広げられよう企業開拓を行った。また、県内志向が強い傾向を受け、視野を広げられるよう県外へ繋がりのある企業も体験できるよう開拓を行った。

発表会に参加した企業から、学生が企業として伝えたかった（感じてほしかった）会社、職場の雰囲気大切にしているという部分をきちんと観察し、発表していたことへ評価を頂いた。

学生の発表を聞いての感想として、「コミュニケーションの中で、ミスを恐れず何事もチャレンジして欲しいことを伝えたが、しっかり伝わっていて嬉しかった。」や「（ジョブシャドウイングで体験した）職種、仕事に対するイメージが、良い方向への変化が見られてよかった。」との声があがった。

初めてジョブシャドウイングを受入れた企業からは、「事前説明もありジョブシャドウイング実施の目的も把握でき有意義な1日となった。今後とも継続して受入れを行っていきたい。」と高評価を得た。

受入企業アンケートの考察では、今年度受入れ企業のうち、新規企業が7割を占めた。ジョブシャドウイングの認知度としては「知らなかった」との回答が新規企業の比率と同様であったが、これを機に新たな企業開拓が行え、周知が広がったと考えられる。

今年度は、ジョブシャドウイング実施に関わる流れや注意点だけでなく、大学が掲げている育成目標や学生が取組んでいる講義の概要全体も説明しながら、受入企業側へ説明を行った。学生の現状や、どういった学びを得るために講義に取り組んでいるかを説明することで、ジョブシャドウイング体験中でのメンターと学生とのコミュニケーションがより円滑に行えるよう工夫した。その結果、「できるだけ同じ目線や立場に立ってもらった。」「将来の就職について、少しでも役に立てばと色々話した。」「なぜこの仕事があるのか、役割りと社内の位置づけを細かく伝えた。」等、メンターからの学生に対して工夫した点が多くみられたことも、成果といえる。

3 2年次の追跡調査について

平成23年度の講義では、講義内容とジョブシャドウイング体験によって、学生自身が「仕事」「働く」「就職活動」に対する意識が変わり、将来への関心を高めていることが分かった。ジョブシャドウイングを体験した後の振り返りでは、「働くことはお金をもらうだけではなく、働く楽しみを見付けたり、やりがいを見付けるということを学んだ」「自分に足りないものに気付くことができた。残りの学生生活の中で資格を必ず取得する」など、実際に社会で働くメンターと一緒に過ごすことで、今の自分と真摯に向き合い、それを受け止め、就職活動に臨む姿勢を見直したり、社会にでる前の最後の学生生活を有意義に過ごすための目標をきちんと立てる学生が多かった。

また、全体的な感想としては「講義を受ける前は就職に対して興味がなかったけど、講義を通して就職活動のこと、働くということについてきちんと考える様になった」「働くことは自分の生きがいになることを学んだ」「大学生活の大切さ、社会に出た時の自分の小ささ、こういった人間になりたいかなど、目標を立てることが大切と考えるようになった」というように、学校生活の大切さ、「今」という時間を大切に過ごすことが将来につながることを感じる機会となっていた。

そうした経験が、一年後どう役に立っているのかを検証する目的で、追跡アンケートを行った。

(1) 追跡調査について

追跡調査アンケートは、2回実施した。アンケートの手法としては担当教員の協力を得ながら、特殊講義を受けた学生を集めて実施し、選択・記述形式で回答してもらった。

1回目の実施は2年次になり、進路・就職を考えて資格取得のための履修科目の決定、合同企業説明会などの就職活動が始まる時期から少し経過した時期である7月に行った。2回目の実施は、学生の進路や就職がほぼ決定し、卒業間近である3月に行った。

1回目の追跡調査アンケートからは、「ジョブシャドウイングでの経験が就職活動の際、役に立ちましたか？」の問いに、アンケートを行った学生全員が「役に立った」と回答した。理由として、ほとんどの学生が実際に働く人から、「働く意味を観察することができ、仕事に対する責任や想いを知ることができたから」と回答している。また、「講義を通して働く自分をイメージ出来たことが、働くことについて考え方が変わるきっかけとなった」との回答も多かった。

「特殊講義を受ける前と受けた後、就職活動に対する姿勢に変化があったか？」との問いに対して、「思う」との回答が9割あった。回答の理由として、「仕事は楽しいものだと、仕事に対する見方が変わり、就職活動に対して意欲がわいた。」など、就職活動・働くことに対して前向きな意見や姿勢を表す回答が半数以上あった。その他、「外見から見た会社と、実際にその会社で、聞く・見るのでは違いがあったので、企業研究をする。」また、「（興味のある）企業を調べるようになった」など、企業研究の重要性に対する声もあった。

2回目の追跡調査アンケートからは、就職先・進路先の決定については約7割が「決まった」と回答しており、残り3割は無回答を除くと「現在活動中」と回答している。就職先の場所はすべて「県内」となっており、就職活動時の企業への応募も「県内中心の応募」となっていた。

就職活動での応募数については平均2.9社となり、多い学生で7社という回答もあった。応募数の平均で見ると少なく感じられるが、これは1回目の追記調査アンケートの中でも見られたように、企業研究への重要性を感じ、応募企業をしっかりと絞り込んで応募した成果と考えられる。その根拠としては、合同企業説明会や企業が行っている会社説明会への参加数が平均4回と答えていることにある。アンケートの中には説明会に参加しているが、数字ではなく「多数」などの記述で回答する例もあり、説明会へ参加し、企業の様子を直接聞くことを積極的に行ったと推察している。

「特殊講義Ⅰの内容は就職活動に活かされたと思いますか？」の問いに対して、「思う」との回答が5割、「どちらとも言えない」が約4割、「無回答」が約1割となっており、「思わない」との回答は無かった。

「思う」と回答した理由として、「実際に見ると想像では全く違ったので、体験することの大切さを学んだ。」また、「特殊講義の中で、社会人の講話などが自分自身の中の働く意味などを考えるきっかけとなりました。」の声が上がった。実際に就職活動をしてみて、自分自身で、見る・聞く・考えることの重要性に改めて気づいたと推察される。

【追跡調査アンケート質問項目】

ジョブシャドウイング追跡調査アンケート(2回目)

○1年次の時に特殊講義を通してジョブシャドウイングを経験したみなさんのその後について教えてください。

1. 就職先・進学先が決まりましたか？
①決まった(就職・進学) ②決まっていない(現在活動中・考え中)
2. ①の就職が決定した方にお尋ねします。どんな就職先・職種に決まりましたか？
また、就職先は県内・県外のどちらですか？
3. ①の進学が決定した方にお尋ねします。どの学校に決まりましたか？
また、進学を決めた理由は、何ですか？また、進学先は県内・県外のどちらですか？
4. 就職活動では何社に応募しましたか？ ()社
4-1 就職活動はいつ頃から始めましたか？ ()年 ()月 ()日
4-2 就職活動を始めた時期についてはどう思いますか？(早かった・遅かった)
4-3 内定通知をもらったのは何月頃ですか？ ()年 ()月 ()日
4-4 就職活動では県内・県外の企業どちらに多く応募しましたか？(県内・県外)
その理由は何ですか？また、両方応募した人は両項目に記入下さい。
5. 1年次で経験した特殊講義Ⅰの講義内容は、就職活動に活かされたと思いますか？
①思う ②思わない ③どちらとも言えない
- 5-1 ①思うと答えた方は、理由や内容を具体的に教えてください。
- 5-2 ②思わないと答えた方は、そう思った理由を教えてください。
6. 合同企業説明会や、企業が行っている会社説明会に何回参加しましたか？
できれば参加した企業名、説明会の名称も教えてください。
7. 就職活動時に工夫したところ、大変だったところ、想像と違ったところ等々就職活動時のエピソードを教えてください。
8. 社会人になってから3年後の目標や夢、どんな働く大人になりたいか教えてください。

●平成24年度沖縄女子短期大学 就職決定状況

(提供：沖縄女子短期大学／平成25年3月22日現在)

	卒業	就職希望者	就職決定数	就職率 (%)
大学全体	227	169	138	81.7%
総合ビジネス学科	51	43	35	81.4%
特殊講義Ⅰ履修者	22	20	17	85.0%

平成23年度沖縄女子短期大学卒業生就職率 92.1%

平成23年度沖縄県新卒者(大学)就職内定率 65.9% (出展：沖縄労働局職業安定部職業安定課)

4 今後の課題と展望

(1) 実施から見えた課題と展望

今後は、講義全体の支援を行えるよう大学内での情報共有・周知を図り、大学・学生がより地域と関わりを持てるよう、大学近隣の企業開拓、大学側(就職支援部)との連携を図る。

体験当日へ向けては昨年度同様、企業ごとにリーダーを決めた。リーダーの役割としては当日の指揮と、企業の担当者へ事前の電話連絡があった。リーダーではない学生へも同様の指導を行ったが、リーダーに任せきりの状態が一部で見受けられた。学生一人一人が主体的に取り組むよう促す必要性があった。

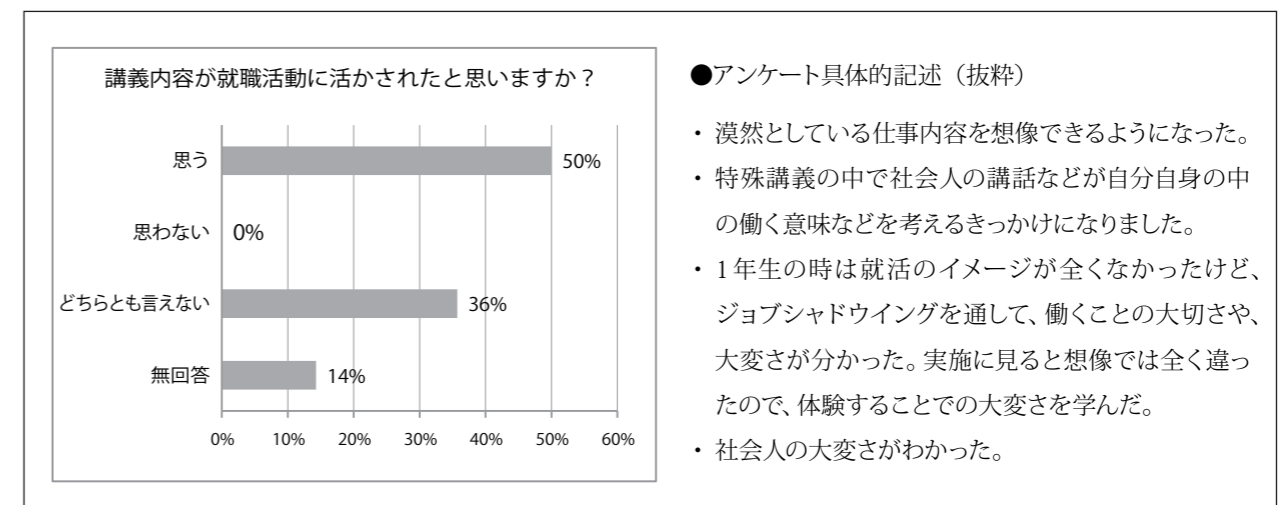
成果発表会では学生の発表後、出席して頂いた受入企業へ感想を直接口頭にて伺ったが、今後は発表の感想を記入する用紙なども準備し、大学関係者や学生へフィードバックができるよう配慮していきたい。

(2) 追跡調査から見えた課題と展望

大きく2つの課題があると感じた。

1つは就職活動時に考え方の変化や迷いが出てきた際に、もう一度「現在・今」の自分、「なぜ、今の目標を持ったのか？」を見直し、振り返ることの必要性を感じた。それは、就職活動時の大変だった所・エピソードについての問で、「できるだけ多くの説明会に参加し、いろいろな職種を見ることを心がけました。」や「自分のことについて深く考えました。また、何がやりたいか分からなかったので、就活は自分と向き合う大切な時期でした。」と回答している。合同企業説明会など、就職活動を行っているうちに、自分自身の考え、職種・業種への興味、目標の変化が生じた結果だと考えられる。「講義内容が就職活動に活かされたと思いますか？」の問いに「思わない」との回答は無かったが、2年次はより深く「自分」を理解し、目標の設定して行かなければならない場面が多く出てくると考えられた。

【講義内容と就職活動への繋がり】

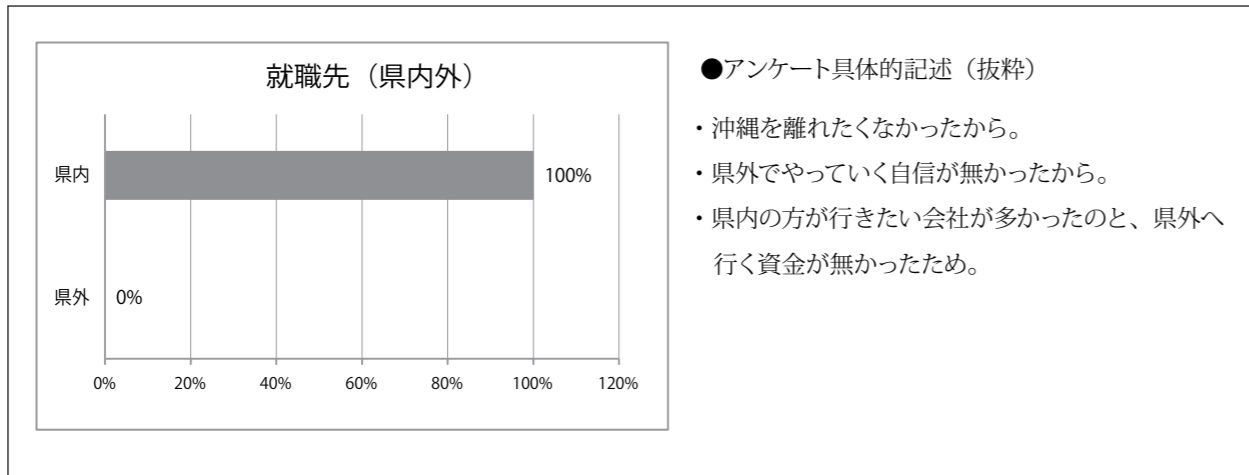


そのため、2年次でも自分自身の主体性、自らが継続して指標作りを行い、一定期間振り返り再度目標を明確にすることで、更に就業意識を高められるよう、大学の協力を得ながら学生のキャリア形成を体系立て、2年次へとつなげていくために継続して学生に関われるよう取組みたい。

2つ目は、就職先が決定した場所についてはすべて県内となっており、県内を選んだ理由として、「沖縄を離れたくない」との回答が最も多く、「県外で働く自信が無い」など県外へ出る不安の声もあった。

今回の追跡調査アンケートからは、自らの可能性を広げる目標や新しいことへのチャレンジより、学生自身が可能性、能力を閉ざしているよう感じ取れた。

【就職先状況】



県外就職を含め、自身の可能性を広げるきっかけ作りとなる企業開拓を意識して行ったが、もっと県外での働く魅力を見せる工夫が必要だったと感じた。県内を選んだ理由としても、地元での社会貢献など、目標の明確な意識づけができたらと考えている。今後は更に県外での魅了ある企業を周知し、自立心が出るよう企業研究や講話などで、県内外での双方の就職についての魅了を伝えたい。

今回の追跡調査アンケートは、就職や進路先、就職活動の状況についての状態把握に重きを置いたが、2年次に追跡アンケートを行った学生、今年度講義を終えた学生から出てくる学生生活での学習意欲の調査も行えたらと考えている。それは、学生自ら人生の選択肢を発見する(チャレンジする)きっかけ作りも特殊講義Ⅰを受講した学生への効果の検証にも繋がる考えである。

今後も学生への追跡調査、分析を行い、学内の学生全体との学習意欲、資格取得率や履修状況の比較が行え、学校のみならず沖縄県の雇用状況への改善へと繋げていけるよう、より学内の連携を図り実施していきたい。

3 琉球大学教育学部附属小学校での取組

1 実施の目的・狙いなど

今年度2年目の取組みとなる琉球大学教育学部附属小学校は、あらたな試みとして教育実践総合センターと連携することにより、教育学部の学生とのジョブシャドウイング実施を協働で行うこととした。これは、学生たちがキャリア教育実践の手法のひとつであるジョブシャドウイングの一連の工程を経験することで、通常の実習では経験することが少ないキャリア教育について、実践的な学びの機会とすることを狙ったものである。将来の教職をめざす学生の質向上を目指し、またその育成の在り方についても模索する機会とした。

また、従来の大学教育プログラムにはなかった小学校・大学間連携となるプログラム開発をし、双方にとっても先進的な試みとした。

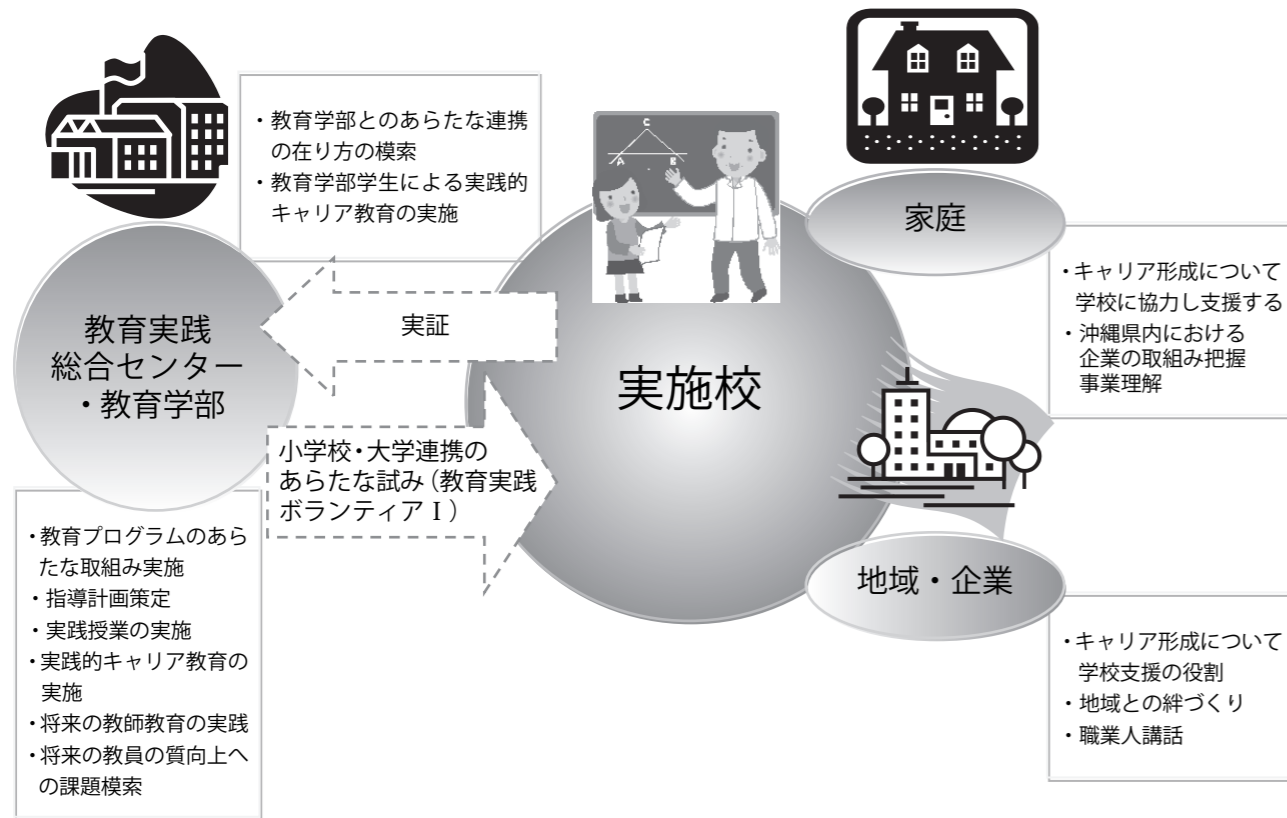
(1) 活動スケジュール

時 期	実 績	
	教育学部	小学校
9月	・学校調整 ・シラバス策定	
10月	・学校調整 2回実施	
11月	・学生登録期間 ・教育学部及び教育総合実践センターとの業務調整 (学校長)	
12月	・第1回目講義・リフレクション ・第2回目講義・リフレクション ・第3回目講義・リフレクション	
1月	・第4回目～第6回目・リフレクション	・事前学習①～⑥ ・保護者説明会
2月	・第7回目講義・リフレクション ・第8回目講義・リフレクション ・第9回目～10回目講義 (リフレクション) ・第11回目～13回目講義・ジョブシャドウイング実施 ・学生説明会 (実施・引率方法等)	・事前学習⑦⑧ ・ジョブシャドウイング実施 ・事後学習①～⑧
3月	・第14回目講義・リフレクション ・第15回目講義・リフレクション総括	・発表会

※シラバス・・・講義の概要、業計画のこと。今年度は教育実践ボランティアⅠとして教育学部の学生に向けた集中講義の位置づけで、単位履修可能として行った。

※リフレクション・・・体験を学びに変えるための内省、振り返りのこと。

琉球大学教育学部附属小学校ジョブシャドウイング連携モデル



2 教育学部（教育実践総合センター）での取組

琉球大学教育学部長 井上 講四
 教育実践総合センター長 大城 賢
【教育実践総合センター設置目的】
 学校及び地域社会の教育課題解決に的確に対応できる人材の養成に向け、学部(附属学校を含む)及び関係諸機関との連携を図り、教育実践並びに教員養成に関する理論的・実践的・臨床的研究及び指導等を総合的、体系的に推進することを目的としています。

(1) 取組概況

【背景と実施概況】

平成23年に中央教育審議会答申によって新たなキャリア教育指針が発表され、その内容の理解と実践が教師に求められている。そうした要請も踏まえながら、教育学部の実習場所という性質も担う附属小学校での既存の取組みに加えて、キャリア教育の実践事例を通した学びの機会を学生へ提供することを試みた。

授業概要としては、教育実践総合センターとの連携のもと、希望選択制で単位履修可能とすることで、小学校・大学連携におけるキャリア教育実践の新たな取組み事例として、学生に対する教員養成の質向上を目指した。

また、実施前日には学生向けに引率手順・マナー学習についての説明会も行い、実践手順の統一性を図った。さらに毎講義終了後には振り返りの時間を持ち、個々の感想や課題点または反省点などについて議論の場とした。様々な情報の中で振り返ることにより、新たな視点の模索に繋がるきっかけとなった。

【集中講義】学生への募集案内

小学生のキャリア教育について学びませんか！
集中講義「教セ310 教育実践ボランティアI（組名02）」

科目番号	科目名	単位	週時間	必修選択	担当教員	組名	登録人員	受講年次	教室	期間
教セ310	教育実践ボランティアI	2	0-2	自由	奥田 実	2	10	2-4	附属小学校	集中

授業内容と方法：平成25年2月20日（水）に行われる、附属小学校6年3組（担任：新川美紀先生）のジョブシャドウイングのサポートを中心に、小学校におけるキャリア教育について学びます。
 事前学習から事後学習まで、子どもたちの授業を通してキャリア教育の実践を学びます。
 「グッジョブ沖縄推進事務局」と連携しながら進められ、沖縄県の小学生のキャリア教育について、行政と学校現場、そして教員を目指す学生との新しい協働の形を探っていきます。

≪ジョブシャドウイングとは：沖縄県が推進する「みんなでグッジョブ運動」の一環として、児童生徒が職場で働く人に影のように寄り添い、仕事内容や職場の様子を観察することです。≫

登録方法：件名「教育実践ボランティアI」とし、学籍番号と所属専修・コース及び氏名を、下記宛てメールして下さい。
 宛先：mokuda@edu.u-ryukyuu.ac.jp
 登録期間：11月12日（月）～22日（木）

【シラバス】

回数	内容	担当
1・2	オリエンテーション キャリア教育概論〈中教審の示すキャリア教育〉 地域型キャリア教育の事例〈沖縄型ジョブシャドウイングとは〉	附属小・事業局
3	体験学習活動におけるフォロー学習の内容〈正課授業への取組み事例など〉	附属小
4	指導計画の策定①	附属小・事業局
5	体験学習活動における事前学習〈実践授業〉	附属小
6	指導計画の策定②	附属小・事業局
7	体験学習活動における事前学習〈実践授業〉	
8	体験学習活動における事前学習〈実践授業〉	
9	体験学習活動における事前学習〈実践授業〉	事業局
10	学生向けジョブシャドウイング説明会	
11・12	ジョブシャドウイング実践	附属小・事業局
13	体験学習活動における事後学習	附属小
14・15	体験学習活動における事後学習〈実践授業・発表会〉 キャリア教育実習の総まとめ〈討議〉	附属小・事業局

注) 事業局・・・グッジョブおきなわ推進事業局
 附属小・・・琉球大学教育学部附属小学校
 中教審・・・中央教育審議会

(2) 成果

① 学生に対する成果

教育学部の学生がジョブシャドウイング実施に協働することで、実践的なキャリア教育の手法を体験した。将来、教職を目指す教育学部の学生が「キャリア教育とは何か」について考える機会とし、事前学習の指導計画の立案、授業の実施、ジョブシャドウイング当日の児童の引率、実施後の事後学習から発表会までの一連の流れを担うことで、キャリア教育についての理解を深めることができた。ジョブシャドウイング実施後の学生からのリフレクションで、「この講義を通して、教師になった後からが本当の始まりであるということを感じた。」という言葉からも、学生が実践を通して「キャリア教育とは何か」について、様々な気づきを促す成果が見られた。

また、副次的な成果としては、学生自身のキャリアについて見直すきっかけとなったことである。これについては後述する。

② 学部との連携に関する成果

今年度、初の試みとなった教育学部との連携においては、日常的に行っている研究授業に、キャリア教育での実践的指導を加味したものとなった。従来の小学校・大学連携とは異なり、より実践的なキャリア教育に学生が参画するという、一歩踏み込んだ形での取組みは、今後の小学校・大学連携においても先進的な事例となった。

(3) 実施総括（成果と課題）

今年度、教育学部の学生に集中講義として単位履修可能とし、広く学生の参加を募った。その結果、7人の学生が取組むことになった。学生は、今回の集中講義で「人は社会とのかかわりによってこそ、キャリア教育の視野が広がる」という気づきに繋がったといえる。学生にはジョブシャドウイング中、受入先企業への児童引率だけでなく、企業視察を体験させた。その結果、社会構造を目の当たりにし企業関係者との交流の中で、ジョブシャドウイング実施対象である児童だけでなく、学生にとっても働くことの意義や、やりがいや思いを受け取る機会となることができたといえる。

課題としては、学生が行う児童への事前学習の実践指導案作成について、めあてや本時の目的を伝えることに苦慮したことにある。児童に対してキャリア教育の実践をおこなうにあたり、学生自身が個々のキャリアについて未熟な部分が否めなかったこともその理由といえる。そのため、ジョブシャドウイング実践をすることにより、「キャリア」についての概念を深耕することとなった。それぞれが「キャリア＝仕事」という固定観念を壊し、リセットすることが必要であった。学生が、様々な人との関わりの中でのコミュニケーションの必要性や、多角的な視点から「キャリアとは？」について議論を重ね、体験を重ねる中で、人の生き方全ての軌跡がキャリアとなることを確認することにも繋がった。また、教職を目指す学生に机上の理論のみならず、このように実践的な取組みの機会を与え、体験を重ねていく中で会得していくことが大切であると感じた。今後も様々な手法を用いて「キャリア教育」についての理解を深める体系的な仕組み作りが必要とされる。

3 附属小学校での取組

(1) 取組概況

昨年度に引き続き、継続実施の取組みとなった。総合的な学習の年間計画において、35時間をキャリアについてさまざまな角度からの学習に割り当てて行われた。学習内容は職種調べや職業人講話を通して実際に働く人の生の声を聞き、更には働く大人の仕事に対する思いについてジョブシャドウイングで観察する取組みなど、変化をつけた授業内容で多面的な視点を与え、児童への気づきを促すことを目的とした。

また、当該小学校は、隣接する半径6km圏内の市町村の学校区に居住していることを入学の条件としているため、公立の小学校に比べ地域との結びつきが希薄な部分がある。そのため受入企業の開拓時には、幅広い職種や業態の観点から広域での選定となった。併せて学校近隣でも受入企業の開拓を行ない、地域で働く大人をメンターとして選ぶことにより、児童に対しての地域への関心と興味を促し、絆づくりのきっかけとした。キャリア教育は、学校だけで完結できるものではなく、家庭との連携が重要である。そのため、保護者の理解を促す目的も併せて、事前学習の中で身近な大人へのインタビューや、ジョブシャドウイング実施当日の児童引率の形で協力を仰いだ。そうすることで、学校と家庭の双方の連携の中で児童のキャリア形成を促す取組みとした。

【受入企業リスト】

No.	企業名	業種	受入人数	取りまとめ窓口
1	沖縄経済同友会	学術・開発研究機関	1	事業局
2	沖縄観光コンベンションビューロー	地方公務	2	事業局
3	株式会社琉球新報社	映像・音声・文字情報制作業	2	事業局
4	東亜運輸株式会社	水運業	1	事業局
5	沖縄電力株式会社 浦添支店	電気業	5	事業局
6	株式会社りゅうせき 得得 牧港店	飲食店	1	事業局
7	沖縄都市モノレール株式会社	鉄道業	4	事業局
8	NHK 沖縄放送局	放送業	4	事業局
9	沖縄ガスリビング株式会社	ガス業	2	事業局
10	株式会社スズケン沖縄薬品	各種商品卸売業	1	事業局
11	あやかりの杜	地方公務	1	事業局
12	アメリカンホーム保険株式会社	保険業	3	事業局
13	株式会社EM研究機構 EMウェルネスリゾート コスタビスタ沖縄ホテル&スパ	宿泊業	2	事業局
14	株式会社リウボウインダストリー	各種商品卸売業	1	事業局
15	沖縄トヨタ自動車株式会社 コザ店	その他の卸売業	2	事業局
16	日本トランスオーシャン航空株式会社	航空運輸業	3	事業局
17	県立埋蔵文化財センター	地方公務	2	事業局
		受入人数 合計	37	人

(2) 実施校活動報告

※JS:ジョブシャドウイングの略 ※コマ数(1校時):45分を指す

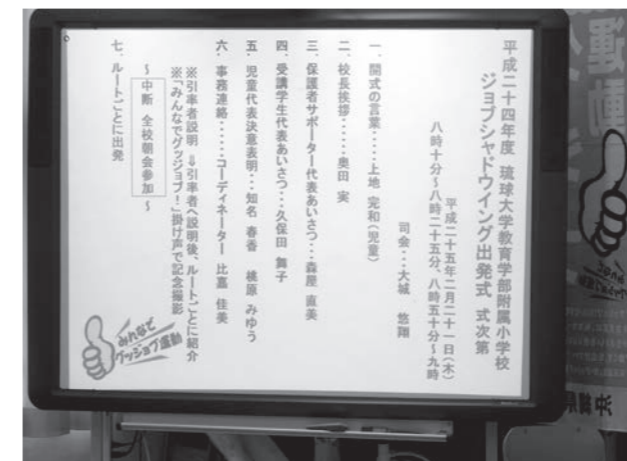
学校情報	琉球大学教育学部附属小学校		校 長:奥田 実		
	住 所:〒903-0129 沖縄県中頭郡西原町千原 1 番地				
	電 話:098-895-8452		F A X:098-895-8456		
実施概略	対象学年:6年生 1クラス 37人 (内 実施 37人)				
	担 当:新川 美紀(3組担任)				
	実施日	コマ数	学校実施	事務局実施	合 計
	事前学習:平成 25年 1月 9日		2コマ		
	平成 25年 1月 23日		2コマ		
	平成 25年 1月 30日		2コマ		
	平成 25年 2月 6日			2コマ	
	平成 25年 2月 13日			2コマ	
	平成 25年 2月 14日		1コマ		11コマ
	JS実施:平成 25年 2月 21日			4コマ	4コマ
事後学習:平成 25年 2月 21日		2コマ			
平成 25年 2月 22日		2コマ			
平成 25年 2月 26日		3コマ			
平成 25年 2月 27日		2コマ		9コマ	
リハーサル:平成 25年 3月 1日		1コマ		1コマ	
発表会:平成 25年 3月 4日		2コマ		2コマ	
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョブシャドウイング実施2年目の継続校。 ・大学附属の小学校であることから、教育理論と教育実践に関する研究及び実証が行われている。 ・大学が計画する教育実習に協力し、学生に対して教育者としての資質を磨き、教育実践者として徹底した指導を行っている。 				



【事前学習】
「人はなぜ働くの?」「仕事とは」についての学びを事前学習で行った



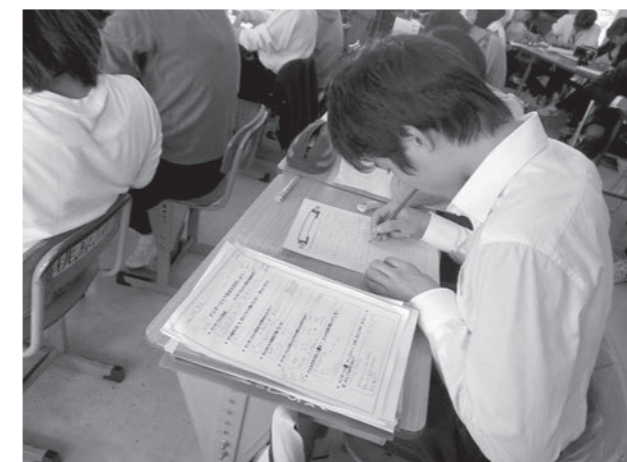
【職業人講話】
公民館運営などを行っている講師から、仕事に対する思いや、やりがい、また公民館の業務内容などを語っていただいた



【出発式】
いよいよジョブシャドウイング!それぞれの企業へ向けて出発



【ジョブシャドウイング】
少し緊張した様子でメンターさんを観察中!メンターさんの仕事に対する思いを探る



【事後学習】
観察した内容を、その日の午後で取りまとめその後、成果物として各自で新聞を作成する



【発表会】
2つのグループに分かれてポスターセッション形式で個人発表

(3) 実施総括（成果と課題）

①保護者

ジョブシャドウイングの実施では、実施サポーターとして保護者にも協力頂き、無事故実施という点で大きな力となった。事前に行われた実施サポーターのための説明会へ参加することで、当日の役割について各々が確認することが出来、当日の作業がスムーズに進行した。児童引率時に企業訪問することで結果的に企業視察となり、保護者が県内における多種多様な企業の業種業態に触れる機会となった。地域の雇用の場を知ること、児童の将来の就職先としての視野を広める取組みが出来たことは成果といえる。

発表会には多くの保護者が参観し、児童それぞれの気づきが得られたことに評価を頂いた。中でも保護者から「ジョブシャドウイングを行うことで、子どもが日々成長していく様子を確認できた。繰り返し行う事前学習の様子を子どもを通して家庭でも確認し、学校で学習してきた内容について、親子で更に調べたりすることが出来た。また、ジョブシャドウイング実施前後を通して「働くこと」について子どもの見方や考え方の変化を感じ取ることができた。」といった声が聞かれた。学校だけではなく、その後の家庭でのキャリア教育の連続した取組みとして考える機会へ繋がったことも成果である。

発表会アンケート（抜粋）

- 子ども達が職場（仕事）という“新しい世界”で楽しく有意義な経験をしていることがわかりました。ジョブシャドウイングはとても素晴らしい取組みです。是非、続けてそして広げてください。
- 「働く人（父や母）がいるから今の私がいるので、働くすべての人に感謝していきたい」という児童の発表を聞き感動しました。
- ジョブシャドウイングを通して、大人を身近に感じたり、人と人との繋がりを感じたり、今の自分たちがやっていることや感じていること全てが、将来に役立っていくことを気付けたのではないかと思います。
- この経験は子ども達にとって素晴らしい経験です。この気持ちをずっと持ち続けたらいいと思います。ここからは親の役割です。ジョブシャドウイングの話子どもとすることによって、子どものやる気や物事に対する目標などを持続することができると感じました。
- 児童がそれぞれ違う業種、仕事を観ることで、決して楽な仕事はないということを知り、きつい仕事の中にもやりがいがあるということを感じていました。

②地域・企業

職業人講話は、公民館を拠点に地域連携の取組みをされている方を講師とした。理由は地域性が希薄な実施校の児童に対し、自分たちの住む地域についても視野を広めることを目的としたからである。結果、児童にとっても地域にはたくさんの方がいて、互いに支え合うことで成り立っていることを知り、新たな気づきを促すことができた。

受入企業については、児童に幅広く職種・業態について知ってもらうため広域で開拓を行い、同時に学校区の地域への理解目的もあって近隣企業でも募った。結果、広域企業での受入れを通して、多種多様な業種でのジョブシャドウイング実施が可能となったことで、児童に職業選択の視野を広める

ことが出来た。また、近隣企業の受入れにおいては、地域の産業を知るきっかけにもなり、身近な産業で働く大人をメンターとすることで、児童に対して地域への関心、興味を促し、絆づくりが行え、児童のキャリア教育の充実を図ることができた。発表会にも多くのメンターに参観いただき、企業側からは、「メンターの仕事に対する思いを、児童が自ら自分に置き換えて考えているところが素晴らしい」、「学校や家庭だけでは子どもの可能性を広げることには限界がある。キャリア教育は学校や家庭のみならず、社会全体で関わっていくべきである」などの声をいただき、ジョブシャドウイングの可能性や実施継続を求める声なども上がった。

発表会アンケート（抜粋）

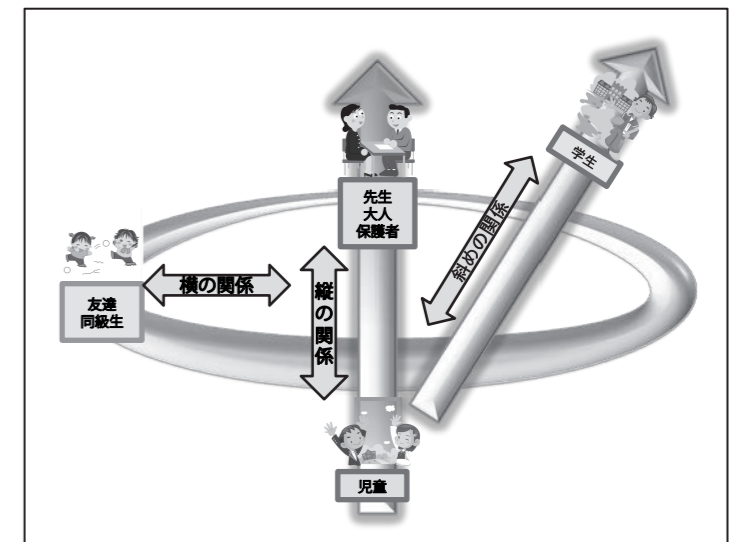
- 児童の発表を通して、他社の雰囲気や企業理念、仕事に対する思いを感じることができて勉強になりました。
- ジョブシャドウイングが、子どもに与える影響は一つではないと感じました。また、それぞれの児童が異なる仕事観を持ち、共有することが、10年後社会に出るとき大きな財産となると感じました。
- 子ども達による企業訪問は将来を考える良い機会になると思います。
- 子どもにとって社会人を見ることは学びが多いと思うのもっと実施してほしいです。
- 訪問した企業について、細かく調べてあり、経験したことを新聞や自分の言葉を通して子どもたち同士で共有するという素晴らしい発表会でした。

3 総括（今後の課題および改善点）

今年で2年目の取組みとなったジョブシャドウイングの実施は、4つの成果があった。

1つは、学生や児童のみならず保護者に対しても、沖縄県内にも様々な業種業態があることを知るきっかけ作りが行えたことである。児童引率を学生や保護者が行うことで、県内企業の視察が出来、多種多様な職業があることに気が付いた。学生だけでなく保護者に対して、職業選択の視野を広げる働きかけが行えたことは、子ども達の可能性を広げることへ繋がる。

2つ目は、今年度は初の試みとして琉球大学教育学部の教育実践総合センターの集中講義の中で単位履修可能な講義とすることで、通常の教育実習では体験することの難しいキャリア教育の実践的体験が可能となったことである。当初はジョブシャドウイングのサポートを通して児童と関わることで、実施前後の児童の変化を感じ取り、今後の教育実践時の質向上を目指し、キャリア教育の課題を発見し更に探求していくことを主な目的としていた。



【児童から見た学生との関係】

しかし一連の講座を通して、当初の目的だけではなく学生自身の将来についての可能性や、方向性についても再考する大きなきっかけとなった。

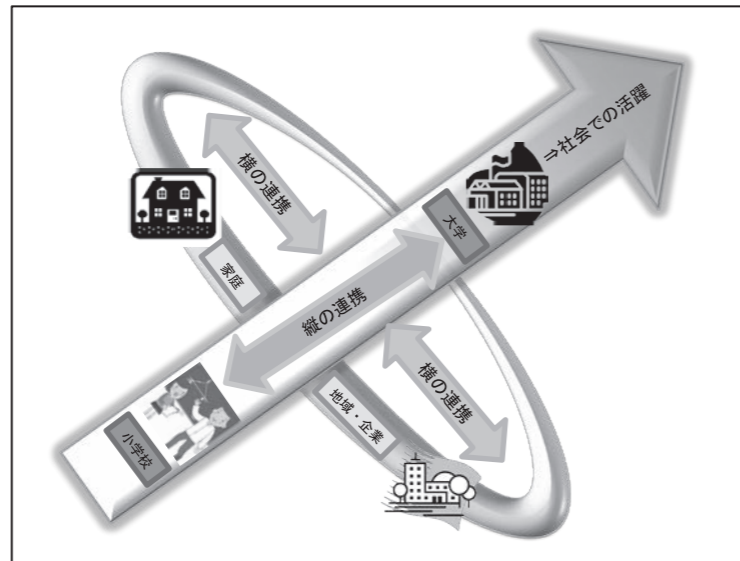
3つ目は、児童にとって今回の協働実施は、世代的に先生や保護者より身近な存在である学生に対して、実践授業以外での姿を観る機会となり、児童が学生に自己投影することで、将来像をイメージする機会となったことである。

4つ目は、職業人講話の講師を公民館を拠点に地域連携の取組みをされている方を選定することで、地域性の希薄な実施校の児童に対して、自分たちの地域に関心を向けることが出来た。その結果、人との繋がりや社会が成り立っていることを認識することへ繋がった。

自分の個々の持つ夢や将来に対するイメージを膨らませるには、さまざまな方向からの働きかけや、人との関わり、経験によって培われる知識や情報から学ぶことが大切である。その理由は、キャリア形成とは俯瞰的な視野で物事を理解することで自身を内省し、そこから自己形成をしていく必要があるからである。キャリア教育には地域に住む大人や企業といった様々な関係機関が

縦横に連携をもち、将来の人材育成を担うという仕組みを構築することが重要である。

今回の実施を通して、あらためてキャリア教育の必要性を確認し、教育実践総合センター連動による小学校・大学間の連携となるプログラム開発となった。今後ともこの取組みを継続的に実施し、検証していくことで、より充実したプログラムとなるよう協力していきたい。



【各機関の縦横の関係性】

SECTION

6

資料（アンケート集計）

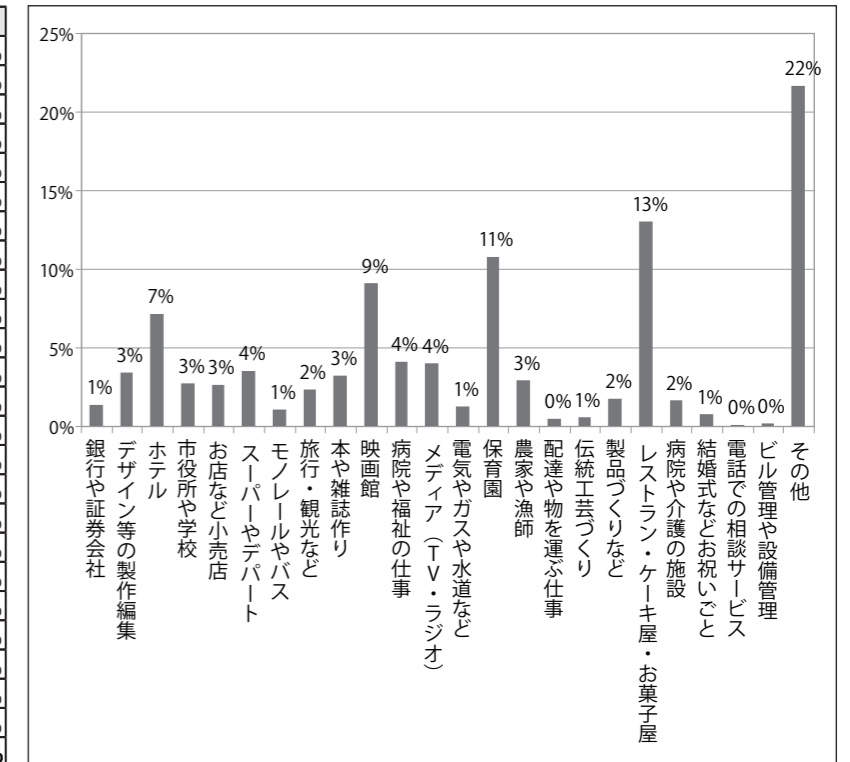


1 児童生徒 アンケート集計

1 ジョブシャドウイング 事前アンケート

Q1. どのような仕事を観察したいですか？下記の分野を参考にして行ってみたい仕事を3つ記入してください。（第1希望のみ表示）

観察したい仕事の分野	人数	割合
1 銀行や証券会社	25	1%
2 デザイン等の製作編集	63	3%
3 ホテル	132	7%
4 市役所や学校	50	3%
5 お店など小売店	48	3%
6 スーパーやデパート	65	4%
7 モノレールやバス	20	1%
8 旅行・観光など	43	2%
9 本や雑誌作り	59	3%
10 映画館	168	9%
11 病院や福祉の仕事	75	4%
12 メディア（TV・ラジオ）	74	4%
13 電気やガスや水道など	23	1%
14 保育園	198	11%
15 農家や漁師	54	3%
16 配達や物を運ぶ仕事	9	0%
17 伝統工芸づくり	10	1%
18 製品づくり	32	2%
19 レストラン・ケーキ屋・お菓子屋など	239	13%
20 病院や介護の施設	30	2%
21 結婚式などお祝いごと	15	1%
22 電話での相談サービス	1	0%
23 ビル管理や設備管理	3	0%
24 その他	398	22%
総計	1,834	100%

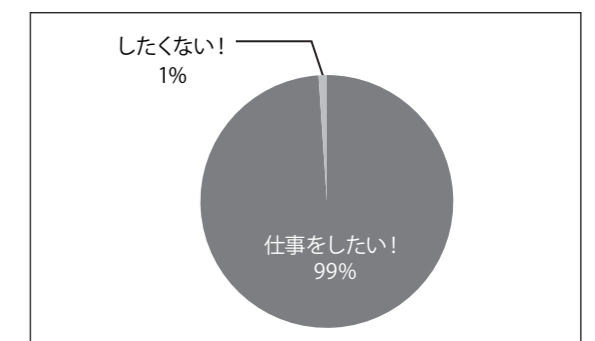


■「その他」で記載があった主な職業分野

スポーツに関連する仕事：選手、審判、スポーツ店、社会人選手
 動物や生き物と関わる仕事：獣医、水族館・動物園、飼育員、ペットシッター
 人を楽しませる仕事：芸能（芸能人、モデル、声優、事務所など）
 娯楽・遊技場（ゲームセンター、ボーリング場）など
 美容や癒しに関する仕事：美容・理容、エステ、ネイル、マッサージ
 ITやアニメに関する仕事：プログラマー、Web、クリエイター、アニメ
 人や暮らしを守る仕事：警察、消防、弁護士

Q2. 大人になったら、仕事をしたいですか？

	人数	割合
仕事をしたい!	1,305	99%
したくない!	14	1%
計	1,319	100%



Q2. 大人になったら、仕事をしたいですか？（その理由）

①仕事をしたい！と答えた人（理由記載：1,299人、以下 分類して抜粋記載）

- 生活・お金のため
 - ・お金がもらえるし、お金がないと生きていけないから ・働いて、稼ぎたいから
 - ・仕事をしないと暇だし、お金を貰えないから ・仕事をしないとご飯を食べられないから
 - ・ニートになりたくないから。お金を稼ぐため ・お金が無かったら、好きな物が買えないから
- 親孝行のため
 - ・お母さん・お父さんに恩返しをしたい ・働かないと親に恩返しできないから
 - ・仕事をして親孝行したいから ・親にも心配をかけたくないから
 - ・仕事をして、お金を貯めてお母さんとお父さんを旅行に連れて行きたい
 - ・仕事をして、稼いだお金を貯金してお母さんに大きな家を作ってあげたいから
- 興味・やりがいのため
 - ・色々なことを知ってみたい ・色々な人と関わりたいから！ ・大変そうだけど楽しめそう
 - ・自分のためだから ・身近な人が仕事は大変だけど、楽しいと言っているから
 - ・ただやりたいから ・楽しそうだから ・自分のために頑張りたいから
 - ・社会は大変だけど、どんなことがあるのか不思議で一杯なので、仕事から学んでいきたいです
- 憧れ・理想・夢のため
 - ・仕事をしたら、大人らしく、かっこよく見えるから ・自分の父をこえるために
 - ・その作り方を学んで、物が作れるようになりたいからです ・幸せに暮らしたいから
 - ・結婚して、仕事をして、家ぞくのためにお金をかせいで、いい家ぞくにしていきたいからです
 - ・仕事したらさらに、友達とかも増えていくし、お金が少しでも稼げると思ったからです
 - ・憧れ・理想・夢がお笑い芸人か、サッカー選手になりたいから
 - ・お金をいっぱい稼いで、海外旅行に行きたいし、いろんな人と接したい。楽しそう
 - ・仕事をして、自立して生きたいから ・世の中を変えたい ・人の役に立ちたい
 - ・楽しそう ・デザイナーになりたいので楽しく仕事がしたい
- 役に立つため
 - ・他の人や、色々な人に役立ちたいから ・人に喜んでもらうため、自分が生きていくため
 - ・仕事をして今までお世話になってきた人に恩返しをしたいから ・仕事で役立ちたい
 - ・人のために何かしてあげたいから ・仕事をしなかったら、人の役に立てないから

②仕事をしたくない！と答えた人（理由記載：14人、以下 抜粋記載）

- ・サッカー選手になりたいから ・何故かという親が年を取って面倒をみる人がいなくなるから
- ・今のままがいい。仕事は大変だから ・仕事の人たちに叱られてばかりいそうだから
- ・大変で苦勞するのが嫌だから ・仕事したくないけど、でもやらないといけない
- ・親に仕事のつらさを聞いてやりたくないと思ったけど、やらないといけないのでがんばる

Q3. 仕事をする事、働くことはどんなことだと感じている？どんなイメージ？

（理由記載：194人、以下 分類して抜粋記載）

- 大変・きつい・頑張る
 - ・毎日大変です ・ちゃんと話を聞いたり、ちゃんと働く ・きつそうなイメージ
 - ・働くことは、大変だと思う。でも人の役に立ったり、自分のためにもなる
 - ・大変だけどやる理由はある ・辛いこと悲しいことがあっても頑張るイメージ
 - ・働く人は、家庭のことを思ったりして一生懸命働いていて、大変そうなイメージがある
 - ・とても大変そうで、夜遅くまでやらないといけなくて、疲れる ・上司に怒られる

○必要・努力・難しい

- ・難しい ・ちょっと失敗してるイメージ ・大事な大事なことだと思います
- ・人間が怠けないようにするためにある大切なこと

○一生懸命、役に立つ

- ・がんばっているかんじ ・一生懸命がんばって、働いている ・人のために働くコト
- ・大変だけど色々な人の役にたてるもの ・みんな頑張っていると思う

○忙しい、気を使う

- ・上司とのやり取りが難しく、気をつかう ・いろいろな所に行ったり、忙しい感じがする

○楽しそう、いいこと、幸せ

- ・働けば働くほどお金とかも貰えるしすごいと言われるから
- ・仕事をする、なんだか元気が湧いてくるようなイメージです
- ・働くと自分がいい気分になるから ・いい事だと思っている
- ・楽しくなったり、厳しくされたり ・人を助ける、人を喜ばせる
- ・仕事は、楽しく働くことだと思う ・自分に合った仕事でニコニコ働く

○成功する、大人らしい、立派

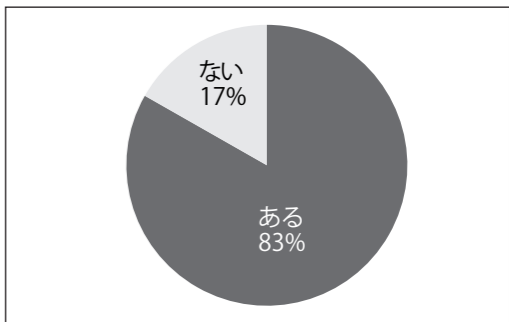
- ・仕事は努力をして、色々なことが成功すると思う ・プロジェクトなどを成功させるイメージ
- ・きつい時や、辛い時もあるけど、やった後の達成感がある
- ・大人になったというイメージ ・カッコイイ ・立派な事

○自分の為（成長、お金、生活）

- ・自分のいい経験になる ・自分のことは自分でやる ・自分に自信や責任感を持たせる
- ・努力、知識などが必要で、きつと感じる ・話しあって「あ、そうか」とかのイメージ
- ・生きるためのお金が貰える。とても人生で大切な事だと思う ・お金を貯めることだと思う
- ・仕事をする事は、暮らすために必要な事だと思います ・家庭のためにも大切なこと

Q4. 大人になったら、やりたい仕事はありますか？

	回答数	割合
ある	1,038	83%
ない	209	17%
計	1,247	100%



■「ある」で回答があった主なやりたい仕事（1,038人回答）

- スポーツに関連する仕事：選手、スポーツ用具製作
- 動物や生き物と関わる仕事：獣医、水族館・動物園、飼育員、ペットシッター、訓練士（盲導犬・警察犬など）、
- 人を楽しませる仕事：芸能（芸能人、モデル、声優、事務所、特殊メイクなど）
- ITやアニメに関する仕事：Webクレーター、アニメ、ゲーム作家
- 人や暮らしを守る仕事：警察、消防、弁護士、CIA、カウンセラー、ごみ処理サービス：車の修理・整備士、ガソリンスタンド、大工
- 物を作る、修理する、整備する：科学者、学者、通訳、歴史家
- 極める仕事：イラストレーター、小説家、シナリオライター、ピアノ教師、折り紙講師
- その他 アナウンサー、気象予報士、パン屋、ファッションデザイナー、図書館司書、メイクアップアーティスト、ボーリング場 など

Q5. 10年後、あなたはどんな大人になりたいですか？（理由記載：1,289人、以下 抜粋）

- カッコいい親しまれる大人になりたい
- しっかりしている人
- 金持ちで元気である大人
- 仕事ができる大人になりたい
- 正直で、前向きな大人になりたい
- しっかりした人
- 仕事などのやるべき事ができる
- 頑張り屋の大人になりたい
- 勉強やスポーツができる
- 優しくて性格もよくていい大人になりたい
- 普通の暮らしをしたい
- 責任感のある人
- ちゃんと自分の仕事は責任を持てるようにする
- 親切でみんなから頼りにされている人
- 人々の悩みを聞き、解決でき、幸せにすることが出来る大人
- ちゃんと仕事を持っていて、きちんと仕事をこなせる大人
- 仕事で怒られてばかりのダメダメだけど、一生懸命仕事をしている
- しっかりしていて、ローンも結構たまっている人
- 子供にあこがれてもらえるような仕事、人の役に立つ社員
- 薬剤師の仕事についている
- ゲームを作って皆を楽しませる大人になりたい
- 医者になって、多くの命を救ってほしい。笑顔にしている
- とってもお菓子が作るのが上手なプロになりたいです
- 小学校の先生になるために、大学で、一生懸命勉強をしている
- ホテルやレストラン・ケーキ屋で作ってられるようになりたい
- テレビで世界のトップを目指してサッカー世界ワールドカップに出ている
- 英語などを覚えて、外国人に何か聞かれたときにいつでも話せるリッパナ大人になりたい

2 ジョブシャドウイング 事後アンケート

Q1. ジョブシャドウイングした会社名を教えてください。
（省略）

Q2. メンターさんの仕事をする姿を観察して、すごいと思った事、嬉しかった事、自信がついた事など、あなたが感じた事を自由に教えてください！
（理由記載：2,276人、以下 分類して抜粋記載）

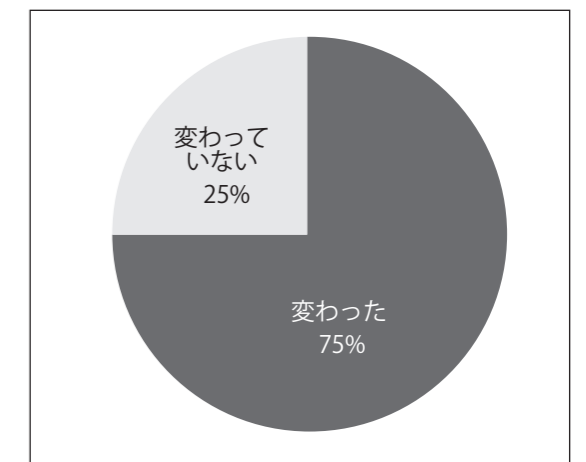
- 嬉しかった事
- 子どもと遊んでいる時に、すぐなついてくれた
 - 優しく仕事のことを教えてくれた
 - 色々な所を見れて、教えてもらって嬉しかったです
 - ビールを作る中はずっともうさかったけど、こんなにビールが作られているなども分かったし、どうやってビールを作っているか分かった
 - 自分が大人になってやりたいと思っていた仕事に行けたので嬉しかったです
- 自信がついた事
- 仕事場はこんなにも明るいところということ
 - 人は、顔を見なくても一生懸命やるのが分かり、自信がついた
 - メンターさんにどんな時があっても笑えば幸せになれると言われたので、少しずつ自信がついた
- その他(自由記載)
- 苦しい時も悲しい時も、そのことバネにして一生懸命働いている。そういうことを知って感動しました
 - くさい所に入ってすごいと思った
 - 仕事は楽しくないと思っていたけど、（観察して）仕事をしたくなりました

○すごいと思った事

- 障害を持っている人たちも働いていた
- 弱音を吐かずにテキパキとしていた
- 重い物を素早く運んでいる所
- あんなに沢山の子ども達を見てること
- 一時間くらいは何回も電話が来てため息一つもつかないし、パソコンを打つのが速かった
- 一冊一冊コンピューターに打ち込んだり、本を500冊（1日に）選ぶ所
- パソコンで色々なことを調べたり、電話もいっぱいきていたのをすぐ片付ける
- 散歩のとき、皆一緒に行き、皆の話を聞いてあげたり、遊んであげたりしていた
- 体育館の天井にボールがかかったら登って取る
- 色々なことを知っているし、いろいろな免許を持っていた
- もし、体育館の電気がつかなくなったとき、電気がついている屋上まで登ってなんで電気がつかないかを調べるってことがすごいと思った
- お菓子を作っている手が、速く動いていた
- お客様が教えて欲しい事を直ぐに教えていた
- パソコンや電話で仕事をしていて、お客様の為にいい建物を設計していた
- 野菜を包むのがあり、難しそうなのに簡単にやるのですごいなと思いました
- 散歩の時、子ども達のペースに合わせて歩いていた
- メンターさんは売店で働いていて、大変そうだったけどお客様との接客の時に少しだけでもお客様と話をして、一人一人コミュニケーションをとっていた
- お客様にわかりやすい言葉を使っていた
- 忙しくても、大変でもいつも笑顔でいた
- すごいと思った事は、話しているときは笑顔で話すところ
- お客様が来たら明るく気軽に話をしていた
- 誰とでもきちんと話せていた
- 人見知りだったメンターさんが、お客に優しく接していた
- どんなお客様にも挨拶をしたり、一度パソコンに集中すると、質問した時や今やっていることの説明をするとき以外は喋ったり、休んだりしないこと
- 働きながら、予約をしているところ
- 電話しながらパソコンを速く打っていた
- 朝昼夜のご飯の献立を考えて、栄養も考えて決めていたのですごいなと思った
- 暑い中鍋の側でそばの汁を作っていた。そして、お客様にアンケートを取っていること
- すごいと思った事はあいさつです。とても大きな声であいさつしていました
- 外国の人に外国語で対応していたことがすごいと思いました
- 留学生と英語でペラペラ喋って、お喋りしてすごいと思いました
- メンターさんは毎日、トレーニング室で鍛えていると言っていたのですごいなと思いました
- 分からない事は恥ずかしくみんないているのがスゴイ

Q3. 仕事をする事、働くことへの感じ方、イメージは変わりましたか？

	回答実数	割合
変わった	1,683	75%
変わっていない	572	25%
計	2,255	100%

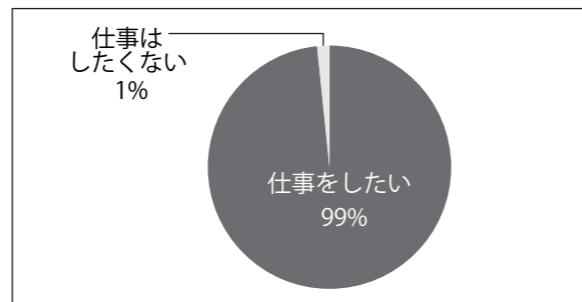


■「変わった」と答えた人はどのようなところが変わったか（1,662人回答、以下 抜粋記載）

- ・ただやるだけと思っていたけど、心を込めて楽しくやるのが仕事だなと思うようになった
- ・ただ運転するだけの職業から「人の命を乗せたプレッシャーの職業」に変わった
- ・自分への挑戦状だと感じた。また、挑戦状を成功させると凄く嬉しくなりヤル気がUPする
- ・働くのは自分の為じゃなく、他の人の為と分かった。自分はなりたい仕事につけるか自信がなかった。けれどこれを通して勇気をもらった
- ・自分のやりたい職業に必ずしもつけるわけではないけど、楽しみながらやれば、どんな仕事でも楽しめることが分かった
- ・最初は、仕事は家族やお金の為にする事だと思っていたけど、人に感謝される為にあるのではないかと思うようになった
- ・“仕事”ってゆうのは、とてもめんどくて、あんま楽しくないと思っていたけど、結構楽しいんだなーって思った。早く仕事してみたーい☆☆
- ・あんまり楽しくないような感じで働いてるのかなと思ってたけど、みんな楽しそうに仕事をこなしていたから、何だか楽しそうに見えた
- ・すぐに疲れそう…楽しくなさそう…というイメージから、仕事をするということはずい！とと思いました
- ・仕事は簡単と思っていましたが、実は簡単ではない ・仕事は遊びよりも楽しいという事
- ・学習前はただ働けばいいと思っていたけどメンターさんを見て考えて働いているんだと思った
- ・今まではただ仕事をすればいい、お金を稼げればいいと思っていたけど、メンターさんやその職場の人はただ仕事をするのではなく、自分の仕事に誇りを持ってやっていて、私も将来は自分のやりたい仕事をして自分の仕事に誇りを持ってやりたいと思いました
- ・前は仕事の内容があんまり分からなくて給料が高いと思ったけど、いま見たら給料が安く感じた
- ・みんな「楽しい」と言っていた事で、仕事は辛いものじゃなく当たり前のことという事が分かった
- ・両親が共働きで家にいないので、「仕事はダメだ」という考えを持っていたけど、笑顔で接客するメンターさんを見て働くことは良いことだと考えた
- ・メンターさんがしっかりしていたので、私も算数をしっかり頑張りたい
- ・挨拶とお家では身の周りの清掃、お手伝いを自分からやるようになった
- ・仕事は簡単な事じゃないから、今から色々な事を頑張ろうと思い、漢字テストでよい点数を取った
- ・親に感謝の気持ちを持つ事が出来た ・仕事の大変さ、大切さが分かった
- ・相手がしゃべっている時に相手の目を見れるようになった
- ・前は大人は働いてお金を稼いでいるってことしか分からなかったけど、体験して仕事は色々な人と触れ合いがあるのが分かった
- ・最初は、「仕事」とゆうのは1人でも出来るのだと思っていたけど、みんなで協力し支え合うことで、改めて「仕事」が出来る。とゆう考えが変わった
- ・仕事はパソコンや資料を使うものか、何か運ぶものくらいしか思いつかなかったけど、人とコミュニケーションをとって楽しんでもらったりするものもあるんだと思った
- ・お客さんからクレームが来てもケンカしないでひたすら謝り続けるとは思ってなかった
- ・なんか地味な仕事と思っていたけど違った ・どんな人にも礼儀正しく接する
- ・前は仕事は勉強もしなくて楽だと思っていたけど、全然楽なものではなかった。大人も勉強してるのですね
- ・親は僕たちの為にこんなに苦労しているんだなと思った
- ・前まで大人は当たり前をしていると思っていたけど、今は常に目標をもってがんばっていると言うイメージがついた
- ・いつも表だけで判断するのではなく、ちゃんと中身の方も知ることが大事だと感じた
- ・仕事は、自分がやりたい職業でも、そうでない職業でも自分が決めた仕事なら最後までやりとげる事が大切だという所が変わった！
- ・仕事は、簡単にやり通せるものだったけど、一所懸命頑張らないとやり通せないということ

Q4. 大人になったら仕事をしたいですか？

	回答実数	割合
仕事をしたい	2,227	99%
仕事はしたくない	33	1%
計	2,260	100%



Q5. 将来やりたい仕事はありますか？どのような仕事をしたいですか？

■「ある」と答えた人の記載（1,784人回答、以下 抜粋記載）

- ・保育士 ・公務員 ・パティシエ ・ゲームクリエイター ・漁師 ・医師 ・薬剤師 ・消防士
 - ・プロ野球選手 ・サッカー選手 ・看護師 ・教師 ・獣医 ・美容師 ・イラストレーター
 - ・音楽関係の仕事 ・漫画家 ・警察官 ・料理人 ・漫画家 ・キャビンアテンダント
 - ・声優 ・ファッションデザイナー ・大工
- 他多数

■「ない」と答えた人の記載（471人回答、以下 抜粋記載）

- ・まだ興味を持っていない ・そんな職業があるのかわからない ・考え中です ・好きな仕事
- ・人の役に立つ仕事 ・できるだけいい仕事

Q6. 将来にむけて、これからどのようなことを取り組みたいですか？（2,246人回答、以下 抜粋）

- ・勉強を頑張る ・挨拶 ・本などを読んで授業では真剣に取り組もうと思った
- ・大学や専門学校に行って知識や努力をたくさん重ねる
- ・夢を捨てないで努力する事
- ・大人との接し方を考える ・勉強をたくさんする ・ひたすら絵をかく
- ・体力がとても必要だと思うので、部活をしっかりして、体力をつける
- ・大人になったらちゃんとやりたい仕事とかをしたいから、どんな仕事があるか調べたい
- ・大人になったら言葉遣いとかもよくしていけるようにする ・整理整頓、期限を守る
- ・色々な物や人を見てお手本の人を探す
- ・人とつながる力を今のうちから身につけたいです
- ・大人になってからじゃなくて今から準備をはじめ
- ・乱暴な言葉は使わず人と喋ったりする
- ・知らない人にもあいさつをしっかりする
- ・忘れ物をしない。あいさつ、返事もしっかりする
- ・誰にでも優しくする。困っている人がいれば助ける
- ・勉強を頑張るのはもちろんだけどコミュニケーション能力を高めたい
- ・（他校に友達が少ないので）人間関係もよくしていきたい
- ・諦めずにどんどん進んでいける心を作りたい。もっと自分の技術を磨きたい
- ・目の前にある事をしっかりして、挨拶なども進んで大きな声でして将来にむけて頑張りたいです
- ・本を作るために文章を上手く繋げないといけないので、国語をがんばって文章力をつけたいです
- ・積極的に自分から出来るだけのチャンスをつかんで、当たり前のことは当たり前にやる事を心掛けて頑張りたいと思いました
- ・心を広くするように、何事にもあんまり怒らないようにする
- ・三年生になって職場体験があります。今度は「見る」のではなく「する」方になるので、まずはそれに向かって勉強の方を中心にスポーツと勉強両立させて頑張っていきたいと思います

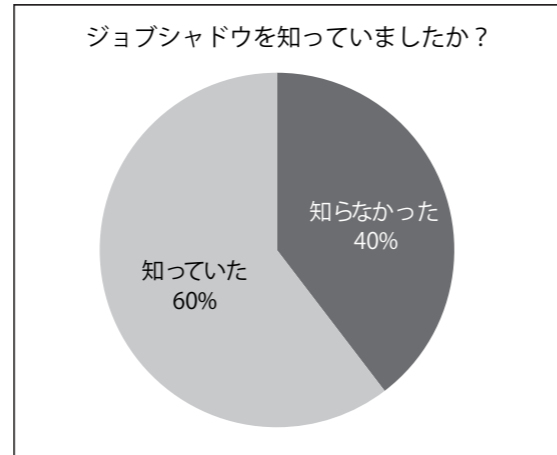
2 企業アンケート集計

1 企業窓口担当者

【1. ジョブシャドウイング実施前のことについてお尋ねします】

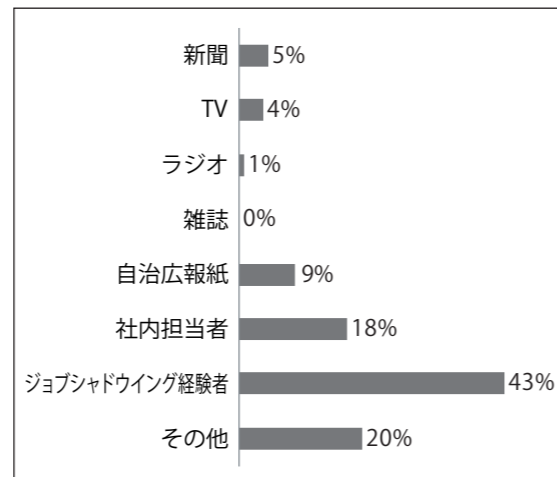
Q1. 今回、御社が児童生徒を受入れる以前にジョブシャドウイングの事をご存知でしたか？

項目	回答実数	割合
知らなかった	82	40%
知っていた	125	60%
計	207	100%



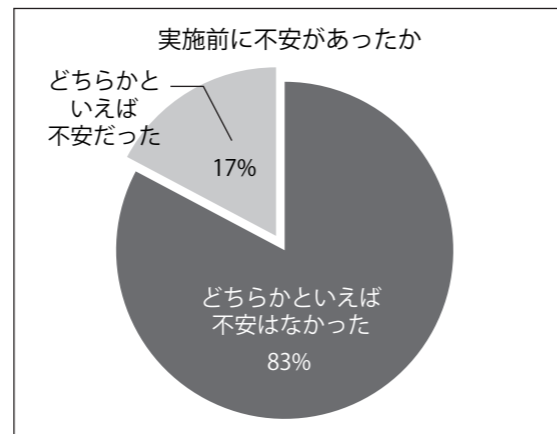
Q2. Q1で「知っていた」と答えた方におたずねします。どのような方法で知りましたか？

	回答実数	割合
新聞	6	5%
TV	5	4%
ラジオ	1	1%
雑誌	0	0%
自治広報紙	12	9%
社内担当者	22	18%
ジョブシャドウイング経験者	54	43%
その他	25	20%
計	125	100%



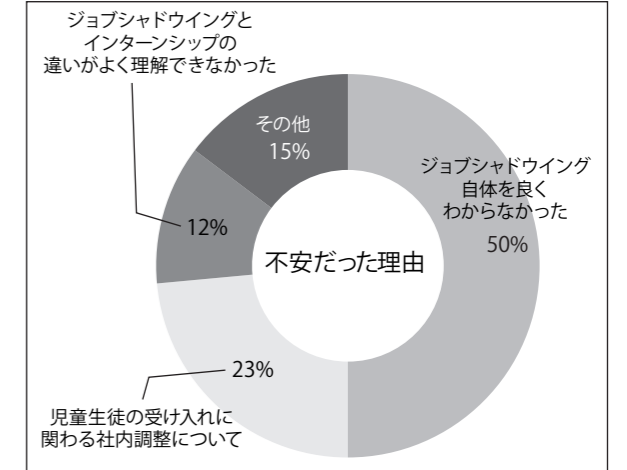
Q3. ジョブシャドウイング実施前に不安だったことはありましたか？

項目	回答実数	割合
どちらかといえば不安はなかった	168	83%
どちらかといえば不安だった	35	17%
計	203	100%



Q4. Q3で「どちらかといえば不安だった」と答えた方におたずねします。どのようなことに不安がありましたか。（無回答除く）

項目	回答実数	割合
ジョブシャドウイング自体を良くわからなかった	17	50%
児童生徒の受け入れに関わる社内調整について	8	23%
仲介団体との調整業務	0	0%
ジョブシャドウイングとインターンシップの違いがよく理解できなかった	4	12%
その他	5	15%
計	34	100%



Q5. 今回のジョブシャドウで、受入部署を決められるにあたり、選択基準や選択理由などがあればお聞かせ下さい。（理由記載：121件、以下 分類して抜粋記載）

- 基幹となる業務、専門性の高い業務を見てもらう
 - ・会社の中心部となる部署を見てもらう為
 - ・出来るだけ接客部門を見て経験してもらいたかった
 - ・製造作業に関する部署及び品質管理に関する部署は重要な部署なので選択を行った
 - ・博物館ということで、専門性のある「学芸員」の仕事を見せたかった
- 業務全体や仕事の流れが分かる業務
 - ・業務が可視化しやすい部署
 - ・社内順番制をとっている（社内に広く知ってもらうため）
 - ・日頃一般の方には目につかない、会社の裏方の仕事をしている方を選択
 - ・現場の活動や仕事の流れを見てもらう為
- 子ども達の職業観、就業観を高める
 - ・生徒の興味がありそうな部署を選択した。
 - ・お客様に対する姿勢心持ちを学んでほしいです
 - ・子供達が見てためになるように。また、受入れてくれる方がきちんとできる人
- 安全性への配慮から
 - ・黙々とした事務や個人情報扱う仕事ではないこと
 - ・職業柄、現場での受け入れは安全面で不安もある為、内勤部署に限らせて頂いています
- 特になし
 - ・受入部署が決まっているため
 - ・部署が一つしかないため

Q6. メンター選びの選択基準や心がけたことがあればお聞かせ下さい。

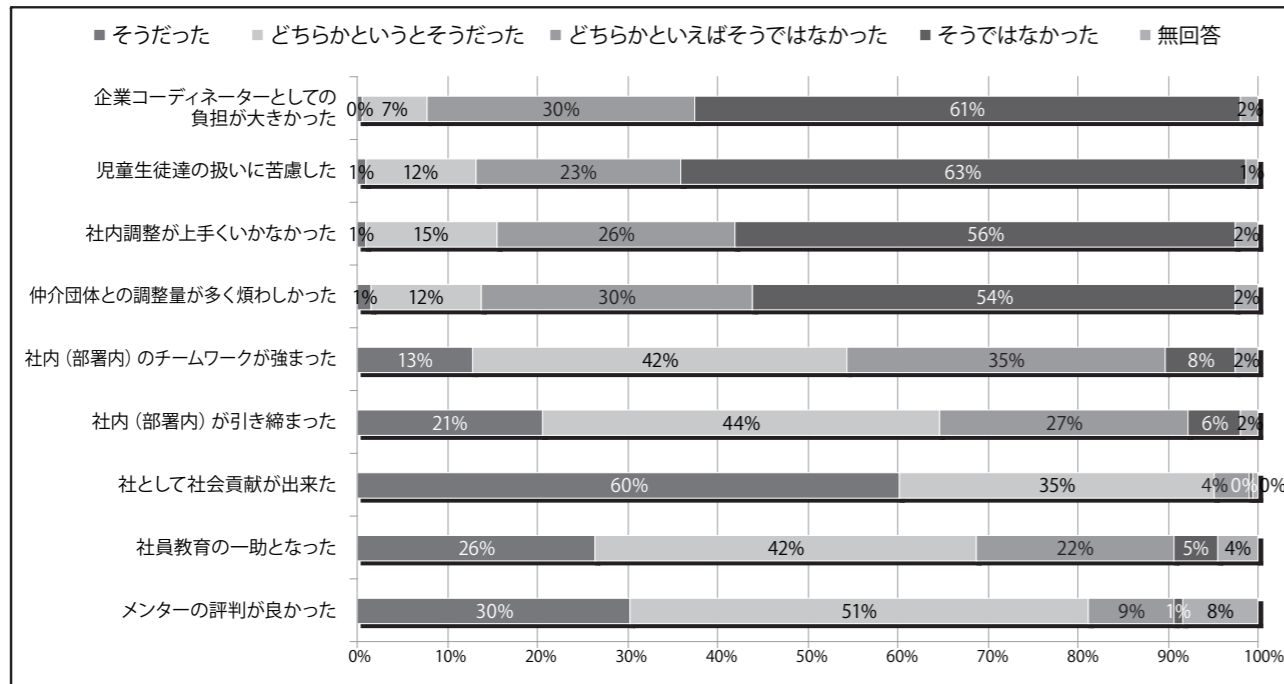
（理由記載：125件、以下 抜粋して記載）

- ・どの職員でも対応可能、特に選択基準なし
- ・日常の仕事を、そのまま観て頂く事だけ
- ・障害者なのか健常者なのかで、ジョブシャドウイングや職場体験を決めた
- ・子どもを受入れてきちんと話ができる人
- ・店全体を把握し、子供の立場で考えられる人
- ・児童生徒の質問に返答できる人
- ・児童にかみくだいて話せる者
- ・生徒への配慮ができ、自分の仕事内容をしっかり伝える事が出来ること
- ・基本がしっかりできている事（あいさつ、マナー、お届け）
- ・前回未経験者
- ・受入時間帯で勤務の方
- ・作業じゃなく仕事のできる人を選らんだ
- ・ジョブシャドウイングの意義をよく理解し、生徒の応対に慣れている従業員
- ・積極性があり、模範となる人。大変さだけでは無く、仕事からの楽しさを感じて欲しい

【2. ジョブシャドウイング実施後のことについてお尋ねします】

Q7. 御社でジョブシャドウイングを受入れてみてどのような感想をもちましたか。（複数回答）

	メンターの評判が良かった	社員教育の一助となった	社として社会貢献が出来た	社内（部署内）が引き締まった	社内（部署内）のチームワークが強まった	仲介団体との調整量が多く煩わしかった	社内調整が上手くいかなかった	児童生徒達の扱いに苦慮した	企業コーディネーターとしての負担が大きかった
そうだった	61	54	122	42	26	3	2	2	1
どちらかというそうだった	103	87	71	90	85	25	30	25	15
どちらかといえばそうではなかった	19	45	8	56	72	61	54	47	61
そうではなかった	2	10	1	12	16	109	114	129	125
無回答	17	9	1	4	5	5	5	3	4
計	202	205	203	204	204	203	205	206	206



Q8. その他お気づきの点があれば教えてください。（理由記載：60件、以下 抜粋して記載）

○児童生徒への要望

- ・挨拶や言葉づかい、積極的に行動する等基本的な事がもっと意識できていると良い
- ・遠慮せずに質問をどんどんして欲しい

○ジョブシャドウイングに関する要望

- ・どの様に受け取ってもらったか、生徒とのコミュニケーションがあってもよい
- ・社会貢献の観点から必要な事業だが、業務内容と対象年齢のマッチングは工夫が必要である
- ・午前中の2時間では、あまりに短かった
- ・（メンターより）自分の職種や業務の説明をしてからジョブシャドウイングを始めたかったとの事
- ・当日の引率者に質問や報告をした際、「よく分からない」と言われた。引率だけとはいえ、もう少し内容を把握して欲しい

○感想（良かった・悪かった）

- ・働く職場に対する興味から個人によってとても積極的に質問していて印象的だった
- ・子ども達の挨拶がもの凄く良かった。・受入れ側に事務的な負担が大きい
- ・時間設定が短く、環境に馴染むことが遅いと思われる。メンターも慣れさせようが必要以上にコミュニケーションを図る様子が見られた。

○感想（社内活性化など）

- ・年代（小学生・高校生）によって観点が異なり、勉強になった
- ・今回受入れた事で自分らも勉強になった。児童から学んだ事も多かった
- ・生徒が訪れることで、社内の仕事意識も引き締まった。又、メンターが改めて、自己の仕事の価値ややりがいを見つめ直すきっかけになった

○感想（社会貢献・効果）

- ・児童にとって今回の体験が社会に出た時に役に立ってくれるのであれば、協力したい
- ・非常に地域、沖縄の未来に対して良い取組みだ
- ・初めて知ったが、すごくいいものだった。私としては、インターシップ・職場体験よりも、双方に負担が少なく、生徒にとっても、見て学ぶこと、見て良い点・悪い点を吸収して、感じるという力がつくのではないかと思った
- ・ジョブシャドウイング自体がどれだけの効果があるのか分かりにくい
- ・子ども達に何を伝えたかったのが分からない

Q9. 企業コーディネーターとして良かったと思えたこと、または困ったこと苦勞したことがあれば教えてください。（理由記載：97件、以下 抜粋して記載）

○良かったと思えたこと

- ・地域の児童、生徒育成に貢献できた
- ・社員ではない一般（学生）の視点を意識し気が引き締まった
- ・窓口担当者として、事務局の方と様々な調整をさせて頂き、趣旨や想いを理解し前向きな気持ちで対応することができて良かった。メンター事前説明会を開催して頂いたので、前年より各メンターの理解度が高くなり窓口担当者としての負担感がなかった
- ・少しでも生徒達が仕事に対して感心を持ってくれると有難い
- ・メンターとして受入れた社員のモチベーション UPにつながった
- ・ジョブシャドウイングを行う事で、学生の素直な考えや思いを聞く事が出来る。また、学生がいるだけで明るい雰囲気になる
- ・一生懸命学ぼうとする姿が良かった。従業員も観察されている事で緊張感があった
- ・初の試みで小学生という事もあり戸惑いもあったが、実際に受入れてみると、子ども達の考えている事が聞けて逆に良かった
- ・生徒たちの純粋でまっすぐな目を見ていたら、自分自身の仕事が良い仕事だと再認識出来て良かった。
- ・最初、従業員が戻込みして人選に難儀したが、拒否せずに受入れた事が良かった
- ・普段、指導する側でないスタッフが、生徒に対して自らの意見を伝えた事は良い刺激になった

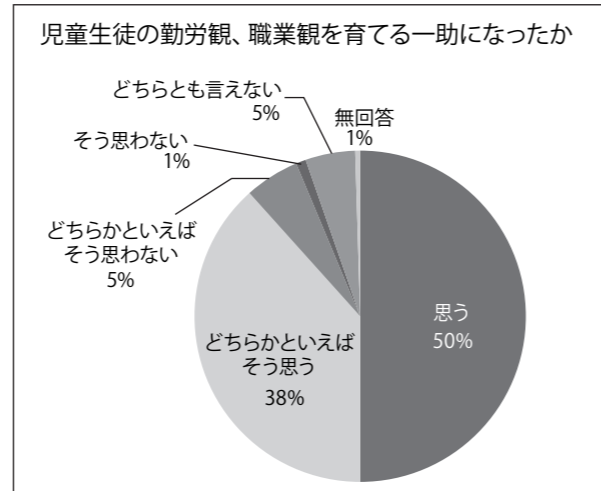
○苦勞したこと、困ったこと

- ・生徒が来るかどうか、前日まで分からなかった。2～3日前のお知らせだとありがたい
- ・2～3か月前から日程調整して仕事をしているが、簡単に日程をキャンセルされると全部狂う
- ・時間どおりに来ない場合は連絡が欲しい ・初めてで、何をしてあげたらいいかと悩んだ
- ・接客しながらなので、お客様に迷惑にならない様にメンターさんの動かし方で困った
- ・当社は従業員数が少ないため、メンターをしてくれる従業員が毎回決まってしまった
- ・高校生の経験があるが、児童は初めてで職業観をどう伝えていけばいいのか少し戸惑った
- ・高校生だと職場実習かなと思われたが、小学生なので少しいぶかられた
- ・メンター選任に当たり困った。今回、ベテラン2人を登用したが、新人とベテランなど組み合わせても比較が出来るかと思った ・生徒が退屈にならないか気になってしまった

【3. ジョブシャドウイングの効果について】

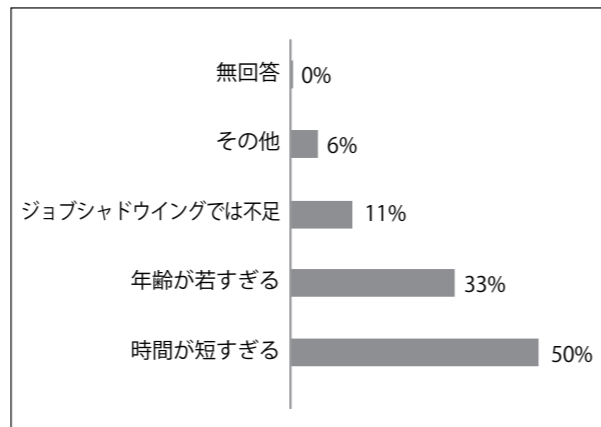
Q10. 今回のジョブシャドウイングが児童生徒の勤労観、職業観を育てる一助になったと思いますか？

項目	回答実数	割合
思う	103	50%
どちらかといえばそう思う	79	38%
どちらかといえばそう思わない	11	5%
そう思わない	2	1%
どちらとも言えない	10	5%
無回答	1	1%
計	206	100%



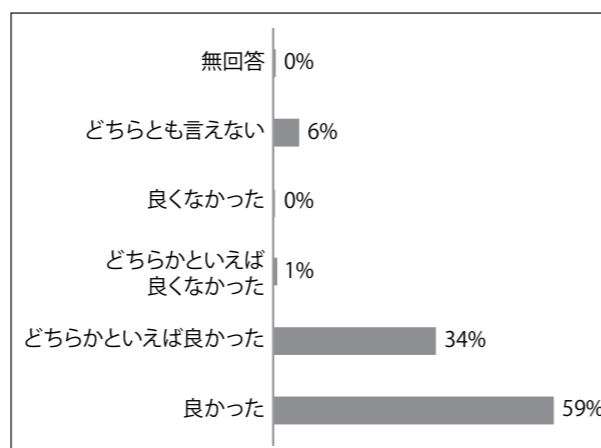
Q11. Q10で「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と答えた方におたずねします。その理由はどのようなことがありますか。

項目	回答実数	割合
時間が短すぎる	9	50%
年齢が若すぎる	6	33%
ジョブシャドウイングでは不足	2	11%
その他	1	6%
無回答	0	0%
計	18	100%



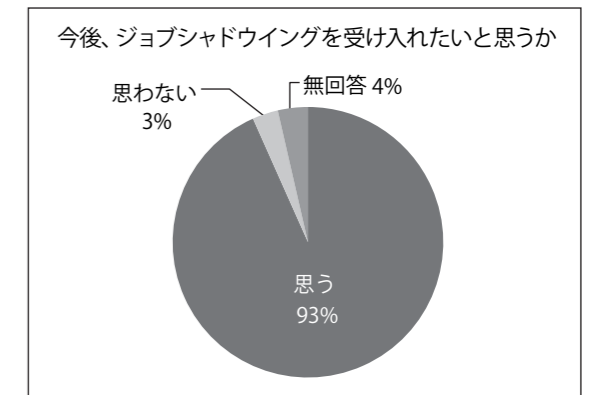
Q12. ジョブシャドウイングを引受けたことは、御社にとって良かったですか？

項目	回答実数	割合
良かった	119	59%
どちらかといえば良かった	69	34%
どちらかといえば良くなかった	1	1%
良くなかった	0	0%
どちらとも言えない	11	6%
無回答	1	0%
計	201	100%



Q13. 今後、ジョブシャドウイングを実施する機会があったら、御社として引受けていただけますか？

項目	回答実数	割合
思う	182	93%
思わない	6	3%
無回答	7	4%
計	195	100%



①「思う」と答えた人（理由記載：131件、以下 分類して抜粋記載）

- ファン拡大
 - ・この業界に興味をもってもらいたい
 - ・企業のPRになるので
 - ・この仕事はなかなか知ってもらえる機会が無いので、活用したい
- 貢献・社内活性化
 - ・引受けやすい。社会貢献
 - ・学生、生徒の未来設定に希望を持たせたいから
 - ・仕事に誇りを持たせる
 - ・企業として社会人として当然
 - ・子ども達の育成の為協力したい
 - ・社会貢献、社内風土の改善
 - ・将来に向けて様々な職業の選択がある事がわかるので引受けたい
 - ・子ども達の将来に役立てればと思う
 - ・自分の仕事を客観的に見る事の出来る良い機会になると思います
 - ・社員の教育の一貫として
 - ・職員1人1人にメンターを経験させて、キャリア教育について考える機会としたい
- 要望
 - ・短時間で済み、企業側として負担が少ない
 - ・時間が短すぎる
 - ・時期と受入れ時間によって、検討したいと思います
- 連携
 - ・学校ともつながれる。
 - ・地域の子供は地域が育む為
 - ・地域と繋がる事で新たなものを生み出していく事など、今の社会に必要なと思うので

②「思わない」と答えた人（理由記載：2件）

- ・安全面で不安
- ・効果が良く分からない

【4. その他】

Q14. 次回のジョブシャドウイングに向けて必要なこと、または今回工夫が必要だったこと、足りなかったことなど改善点があればお聞かせ下さい。（理由記載：88件、以下 分類して抜粋記載）

- 足りなかったこと
 - ・委託側と具体的な打ち合わせの場が一回しかなく、小学生、中学生と受入れる学年による対応の仕方や、方法など具体的に話をする機会を増やしてほしい。また説明会等を開くなどしてほしい
 - ・もう少し日程調整を密に行ってほしい。日程の決定報告のみだった
 - ・受入可能と回答してから、実施直前に連絡があるため受入体制、メンター調整が難しい人数のみでも連絡を早めに欲しい
 - ・途中で連絡が欲しかった
- 改善・工夫が必要だったこと（受入企業側）
 - ・退屈させない様に座っている時間と、メンターに付いて動く時間配分の工夫が必要と感じる
 - ・もっと生徒との対話の時間をもちたかった
 - ・実際に経験した生徒の意見を聞いて改善点の参考にしたい
 - ・当日ジョブシャドウイングに入る前に、会社の説明をするべきだった（業務内容や取扱い製品等）
 - ・高校生が何を学びたいのか、自己紹介カードを早めに頂けたらメンターの選任がうまくいった

○改善・工夫が必要だったこと（受入れられる側）

- ・緊張のせいかわ元気がない。挨拶も含め覇気が欲しい
- ・男の子は色々質問などもしていたが、女の子は一言も声を発しなかった。実施前の研修にも力を入れた方がよいのではないか
- ・当初 12 時までと伺っていたが、当日 11 時半までということでメンターが予定していた業務内容が見せられない部分があった
- ・名札がもっと大きかったら良い（名前や出身校、またジョブシャドウイング中であることがわかるように大きく表示して欲しい。腕章の利用も良いかと思う）

○その他（改善、迷った）

- ・半日で仕事に対して理解することは無理だと思う。子供達は「やらせられるジョブシャドウイング」ではなくて、もっと普段からなんとなく見ている職業に対して調べることが良いと思う
- ・受入れてから、子ども達の緊張をほぐす為の工夫を心掛けた。その為全体でのコミュニケーションの時間を最初と最後に行ったが、あっという間に時間が過ぎたので、時間配分を再度見直したい。次回はもう少し、仕事見学の時間を増やしたいと思います
- ・やはり初めてということで仕事をする上で「今から～するよ」「～のためにこの作業をしているんだよ」など随分喋ってしまった。それが良いのか悪かったのか終了後は考えてしまった

Q15. その他のご感想・ご意見・ご要望をご自由にお書き下さい。（理由記載：89件、以下 抜粋記載）

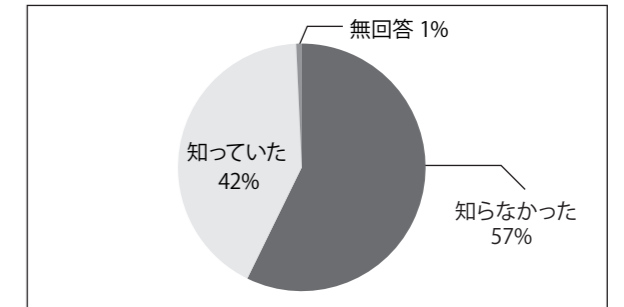
- ・市の職員が送迎・企業への同行を行っていたので安心でした。また、市がジョブシャドウイング事業に力を入れていると感じました
- ・今回、メンターの業務が忙しいタイミングと重なってしまい殆ど質問など聞くことが出来なかったかもしれません。次回はもう少し気配りできればと思います
- ・将来、どのような職業がありどのような方面に進むか、その為にはどういう事が必要であるか、目的をもって勉学に励む事はいい事だと思います。今後受け入れる私共も気を付けたいと思います。良い経験になりました。ありがとうございました
- ・今年で3回目の経験(受け入れ)させて頂きました。大変良い機会に深く感謝しています。また、皆様の準備、企画、実施までのご苦労に頭が下がる思いです。是非、地元の子供達に今のうちより将来について何かを感じてもらえる機会が必要だと思っています。今後も地元の人間として積極的に参加して行きたいと思っています。今年もお声をかけて頂き有難うございました
- ・県民から利益を頂いている企業の責任として、県民運動としてのゲッジョブ運動に今後も協力していきたいと考えてはいますが、教育庁主導の企業実習（2～5日間）との重複感が気になっております。当社では中・高・大の企業実習、小中高生のジョブシャドウイングを受け入れていますが、今後企業実習とジョブシャドウイングとの兼ね合い、重複感の解消等についてご検討いただくと幸いです
- ・自分としては、粗品は生徒さんにあげなかったが、学校に戻ってパン等をもらっている生徒を見かけたので、統一に決めてメンター側も守って欲しいと感じた
- ・コールセンターを夢見る子などいないと思いますが、将来の為に少しでもなってくれたら幸いです。こちらも原点回帰、良い機会になりました。ありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願い致します
- ・私の学生時代は職場体験などがなく（一部の希望する生徒のみだったように記憶しています）高校卒業後に初めてアルバイトを始めた時は、余計な緊張をしていました。それに比べて今はこんなにも小さいうちから「職場」を体感できるので大変良いと思います。働くということをより身近に感じる事ができ児童にとって短くとも貴重な時間だと思います
- ・法人も自らの事業や活動を地域や社会の方々へ知っていただく努力を行わなければなりません。ジョブシャドウイングは生徒さんが将来の就職に向けて考えるきっかけにもなりますが、法人側も幅広い年齢層の方に事業や社会的役割を伝えられる良い機会だと思います
- ・事業後のアフターフォローは、どの様に取り組んでいるのか？
- ・今後、生徒達の社会、勤労に対する意見高揚に望む

2 企業メンター

【1. ジョブシャドウイング実施前のことについておたずねします】

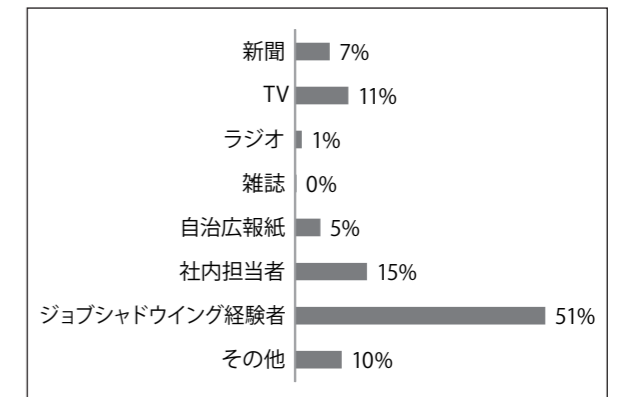
Q1. 今回、メンターとして児童生徒を受入れる以前にジョブシャドウイングの事をご存知でしたか？

項目	回答実数	割合
知らなかった	316	57%
知っていた	232	42%
無回答	4	1%
計	552	100%



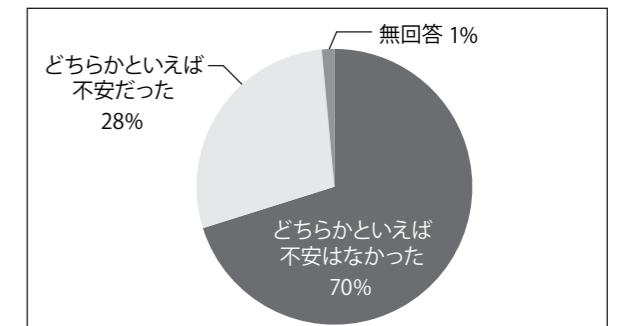
Q2. Q1で「知っていた」と答えた方におたずねします。どのような方法で知りましたか？（複数回答）

項目	回答実数	割合
新聞	26	7%
TV	40	11%
ラジオ	5	1%
雑誌	1	0%
自治広報紙	19	5%
社内担当者	54	15%
ジョブシャドウイング経験者	188	51%
その他	35	10%
計	368	100%



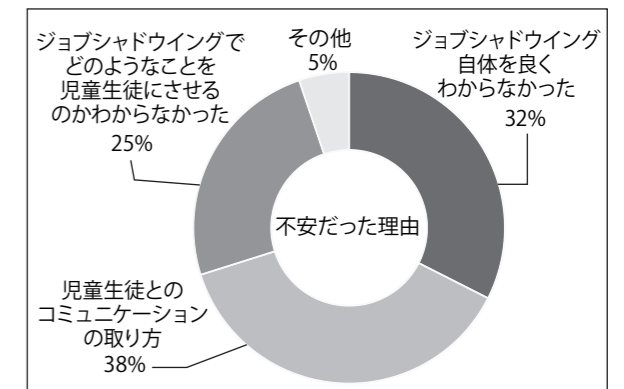
Q3. ジョブシャドウイング実施前に不安だったことはありましたか？

項目	回答実数	割合
どちらかといえば不安はなかった	383	70%
どちらかといえば不安だった	155	28%
無回答	8	1%
計	546	100%



Q4. Q3で「どちらかといえば不安だった」と答えた方におたずねします。（無回答除く）
どのようなことに不安がありましたか？

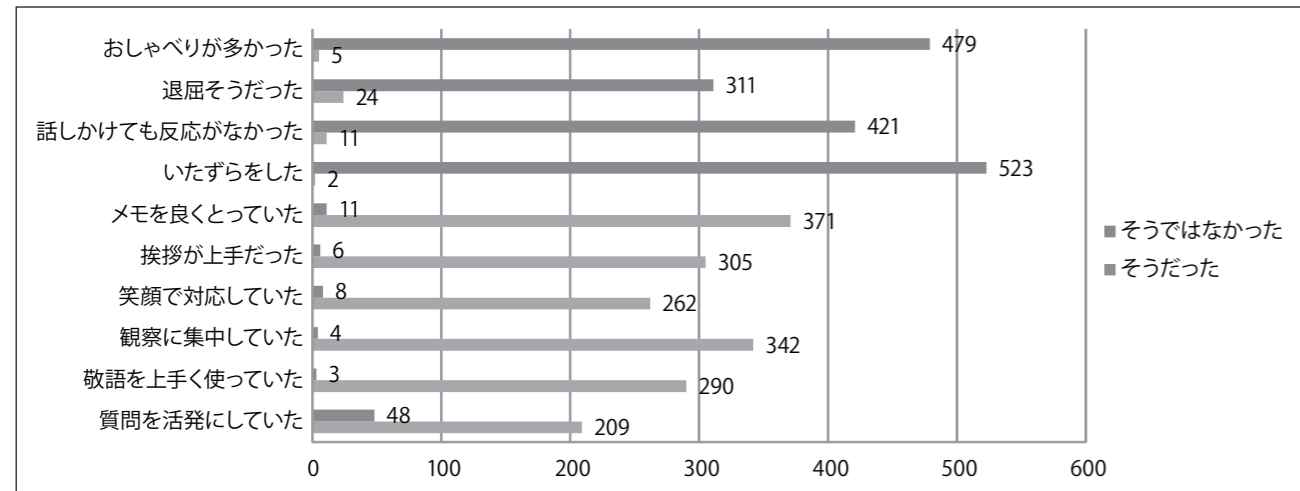
項目	回答実数	割合
ジョブシャドウイング自体を良くわからなかった	50	32%
児童生徒とのコミュニケーションの取り方	58	38%
ジョブシャドウイングでどのようなことを児童生徒にさせるかわからなかった	38	25%
その他	8	5%
計	154	100%



【2. ジョブシャドウイング実施後のことについておたずねします】

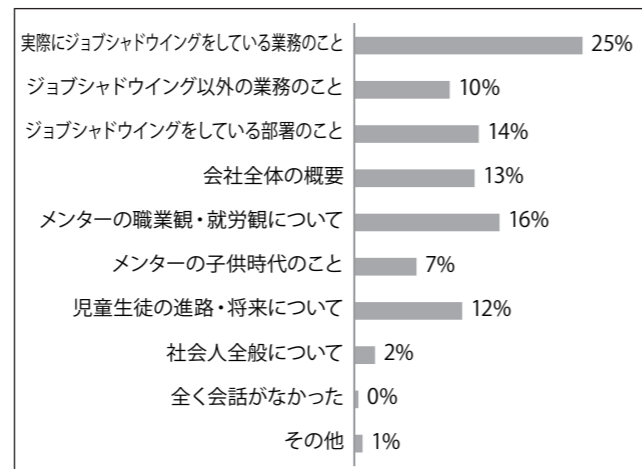
Q5. ジョブシャドウイング中の児童生徒の様子はどのような感じでしたか？

	質問を活発にしていた	敬語を上手に使っていた	観察に集中していた	笑顔で対応していた	挨拶が上手だった	メモを良くとっていた	いたづらをした	話しかけても反応がなかった	退屈そうだった	おしゃべりが多かった
そうだった	209	290	342	262	305	371	2	11	24	5
どちらかというそうだった	192	200	164	194	185	118	4	61	89	12
どちらかというそうではなかった	94	56	40	84	53	49	17	56	123	53
そうではなかった	48	3	4	8	6	11	523	421	311	479
無回答	10	7	6	7	7	7	9	7	9	7



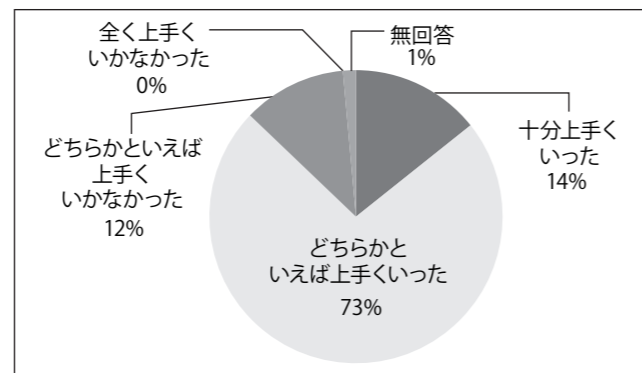
Q6. 児童生徒とどのような会話をしたり、質問を受けたりしましたか？（複数回答）

項目	回答実数	割合
実際にジョブシャドウイングをしている業務のこと	55	25%
ジョブシャドウイング以外の業務のこと	23	10%
ジョブシャドウイングをしている部署のこと	30	14%
会社全体の概要	29	13%
メンターの職業観・就労観について	35	16%
メンターの子供時代のこと	15	7%
児童生徒の進路・将来について	26	12%
社会人全般について	5	2%
全く会話がなかった	1	0%
その他	2	1%
計	221	100%



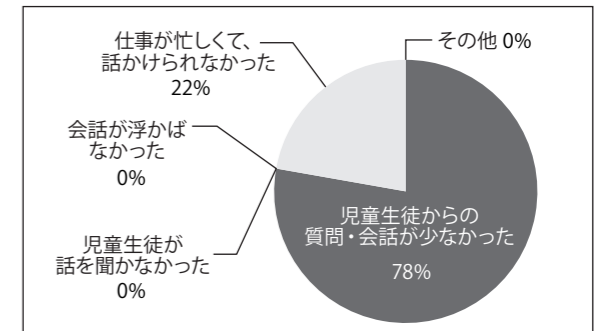
Q7. 児童生徒とのコミュニケーションは上手いきましたか？

項目	回答実数	割合
十分上手いだった	10	14%
どちらかといえば上手いだった	51	73%
どちらかといえば上手いかなかった	8	11%
全く上手いかなかった	0	0%
無回答	1	1%
計	70	100%



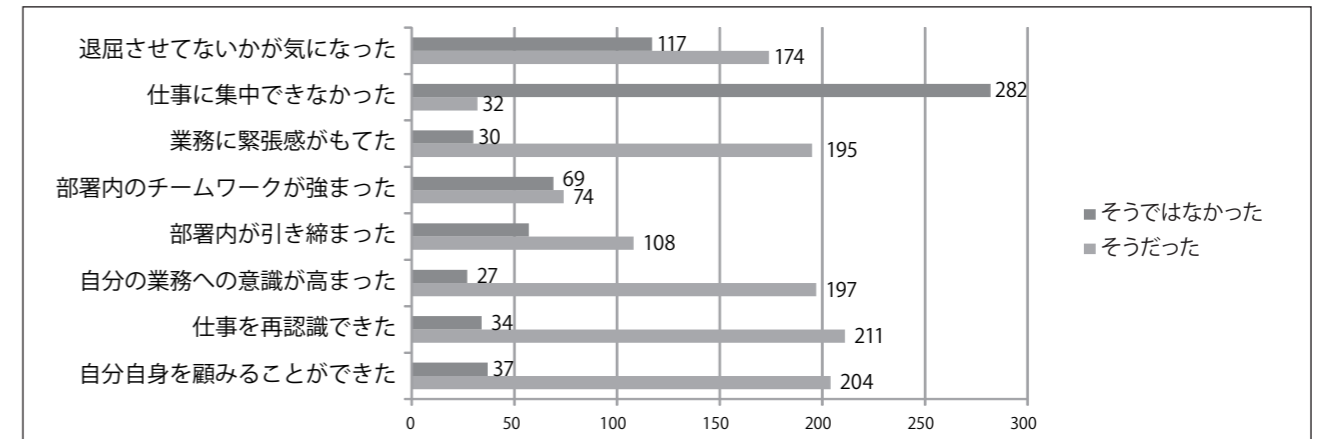
Q8. Q7で「どちらかといえば上手いかなかった」「全く上手いかなかった」と答えた方におたずねします。児童生徒とのコミュニケーションが上手いかなかった理由はどのようなことが考えられますか？

項目	回答実数	割合
児童生徒からの質問・会話が少なかった	7	78%
児童生徒が話を聞かなかった	0	0%
会話が浮かばなかった	0	0%
仕事が忙しくて、話かけられなかった	2	22%
その他	0	0%
無回答	0	0%
計	9	100%



Q9. あなたがジョブシャドウイング（観察）されてみて、どのような感想をもちましたか。（複数回答）

	自分自身を顧みることができた	仕事を再認識できた	自分の業務への意識が高まった	部署内が引き締まった	部署内のチームワークが強まった	業務に緊張感をもてた	仕事に集中できなかった	退屈させてないかが気になった
そうだった	204	211	197	108	74	195	32	174
どちらかというそうだった	228	205	235	221	219	247	89	189
どちらかというそうではなかった	76	98	89	154	172	73	136	67
そうではなかった	37	34	27	57	69	30	282	117
無回答	6	4	6	13	13	9	10	6



Q10. ジョブシャドウイング中に児童生徒に対して工夫したことがあればお教えてください。

（理由記載：325件、以下 分類して抜粋記載）

- ・緊張しないように笑顔で話しかけるようにした
- ・仕事内容を分かり易く図にして説明してみた
- ・一方的に説明せず、（質問できるように）質問がないか何度か問いかけてみた
- ・冗談を言った
- ・通常業務でも出来るだけ興味を持ちやすいやり方で行うようにした
- ・心掛けや理由まで伝えるようにした
- ・専門的な用語をあまり使わずに平易な言葉に置き換えて説明した
- ・働くことの意義を伝えようと工夫した
- ・自分が生徒さんたち位の時に、何をどう思っていたかを思い出しながら話す内容を考えて
- ・退屈しないように、できるだけ多くの部署を観察できるようにした
- ・生徒に特技や趣味を聞いて将来どんな仕事に向いているか等二人で話した
- ・会社全体の大まかな仕事を説明し、メンター自身の業務説明をした
- ・できるだけ自然にいつもやっていることを見せてあげようと思った
- ・いつでも気軽に質問ができるようにコミュニケーションをとるようにした
- ・中学時代にやっておけば、良かった事を話した
- ・生徒自身の興味を聞き出し、それに絡める形で自分の業務を伝えた
- ・業界の話や県内での状況等伝えることで、当社を理解いただく様にした
- ・仕事以外の話もしながらリラックスできるようにしてみました
- ・ジョブシャドウイング中に取り組む業務と、仕事に対する思い、これまでの人事異動歴（どういう仕事をしてきたか）をA4 1枚にまとめ、見てほしいこと、伝えたいことを前もって伝達した

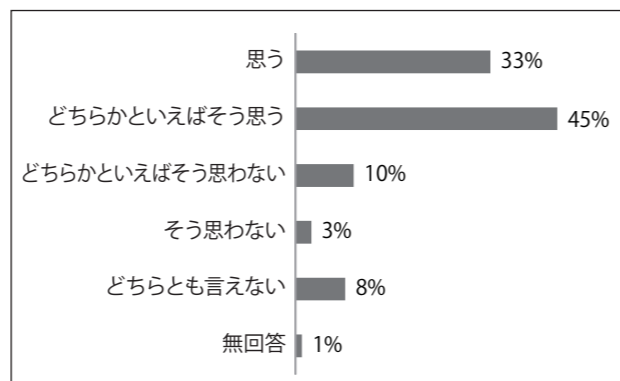
Q11. ジョブシャドウイング実施中に困ったこと苦勞したことがあればお教え下さい。
(理由記載：207件、以下 分類して抜粋記載)

○困ったこと、苦勞したこと	
<ul style="list-style-type: none"> ・専門用語の説明が難しかった ・質問回答の際の言葉の伝え方に苦勞した ・自分が行っている業務を専門知識が無くても分かるようにかみ砕いて説明することに苦勞した ・最初はコミュニケーションが取れず、どのように接してよいか分からず苦勞した ・電話対応の内容など個人情報が多いので扱いに注意した ・生徒自身がどのレベル（ジョブシャドウイングの位置付けや、今何を求めているか）にいるのかを知って接したかったが、午前中では難しかった ・話していることに対して反応が薄かった時にどう伝えたら良いのか ・注意散漫になっており、メンターから離れていることが多く、その都度声掛けをすることになった 	
○配慮したこと、出来なかったこと	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が退屈しないよう、また緊張をほぐすために当方から積極的に話しかけるよう気を配った ・短い時間の中で業務内容や仕事の楽しさを伝えること ・戸惑っている様子もあったが将来の夢が大きいので、いつか気づいて欲しいとの願いを込めて伝えた ・トイレや休憩のタイミング。気づいたら2時間通して業務を行ってしまった ・仕事に集中しすぎて生徒にうまく商品などの説明が出来なかった ・生徒がメモを取ることに時々追いついておらず、それに気付いてあげられなかった（前半）のが、とても申し訳なかった 	
○気になった、不安になったこと（児童・生徒に対して）	
<ul style="list-style-type: none"> ・（業務が単純、デスクワークが主、電話などのため）生徒に退屈させてないかが気になった ・単純なシステム入力業務だと何か学ぶことがあるのかどうか不安ではあった ・女の子は割と事務処理に興味を示しが、男の子はちょっと退屈そうだった ・一方的に話をして上手く言葉のキャッチボールが出来なかった。仕事に興味を持って貰ったか不安 ・たまに聞いているのかな？と思い、こっちから声かけることが多かった。質問があっても良い 	
○感想	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の方からの質問等が多く有意義な時間を過ごす事が出来たと思うので特になし ・特にありません。とてもいい子ども達でたすかりました ・いつも通りに業務を行うといっても見られていると私も緊張してしまった ・私の普段の業務を見て貰えればいかなと思ったので特に困ったことはありません 	

【3. ジョブシャドウイングの効果について】

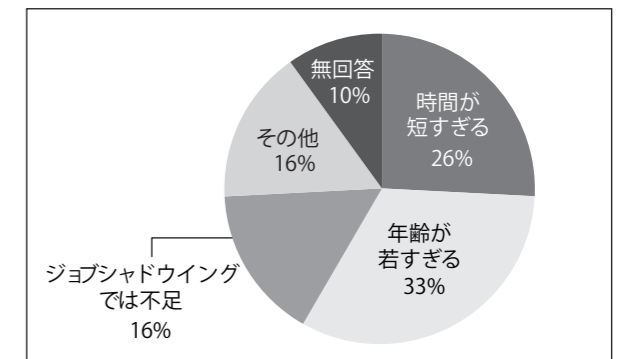
Q12. 今回のジョブシャドウイングが児童生徒の勤勞観、職業観を育てる一助になったと思いますか。

項目	回答実数	割合
思う	184	33%
どちらかといえばそう思う	247	45%
どちらかといえばそう思わない	55	10%
そう思わない	15	3%
どちらとも言えない	47	8%
無回答	6	1%
計	554	100%



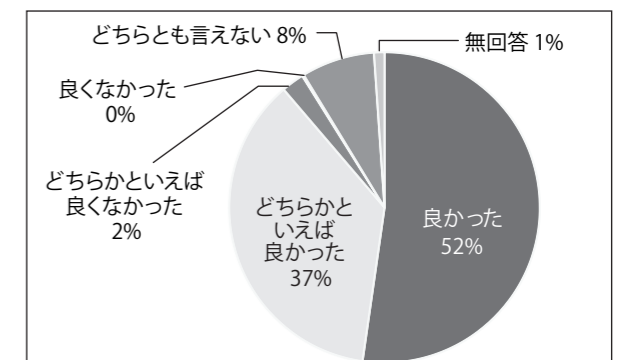
Q13. Q12で「どちらかといえば思わない」「そう思わない」と答えた方におたずねします。その理由としてどのようなことがありますか。（回答記載分のみ抽出）

項目	回答実数	割合
時間が短すぎる	23	26%
年齢が若すぎる	29	33%
ジョブシャドウイングでは不足	14	16%
その他	14	16%
無回答	9	10%
計	89	100%



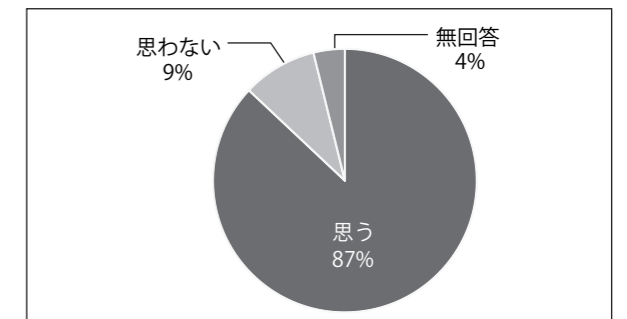
Q14. メンターを引受けたことは、あなたにとって良かったですか。

項目	回答実数	割合
良かった	288	52%
どちらかといえば良かった	201	37%
どちらかといえば良くなかった	13	2%
良くなかった	1	0%
どちらとも言えない	42	8%
無回答	6	1%
計	551	100%



Q15. 今後、ジョブシャドウイングを実施する機会があったら、メンターを引受けていただけますか。

項目	回答実数	割合
思う	476	87%
思わない	50	9%
無回答	21	4%
計	547	100%



①「思う」と答えた人（理由記載：414件、以下 分類して抜粋記載）

<ul style="list-style-type: none"> ・色々な仕事に対する興味、関心が広がったと思う ・いろいろ体験が大切だと思うから ・この業界に興味を持ってもらえたらと思うので ・お互い良い機会と思う、協力したい ・社会貢献にもなるし自分もひきまいるから ・これをきっかけに遣りたいことが見つければ嬉しい ・あらゆる職業の現場の一端を見るだけでも、子どもにとっては良い経験になる ・挨拶の仕方ひとつとっても、良い勉強です。 ・自分自身が仕事に対しての意識が高まる ・こんな仕事もあるんだということを子どもの時に知って欲しいから ・自分を客観視できる良い機会 ・しっかりした夢をもたせるため ・慣れないことを一生懸命にする姿がかわいいから ・子ども達の仕事に対するイメージが出来ることは、とても良いことだと思うので積極的にメンターを引き受けたい ・私が行う業務は特殊であり、児童生徒は中々経験することができないため ・自分自身の業務内容を再認識できた ・新鮮な気持ちになる ・大人が輝けば子どもも輝くから ・様々な質問をされると日頃の業務について自分自身も顧みる事ができる ・社会人の現実を目の当たりにして、将来の夢に対してリアルにイメージしてほしい
--

②「思わない」と答えた人（理由記載：48件、以下 抜粋記載）

- ・ダメな大人なので ・忙しくて話があまりできない ・業務に支障がでる。
- ・メンターの役割、苦労は体感できたので、今後は他の者に体験させたいため
- ・興味のある子だったらいい。ただそうでない場合が多そう
- ・業務の面白さを上手く伝えられなかったので ・実施の効果が分からないため
- ・時間が短いため、仕事に対する熱意を伝えきれない ・自分の仕事にまだ自信が持てないので
- ・（対象年齢では）将来像がはっきりしないので、やらせている感じがある

③ 無回答（理由記載：10件、以下 抜粋記載）

- ・どちらとも言えない ・こっちから希望しない。 ・その時の状況による

【4. その他】

Q16. 次回のジョブシャドウイングに向けて必要なこと、または今回足りなかったことなど改善点があればお聞かせ下さい。（理由記載：226件、以下 抜粋記載）

○次回に向けて必要なこと(児童・生徒へ)

- ・行く会社について事前学習や各自の疑問、質問等をまとめておくこと
- ・質問は項目から選んでさせるのではなく、事前学習時などに自分が聞きたいことを決めてから行った方がよい
- ・事前に部署で何をするのか、どんな仕事をすると思うのか考えてもらえたら、やる前と終わった後に違いや気づき、発見があると思う

○次回に向けて必要なこと(受入企業へ)

- ・会社側は、生徒さんたちに恥ずかしくない服装、姿勢等を全員で意識して、メンター以外の社員も取り組むこと
- ・業務や仕事全体に取り組む姿勢、態度をしっかり伝えたい
- ・更に社内全体で受け入れる体制を整えたい。普段の業務を実りあるものにする為、自身の準備なども必要
- ・業務内容を口頭で説明することが多かった為、観察する時間が短くなってしまった
- ・前もって学校側とのやりとりも必要だった
- ・沢山の学生が経験できるよう、多くの企業の協力を促して欲しい
- ・大きな会社、事務所ではなく小規模の商店等とか本来の生活感のある場所でもよい
- ・次回メンターになる機会があったらもう少し余裕をもって接したい
- ・職場内でのジョブシャドウイングに対する理解度が弱い為、メンターのみには負担がかかり他の職員への周知が必要だと感じた
- ・会社はジョブシャドウイングの内容の充実を図るために、プラン検討の時間を増やす事が必要

○改善点・感想(実施側へ)

- ・良かったと思う。生徒と私との関係も、負担がすごくあるというわけでもなく、見ることで学んで欲しいということがしっかり理解できていて、いい取り組みだと思う
- ・質問時間が足りない、ジョブシャドウを始める前にどれくらい生徒が質問を準備して来ているのか確認した方が良かった
- ・生徒がどのような仕事を見たいのか、質問等も事前連絡があれば、もっとコミュニケーションが取れた
- ・担当した生徒の感想を聞きたい。フィードバックがないと、良かったのか悪かったのか分からない
- ・将来やりたい仕事が決まっている人は、その仕事を見せた方が、より集中すると思う
- ・芽を育てるということであれば小中高生が中心となるのですが、専門、短大、大学生もやっても良いと思う
- ・ジョブシャドウイングに向けてどのような事前学習をしているのか、教えて欲しい
- ・社会には色々な仕事があり、自分が想ってる以上に楽な仕事はないので、1ヶ所だけでなく2ヶ所、3ヶ所とジョブシャドウイングしてもらいたい

Q17. その他のご感想・ご意見・ご要望を自由にお書き下さい。（理由記載：232件、以下 抜粋記載）

- ・もっと受入れ人数をふやしたいが、今のところ1人で手いっぱい。今後余力があれば増やしたい
- ・学校だけでなく、社会を見る為には、とてもいい取り組みだと思う。知っているようで、知らない事を、多く知れる機会が増え子ども達の選択肢が増えてくれたら嬉しく思う
- ・子ども達の職業に対する、仕事に対する考え方に、少しでも貢献できたのであれば自分達にとっても、すごくいい経験になった
- ・児童達は、皆な緊張している様子だったが、一生懸命話しを聞いたりメモを取っていた。こちらも楽しく出来た。ありがとうございました！
- ・私が説明したことを、一生懸命理解しようとメモを取ったり質問する姿を見て、こちらも勉強になった
- ・他の企業さんがどのような対応をしているのか、工夫などについて知りたい
- ・ジョブシャドウイングがよりよい方向に向かうと良いと感じた
- ・児童と慣れるまでは不安も少しは感じたが、私が行っている業務について説明出来た事は、嬉しく思っている
- ・日頃、考えないことや気がつかなかったことに気づかされ、とても良い経験をした。生徒さんたちにとって、記憶や心に少しでも残り、出来れば夫々の人生に活かせてもらえると嬉しい
- ・ジョブシャドウイングを生徒に見て貰って、実際に見てどう思ったのか等を、学校でレポート作成すると聞いたので、どんな感じでまとめているのかと思った
- ・ジョブシャドウイングを行って何かに気付く生徒はジョブシャドウイングの経験がなくても自ら就職することが出来ると思う。問題は未来や就職に希望が持てない生徒に対してどう自ら意識付けをさせるかであり、仕事を観察するだけで自ら問題意識を持つには中学生には早いと感じた
- ・生徒から色々質問をされることによって、(自身の)仕事をする目的や、やり方を考えさせられた。ジョブシャドウイングは私自身にもとっても勉強になりました
- ・昨今、仕事に関する当該事業などが増えておりますが、生徒・児童たちに、仕事への意識を促すことも重要である一方、根本的な問題は、社会人(大人)への呼び掛け、意識づけがもっと重要だと個人的には思う。生徒・児童との触れあう時間や、「子育て」の意識を私自身も意識していきたい
- ・まだ仕事に対する興味がない子や、親の仕事を見る機会の無い子にとって、とても良い教育になると思った。これからも続けて欲しい
- ・子ども達の輝いた目を見ると、私自身も気持ちが若々しくなる。仕事することの大切さや素晴らしさを伝えることができたらいいな〜と心がけた
- ・自分の仕事が、もっと好きになった。今後も地味に、地道に頑張る
- ・子供達に積極的に参加してもらいたい
- ・思ったよりも生徒の方が大人だった
- ・発表会を見に行った際、観察力の鋭さに感心した
- ・名刺交換は良いアイデアだと思う
- ・生徒からのお礼で、仕事に対する意欲を高める事が出来た。とても良い機会だった
- ・学校に戻って、ジョブシャドウイングの新聞作成があると聞いた、その新聞を見て成果を確認したい
- ・将来の自分を考える、探す、いい機会となっている。今後も学習プログラムが充実していくことを期待している
- ・この活動は子供達が自分の世界を広げ、将来の自分の職業や生き方を考えるいい機会になると思う。私自身、目標をもって仕事に取り組む大切さを改めて確かめる機会となり有意義だった
- ・沢山の子ども達にジョブシャドウイングを経験してほしい。仕事は大変だけれども、一人で仕事をしているのではなく、人とのつながりがあるからこそ仕事ができている等を知ってほしい

平成24年度沖縄県商工労働部雇用政策課委託事業
沖縄型産学官・地域連携グッジョブ事業
沖縄型ジョブシャドウイング事業 実施報告書(平成24年度)

編集 グッジョブおきなわ推進事業局
〒900-0005 沖縄県那覇市天久1131番地11 ダイオキビル6階
TEL : 098-860-8300 FAX : 098-861-7775

制作 シィーエスアイ株式会社
〒901-2132 沖縄県浦添市伊祖3-4-12
TEL : 098-870-8400 FAX : 098-870-8410

